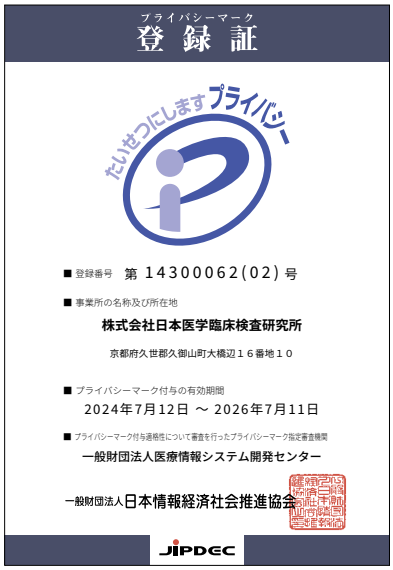
検査案内
2026-2027

索引
ご利用の手引き
緊急報告検査値範囲
生化学的検査
薬物検査
血液学的検査
内分泌学的検査
腫瘍関連検査
ウイルス
感染症検査
免疫血清的検査
アレルギー検査
細胞性免疫検査
一般検査
微生物学的検査
病理学的検査
リスク検査
検査方法の概略
容器の
取り扱い方法

株式会社日本医学臨床検査研究所 長野ラボ



プライバシーマーク

医療関連サービスマーク

公益財団法人日本適合性
認定協会（JAB）

個人情報保護方針

株式会社日本医学臨床検査研究所（以下､｢当社｣といいます。）は、健康で豊かな社会づくりに貢献するという経営理念のもと、臨床検査事業を柱とした様々な医療関連サービスを提供しております。近年、患者様尊重の視点に立った質の高い医療の提供が求められるとともに、医療にまつわる情報開示やIT化に伴う特定個人情報を含めた個人情報（以下、「個人情報」と記す）保護の重要性について、社会の関心がますます高まる中、ステークホルダーの皆様からお預かりした個人情報の保護は当社の社会的責務であり、また事業活動の基本と考えております。 当社では、個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、全従業者に個人情報保護の重要性を認識させるとともに、個人情報の安全管理措置を周知徹底することをもって、個人情報の漏えい、滅失またはき損を防止し、個人情報の保護に邁進することを宣言いたします。

「個人情報の保護に関する法律」に基づく公表事項
https://www.jcl.co.jp/privacy

■ 当社が取扱う個人情報の利用目的、共同利用者、第三者提供、開示等の請求に関する事項、安全管理措置に関する事項、苦情及び相談の申出先、認定個人情報保護団体の名称及び苦情の申出先につきましては、当社ホームページの上記「公表事項」をご覧ください。

1．個人情報保護に関する法令等の遵守について
当社は、個人情報を取り扱う際に､｢個人情報の保護に関する法律｣､｢行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律｣をはじめとする法令や、国が定める指針その他の規範を遵守します。

2．個人情報の適切な取り扱いの実施
当社は、事業活動において必要な範囲内で個人情報の利用目的を明確に定め、適切に個人情報の取得、利用、提供を行います。取得した個人情報は利用目的の範囲内に限定して利用し、目的外での利用を行わないための措置を講じます。

3．個人情報の安全性の確保について
当社は、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏洩等のリスクに対して合理的な安全対策および是正措置を講じます。

4．個人情報の取り扱いに関する開示等の請求、苦情について
当社は、ご本人様からの個人情報の開示、訂正、削除、利用停止等の請求および苦情等に対して誠実かつ迅速に対応いたします。

5．継続的改善について
当社は個人情報保護マネジメントシステムを実施し管理する責任者を定め、自らの規定する点検、会議体における討議、社長による見直しなどをもって、個人情報保護マネジメントシステムの継続的な改善・向上に努めます。

2005年4月1日 制定
2022年9月20日 最終改訂
株式会社 日本医学臨床検査研究所
京都府久世郡久御山町大橋辺16番地10
代表取締役社長　勝間田 清人

■当社個人情報保護方針に関するお問い合わせ先
当社ホームページの「お問い合わせ」フォームにて、当社までご連絡ください。
https://www.jcl.co.jp/contact

2026 ～ 2027 総合検査案内

目　次

索引
ご利用の手引き
緊急報告検査値範囲

ご利用の手引き …… 1～11
緊急報告検査値範囲 …… 12

生化学的検査

蛋白・膠質反応 …… 1
酵素および関連物質 …… 1
低分子窒素化合物 …… 6
糖質および関連物質 …… 8
有機酸 …… 9
脂質および関連物質 …… 10
ビタミンおよび関連物質 …… 13
電解質・血液ガス …… 15
生体微量金属 …… 16
生体色素関連物質 …… 16
毒物・産業医学的代謝物質 …… 17
生化学（その他） …… 18

薬物検査

抗菌薬 …… 19
抗てんかん薬 …… 20
免疫抑制薬 …… 22
循環器用薬 …… 22
精神神経用薬 …… 24
薬物（その他） …… 25

血液学的検査

血液一般・形態検査 …… 27
凝固・線溶関連検査 …… 28

内分泌学的検査
腫瘍関連検査

視床下部・下垂体ホルモン …… 32
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白 …… 33
副甲状腺ホルモン …… 33
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白 …… 34
副腎髄質ホルモン …… 35
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白 …… 37
膵・消化管ホルモン …… 38
内分泌学的（その他） …… 39
腫瘍関連抗原 …… 41

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査 …… 45

免疫血清的検査

感染症（非ウイルス）関連検査 …… 66
自己免疫関連検査 …… 72
免疫血液学的検査 …… 80
免疫グロブリン …… 81
補体および関連物質 …… 82
血漿蛋白 …… 82
サイトカイン …… 87

アレルギー検査

アレルギー検査 …… 89

細胞性免疫検査

細胞性免疫検査 …… 94
細胞表面マーカー …… 97

一般検査

尿一般検査 …… 99
糞便検査 …… 100

微生物学的検査

微生物学的検査 …… 101
培養同定検査 …… 112

病理学的検査

細胞診検査 …… 115
病理組織検査 …… 118

リスク検査

リスク検査 …… 121

検査方法の概略

検査方法の概略 …… ア～エ
参考文献一覧 …… オ～チ

容器の取り扱い方法

容器の取り扱い方法 …… ①～㊴

五十音

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
亜鉛(Zn)	16	D007 36	132
(抗)アクアポリン4抗体	79	D014 46	1000
悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析	94	D005 15	1882
アスコルビン酸(ビタミンC)	14	D007 59	296
アスピリン→サリチル酸	25	B001 02	特
アスペノン→アプリンジン	22	B001 02	特
アスペルギルス抗原	70	D012 32	157
アスペルギルス抗体IgG	70	D012 62	390
アセタゾラミド	21	B001 02	特
(抗)アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	76	D014 44	752
アセトアミノフェン	25	D007 46	180
アセトン定量	9		
アデノウイルス〔CF〕〔NT〕	48	D012 11 イ	79
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	2	D007 11	32
アプリンジン	22	B001 02	特
アポリポ蛋白A-Ⅰ、A-Ⅱ、B、C-Ⅱ、C-Ⅲ、E	12	D007 10 イ	31
アミオダロン	22	B001 02	特
アミカシン	19	B001 02	特
アミカマイシン→アミカシン	19	B001 02	特
アミサリン→プロカインアミド	23	B001 02	特
アミノ酸分析(39種類、9種類)〔LC/MS〕	7	D010 04 ロ	1074
アミラーゼ(AMY)	3	D007 01	11
アミラーゼアイソザイム	3	D007 14	48
(P型)アミラーゼ定量	3	D007 14	48
(血清)アミロイドA蛋白(SAA)	83	D015 06	47
アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	2	D007 01	11
(骨型)アルカリフォスファターゼ(BAP)	2	D008 27	157
アルカリフォスファターゼアイソザイム→ALPアイソザイム(IFCC)	2	D007 14	48
アルドステロン〔CLEIA〕	39	D008 15	122
アルドラーゼ	2	D007 01	11
アルファフェトプロテイン定量	41	D009 02・B001 03 ロ	98・腫2
(尿中)アルブミン	1	D001 10	99
アルブミン・グロブリン比(A/G比)	1		
アルブミン(Alb)	1	D007 01	11
(尿中)アルブミン(クレアチニン換算値)	1	D001 10	99
アルベカシン	19	B001 02	特
アルミニウム(Al)	17	D007 29	109
アレビアチン→フェニトイン	20	B001 02	特
アンカロン→アミオダロン	22	B001 02	特
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	4	D007 38	136
(α_1)アンチトリプシン	82	D006 10	80
アンチトロンビン(AT)	28	D006 09	70
アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター)	28	D006 17	128
アンモニア	6	D007 16	50

イ	ページ	診療報酬区分	実施料
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕	5		
イーケプラ→レベチラセタム	21	B001 02	特
(抗)胃壁細胞抗体	74		
インスリン	38	D008 08	100
インスリン抗体	76	D014 06	107
インスリン様成長因子→IGF-1(ソマトメジンC)	32	D008 42	212
インタクトPTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	33	D008 29	161
インフルエンザウイルス〔CF〕〔HI〕	60	D012 11 ト・チ	79
インプロメン→ブロムペリドール	24	B001 02	特

ウ	ページ	診療報酬区分	実施料
ウイルス同定	114		
ウイルス分離	114		
ウロポルフィリン(血中)	16		

エ	ページ	診療報酬区分	実施料
エクセグラン→ゾニサミド	21	B001 02	特
エコーウイルス	58	D012 11 ホ	79
エステル型コレステロール(Echo)	10		
エストラジオール(E_2)	37	D008 33	167
エタノール	18	D007 26	105
エトスクシミド	20	B001 02	特
エラスターゼ1	3	D009 08・B001 03 ロ	120・腫2
エリスロポエチン	40	D008 41	209
エルタシン→ゲンタマイシン	19	B001 02	特
塩基性フェトプロテイン(BFP)	41	D009 17・B001 03 ロ	150・腫2
塩酸バンコマイシン→バンコマイシン	19	B001 02	特
エンテロウイルス	56		
エンドトキシン定量	68	D012 55	229
(透析液中)エンドトキシン A液、B液、RO水、調整液、その他	68		

オ	ページ	診療報酬区分	実施料
黄体形成ホルモン(LH)	32	D008 12	105
黄体ホルモン→プロゲステロン	37	D008 23	139
オステオカルシン	40	D008 25	153
オーム病クラミドフィラ(クラミジア シッタシ)	67	D012 11 ネ	79
オリゴクローナルバンド	81	D004 11	507

カ	ページ	診療報酬区分	実施料
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	43	D009 24・B001 03 ロ	175・腫2
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	28	D006 07	29
カテコールアミン3分画	35	D008 29	161
カテコールアミン総	35	D008 37	184
カドミウム	17		
ガバペン錠→ガバペンチン	21	B001 02	特
ガバペンチン	21	B001 02	特
カフィール→ジソピラミド	23	B001 02	特
可溶性IL-2レセプター(sIL-2R)	87	D009 36・B001 03 ロ	438・腫2
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	28	D006 11	93
可溶性メソテリン関連ペプチド	43	D009 30・B001 03 ロ	220・腫2
(抗)ガラクトース欠損IgG抗体	74	D014 08	111
カリウム(K)	15	D007 01	11
(子宮頸管粘液中)顆粒球エラスターゼ	3	D004 08	113
カルシウム(Ca)	15	D007 01	11
(抗)カルジオリピンIgG抗体	78	D014 29	226
(抗)カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
(抗)カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β_2GPⅠ抗体)	78	D014 28	223
カルシトニン	33	D008 16	127
カルニチン分画	13	D007 23+D007 23	95+95
カルバマゼピン	20	B001 02	特
(便中)カルプロテクチン	75	D003 09	268
肝細胞増殖因子(HGF)	40	D007 53	227
カンジダ抗体	70		
(抗)肝腎マイクロゾーム1抗体→抗LKM-1抗体	79	D014 27	215
間接クームス試験	80	D011 02 ロ	47
癌胎児性抗原(CEA)	41	D009 03・B001 03 ロ	99・腫2
(ヒト)癌胎児性フィブロネクチン	84	D015 22	204
寒冷凝集反応	69	D014 01	11

キ	ページ	診療報酬区分	実施料
キシロカイン→リドカイン	23	B001 02	特
凝固因子活性検査(第Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII因子)	29	D006 32	223

※ 1: N000・N002 08・D005 15・D006-5 02+D006-5 注

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

	ページ	診療報酬区分	実施料
凝固抑制因子検査(第Ⅷ、Ⅸ因子)	29	D006 20	144

ク

	ページ	診療報酬区分	実施料
(間接)クームス試験	80	D011 02 ロ	47
(直接)クームス試験	80	D011 02 イ	34
グラセプター→タクロリムス	22	B001 02	特
クラミジアトラコマティス(IgA、IgG)	66	D012 45	200
クラミジアトラコマティスDNA	66	D023 01	188
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ	67		
クラミドフィラ(クラミジア) シッタシ(オーム病クラミドフィラ)	67	D012 11 ネ	79
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA	67	D012 10	75
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG	67	D012 09	70
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM	67	D012 30	152
クリオグロブリン定性	81	D015 05	42
グリコアルブミン	8	D007 17	55
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	70	D012 36	164
グルカゴン→膵グルカゴン	38	D008 24	150
クレアチニン	6	D007 01	11
クレアチン	6	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ→CK(CPK)	1	D007 01	11
クロナゼパム	20	B001 02	特
クロバザム	20	B001 02	特
クロム	17		
クロール(Cl)	15	D007 01	11

ケ

	ページ	診療報酬区分	実施料
(末梢)血液一般検査	27	D005 05	21
血液型(ABO式)	80	D011 01	39
血液型(Rh(D因子)式)	80	D011 01	39
血液型(Rh-Hr式)	80	D011 03	163
血液型不適合妊娠	80		
血液像→末梢血液像	27	D005 03	15
結核菌群核酸同定〔TRC〕	108	D023 14	410
結核菌群抗原	107	D012 59	291
結核菌特異的IFN-γ	71	D015 29	593
血小板関連IgG(PAIgG)	79	D011 06	190
(抗)血小板抗体	79	D011 08	261
血小板第4因子(PF-4)	30	D006 27	173
血清 HER2タンパク	43	B001 03 ロ	腫2
血清亜鉛→Zn(亜鉛)	16	D007 36	132
血清アミロイドA蛋白(SAA)	83	D015 06	47
血清抗p53抗体	43	D009 22・B001 03 ロ	163・腫2
血清鉄(Fe)	16	D007 01	11
血清銅(Cu)	16	D007 05	23
血清補体価	82	D015 04	38
結石分析(成分比率)	18	D010 02	117
血中11-OHCS	34	D008 02	60
血中ケトン体分画	9	D007 19	59
血中総ホモシステイン	8	D010 04 イ	279
血糖(グルコース)	8	D007 01	11
嫌気性培養(一般細菌)	102	D018 注1	137
ゲンタシン→ゲンタマイシン	19	B001 02	特
ゲンタマイシン	19	B001 02	特

コ

	ページ	診療報酬区分	実施料
(HCV抗原)コア蛋白質	46	D013 05	102
抗AChR抗体(抗アセチルコリンレセプター抗体)	76	D014 44	752
抗ARS抗体	74	D014 23	190
抗BP180抗体(血清中抗BP180NC16a抗体)	77	D014 34	270
抗DNA抗体〔RIA〕	72	D014 17	159
抗ds-DNA IgG抗体	72	D014 17	159
抗ds-DNA IgM抗体	72		
抗GAD抗体	76	D008 20	134
抗IA-2抗体	76	D008 43	213
抗Jo-1抗体	74	D014 12	140
抗LKM-1抗体	79	D014 27	215
抗MDA5抗体	74	D014 36	275
抗Mi-2抗体	74	D014 35	270
抗RNP抗体〔CLEIA〕	72	D014 13	144
抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	72	D014 16	157
抗Sm抗体〔CLEIA〕	72	D014 14	147
抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	72	D014 18	161
抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	72	D014 15	153
抗ss-DNA IgG抗体	72	D014 17	159
抗ss-DNA IgM抗体	72		
抗TIF1-γ抗体	74	D014 35	270
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕	76	D014 11	138
抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	78	D014 29	226
抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	78	D014 29	226
抗アクアポリン4抗体	79	D014 46	1000
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	76	D014 44	752
抗胃壁細胞抗体	74		
抗核抗体(ANA)	72	D014 05	99
抗ガラクトース欠損IgG抗体	74	D014 08	111
抗カルジオリピンIgG抗体	78	D014 29	226
抗カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β_2GPⅠ抗体)	78	D014 28	223
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	76	D014 46	1000
抗血小板抗体	79	D011 08	261
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕	76	D014 11	138
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	79	D014 31	250
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	79	D014 31	250
抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕	76	D014 10	136
好酸球数	27	D005 04	17
抗酸菌抗体定性→MAC抗体(抗酸菌抗体定性)	71	D012 19	151
抗酸菌同定〔質量分析〕	107	D021	376
抗酸菌 塗抹〔集菌蛍光法〕	107	D017 01+D017 01 注	65+35
抗酸菌 分離培養〔液体法〕	107	D020 01	315
抗酸菌 分離培養〔小川法〕	107	D020 02	224
抗酸菌 薬剤感受性	107	D022	415
抗酸菌感受性(MIC)RGM	107	D022	415
抗酸菌感受性(MIC)SGM	107	D022	415
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	77	D014 32	257
抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	74	D014 24	193
甲状腺刺激抗体(TSAb)	76	D014 39	330
甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	32	D008 06	98
(抗)甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕	76	D014 11	138
抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	68	D012 01	15
抗精子抗体→精子不動化抗体(SI50)	77		
抗精子抗体(不動化法)→精子不動化抗体	77		
抗セントロメア抗体	72	D014 20	173
抗体同定・抗体価測定(不規則性抗体)	80	D011 04	174
(抗)好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	79	D014 31	250
(抗)好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	79	D014 31	250
抗デスモグレイン1抗体	77	D014 38	300
抗デスモグレイン3抗体	77	D014 34	270
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体	72	D014 16	157
抗平滑筋抗体	74		
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	68	D012 12	80
抗ミトコンドリアM2抗体	74	D014 22	189

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

抗ミトコンドリア抗体	74	D014 21	181
抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	37	D008 53	597
抗利尿ホルモン(AVP)	32	D008 47	224
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgG抗体	78	D014 29	226
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	78	D014 28	223
コクサッキーウイルス〔CF〕〔NT〕	56、57	D012 11 ロ	79
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	2	D008 27	157
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	3	D008 26・B001 03 ロ	156・腫2
コプロポルフィリン(血中)	16	D007 51	210
コプロポルフィリン定性	16		
コプロポルフィリン(尿中)	16	D001 15	131
コリンエステラーゼ(ChE)	2	D007 01	11
コルチゾール	34	D008 14	121
(尿中)コルチゾール	34	D008 14	121
(遊離)コレステロール(F-Cho)	10	D007 01	11
(総)コレステロール(T-Cho)	10	D007 03	17
コレステロール分画	12	D007 18	57

サ	ページ	診療報酬区分	実施料
サイクリックAMP	40	D008 29	161
サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)	85	D007 49	194
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)(CYFRA)	43	D009 19・B001 03 ロ	154・腫2
サイトメガロウイルス	52	D012 11 ハ	79
サイトメガロウイルスDNA 定性	52		
サイトメガロウイルス(IgM)(IgG)	52	D012 46 ハ	200
サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	52	D012 60	356
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	52	D023 21	777
サイトメガロウイルス核酸定量	52	D023 17	450
細胞診(喀痰・体腔液・その他)	115	N004 02	190
細胞診喀痰〔蓄痰法〕(ABC)(Class)	115	N004 02	190
細胞診(尿LBC)	115	N004 02	190
細胞診(婦人科LBCベセスダシステム)(婦人科LBC)	115	N004 01+N004 01 注1	150+45
細胞診(婦人科Class判定)	115	N004 01	150
(遊離)サイロキシン(Free T_4)	33	D008 14	121
サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕	33	D008 11	105
サイロキシン結合グロブリン(TBG)	33	D008 19	130
サイログロブリン〔CLEIA〕	33	D008 17	128
(抗)サイログロブリン抗体〔CLEIA〕	76	D014 10	136
(肺)サーファクタントプロテインA(SP-A)	12	D007 34	130
(肺)サーファクタントプロテインD(SP-D)	12	D007 38	136
サリチル酸	25	B001 02	特
ザロンチン→エトスクシミド	20	B001 02	特
酸化LDL(MDA-LDL)	11	D007 49	194
サンディミュン→シクロスポリン	22	B001 02	特
サンリズム→ピルシカイニド	23	B001 02	特

シ	ページ	診療報酬区分	実施料
ジアゼパム	20	B001 02	特
ジアパックス→ジアゼパム	20	B001 02	特
シアリルLe^x-i抗原(SLX)	42	D009 13・B001 03 ロ	140・腫2
シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)	42	D009 18・B001 03 ロ	152・腫2
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	86	D007 28	108
シアル酸	8		
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	3	D004 08	113
(抗)糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	77	D014 32	257
シクロスポリン	22	B001 02	特
ジゴキシン	22	B001 02	特
ジゴシン→ジゴキシン	22	B001 02	特
シスタチン C	6	D007 29	109
ジソピラミド	23	B001 02	特
ジフェニルヒダントイン→フェニトイン	20	B001 02	特
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	43	D009 19・B001 03 ロ	154・腫2
シベノール→シベンゾリン	23	B001 02	特
シベンゾリン	23	B001 02	特
脂肪酸分画(24成分)	11	D010 07	389
脂肪酸分画(4成分)	11	D010 07	389
(尿中)シュウ酸	9	D001 19	200
絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)	37	D008 19	130
絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	37	D008 18	129
手術材料	118		
女性 AIRS・AICS	121		
心筋トロポニンT	83	D007 29	109
(特異的IgE)シングルアレルゲン	89	D015 13	各110
神経特異エノラーゼ(NSE)	43	D009 14・B001 03 ロ	142・腫2
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	83	D007 47	184
(ヒト)心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	83	D007 35	131
浸透圧(血清)	15	D005 03	15
浸透圧(部分尿)	15	D001 03	16
(ヒト)心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	40	D008 46	221

ス	ページ	診療報酬区分	実施料
膵PLA_2(膵ホスホリパーゼA_2)	3	D007 50	204
膵グルカゴン	38	D008 24	150
水痘・帯状疱疹ウイルス	51	D012 11 ナ	79
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	51		
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	51	D023 17	450
水痘・帯状疱疹ウイルス(IgM)(IgG)	51	D012 46 チ	200
水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	51	D012 54	227
膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	3	D007 50	204
スチリペントール	21	B001 02	特
(尿中)スチレン代謝物	17		
(抗)ストレプトリジン-O抗体(ASO)	68	D012 01	15
ストロムマイシン1→MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	4	D014 09	116

セ	ページ	診療報酬区分	実施料
精子不動化抗体	77		
精子不動化抗体(SI50)	77		
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)〔CLEIA〕	62	D012 33	159
成長ホルモン(GH)	32	D008 10	104
赤痢アメーバDNA 定性	112		
赤血球表面マーカー検査CD55、CD59	94		
セルシン→ジアゼパム	20	B001 02	特
セルセプト→ミコフェノール酸	22	B001 02	特
セルロプラスミン	82	D015 09	90
セレニカR→バルプロ酸	21	B001 02	特
セレネース→ハロペリドール	24	B001 02	特
セロトニン	36		
染色標本作製	118		
(抗)セントロメア抗体	72	D014 20	173
前立腺特異抗原(PSA)	43	D009 09・B001 03 ロ	121・腫2
前立腺特異抗原(PSA)F/T比	43	D009 17・B001 03 ロ	150・腫2

ソ	ページ	診療報酬区分	実施料
総コレステロール(T-Cho)	10	D007 03	17
(尿中)総三塩化物	17		
総胆汁酸	12	D007 13	47
総蛋白(TP)(血清)	1	D007 01	11
総蛋白(TP)(髄液)	1	D007 01	11
総蛋白(TP)(尿)	1、99	D001 01	7

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

総鉄結合能(TIBC)	16	D007 01	11
総ビリルビン(T-Bil)	16	D007 01	11
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	7	D010 05	283
(血中)総ホモシステイン	8	D010 04 イ	279
ゾニサミド	21	B001 02	特
ソマトメジンC(IGF-1)	32	D008 42	212

タ	ページ	診療報酬区分	実施料
第Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
第Ⅷ、Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)	29	D006 20	144
ダイアモックス→アセタゾラミド	21	B001 02	特
大腸菌ベロトキシン	105	D023-2 03	184
胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)	2		
タクロリムス	22	B001 02	特
タゴシッド→テイコプラニン	19	B001 02	特
多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析	94	D005 15	1882
多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)	94	D005 15	1882
(総)胆汁酸	12	D007 13	47
単純ヘルペスウイルス	49	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス(1型)(2型)	50	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	50	D012 46 イ	200
単純ヘルペスウイルスDNA 定性	50		
単純ヘルペスウイルスDNA定量	50	D023 17	450
単純ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)	49	D012 46 イ	200
単純ヘルペスウイルス特異抗原	49	D012 42	180
男性 AIRS・AICS	121		
(総)蛋白(TP)(血清)	1	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(髄液)	1	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(尿)	1、99	D001 01	7
蛋白分画	1	D007 04	18
タンボコール→フレカイニド	24	B001 02	特

チ	ページ	診療報酬区分	実施料
腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	113	D023 12	350
中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
直接クームス試験	80	D011 02 イ	34
直接ビリルビン	16	D007 01	11

ツ	ページ	診療報酬区分	実施料
ツツガムシカーブ、カトー、ギリアム(IgG)(IgM)	70	D012 47	203

テ	ページ	診療報酬区分	実施料
ディアコミット→スチリペントール	21	B001 02	特
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	40	D008 24	150
テイコプラニン	19	B001 02	特
デオキシピリジノリン	86	D008 39・B001 03 ロ	191・腫2
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	86	D008 39	191
テオドール→テオフィリン	25	B001 02	特
テオフィリン	25	B001 02	特
テオロング→テオフィリン	25	B001 02	特
テグレトール→カルバマゼピン	20	B001 02	特
テストステロン	37	D008 13	119
(抗)デスモグレイン1抗体	77	D014 38	300
(抗)デスモグレイン3抗体	77	D014 34	270
鉄(Fe)	16	D007 01	11
(総)鉄結合能(TIBC)	16	D007 01	11
(不飽和)鉄結合能(UIBC)	16	D007 01	11
デパケン→バルプロ酸	21	B001 02	特
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	34	D008 31	164
テレスミン→カルバマゼピン	20	B001 02	特
デングウイルスNS1抗原	63	D012 56	233

ト	ページ	診療報酬区分	実施料
銅(Cu)	16	D007 05	23
透析液中エンドトキシンA液、B液、RO水、調整液、その他	68		
トキソプラズマIgG抗体	71	D012 14	93
トキソプラズマIgM抗体	71	D012 15	95
特異的IgE(12種吸入性アレルゲン)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	89	D015 20	194
特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)、小児用、アトピー性皮膚炎用、鼻炎・喘息用	89	D015 13	1430
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	89	D015 13	1430
特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)小児除去食用	89	D015 13	550
特異的IgE(MAST48mix)	89	D015 13	1430
特異的IgE(View アレルギー 39)	89	D015 13	1430
特異的IgE(マルチアレルゲン)	89	D015 13	各110
特異的IgE(シングルアレルゲン)	89	D015 13	各110
特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)	89	D015 13	110
トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	28	D006 34	240
ドーパミン総	35		
トピナ→トピラマート	21	B001 02	特
トピラマート	21	B001 02	特
トブラシン→トブラマイシン	19	B001 02	特
トブラマイシン	19	B001 02	特
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体	72	D014 16	157
塗抹鏡検(一般細菌)	102	D017 03	67
トランスサイレチン→プレアルブミン	82	D015 12	101
トランスフェリン	83	D015 07	60
(尿中)トランスフェリン	83	D001 09	98
(尿中)トランスフェリン(クレアチニン換算値)	83	D001 09	98
トリグリセライド→中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
(尿中)トリクロル酢酸	17		
トリコスポロン・アサヒ抗体	71	D012 68	798
鳥特異的IgG抗体	71	D012 69	873
トリプシン	3	D007 48	189
トリメタジオン	21	B001 02	特
(遊離)トリヨードサイロニン(Free T_3)	33	D008 14	121
トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕	33	D008 07	99
(心筋)トロポニンT	83	D007 29	109
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	28	D006 25	166
トロンボモジュリン	31	D006 29	204

ナ	ページ	診療報酬区分	実施料
ナイアシン(ニコチン酸)	14		
ナチュラルキラー細胞活性→NK細胞活性	96		
ナトリウム(Na)	15	D007 01	11
ナパ→アセトアミノフェン	25	D007 46	180
鉛(Pb)	17		

ニ	ページ	診療報酬区分	実施料
ニコチン酸(ナイアシン)	14		
ニトラゼパム	20	B001 02	特
日本脳炎ウイルス	59	D012 11 ツ	79
乳酸	9	D007 13	47
乳酸脱水素酵素→LD(LDH)IFCC	2	D007 01	11
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LD(LDH)アイソザイム	2	D007 14	48
ニューモシスチス・イベロチイ(P.jirovecii)DNA定性	112		
尿一般検査	99	D000	★
尿酸(UA)	6	D007 01	11
尿素窒素(UN)	6	D007 01	11
尿中2,5-ヘキサンジオン	17		
尿中Ⅳ型コラーゲン	85	D001 16	179

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

尿中N-メチルホルムアミド	17		
尿中NGAL	84	D001 20	210
尿中アセトン定量	9		
尿中アルブミン	1	D001 10	99
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	1	D001 10	99
尿中コルチゾール	34	D008 14	121
尿中シュウ酸	9	D001 19	200
尿中スチレン代謝物	17		
尿中生菌数定量	102	D018 06	60
尿中総三塩化物	17		
尿中トランスフェリン	83	D001 09	98
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	83	D001 09	98
尿中トリクロル酢酸	17		
尿中馬尿酸	17		
尿中マンデル酸エチルベンゼン	17		
尿中ミオグロビン〔CLEIA〕	83	D007 35	131
尿中メチル馬尿酸	17		
尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	81	D015 21	201
尿沈渣	99	D002	★
尿糖定量	99	D001 02	9

ネ	ページ	診療報酬区分	実施料
ネオプテリン	18		
ネオペリドール→ハロペリドール	24	B001 02	特
ネオラール→シクロスポリン	22	B001 02	特
ネルボン→ニトラゼパム	20	B001 02	特

ノ	ページ	診療報酬区分	実施料
(ヒト)脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	40	D008 19	130
ノルペース→ジソピラミド	23	B001 02	特
ノロウイルスRNA定性	63		
ノロウイルス抗原	63		

ハ	ページ	診療報酬区分	実施料
肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	12	D007 34	130
肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	12	D007 38	136
ハイセレニン→バルプロ酸	21	B001 02	特
梅毒定性RPR〔LA〕	69	D012 01	15
梅毒定性TP抗体〔CLEIA〕	69	D012 04	32
梅毒定量TP抗体〔LA〕	69	D012 06	53
梅毒定量RPR〔LA〕	69	D012 05	34
ハイドロキシプロリン-総	8	D010 04 イ	279
培養同定(血液、穿刺液)	102	D018 03	240
培養同定(口腔、気道、呼吸器)	102	D018 01	180
培養同定(消化管)	102	D018 02	200
培養同定(その他)	102	D018 05	180
培養同定(泌尿器、生殖器)	102	D018 04	190
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング	94	D005 15	1882
(尿中)馬尿酸	17		
バニリルマンデル酸→VMA	36	D008 04	90
バファリン→サリチル酸	25	B001 02	特
ハプトグロビン	82	D015 14	129
ハベカシン→アルベカシン	19	B001 02	特
パラインフルエンザウイルス 1型	60	D012 11 ヌ	79
パラインフルエンザウイルス 2型	60	D012 11 ル	79
パラインフルエンザウイルス 3型	60	D012 11 ヲ	79
パラサイロイドホルモン→PTH	33	D008 29	161
バルプロ酸	21	B001 02	特
(ヒト)パルボウイルスB19DNA 定性	46		
(ヒト)パルボウイルスB19 IgG	46		
(ヒト)パルボウイルスB19 IgM	46	D012 46 ト	200
バレリン→バルプロ酸	21	B001 02	特
ハロステン→ハロペリドール	24	B001 02	特
ハロペリドール	24	B001 02	特
ハロマンス→ハロペリドール	24	B001 02	特
バンコマイシン	19	B001 02	特

ヒ	ページ	診療報酬区分	実施料
ヒアルロン酸(胸水)	8		
ヒアルロン酸(血清)	8	D007 45	179
ビクリン→アミカシン	19	B001 02	特
鼻汁中好酸球	27	D005 03	15
ビタミンA	13		
ビタミンB_1	13	D007 55	239
ビタミンB_2	13	D007 54	231
ビタミンB_6	13		
ビタミンB_{12}	13	D007 38	136
ビタミンC(アスコルビン酸)	14	D007 59	296
ビタミンE	14		
ビタミンK分画	14		
ヒダントール→フェニトイン	20	B001 02	特
ヒトインターフェロンγ〔EIA〕	88		
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	84	D015 22	204
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)	37	D008 19	130
ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	37	D008 18	129
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	83	D007 35	131
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	40	D008 46	221
ヒト精巣上体タンパク4(HE4)	41	D009 29・B001 03 ロ	200・腫2
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	40	D008 19	130
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	40	D008 21	136
ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)	47	D023 11	347
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	47	D023 27	2000
ヒトパルボウイルスB19DNA 定性	46		
ヒトパルボウイルスB19 IgG	46		
ヒトパルボウイルスB19 IgM	46	D012 46 ト	200
ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	55		
ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	55		
ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	55		
ビムパット→ラコサミド	21	B001 02	特
ピメノール→ピルメノール	24	B001 02	特
百日咳菌DNA	112	D023 13	360
百日咳抗体〔EIA〕	68	D012 57	250
百日咳抗体 IgA	68	D012 12	80
百日咳抗体 IgM	68	D012 12	80
病理組織検査(一般病理)	118	N000	860
病理組織検査(肝生検)	118	N000	860
病理組織検査(骨髄生検)	118	N000	860
病理組織検査(腎生検)	118	N000	860
病理標本作製(一般材料)	118	N000	860
病理標本作製(手術材料)	118	N000	860
ピリナジン→アセトアミノフェン	25	D007 46	180
(総)ビリルビン	16	D007 01	11
ビリルビン(間接)	16		
ビリルビン(直接)	16	D007 01	11
ピルシカイニド	23	B001 02	特
ピルビン酸	9	D007 13	47
ピルメノール	24	B001 02	特

フ	ページ	診療報酬区分	実施料
フィコンパ→ペランパネル	21	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ブイフェンド→ボリコナゾール	19	B001 02	特
フィブリノーゲン(FIB)	28	D006 04	23
(可溶性)フィブリンモノマー複合体(SFMC)	28	D006 11	93
フィブリンモノマー複合体定量	28	D006 30	215
風疹ウイルス	59	D012 11 レ	79
風疹ウイルス(IgM)(IgG)	59	D012 46 ロ	200
フェニトイン	20	B001 02	特
フェノバール→フェノバルビタール	20	B001 02	特
フェノバルビタール	20	B001 02	特
フェリチン	84	D007 25	102
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	29	D006 15	126
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	29	D006 21	147
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	29		
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	80	D011 04	174
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	33	D008 29	161
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	33	D008 29	161
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	33	D008 38	185
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	32	D008 37	184
不飽和鉄結合能(UIBC)	16	D007 01	11
プラスミノーゲン	28	D006 13	100
フリー T_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	33	D008 14	121
フリー T_4→遊離サイロキシン(Free T_4)	33	D008 14	121
フリーテストステロン〔RIA〕	37	D008 26	156
フリーライトチェーン→免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	81	D015 28	388
プリミドン	21	B001 02	特
プリムロン→プリミドン	21	B001 02	特
プレアルブミン	82	D015 12	101
フレカイニド	24	B001 02	特
プレグナンジオール	37	D008 43	213
プレグナントリオール	37	D008 48	232
プレセプシン	86	D007 60	301
プロGRP→ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	43	D009 24・B001 03 ロ	175・腫2
プロウイルス→HTLV-Ⅰ(ATLV)DNA(クロナリティ)	61		
プロカインアミド	23	B001 02	特
プロカルシトニン	86	D007 58	276
プログラフ→タクロリムス	22	B001 02	特
プロゲステロン	37	D008 23	139
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕	85	D007 38	136
プロスタグランジンE主要代謝物(PGE-MUM)	75	D001 18	187
ブロック作製	118		
プロテインC活性	31	D006 33	227
プロテインC(抗原量)	31	D006 31	220
プロテインS活性	31	D006 24	163
プロテインS(抗原量)	31	D006 23	152
プロテインS(遊離型抗原量)	31	D006 23	152
プロトポルフィリン	16	D007 57	272
プロトロンビン時間(PT)	28	D006 02	18
プロトロンビンフラグメントF1+2	28	D006 28	192
プロノン→プロパフェノン	23	B001 02	特
プロパフェノン	23	B001 02	特
プロプラノロール	23		
ブロムペリドール	24	B001 02	特
プロラクチン	31	D008 06	98

へ	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)平滑筋抗体	74		
(尿中2,5)ヘキサンジオン	17		
ペプシノゲン	4		
ペプリコール→ペプリジル	22	B001 02	特
ペプリジル	22	B001 02	特
ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)	8	D005 09	49
ペランパネル	21	B001 02	特
ヘリコバクター感受性検査	105	D019 01	185
ヘリコバクター培養同定	105	D018 02	200
(便中)ヘリコバクターピロリ抗原	68	D012 24	138
(抗)ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	68	D012 12	80
ヘリコバクターピロリ判定	118		
(単純)ヘルペスウイルス	49	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス(1型)(2型)	50	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	50	D012 46 イ	200
(ヒト)ヘルペスウイルス6型DNA 定性	55		
(ヒト)ヘルペスウイルス6型DNA定量	55		
(ヒト)ヘルペスウイルス7型DNA 定性	55		
(単純)ヘルペスウイルスDNA 定性	50		
(単純)ヘルペスウイルスDNA定量	50	D023 17	450
(単純)ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)	49	D012 46 イ	200
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原	49	D012 42	180
便検診	106		
ベンザリン→ニトラゼパム	20	B001 02	特
ベンスジョーンス蛋白の同定(尿中免疫電気泳動)	81	D015 21	201
便中カルプロテクチン	75	D003 09	268
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	100	D003 08	56
便中ヘモグロビン定性	100	D003 05	37
便中ヘリコバクターピロリ抗原	68	D012 24	138
扁平上皮癌関連抗原→SCC	42	D009 04・B001 03 ロ	101・腫2

ホ	ページ	診療報酬区分	実施料
(膵)ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	3	D007 50	204
補体因子(C3)	82	D015 08	70
補体因子(C4)	82	D015 08	70
(血清)補体価	82	D015 04	38
(血中)(総)ホモシステイン	8	D010 04 イ	279
ホモバニリン酸→HVA	36	D008 03	69
ボリコナゾール	19	B001 02	特
ホリゾン→ジアゼパム	20	B001 02	特
ホールPTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	33	D008 29	161

マ	ページ	診療報酬区分	実施料
マイコプラズマニューモニエ	69	D012 04	32
マイコプラズマニューモニエDNA	112	D023 06	291
マイスタン→クロバザム	20	B001 02	特
マイ ナイチンゲール(My Nightingale)	123		
マグネシウム(Mg)	15	D007 01	11
(α_2)マクログロブリン	82	D006 18	138
麻疹ウイルス	61	D012 11 ソ	79
麻疹ウイルス(IgM)(IgG)	61	D012 46 ホ	200
末梢血液一般検査	27	D005 05	21
末梢血液像	27	D005 03	15
マンガン	17	D007 08	27
(尿中)マンデル酸エチルベンゼン	17		

ミ	ページ	診療報酬区分	実施料
ミオグロビン	83	D007 35	131
(尿中)ミオグロビン〔CLEIA〕	83	D007 35	131
(心室筋)ミオシン軽鎖Ⅰ	83	D007 47	184
ミコフェノール酸	22	B001 02	特
未染標本作製	118		
(抗)ミトコンドリアM2抗体	74	D014 22	189
(抗)ミトコンドリア抗体	74	D014 21	181
ミノアレ→トリメタジオン	21	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	37	D008 53	597
ム	ページ	診療報酬区分	実施料
無機リン(P)	15	D007 03	17
ムンプスウイルス	61	D012 11 リ	79
ムンプスウイルス(IgM)(IgG)	61	D012 46 ヘ	200
メ	ページ	診療報酬区分	実施料
メキシチール→メキシレチン	23	B001 02	特
メキシレチン	23	B001 02	特
メソトレキセート→メトトレキサート	25	B001 02	特
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	35	D008 45	220
(尿中)メチル馬尿酸	17		
メトトレキサート	25	B001 02	特
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	81	D015 28	388
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	81	D015 23	218
免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	81	D015 21	201
モ	ページ	診療報酬区分	実施料
網赤血球数(RET)	27	D005 02	12
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	96		
ヤ	ページ	診療報酬区分	実施料
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	95		
ユ	ページ	診療報酬区分	実施料
有機酸スクリーニング検査	9	D010 08	1141
遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)	37	D008 18	129
遊離コレステロール(F-Cho)	10	D007 01	11
遊離サイロキシン(Free T_4)	33	D008 14	121
遊離脂肪酸(NEFA)	10	D007 19	59
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	33	D008 14	121
ユニフィル→テオフィリン	25	B001 02	特
ヨ	ページ	診療報酬区分	実施料
葉酸	14	D007 40	146
(Con-Aによるリンパ球)幼若化検査	95	D016 07	345
(PHAによるリンパ球)幼若化検査	95	D016 07	345
ラ	ページ	診療報酬区分	実施料
ラコサミド	21	B001 02	特
ラミクタール→ラモトリギン	21	B001 02	特
ラモトリギン	21	B001 02	特
ランドセン→クロナゼパム	20	B001 02	特
卵胞刺激ホルモン(FSH)	32	D008 12	105
リ	ページ	診療報酬区分	実施料
リーマス→リチウム	24	B001 02	特
(IgG型)リウマチ因子	74	D014 25	198
リウマチ因子(RF)定量	74	D014 02	30
リストセチンコファクター(フォン・ウィルブランド因子活性)	29	D006 15	126
リスモダン→ジソピラミド	23	B001 02	特
リスラミドR→ジソピラミド	23	B001 02	特
リゾチーム	4		
リチウム	24	B001 02	特
リチオマール→リチウム	24	B001 02	特
リドカイン	23	B001 02	特
リパーゼ	3	D007 06	24
リポ蛋白分画〔アガロースゲル電気泳動法〕	12	D007 15	49
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	12	D007 52	219
リボトリール→クロナゼパム	20	B001 02	特
リポプロテイン(a)	12	D007 27	107
(無機)リン(P)	15	D007 03	17
淋菌DNA	113	D023 02	198
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定	113	D023 05	262
リン脂質	10	D007 02	15
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	78	D014 28	223
リントン→ハロペリドール	24	B001 02	特
リンパ球混合培養(MLC)	95		
(薬剤による)リンパ球刺激試験(DLST)	95		
(Two-color解析による)リンパ球表面マーカー検査	96		
(モノクローナル抗体による)リンパ球表面マーカーの自動解析	96		
(Con-Aによる)リンパ球幼若化検査	95	D016 07	345
(PHAによる)リンパ球幼若化検査	95	D016 07	345
ル	ページ	診療報酬区分	実施料
ルイネシン→ゲンタマイシン	19	B001 02	特
ルナプロン→ブロムペリドール	24	B001 02	特
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	77		
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	77	D014 33	265
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	77	D014 33	265
ルフィナミド	21	B001 02	特
ルミナール→フェノバルビタール	20	B001 02	特
レ	ページ	診療報酬区分	実施料
レキシン→カルバマゼピン	20	B001 02	特
レジオネラDNA 定性	112	D023 07	296
レチノール結合蛋白(RBP)	82	D015 14	129
レニン活性(PRA)〔EIA〕	39	D008 08	100
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	39	D008 09	102
レプチン〔ELISA〕	40	D008 54	1000
レベチラセタム	21	B001 02	特
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	10	D007 43	174
ロ	ページ	診療報酬区分	実施料
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	2	D007 01	11
ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)	75	D007 56	268
ワ	ページ	診療報酬区分	実施料
ワコビタール→フェノバルビタール	20	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

アルファベット

A	ページ	診療報酬区分	実施料
ABC分類〔LA〕	5		
ABO式血液型	80	D011 01	39
ACA→抗セントロメア抗体	72	D014 20	173
ACE(アンギオテンシンⅠ転換酵素)	4	D007 38	136
AChR→抗アセチルコリンレセプター抗体	76	D014 44	752
ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)	32	D008 37	184
ADA(アデノシンデアミナーゼ)	2	D007 11	32
ADAMTS13 インヒビター	29	D006 37	1000
ADAMTS13-活性	29	D006 35	400
AFP→α-フェトプロテイン定量	41	D009 02・B001 03 ロ	98・腫2
A/G比(アルブミン・グロブリン比)	1		
AICS	121		
AIRS	121		
Alb(アルブミン)	1	D007 01	11
ALD→アルドラーゼ	2	D007 01	11
ALP→アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	2	D007 01	11
ALPアイソザイム(IFCC)	2	D007 14	47
ALT(GPT)	2	D007 03	17
Al(アルミニウム)	17	D007 29	109
AMA→抗ミトコンドリア抗体	74	D014 21	181
AMH→抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	37	D008 53	597
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	3	D007 14	48
AMY(アミラーゼ)	3	D007 01	11
ANA(抗核抗体)	72	D014 05	99
ANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	40	D008 46	221
APOA2アイソフォーム	42	D009 35・B001 03 ロ	腫2
APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	28	D006 07	29
ARC→レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	39	D008 09	102
(抗)ARS抗体	74	D014 23	190
ASMA→抗平滑筋抗体	74		
ASO(抗ストレプトリジン-O抗体)	68	D012 01	15
AST(GOT)	2	D007 03	17
AT(アンチトロンビン)	28	D006 09	70
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体〔CLEIA〕	62	D012 33	159
ATLV(HTLV-Ⅰ)プロウイルスDNA(クロナリティ)	62		
AVP→抗利尿ホルモン	32	D008 47	224

B	ページ	診療報酬区分	実施料
BAP(骨型アルカリフォスファターゼ)	2	D008 27	157
BCA225	41	D009 20・B001 03 ロ	158・腫2
BFP(塩基性フェトプロテイン)	41	D009 17・B001 03 ロ	150・腫2
BGP→オステオカルシン	40	D008 25	153
B-J蛋白→尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	81	D015 21	201
BMG→β_2-マイクログロブリン	83	D015 10	98
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	40	D008 19	130
BS→血糖(グルコース)	8	D007 01	11
BTR→総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比	7	D010 05	283
BUN→尿素窒素(UN)	6	D007 01	11
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	45	D013 12	246
B細胞百分率 T細胞百分率	96	D016 03	193
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG、IgA、IgM、IgD、K、L	96	D016 01	155

C	ページ	診療報酬区分	実施料
C1q	82		
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	82	D015 24	253
C1エステラーゼインヒビター活性(C1インアクチベーター活性)	82	D015 24	253
C3(補体因子)	82	D015 08	70
C4(補体因子)	82	D015 08	70
CA-3F→カテコールアミン3分画	35	D008 29	161
CA15-3	41	D009 06・B001 03 ロ	112・腫2
CA19-9	41	D009 09・B001 03 ロ	121・腫2
CA54/61	42	D009 25・B001 03 ロ	184・腫2
CA72-4	41	D009 16・B001 03 ロ	146・腫2
CA125	41	D009 11・B001 03 ロ	136・腫2
cAMP→サイクリックAMP	40	D008 29	161
C-ANCA→抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	79	D014 31	250
Ca(カルシウム)	15	D007 01	11
(CA・RF)→抗ガラクトース欠損IgG抗体	74	D014 08	111
CA→カテコールアミン総	35	D008 37	184
CA→寒冷凝集反応	69	D014 01	11
(抗)CCP抗体→抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	74	D014 24	193
CD1a、CD2(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD3、CD4、CD8(リンパ球表面マーカー検査)	97	D016 02	185
CD4/CD8(Two-color)	98	D016 02	185
CD4/CD25(Two-color)	98	D016 02	185
CD4/CD29(Two-color)	98	D016 02	185
CD4/CD45RA(Two-color)	98	D016 02	185
CD5、CD7、CD10(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD11b/CD8(Two-color)	98	D016 02	185
CD11b(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD13、CD14(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD16、CD19、CD20(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD16/CD56(Two-color)	98		
CD20/CD5(Two-color)	98		
CD21、CD22(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD25、CD30、CD33(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD30(IHC)	118	N002 07	400
CD34、CD38、CD56(リンパ球表面マーカー検査)			
CD34定量	94		
CD38マルチ解析(多発性骨髄腫解析検査)	94	D005 15	1882
CD41、CD42b(血小板表面マーカー検査)	96		
CD45RO/CD4(Two-color)	98	D016 02	185
CD45ゲーティング(悪性リンパ腫解析検査)(MLA)	94	D005 15	1882
CD45ゲーティング(白血病・リンパ腫解析検査)(LLA)	94	D005 15	1882
CD55(赤血球表面マーカー検査)	94		
CD57/CD16(Two-color)	98		
CD57(リンパ球表面マーカー検査)	97		
CD59(赤血球表面マーカー検査)	94		
Cd→カドミウム	17		
CDトキシン(GDH)	105	D012 15	95
CDトキシンB遺伝子 定性	105	D023-2 05	450
CEA(癌胎児性抗原)	41	D009 03・B001 03 ロ	99・腫2
CH50→血清補体価	82	D015 04	38
ChE(コリンエステラーゼ)	2	D007 01	11
CK(CPK)	1	D007 01	11
CK-MB(CPK-MB)〔CLEIA〕	1	D007 22	90
CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	1		
Cl(クロール)	15	D007 01	11
CL→抗カルジオリピンIgG抗体	78	D014 29	226
CL→抗カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
(抗)CL・β_2GPⅠ抗体→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	78	D014 28	223
CMV DNA→サイトメガロウイルスDNA 定性	52		
CMV pp65抗原(C7-HRP)→サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	52	D012 60	356
CMV→サイトメガロウイルス	52	D012 11 ハ	79
CMV→サイトメガロウイルス(IgM)(IgG)	52	D012 46 ハ	200
CMV→サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	52	D023 21	777
CMV→サイトメガロウイルス核酸定量	52	D023 17	450
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	95	D016 07	345

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

CPK(CK)	1	D007 01	11
CPK-MB(CK-MB)〔CLEIA〕	1	D007 22	90
CPK-MB(CK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	1		
CPR(C-ペプチド)	38	D008 12	105
Cp→セルロプラスミン	82	D015 09	90
CRP(C反応性蛋白)定量	83	D015 01	16
Cr→クレアチニン	6	D007 01	11
Cr→クロム	17		
CSLEX(シアリルLe^{x}抗原)	42	D009 18・B001 03 ロ	152・腫2
CT→カルシトニン	33	D008 16	127
Cu(銅)	16	D007 05	23
CYFRA(シフラ)(サイトケラチン19フラグメント)	43	D009 19・B001 03 ロ	154・腫2
(HB)c抗体(IgG)	45	D013 06	130
C反応性蛋白(CRP)定量	83	D015 01	16
C-ペプチド(CPR)	38	D008 12	105

D	ページ	診療報酬区分	実施料
DA→ドーパミン総	35		
DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	34	D008 31	164
DLST(薬剤によるリンパ球刺激試験)	95		
(抗)DNA抗体〔RIA〕	72	D014 17	159
DPD→デオキシピリジノリン	86	D008 39・B001 03 ロ	191・腫2
DPD(デオキシピリジノリン)(骨粗鬆症)	86	D008 39	191
(抗)ds-DNA IgG抗体	72	D014 17	159
(抗)ds-DNA IgM抗体	72		
DUPAN-2	42	D009 07・B001 03 ロ	115・腫2
Dダイマー	28	D006 14	121

E	ページ	診療報酬区分	実施料
E_2(エストラジオール)	37	D008 33	167
EBウイルスDNA(クロナリティ)	53		
EBウイルスDNA 定量	53	D023 08	310
EBウイルス抗EA-DR IgA〔FA〕	54	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗EA-DR IgG〔FA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗EA IgG〔EIA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗EBNA〔FA〕	54	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗EBNA IgG〔EIA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgA〔FA〕	54	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗VCA IgG〔EIA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgG〔FA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgM〔EIA〕	54	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgM〔FA〕	54	D012 46 ニ	200
Echo(エステル型コレステロール)	10		
EL-1→エラスターゼ1	3	D009 08・B001 03 ロ	120・腫2
EPO→エリスロポエチン	40	D008 41	209
(HB)e抗原	45	D013 04	98
(HB)e抗体	45	D013 04	98

F	ページ	診療報酬区分	実施料
F1+2→プロトロンビン フラグメントF1+2	28	D006 28	192
Fbg→フィブリノーゲン(FIB)	28	D006 04	23
F-Cho→遊離コレステロール	10	D007 01	11
FDP定量(血漿)	28	D006 12	95
FDP定量(部分尿)	28	D001 08	77
Fe(鉄)	16	D007 01	11
FGF23〔CLEIA〕	40	D007 64	788
Free T_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	33	D008 14	121
Free T_4→遊離サイロキシン(Free T_4)	33	D008 14	121
FSH(卵胞刺激ホルモン)	32	D008 12	105
FT_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	33	D008 14	121
FT_4→遊離サイロキシン(Free T_4)	33	D008 14	121

G	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)GAD抗体	76	D008 20	134
GA→グリコアルブミン	8	D007 17	55
GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	77	D014 32	257
GH(成長ホルモン)	32	D008 10	104
GLU→血糖(グルコース)	8	D007 01	11
GOT(AST)	2	D007 03	17
GPT(ALT)	2	D007 03	17

H	ページ	診療報酬区分	実施料
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	40	D008 46	221
HA抗体	46	D013 08	146
HA抗体-IgM	46	D013 08	146
HA→ヒアルロン酸(胸水)	8		
HA→ヒアルロン酸(血清)	8	D007 45	179
HbA1c→ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)	8	D005 09	49
HBc抗体(IgG)	45	D013 06	130
HBc抗体-IgM	45	D013 08	146
HBe抗原	45	D013 04	98
HBe抗体	45	D013 04	98
HBs抗原(HQ)	45	D013 03	88
HBs抗体〔CLEIA〕	45	D013 03	88
HBV DNA定量(IU)	45	D023 04	256
HBVゲノタイプ	45	D013 14	340
HBコア関連抗原→HBcrAg	45	D013 12	246
HCG(絨毛性ゴナドトロピンβHCG)	37	D008 19	130
HCG-βサブユニット→遊離HCG-β	37	D008 18	129
HCV RNAコアジェノタイプ	46		
HCV RNA定量	46	D023 15	412
HCV群別(グルーピング)	46	D013 11	215
HCV抗原(コア蛋白質)	46	D013 05	102
HCV抗体(第3世代)	46	D013 05	102
$HDL_{2,3}$コレステロール	10		
HDL-コレステロール	10	D007 03	17
HEV抗体-IgA(定性)	46	D013 10	210
HE4→ヒト精巣上体タンパク4	41	D009 29・B001 03 ロ	200・腫2
H-FABP(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	83	D007 35	131
HGF(肝細胞増殖因子)	40	D007 53	227
HHV-6 DNA→ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	55		
HHV-7 DNA→ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	55		
HIAA→5-HIAA(5-ハイドロキシインドール酢酸)	36	D008 05	95
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	79	D011 10	390
HIV-抗原・抗体	63	D012 16	109
HIV-1/2特異抗体	63	D012 67	660
HIV-1RNA定量	63	D023 18	520
HLA-DR/CD3(Two-color)	98	D016 02	185
HLA-DR/CD4(Two-color)	98	D016 02	185
HLA-DR/CD8(Two-color)	98	D016 02	185
HLA-DR(リンパ球表面マーカー検査)	97		
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)	47	D023 11	347
HPVジェノタイプ→ヒトパピローマウイルス ジェノタイプ判定	47	D023 27	2000
Hp→ハプトグロビン	82	D015 14	129
HSV DNA→単純ヘルペスウイルスDNA 定性	50		
HSV DNA→単純ヘルペスウイルスDNA定量	50	D023 17	450
HSV→単純ヘルペスウイルス	49	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス(1型)(2型)	50	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	50	D012 46 イ	200
HSV→単純ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)	49	D012 46 イ	200

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

HSV特異抗原→単純ヘルペスウイルス特異抗原	49	D012 42	180
HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体〔CLEIA〕	62	D012 33	159
HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	62		
HTLV-1核酸検出 定性	62	D023 17	450
HTLV-1抗体	62	D012 64	425
HTLV-1プロウイルスDNA 定性	62		
HVA	36	D008 03	69

I	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)IA-2抗体	76	D008 43	213
IFN-γ×IL-4/CD4(Th1/Th2)	96		
IFNγ→ヒトインターフェロンγ〔EIA〕	88		
IgA	81	D015 04	38
(Sm-Ig)IgA(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
IgA-HEV抗体(定性)	46	D013 10	210
(Sm-Ig)IgD(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
IgE(RIST)→IgE(非特異的IgE)	89	D015 11	100
IgE(アトピー鑑別試験)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	89	D015 20	194
IgE(非特異的IgE)〔FEIA〕	89	D015 11	100
IGF-1(ソマトメジンC)	32	D008 42	212
IgG	81	D015 04	38
(Sm-Ig)IgG(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
IgG-FcR^{+}・T細胞百分率	96	D016 03	193
IgG型リウマチ因子	74	D014 25	198
IgGサブクラス分画(TIA)	81		
IgG2	81	D014 30	239
IgG4	81	D014 40	373
IgM	81	D015 04	38
(Sm-Ig)IgM(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
IgM-HA抗体	46	D013 08	146
IgM-HBc抗体	45	D013 08	146
IL-1β(インターロイキン-1β)	88		
IL-4(インターロイキン-4)(高感度)	88		
IL-6(インターロイキン-6)	88		
IL-6(インターロイキン-6)	88	D015 16	170
IL-8(インターロイキン-8)	88		
IL-10(インターロイキン-10)	88		
Intact-PTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	33	D008 29	161
IRI→インスリン	38	D008 08	100
IRT→トリプシン	3	D007 48	189

J	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)Jo-1抗体	74	D014 12	140

K	ページ	診療報酬区分	実施料
KL-6	86	D007 28	108
K(カリウム)	15	D007 01	11
(Sm-Ig)K鎖(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155

L	ページ	診療報酬区分	実施料
LAC→ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	77		
LAC→ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	77	D014 33	265
LAC→ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	77	D014 33	265
LAP→ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	2	D007 01	11
LDH(LD)IFCC	2	D007 01	11
LDH(LD)アイソザイム	2	D007 14	48
LD(LDH)IFCC	2	D007 01	11
LD(LDH)アイソザイム	2	D007 14	48
LDL-コレステロール	10	D007 04	18
LH(黄体形成ホルモン)	32	D008 12	105
(抗)LKM-1抗体	79	D014 27	215
LLA(白血病・リンパ腫解析検査)CD45ゲーティング	94	D005 15	1882
LP(a)→リポプロテイン(a)	12	D007 27	107
LPL(リポ蛋白リパーゼ)	12	D007 52	219
LRG→ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)	75	D007 56	268
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	95		
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕	84	D001 20	210
(Sm-Ig)L鎖(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
L-ドーパ	35		

M	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗ミトコンドリア)M2抗体	74	D014 22	189
MAC核酸同定〔TRC〕	108	D023 16	421
MAC抗体(抗酸菌抗体定性)	71	D012 29	151
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi)	85	D007 49	194
MAST36アレルゲン(特異的IgE)	89	D015 13	1430
MAST48mix(特異的IgE)	89	D015 13	1430
Mb→ミオグロビン	83	D007 35	131
(抗)MDA5抗体	74	D014 36	275
MDA-LDL→酸化LDL(MDA-LDL)	11	D007 49	194
Mg(マグネシウム)	15	D007 01	11
MHA→メチル馬尿酸(尿中)	17		
(抗)Mi-2抗体	74	D014 35	270
MLA(悪性リンパ腫解析検査)CD45ゲーティング	94	D005 15	1882
MLCⅠ→心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	83	D007 47	184
MLC(リンパ球混合培養)	95		
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	4	D014 09	116
Mn→マンガン	17	D007 08	27
MPO-ANCA(抗好中球細胞質抗体)	79	D014 31	250
MRSAスクリーニング	106		
(抗)MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	76	D014 46	1000
My Nightingale(マイ ナイチンゲール)	123		

N	ページ	診療報酬区分	実施料
(NAG)N-アセチルグルコサミニダーゼ	4	D001 05	41
Na(ナトリウム)	15	D007 01	11
NCC-ST-439	42	D009 06・B001 03 ロ	112・腫2
NEFA(遊離脂肪酸)	10	D007 19	59
(尿中)NGAL	84	D001 20	210
NH_3(アンモニア)	6	D007 16	50
NK細胞活性	96		
NSE(神経特異エノラーゼ)	43	D009 14・B001 03 ロ	142・腫2
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	40	D008 21	136
NTx(Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	84	D008 25・B001 03 ロ	153・腫2
NTx(Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド)(骨粗鬆症)	84	D008 25	156
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	4	D001 05	41
(尿中)N-メチルホルムアミド	17		

O	ページ	診療報酬区分	実施料
O157スクリーニング	106		

P	ページ	診療報酬区分	実施料
P_2→プレグナンジオール	37	D008 43	213
P-Ⅲ-P(プロコラーゲンⅢペプチド)〔CLIA〕	85	D007 38	136
P_3→プレグナントリオール	37	D008 48	232
PAIgG(血小板関連IgG)	79	D011 06	190
P-ANCA→抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	79	D014 31	250
PA→前立腺特異抗原(PSA)	43	D009 09・B001 03 ロ	121・腫2
Pb(鉛)	17		
PCA→抗胃壁細胞抗体	74		

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

PF-4(血小板第4因子)	30	D006 27	173
PG→ペプシノゲン	4		
PGE-MUM〔CLEIA〕	75	D001 18	187
PHAによるリンパ球幼若化検査	95	D016 07	345
PICテスト(α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	28	D006 22	150
PIVKA-Ⅱ	43	D009 10・B001 03 □	131・腫2
PL→抗リン脂質抗体→抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	78	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	78	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピンIgG抗体	78	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピンIgM抗体	78	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピン・β_2グリコプロテインⅠ　複合体抗体	78	D014 28	223
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	77		
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	77	D014 33	265
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラントト〔リン脂質中和法〕	77	D014 33	265
PLA_2→膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	3	D007 50	204
PLAP→胎盤型アルカリフォスファターゼ	2		
Plg→プラスミノーゲン	28	D006 13	100
(高感度)PNH型血球検査	94		
POT法(黄色ブドウ球菌)	105		
PR3-ANCA(抗好中球細胞質抗体)	79	D014 31	250
PRA→レニン活性(PRA)〔EIA〕	39	D008 08	100
PR-F→蛋白分画	1	D007 04	18
PRL→プロラクチン	32	D008 06	98
ProGRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	43	D009 24・B001 03 □	175・腫2
PSA F/T比	43	D009 17・B001 03 □	150・腫2
PSA(前立腺特異抗原)	43	D009 09・B001 03 □	121・腫2
PTHrP(副甲状腺ホルモン関連蛋白)	33	D008 38	185
PTH(副甲状腺ホルモン)(Whole PTH)	33	D008 29	161
PTH(副甲状腺ホルモン)-インタクト	33	D008 29	161
PTフラグメントF1+2(プロトロンビンフラグメントF1+2)	28	D006 28	192
PT→プロトロンビン時間(PT)	28	D006 02	18
P型アミラーゼ定量	3	D007 14	48
P(無機リン)	15	D007 03	17
R	ページ	診療報酬区分	実施料
RBP(レチノール結合蛋白)	82	D015 14	129
RF(リウマチ因子)定量	74	D014 02	30
Rh(D因子)式血液型	80	D011 01	39
Rh-Hr式血液型	80	D011 03	163
RLP-C(レムナント様リポ蛋白コレステロール)	10	D007 43	174
(抗)RNP抗体	72	D014 13	144
RSウイルス〔CF〕〔NT〕	60	D012 11 タ	79
S	ページ	診療報酬区分	実施料
SAA(血清アミロイドA蛋白)	83	D015 06	47
SCC	42	D009 04・B001 03 □	101・腫2
SCCA2	89	D015 25	300
(抗)Scl-70抗体	72	D014 16	157
sd LDL-コレステロール	10		
sd LDL-C(健診)	11		
sFlt/PlGF比	40	D015 27	340
SFMC(可溶性フィブリンモノマー複合体)	28	D006 11	93
SLX(シアリルLe^x-i抗原)	42	D009 13・B001 03 □	140・腫2
SM-C→IGF-1(ソマトメジンC)	32	D008 42	212
Sm-Ig(B細胞表面免疫グロブリン)	96	D016 01	155
(抗)Sm抗体	72	D014 14	147
SPan-1	42	D009 15・B001 03 □	144・腫2
SP-A(肺サーファクタントプロテインA)	12	D007 34	130
SP-D(肺サーファクタントプロテインD)	12	D007 38	136
(抗)SS-A/Ro抗体	72	D014 18	161
(抗)SS-B/La抗体	72	D014 15	153
(抗)ss-DNA IgG抗体	72	D014 17	159
(抗)ss-DNA IgM抗体	72		
SSEA-1抗原→シアリルLe^x-i抗原(SLX)	42	D009 13・B001 03 □	140・腫2
(HB)s抗原(HQ)	45	D013 03	88
(HB)s抗体〔CLEIA〕	45	D013 03	88
T	ページ	診療報酬区分	実施料
T_3→トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕	33	D008 07	99
T_4→サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕	33	D008 11	105
TARC(COVID-19)	87	D015 17	179
TARC(Th2ケモカイン)	87	D015 17	179
TAT(トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体)	28	D006 25	166
TBA→総胆汁酸	12	D007 13	47
TBG→サイロキシン結合グロブリン(TBG)	33	D008 19	130
TB→総ビリルビン	16	D007 01	11
TCA→尿中トリクロル酢酸	17		
T-Cho(総コレステロール)	10	D007 03	17
Tf→トランスフェリン	83	D015 07	60
Tf→トランスフェリン(クレアチニン換算値)(尿中)	83	D001 09	98
Tf→トランスフェリン(尿中)	83	D001 09	98
TgAb→抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕	76	D014 10	136
Tg→サイログロブリン〔CLEIA〕	33	D008 17	128
TG→中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
Th1/Th2(IFN-γ×IL-4/CD4)	96		
Th2ケモカイン→TARC	87	D015 17	179
TIBC(総鉄結合能)	16	D007 01	11
(抗)TIF1-γ抗体	74	D014 35	270
TM→トロンボモジュリン	31	D006 29	204
TnT→心筋トロポニンT	83	D007 29	109
total P1NP→Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド	84	D008 28	160
tPA・PAI-1複合体(トータルPAI-1)	28	D006 34	240
TP-F→蛋白分画	1	D007 04	18
(抗)TPO-Ab→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕	76	D014 11	138
TP(総蛋白)(血清)	1	D007 01	11
TP(総蛋白)(髄液)	1	D007 01	11
TP(総蛋白)(尿)	1、99	D001 01	7
TRAb→TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	76	D014 26	208
TRACP-5b→骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	3	D008 26・B001 03 □	156・腫2
TSAb(甲状腺刺激抗体)	76	D014 39	330
TSH→甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	32	D008 06	98
TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	76	D014 26	208
T-SPOT→結核菌特異的IFN-γ	71	D015 29	593
TSST-1産生	105		
TTC→尿中総三塩化物	17		
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	96		
T細胞百分率 B細胞百分率	96	D016 03	193
T細胞百分率・IgG-FcR$^+$	96	D016 03	193
U	ページ	診療報酬区分	実施料
UA(尿酸)	6	D007 01	11
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン	40	D008 24	150
UIBC(不飽和鉄結合能)	16	D007 01	11
UN(尿素窒素)	6	D007 01	11
V	ページ	診療報酬区分	実施料
View アレルギー 39(特異的IgE)	89	D015 13	1430
VMA→(バニリルマンデル酸)	36	D008 04	90
v WF→フォン・ウィルブランド因子抗原定量	29	D006 21	147
VZV DNA→水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	51		

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

VZV DNA→水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	51	D023 17	450
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス	51	D012 11 ナ	79
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス(IgM)(IgG)	51	D012 46 チ	200
VZV抗原→水痘・帯状疱疹ウイルス抗原〔FA〕	51	D012 54	227

W	ページ	診療報酬区分	実施料
Whole PTH(副甲状腺ホルモン)	33	D008 29	161

Z	ページ	診療報酬区分	実施料
Zn(亜鉛)	16	D007 36	132
ZTT(クンケル反応)	1		

ギリシャ文字

α	ページ	診療報酬区分	実施料
α_1AG→α_1アシドグリコプロテイン	82		
α_1AT→α_1アンチトリプシン	82	D006 10	80
α_1-M→α_1-マイクログロブリン	82	D015 14	129
α_1アシドグリコプロテイン	82		
α_1アンチトリプシン	82	D006 10	80
α_1-マイクログロブリン	82	D015 14	129
α_2プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	28	D006 17	128
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	28	D006 22	150
α_2-マクログロブリン	82	D006 18	138
α-hANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	40	D008 46	221
α-フェトプロテイン定量	41	D009 02・B001 03 ロ	98・腫2

β	ページ	診療報酬区分	実施料
β_2GP Ⅰ抗体→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	78	D014 28	223
(抗)β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	78	D014 29	226
(抗)β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	78	D014 29	226
β_2-マイクログロブリン	83	D015 10	98
β-D-グルカン	70	D012 44	190
β-カロチン	13		
β-トロンボグロブリン(β-TG)	30	D006 26	171
β-リポ蛋白	12		

γ	ページ	診療報酬区分	実施料
γ-GT(γ-GTP)	2	D007 01	11
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	43	D009 27・B001 03 ロ	187・腫2

δ	ページ	診療報酬区分	実施料
δ-アミノレブリン酸(δALA)	16	D001 12	106

数字

	ページ	診療報酬区分	実施料
1,25-$(OH)_2$ビタミンD	14	D007 62	388
1,5AG(1,5-アンヒドロ-D-グルシトール)	8	D007 21	80
Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP)	84	B001 03 ロ	腫2
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	84	D008 25・B001 03 ロ	153・腫2
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	84	D008 25	153
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	84	D008 28	160
(尿中)2,5-ヘキサンジオン	17		
Ⅱ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
Ⅳ型コラーゲン	85	D007 35	131
Ⅳ型コラーゲン・7S〔CLEIA〕	85	D007 41	148
(尿中)Ⅳ型コラーゲン	85	D001 16	179
5-HIAA	36	D008 05	95
5-HT→セロトニン	36		
5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)	43		
Ⅴ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
7AAD解析　悪性リンパ腫解析検査	94	D005 15	1882
Ⅶ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
Ⅷ因子(凝固抑制因子検査)	29	D006 20	144
8color→多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)	94	D005 15	1882
Ⅸ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)	29	D006 20	144
Ⅹ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
(血中)11-OHCS	34	D008 02	60
Ⅺ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
11-ヒドロキシコルチコステロイド→血中11-OHCS	34	D008 02	60
Ⅻ因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
12種吸入性アレルゲン(アトピー鑑別試験)	89	D015 20	194
XIII因子(凝固因子活性検査)	29	D006 32	223
17α-ヒドロキシプロゲステロン	34	D008 43	213
25OHビタミンD(骨粗鬆症)	14	D007 30	117
25ヒドロキシビタミンD(くる病・骨軟化症)	14	D007 30	117

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

取り引きのお申し込み

最寄りの営業所・営業拠点までご連絡いただければ営業員がお伺いいたします。
ご連絡の際は裏表紙の営業所・営業拠点一覧をご参照ください。

検査のご依頼方法

1．依頼書

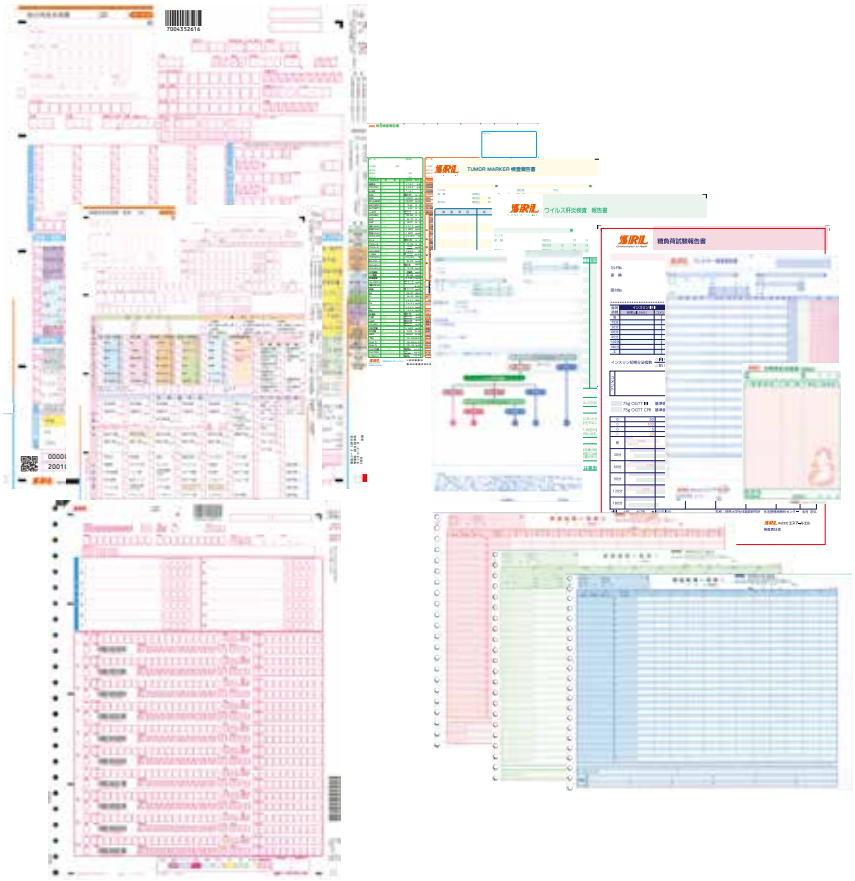
それぞれの依頼項目に適合した依頼書をご使用ください。なお、「お客様控」に診療報酬点数（実施料及び判断料区分）を掲載していますので、院内伝票としてご利用ください。

1．総合検査依頼書
2．細菌検査依頼書
3．一覧検査依頼書
4．病理・細胞診依頼書

2．報告書

それぞれの依頼検査に適合した報告書にてご報告いたします。

1．総合検査報告書
2．一般細菌検査報告書
3．抗酸菌検査報告書
4．病理検査報告書
5．細胞診検査報告書
6．一覧報告書（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）
7．シール報告書
8．フリー報告書
9．その他
　ウイルス肝炎検査報告書
　糖負荷試験報告書
　TUMOR MARKER検査報告書
　アレルギー検査報告書
　Two-Color Analysis報告書
　マタニティー報告書
　染色体検査報告書
　HLA検査報告書
　アミノ酸分析報告書
　免疫電気泳動検査報告書
　甲状腺機能検査報告書
　検査報告書



特定感染症患者の検体受託について

当社の受託体制および感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）等により、下記に該当する感染症の患者、疑似症患者、無症状病原体保有者の検体については、受託することが出来ません。あらかじめご了承ください。

【特定感染症】

・１類感染症
　エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

検査結果のお問合せについて

検査内容等のお問合せ、ご意見、ご指摘等につきましては、巻末に記載の最寄りの事業所までお問合せ下さい。
尚、業務時間は　平日は　9：00～19：00　土曜日は　9：00～18：00　となっております。

測定場所および測定委託先：備考欄に&印のない項目については、当社日本医学臨床検査研究所長野ラボにて測定実施しております。
&ヨ、&1、&%、&0の項目については、エスアールエル下記ラボラトリーにて測定実施しております。
&Eから&ミの項目については、エスアールエルから下記ラボラトリーへ再委託となります。
&p、&ウ、&の項目については、当社より下記会社へ委託外注しております。

記号	エスアールエル・グループ会社測定実施場所	検体搬送時間
&1	エスアールエルセントラルラボラトリー	6時間以内
&ヨ	エスアールエルMUQSラボラトリー	6時間以内
&%	日本医学臨床検査研究所　前橋ラボラトリー	6時間以内
&0	日本医学臨床検査研究所	30時間以内
記号	測定委託先	検体搬送時間
&E	北里大塚バイオアッセイ研究所	30時間以内
&K	Quest Diagostics incorporated (QD)	2～3日以内
&M	LSIメディエンス	30時間以内
&N	ビー・エム・エル	30時間以内
&Q	Athena diagnostics	2～3日以内

記号	測定委託先	検体搬送時間
&Y	Nightingale health Japan株式会社	30時間以内
&イ	かずさDNA研究所	30時間以内
&ツ	ミルスインターナショナル	30時間以内
&ニ	長崎大学	30時間以内
&ハ	シノテスト サイエンス・ラボ	30時間以内
&ミ	江東微生物研究所	30時間以内
&p	株式会社東京セントラルパソロジーラボラトリー	6時間以内
&ウ	一般財団法人京都工場保健会衛生検査所	30時間以内
&	松本市医師会検査センター	2時間以内

検体搬送時間：当社から委託外注先までの 検体搬送時間

検体のご提出と搬送方法

検体は原則として、院内検査室でまとめて集荷担当者へご提出ください。なお、検体の集配につきましては、一部の地域を除き、株式会社メディスケットへ委託しております。当社は、当該委託先との契約等において、機密保持、個人情報の漏えい防止や適正な取扱いに必要な事項を取り決めるとともに、適切な管理を実施します。また当該委託先では、お預かりした検体の搬送精度向上のために、断熱材入りの専用検体搬送ボックスに専用の蓄冷剤と蓄温剤を用いて搬送しております。
検体受領場所［　　］
検体平均搬送時間　［約　　時間］

ご依頼検体の保管期間

お預かりいたしました検体は、依頼日より2週間保管し、再検査や追加検査のご要望にお応えしております。ただし、末梢血液検査等一部の検査につきましては１週間保管とさせていただきます。なお、保管期間を過ぎた検体につきましては、当社で処分させていただきます。また、当社から測定委託する項目につきましては、測定委託先の基準に基づいて保管させていただきます。
取り扱いの定まっていない新種の感染症の検体については、保管せずに廃棄処分する場合があります。

保管期間を経過した検査済み検体の精度管理目的等への利用について

保管期間を経過した検査済検体は個人情報が特定されない状態に検体情報を加工した後、精度管理の目的等に使用することがあります。次世代シークエンサーでの測定を含む検査においては、得られた塩基配列情報が個人識別符号となる場合があります。個人識別符号と紐づいた状態で保管されている検査済検体、及びその塩基配列情報そのものは、精度管理の目的等で使用する場合に、個人識別符号と検査済検体を復元不可能な状態に切り離したり、塩基配列データの個人識別性を不可逆的に取り除いたりすることができません。そこで、このような場合に限り、塩基配列による個人識別性を除かないまま精度管理に利用します。ただし、塩基配列情報と検査済検体の取り扱いを、個人情報保護教育プログラムを修了した検査員に限ることで、個人情報の保護に努めます。

統計情報について

検査のご依頼にあたり、以下の点をご了承ください。

・当社は、お客様より受託した検体検査の情報をもとに、統計情報を作成することがあります。統計情報は、複数の方に関する情報から共通要素に係る項目を抽出して同じ分類ごとに集約して得られる情報であって、被検者やお客様を特定することはできません。例えば、各検査項目における一定の地域・期間ごと、年齢・性別など被検者の属性ごとの、検査受託件数や陽性率がこれに含まれます。
・作成された統計情報は、当社において検査精度の検証に用いること、公衆衛生疫学等の分野において参照されること、当社のホームページ等でご報告することがあるほか、当社または第三者の製品・サービスの開発・提供等のために利活用されることがあります。

RIA測定項目のご依頼にあたっての注意事項

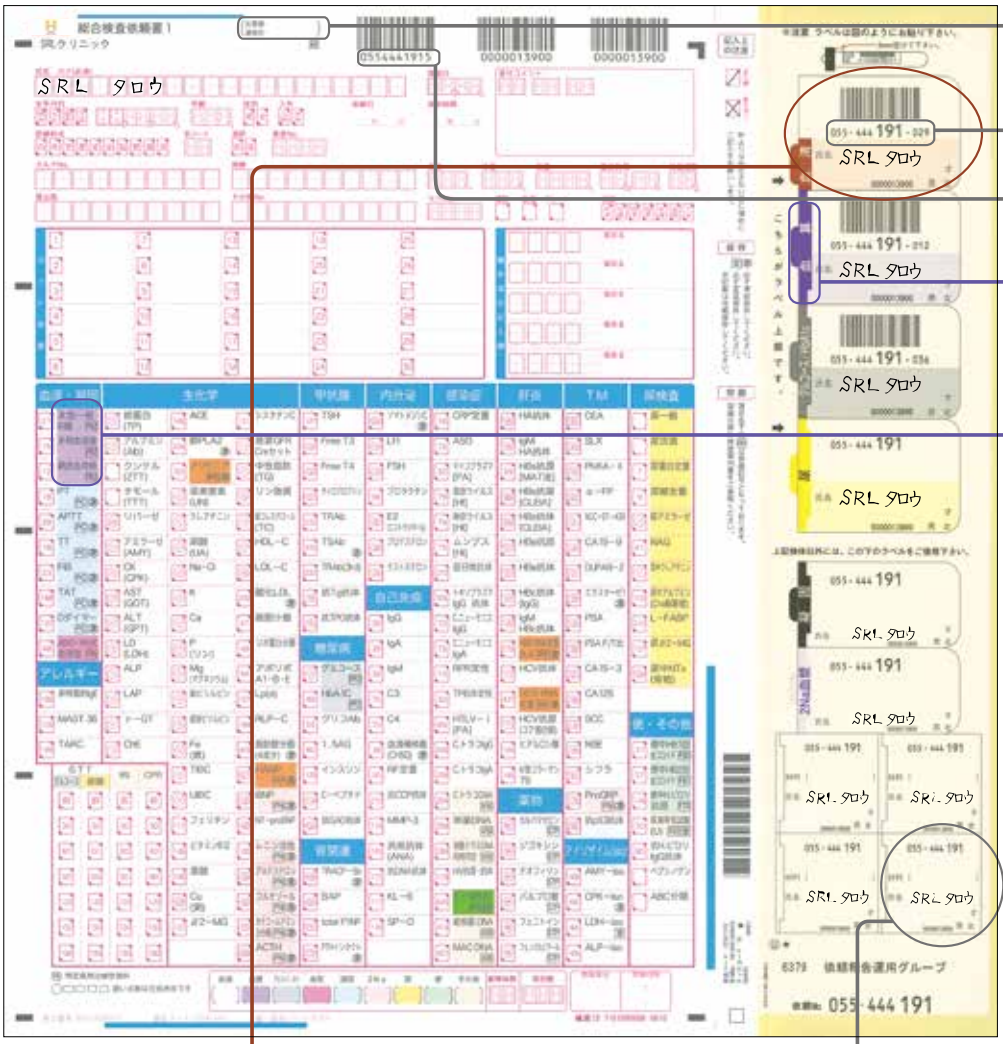
シンチグラフィー等で *in vivo*に投与したアイソトープが残存するとRIAでの異常値発生の原因となることがありますので、あらかじめご了承ください。

免責について

ご依頼いただきました検査は当社検査実施基準に基づき行われますが、お預かりした検体の状態、または検査方法の技術的限界等により検査結果を臨床診断に資することが困難な場合があります。この場合、当社はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

BCP対策

災害等想定する危機への対応手順として、初動対応、役員及び従業員の安否確認、要員や装備の確保、災害本部設置から解散、業務復旧後の事後処置等の全容を定めた事業継続策を構築しております。

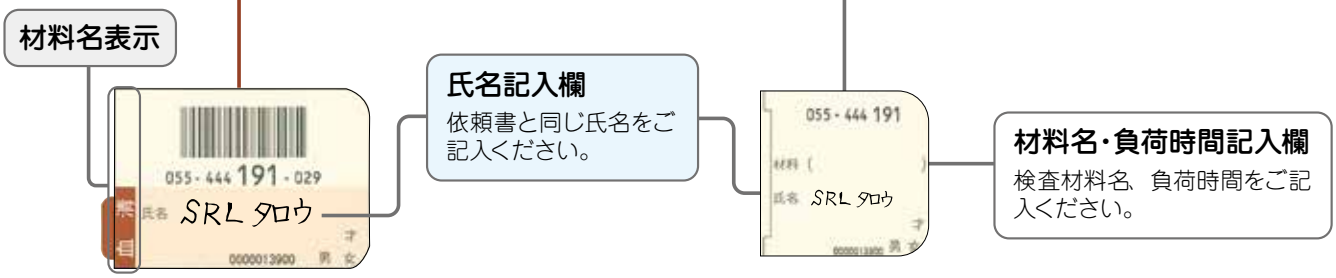


お客様連絡先
お客様連絡先へ委託元の緊急連絡先をご記入ください。

依頼 No.（先頭の 9 桁）

材料名表示ラベル
検査項目欄とラベルの色は、採血管のキャップ色と同系色にしました。

フリーラベル
その他材料ラベル
負荷検体ラベル



依頼書の記入要領

ご依頼は検査項目により当社指定の依頼書にてお願いいたします。

① 患者様氏名については、必ずカタカナでご記入ください。
② 男女・入院・外来・科名・透析前後については、⧄印でご記入ください。
③ 病棟・提出医は、カタカナでご記入ください。
④ ご依頼項目は、チェック欄に⧄印をご記入ください。
⑤ 記載されていない項目をご依頼の場合は、欄外項目記入欄に項目コードと項目名をご記入ください。
⑥ 蓄尿量・身長・体重等を必要に応じてご記入ください。
⑦ 採取月日・採取時刻等もご記入ください。
⑧ 科コードはご指定の数字をご記入ください。尚、事前登録が必要の為、当社営業員にご連絡をお願いいたします。
⑨ お客様連絡先へ委託元の緊急連絡先をご記入ください。
※尚、「お客様控」に実施料（診療報酬点数）を掲載してございますので、院内伝票としてご利用ください。

検体容器及び検体ラベルについて

・検体容器については①～㊻ページの容器の取り扱い方法をご参照ください。
・検体ラベルには氏名、性別、年齢、材料名等をご記入し、提出容器に貼ってください。

検体ラベルの使用について

●総合検査依頼書には、依頼No.に対応した検体ラベル（バーコード付き）が添付されています。

（1）材料名表示ありの材料名表示ラベル（血清、血算、血糖、尿、凝固、2Na血漿の6種類）

（2）材料名表示なしのフリーラベル（4枚）

◆検体ラベルには、依頼書と同じ依頼No.（9桁）とバーコードが印刷されておりますので、必ず依頼書に添付されたラベルを検体に貼付してください。

◆血清、血算、血糖、尿、凝固、2Na血漿は検査材料名を印刷した材料名表示ラベルをご使用ください。

◆材料名表示ラベルが無い材料や負荷試験の検体は、フリーラベルをご使用ください。
ただし、血清、血糖、尿の負荷前の検体には、材料名表示ラベルをご使用ください。

注；総合依頼書に印刷してある番号は10桁ですが、依頼No.は先頭の9桁で下1桁はチェックデジットになっております。
注；材料名表示ラベルに印刷してある番号は12桁ですが、依頼No.は先頭の9桁で下3桁は材料No.とチェックデジットになっております。

検体ラベルの貼付について

（1）総合依頼書に氏名をご記入ください。

（2）検体ラベルの氏名欄に依頼書と同じ氏名や材料名、負荷時間等をご記入ください。

（3）下図のとおり、検体にラベルをタテに貼りつけてください。
※材料名表示ラベルが破損した場合には、フリーラベルをご使用ください。

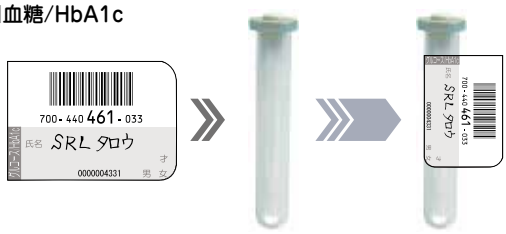
●検体ラベル貼付例

■血清

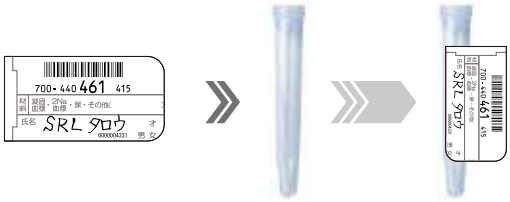
≪ラベルの貼り方≫
シール栓タグを巻き込まないように、容器上部より5～10mm程度空け、タテ方向に貼ってください。

■血算

■血糖/HbA1c

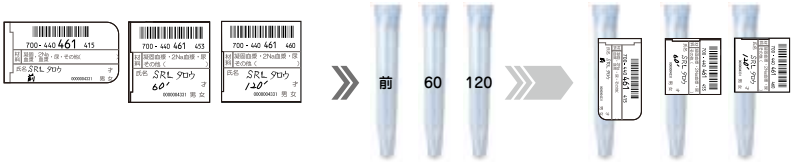


■尿など



■血糖負荷「前、60分、120分」の例

■尿糖負荷「前、60分、120分」の例



≪ラベル貼付時のご注意≫
（1）依頼書の依頼No.とラベルの依頼No.を照合してください。
（2）依頼書の氏名とラベルの氏名を照合してください。
（3）検体の材料種別とラベルの材料表示名を照合してください。

倫理指針対象項目のご依頼にあたり

当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(社団法人日本衛生検査所協会)等に基づき、被験者やその家族及び血縁者の人権が保障され、社会の理解の下、適正に遺伝学的検査を実施することを目的に「SRL遺伝子倫理ガイドライン」を策定しております。
遺伝学的検査の受託に際しては、「SRL遺伝子倫理ガイドライン」、日本衛生検査所協会・関連学会等の指針に準拠した受託を行っております。

SRL遺伝子倫理ガイドラインについては、SRLホームページをご参照ください。

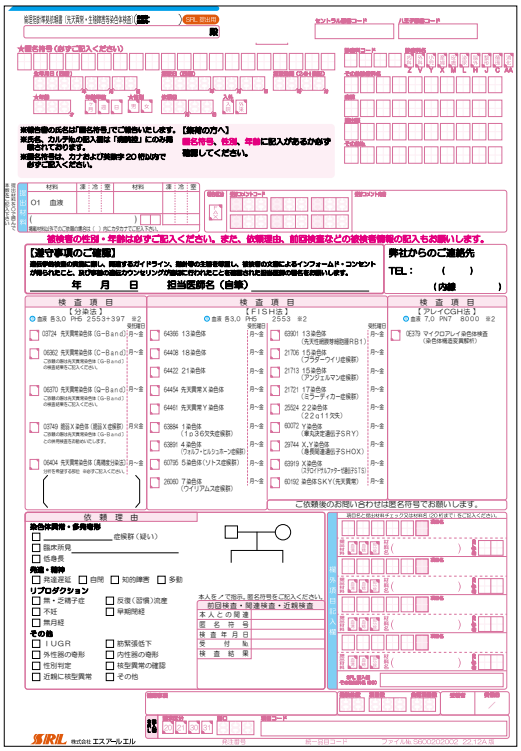
【準拠指針等】
① 「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2022年3月改定)日本医学会
② 「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(令和4年9月1日改定)日本衛生検査所協会,遺伝子関連検査受託倫理審査委員会
③ 「遺伝学的検査の実施に関する指針」(平成28年4月1日)日本衛生検査所協会,日本小児科学会,日本神経学会,日本人類遺伝学会
④ 「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」(令和6年3月一部改正)個人情報保護委員会,厚生労働省

診断目的で検査をご依頼の場合

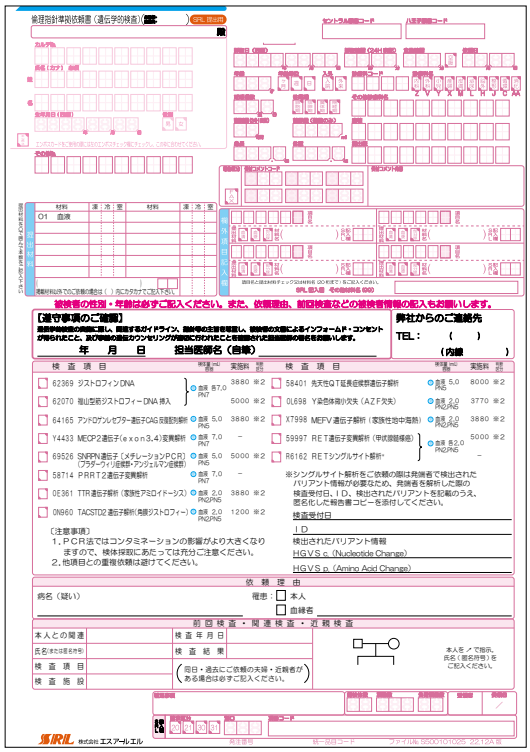
・検査実施にあたりましては、「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(日本医学会)等のガイドラインを遵守くださいますようお願いいたします。
・対象の項目をご依頼いただく際は、遺伝学的検査受託専用の「倫理指針準拠依頼書」をご利用くださいますようお願いいたします。
・「倫理指針準拠依頼書」は「匿名化用依頼書」と「実名用依頼書」を用意しております。個人情報の保護と医療安全の確保(匿名化符号を患者名に戻す際の変換ミス等のリスクへの対応)の両面から検討し、選択してください。
・「匿名化用依頼書」では、被検者氏名の代わりに匿名化符号をご記入いただきますと、当社では匿名化符号をもちまして検査を実施いたします。(氏名およびカルテNo.欄を設けておりますが、当社控えの伝票には複写されないように処理をしております。)

【倫理指針準拠依頼書】

※匿名化用依頼書の例



※実名用依頼書の例



遺伝学的検査をご依頼の際には、日本医学会の「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2022年3月改定)を参照いただき、医療機関において各種安全管理措置(組織的、人的、物理的、技術的安全管理措置)が講じられ、個人情報の保護を適切に行うようお願いいたします。
「倫理指針準拠依頼書」では、検査の目的や限界などが説明され、被検者の自由意思による同意(インフォームド・コンセント)が得られていること、および被検者に対して事前の遺伝カウンセリングが適切に行われたことを、ご担当医の署名により確認させていただきます。

ファーマコゲノミクス(PGx)検査項目をご依頼の場合

当社では、薬物の効果や副作用の予測補助として臨床の現場で行われる遺伝学的検査につきましては、これを「ファーマコゲノミクス検査(PGx)」として、単一遺伝子疾患の診断に利用される遺伝学的検査とは区別した受託を行っております。関連ガイドラインから抜粋致しました下記の留意点をご一読いただき、検査実施にあたりましては、ガイドラインの原本をご参照くださいますようお願いいたします。

「診療における薬理遺伝学検査の運用に関する提言」日本臨床薬理学会(2022年5月9日)
※医療を必要とする遺伝性疾患の確定診断や発症リスク予測に関連しない項目の薬理遺伝学検査(表1)等の原本をご参照ください。
●個人情報の保護
医療を必要とする遺伝性疾患の確定診断や発症リスク予測に関連するしないに関わらず、薬理遺伝学検査のオーダー(院内オーダリングシステムを含む)及び結果は診療情報であり、他の診療情報と同様に、医療者間で共有して診療に使用できるように診療録(カルテ)に記載し、要配慮個人情報として適切に管理する。

HLA DNAタイピング・キメリズム解析をご依頼の場合

1. 移植におけるHLA DNAタイピング・キメリズム解析について
移植における組織適合性検査である、HLA DNAタイピング、キメリズム解析は、遺伝学的検査(生殖細胞系列遺伝子検査)にあたりますが、疾患の診断を目的としないので、遺伝学的検査受託に関する倫理指針(日本衛生検査所協会)の適用外になります。
2.移植以外の目的に用いるHLA DNAタイピングについて
①薬理遺伝学的検査に該当するHLA DNAタイピングを実施する場合には、ファーマコゲノミクスに関する指針・ガイドライン及び上記「ファーマコゲノミクス(PGx)検査項目をご依頼の場合」を参照くださいますようお願いいたします。
②生活習慣病等の疾患感受性(易罹患性)診断にHLA DNAタイピングを用いる場合には、医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン(日本医学会)を参照くださいますようお願いいたします。

ヒトゲノム・遺伝子解析の研究としてご依頼の場合

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和4年一部改正 文部科学省・厚生労働省・経済産業省)に則った研究につきましては、別途契約締結のうえ検査をご依頼くださいますようお願いいたします。ご契約につきましては、最寄りの営業所・営業拠点にお問い合わせください。

包括項目

■悪性腫瘍組織検査　処理が容易なもの(◎)

肺癌におけるEGFR遺伝子検査
肺癌におけるROS1 融合遺伝子検査
肺癌におけるALK融合遺伝子検査
肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)
肺癌におけるMETex14 遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)
肺癌におけるKRAS遺伝子変異(G12C)検査
大腸癌におけるRAS遺伝子検査
大腸癌におけるBRAF遺伝子検査
乳癌におけるHER2 遺伝子検査
固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査
濾胞性リンパ腫におけるEZH2 遺伝子検査
尿路上皮癌におけるFGFR3 遺伝子検査
固形癌(肺癌を除く。)におけるALK融合遺伝子検査
肺癌におけるKRAS遺伝子検査
膵癌におけるKRAS遺伝子検査
悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli1 遺伝子検査
悪性骨軟部組織腫瘍におけるTLS-CHOP遺伝子検査
悪性骨軟部組織腫瘍におけるSYT-SSX遺伝子検査
消化管間葉系腫瘍におけるc-kit遺伝子検査
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査
大腸癌におけるEGFR遺伝子検査
大腸癌におけるKRAS遺伝子検査
リンチ症候群におけるマイクロサテライト不安定性検査
(使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を使用した場合を除く。)

◎ 2項目　4000点　3項目　6000点　4項目以上　8000点

個別の遺伝子検査ごとではなく、臨床的な位置づけや検査技術に応じて類型化した評価体系となっています。
同一がん種に対して同時に複数の遺伝子検査を実施する場合には、検査の項目数に応じた評価となります。
患者から１回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して、処理が容易なものと処理が複雑なものを実施した場合は、それぞれの検査の項目数に応じた点数を合算した点数により算定できます。

■悪性腫瘍組織検査　処理が複雑なもの(●)

肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシング)
肺癌におけるMETex14 遺伝子検査(次世代シーケンシング)
肺癌におけるRET融合遺伝子検査
肺癌におけるHER2 遺伝子検査(次世代シーケンシング)
悪性黒色腫におけるBRAF遺伝子検査(リアルタイムPCR法、PCR-rSSO法)
固形癌におけるNTRK融合遺伝子検査
固形癌における腫瘍遺伝子変異量検査
固形癌におけるRET融合遺伝子検査
胆道癌におけるFGFR2 融合遺伝子検査
胆道癌におけるIDH1 融合遺伝子検査
甲状腺癌におけるRET融合遺伝子検査
甲状腺癌におけるBRAF遺伝子検査
甲状腺髄様癌におけるRET遺伝子変異検査
固形腫瘍(肺癌及び大腸癌を除く。)におけるBRAF遺伝子検査(PCR-rSSO法)
悪性リンパ腫におけるBRAF遺伝子検査(PCR-rSSO法)
乳癌におけるAKT1 遺伝子変異検査
乳癌におけるPIK3CA遺伝子変異検査
乳癌におけるPTEN遺伝子変異検査
卵巣明細胞癌におけるPIK3CA遺伝子検査(リアルタイムPCR法)

● 2項目　8000点　3項目以上　12000点

個別の遺伝子検査ごとではなく、臨床的な位置づけや検査技術に応じて類型化した評価体系となっています。
同一がん種に対して同時に複数の遺伝子検査を実施する場合には、検査の項目数に応じた評価となります。
患者から１回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して、処理が容易なものと処理が複雑なものを実施した場合は、それぞれの検査の項目数に応じた点数を合算した点数により算定できます。

■出血・凝固検査(□)

Dダイマー定性
von Willebrand因子(VWF)活性
Dダイマー
プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)
Dダイマー半定量
α_2-マクログロブリン
PIVKA-Ⅱ
凝固因子インヒビター
von Willebrand因子(VWF)抗原
プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)
プロテインS抗原
プロテインS活性
トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)
β-トロンボグロブリン(β-TG)
血小板第４因子(PF_4)
プロトロンビンフラグメントF1+2
トロンボモジュリン
フィブリンモノマー複合体
プロテインC抗原
凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子)
プロテインC活性
tPA・PAI-1複合体

□3項目又は4項目　530点　5項目以上　722点

■血液化学検査(☆)

総ビリルビン
直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン
総蛋白
アルブミン(BCP改良法)
尿素窒素
クレアチニン
尿酸
アルカリホスファターゼ(ALP)
コリンエステラーゼ(ChE)
γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)
中性脂肪
ナトリウム及びクロール
カリウム
カルシウム
マグネシウム
クレアチン
グルコース
乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)
アミラーゼ
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)
クレアチンキナーゼ(CK)
アルドラーゼ
遊離コレステロール
鉄(Fe)
血中ケトン体・糖・クロール検査
(試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの)
不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)
総鉄結合能(TIBC)(比色法)
リン脂質
HDL-コレステロール
無機リン及びリン酸
総コレステロール
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
LDL-コレステロール
蛋白分画
銅(Cu)
リパーゼ
イオン化カルシウム
マンガン(Mn)

☆5項目以上7項目以下　93点　8項目又は9項目　99点　10項目以上　103 点

■内分泌学的検査（△）

卵胞刺激ホルモン(FSH)
C-ペプチド(CPR)
黄体形成ホルモン(LH)
テストステロン
遊離サイロキシン(FT_4)
遊離トリヨードサイロニン(FT_3)
コルチゾール
アルドステロン
カルシトニン
サイログロブリン
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)
サイロキシン結合グロブリン(TBG)
脳性Na利尿ペプチド(BNP)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)
サイロキシン結合能(TBC)
プロゲステロン
グルカゴン
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)
オステオカルシン(OC)
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)
遊離テストステロン
骨型アルカリホスファターゼ(BAP)
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)
副甲状腺ホルモン(PTH)
カテコールアミン分画
サイクリックAMP(cAMP)
インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)
デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)
低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
エストラジオール(E_2)
Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿)
Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)
エストリオール(E_3)
エストロゲン半定量
エストロゲン定量
副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)
カテコールアミン
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)
デオキシピリジノリン(DPD)(尿)
17-ケトジェニックステロイド(17-KGS)
エリスロポエチン
ソマトメジンC
17-ケトステロイド分画(17-KS分画)
17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)
抗IA-2抗体
プレグナンジオール
メタネフリン
17-ケトジェニックステロイド分画(17-KGS分画)
メタネフリン・ノルメタネフリン分画
心房性Na利尿ペプチド(ANP)
抗利尿ホルモン(ADH)
プレグナントリオール
ノルメタネフリン
インスリン様成長因子結合蛋白３型(IGFBP-3)
ガストリン

△3項目以上5項目以下　410点　6項目又は7項目　623点　8項目以上　900点

■腫瘍マーカー（◯）

α-フェトプロテイン(AFP)
癌胎児性抗原(CEA)
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)
組織ポリペプタイド抗原(TPA)
NCC-ST-439
CA15-3
DUPAN-2
エラスターゼ１
前立腺特異抗原(PSA)
CA19-9
PIVKA-Ⅱ半定量
PIVKA-Ⅱ定量
CA125
核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定量(尿)
核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定性(尿)
シアリルLe^x-i抗原(SLX)
神経特異エノラーゼ(NSE)
SPan-1
CA72-4
シアリルTn抗原(STN)
塩基性フェトプロテイン(BFP)
遊離型PSA比(PSAF/T比)
シアリルLex抗原(CSLEX)
サイトケラチン 19 フラグメント(シフラ)
BCA225
サイトケラチン 8・18(尿)
抗p53抗体
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ⅠCTP)
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)
CA54/61
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)
CA602
組織因子経路インヒビター２(TFPI2)
ヒト精巣上体蛋白４(HE4)
可溶性メソテリン関連ペプチド
S2,3PSA%
プロステートヘルスインデックス(phi)
癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)
癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)
HER2蛋白
アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)

◯2項目　230点　3項目　290点　4項目以上　385点

■肝炎ウイルス関連検査（◇）

HBs抗原
HBs抗体
HBe抗原
Hbe抗体
HCV抗体定性・定量
HCVコア蛋白
HCV抗体・HCVコア蛋白同時検出定性
HBc抗体半定量・定量
HCVコア抗体
HA-IgM抗体
HA抗体
HBc-IgM抗体
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
HE-IgA抗体定性
HCV血清群別判定
HBVコア関連抗原(HBcrAg)
デルタ肝炎ウイルス抗体
HCV特異抗体価
HBVジェノタイプ判定

◇3項目　290点　4項目　360点　5項目以上　425点

■自己抗体検査（★）

抗サイログロブリン抗体
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
抗Jo-1抗体定性
抗Jo-1抗体半定量
抗Jo-1抗体定量
抗RNP抗体定性
抗RNP抗体半定量
抗RNP抗体定量
抗Sm抗体定性
抗Sm抗体半定量
抗Sm抗体定量
C1q結合免疫複合体
抗SS-B/La抗体定性
抗SS-B/La抗体半定量
抗SS-B/La抗体定量
抗Scl-70抗体定性
抗Scl-70抗体半定量
抗Scl-70抗体定量
抗SS-A/Ro抗体定性
抗SS-A/Ro抗体半定量
抗SS-A/Ro抗体定量
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
抗ARS抗体
抗TIF1-γ抗体
抗Mi-2抗体
抗MDA5抗体

★2項目　320点　3項目以上　490点

包括項目は 2026 年６月時点の情報です。

総合検査案内掲載内容

1.検 体 量：検体量は再検査分を考慮して設定しております。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採血してください。（検体採血方法は①ページをご参照ください。）

2.保　　存：指定の保存方法にてご提出ください。
凍結　必ず凍結(-10℃以下)保存してご提出ください。
冷蔵　冷蔵(2℃～ 15℃)で保存してご提出ください。
室温　必ず室温(16℃～ 30℃)で保存してご提出ください。

3.基 準 値：「正常参考値および判定基準」は当社では「基準値」で表示しております。
「基準値」には基準範囲、臨床判断値等を含みます。

4.所要日数：原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお客様のお手元へお届けするまでの日数(通常の土曜・日曜日を含みます)です。
なお、次の場合は表示日数よりご報告が遅れることがありますので、あらかじめご了承ください。
・再検査の場合や祝日の前後の場合
・記載されている材料以外でのご依頼の場合
・凍結マーク項目と同時のご依頼の場合
・やむを得ず、重複不可マーク項目と同時のご依頼があった場合

5.実施料・判断料：検体検査料は検体検査実施料と、検体検査判断料に区分されています。

検 体 検 査 判 断 料

	判断料	判断料区分			判断料	判断料区分
1. 尿･糞便等検査判断料	34点	※1		5. 生化学的検査(Ⅱ)判断料	144点	※5
2. 遺伝子関連･染色体検査判断料	100点	※2		6. 免疫学的検査判断料	144点	※6
3. 血液学的検査判断料	125点	※3		7. 微生物学的検査判断料	150点	※7
4. 生化学的検査(Ⅰ)判断料	144点	※4				

病 理 判 断 料

	判断料	判断料区分
病理判断料	130点	※8

6.採取条件：検体を適正に採取するために、検体採取時に留意していただきたい事項です。（備考または容器の取り扱い方法をご参照ください。）

7.提出条件：血清分離の要否など、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。（備考または容器の取り扱い方法をご参照ください。）
速やかに遠心　採血後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
冷却遠心　低温(4℃)にて遠心分離してください。

8.緊急報告検査値範囲 緊急：緊急報告検査値範囲(⑫ページ参照)が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、当社より緊急連絡させていただきます。

9.予約検査 予約検査：予約検査となりますので、検体採取前に必ず最寄りの営業所・営業拠点へご連絡ください。

10.曜日指定 曜日指定：指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。

11.参考文献：検査方法についての基本的な参考文献です。（オ～チ ページ参照）

マーク一覧

受付・報告関連	予約検査	予約検査	予約検査となりますので、検体採取前に必ず最寄りの営業所・営業拠点へご連絡ください。
	曜日指定	曜日指定	指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。
	緊　急	緊急	緊急報告検査値範囲(12ページ参照)が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、当社より緊急連絡させていただきます。
	ヒト倫理	倫理指針対象	ヒト遺伝子倫理指針対象項目となりますので、ご依頼につきましては、5ページをご参照ください。
	PGx	PGx対象	ファーマコゲノミクス(PGx)対象項目となりますので、ご依頼につきましては、6ページをご参照ください。
	海　外	海外委託	最終委託先が米国のため海外搬送となります。検体の返却等はできませんので、あらかじめご了承ください。
	重複不可	重	他項目との重複依頼は避けてください。やむをえず他項目と重複依頼された場合は、所要日数が変動する場合がございますので、予めご了承ください。
検体取り扱い	速やかに遠心	速やかに遠心	採血(採尿)後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
	冷却遠心	冷却遠心	低温(4℃)にて遠心分離してください。
	凍　結	凍結	必ず凍結(-10℃以下)保存してご提出ください。
	冷　蔵	冷蔵	冷蔵(2℃～15℃)で保存してご提出ください。 なお、長期間にわたって保存される場合は、凍結してくださいますようお願いいたします。ただし凍マークのついている項目は、長期間であっても凍結しないでください。
	室　温	室温	必ず室温(16℃～30℃)で保存してご提出ください。
	遮　光	遮光	直射日光または蛍光灯等を避け、遮光した容器にてご提出ください。
検査値への影響	溶血不可	溶	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	不活化不可	不	不活化(非働化)検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	酸性蓄尿不可	酸	酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	凍結不可	凍	凍結(-10℃以下)保存は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

主な単位記号

L	liter	M	mol/L
dL	deciliter(=0.1L)	mmol	millimole(=0.001mol)
mL	milliliter(=0.001L)	μmol	micromole(=10^{-6}mol)
μL	microliter(=10^{-6}L)	nmol	nanomole(=10^{-9}mol)
fL	femtoliter(=10^{-15}L)	pmol	picomole(=10^{-12}mol)
kg	kirogram	fmol	femtomole(=10^{-15}mol)
g	gram	mm	millimeter
mg	milligram(=0.001g)	mm^2	squaremillimeter(平方ミリメーター)
μg	microgram(=10^{-6}g)	mm^3	cubicmillimeter(立方ミリメーター)
ng	nanogram(=10^{-9}g)	μ^3	cubicmicron(立方マイクロ)
pg	picogram(=10^{-12}g)	Meq	megaequivalents
U	unit	mEq	milliequivalent
mU	milliunit(0.001U)	mOsm	milliosmole
μU	microunit(10^{-6}U)	%	percent
IU	international unit	‰	permill
mIU	milliinternational unit(=0.001 IU)	cpm	counts per minutes
AU	arbitrary unit	U_A	unit allergen

検査項目欄の見かた

最終測定実施場所です。詳細につきましては2ページをご参照ください。

検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお届けするまでの日数です。再検査の場合や祝日の前後はさらに日数を要することがあります。

検査方法名です。検査方法の概略につきましてはア～エ ページをご参照ください。

項目コード
依頼書欄外項目ご依頼時はそれぞれ記載されている全ての英数字をご記入ください。

検査項目名

検査ご依頼にあたっての注意事項です。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
蛋白・膠質反	P001 4 000010102	緊急 総蛋白(TP) 3A010-0000-023-271 1C010-0000-041-271 1A015-0000-004-271	血清 0.5	S09↓A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶11※4	Biuret法	6.7～8.3 (g/dL)	
	1068 5 000850129		髄液 0.5	A00	冷蔵	1～2	❶11※4	ピロガロールレッド法	15～45 (mg/dL)	
	L493 3 000850123		蓄尿 0.5	U00	冷蔵	2～4	7※1		31.2～120.0 (mg/day)	&1
	P002 3 000020102	アルブミン(Alb) 3A015-0000-023-271	血清 0.5	S09↓A00	冷蔵(21日)	1～2	❶11※4	BCP改良法	3.8～5.2 (g/dL)	ヒトアルブミンと特異性の高いBCPと反応させる方法です。
	4602 8 8L1130000	尿中アルブミン 3A015-0000-004-061	蓄尿 0.5	U00	冷蔵(1ヵ月)	2～4	❷99※1	免疫比濁法	2～20 (mg/day)	酸 &1
	4603 7 8L1140000	尿中アルブミン(クレアチニン換算値) 3A015-0000-001-061	部分尿 1	U00	冷蔵(1ヵ月)	2～4	❷99※1	免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g·CRE)	酸 &1
	P020 3 000040102	A/G比 3A016-0000-023-919	血清 0.5	S09↓A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2		BCP改良法/Biuret法	1.1～2.1	
	A051 4 01213A302	蛋白分画 3A020-0000-023-237	血清 0.3	S09↓A00	冷蔵	2～4	❶18※4	キャピラリー電気泳動法	ALB 55.8～66.1 (%) α1-グロブリン 2.9～4.9 (%) α2-グロブリン 7.1～11.8 (%) β1-グロブリン 4.7～7.2 (%) β2-グロブリン 3.2～6.5 (%) γ-グロブリン 11.1～18.8 (%) A/G 1.3～1.9	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &1
関連	3324 8 017732702	C1q 5B040-0000-023-063	血清 0.4	S09↓A00	凍結	2～8		ネフェロメトリー	8.8～15.3 (mg/dL)	&1

❶「蛋白分画」、「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

JLAC10の結果識別コードを除く15桁のコード(依頼項目)を記載しています。
JLAC10コードは、日本臨床検査医学会が制定した臨床検査項目分類コードです。
(コードの新設などの理由で変更となることがあります。)

ご提出いただく検体の保存条件です。採血後の保存条件ではありませんのでご注意ください。(　)内の安定性とは当社検討データによる検体の保存可能時間の目安を記載しています。

下記参照

実施料、判断料区分です。※については9ページをご参照ください。
●については保険点数算定上の、同時算定不可、回数制限の算定条件を抜粋して欄外に掲載しています。

容器の取り扱いについては下記の例をご参照ください。また、取り扱い方法に条件がある項目もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法もご参照ください。

(例1)検体が血清の場合

検体量(mL)	容器
血清 0.5	S09↓A00

汎用容器(S09)に血液を採取し、遠心分離後、血清0.5mLを別容器(A00)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採取してください。

(例2)添加剤入り容器に採取し、遠心分離後、上清をご提出いただく場合

検体量(mL)	容器
血漿 0.5	PN2、PN5↓A00

当社専用容器(PN2、PN5)に血液を採取し、遠心分離後、血漿0.5mLを別容器(A00)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採取してください。

(例3)検体が添加剤入りの血液の場合

検体量(mL)	容器
血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7

当社専用容器(PN7)に血液5.0mLを採取し、よく混和させ、そのままご提出ください。
採取および提出とも同一容器(PN7)で、別容器への移し替えは不要です。

検査項目	基準値	単位	緊急報告検査値範囲
総蛋白（ＴＰ）	6.7 ～ 8.3	g/dL	5.0g/dL以下
総ビリルビン(T-Bil)	0.3 ～ 1.2	mg/dL	12.0mg/dL以上
新生児ビリルビン			20.0mg/dL以上
尿素窒素（ＵＮ）	8.0 ～ 22.0	mg/dL	80.0mg/dL以上(透析検体を除く)
クレアチニン（Ｃｒｅ）	M 0.61 ～ 1.04　F 0.47 ～ 0.79	mg/dL	5.00mg/dL以上(透析検体を除く)
ナトリウム(Na)	136 ～ 147	mEq/L	110mEq/L以下, 170mEq/L以上(透析検体を除く)
カリウム（ｋ）	3.6 ～ 5.0	mEq/L	2.5mEq/L以下, 6.5mEq/L以上(透析検体を除く)
クロール（ＣＩ）	98 ～ 109	mEq/L	80mEq/L以下, 120mEq/L以上(透析検体を除く)
血糖（ＧＬＵ）	70 ～ 109	mg/dL	50mg/dL以下, 500mg/dL以上
白血球数(ＷＢＣ)	M 3900 ～ 9800　F 3500 ～ 9100	/μL	1000/μL以下, 25000/μL以上
血色素量（Ｈｂ）	M 13.5 ～ 17.6　F 11.3 ～ 15.2	g/dL	5.0g/dL以下
ヘマトクリット（Ｈｔ）	M 39.8 ～ 51.8　F 33.4 ～ 44.9	%	15.0%以下
血小板数（ＰＬＴ）	M 13.1 ～ 36.2　F 13.0 ～ 36.9	$\times 10^4$/μL	3.0×10^4 ／μL以下, 100.0×10^4 ／μL以上
ＰＴ-ＩＮＲ			4.00以上
血液像（ＳＴ）			芽球・幼若細胞出現時
ジゴキシン	0.8 ～ 2.0	ng/mL	2.5ng/mL以上
テオフィリン	10.0 ～ 20.0	μg/mL	25μg/mL以上
フェノバルビタール	10 ～ 40	μg/mL	60μg/mL以上
フェニトイン	10.0 ～ 20.0	μg/mL	30μg/mL以上
カルバマゼピン	4 ～ 12	μg/mL	12μg/mL以上
バルプロ酸	50 ～ 100	μg/mL	150μg/mL以上

蛋白・膠質反応／酵素および関連物質

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
蛋白・膠質反応	P001 4 000010102	緊急 総蛋白(TP) 3A010-0000-023-271 1C010-0000-041-271 1A015-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※4	Biuret法	6.7～8.3 (g/dL)	
	1068 5 000850129		髄液 0.5	A00	冷蔵	1～2	❶ 11 ※4	ピロガロール レッド法	15～45 (mg/dL)	
	L493 3 000850123		蓄尿 0.5	U00	冷蔵	2～4	7 ※1		31.2～120.0 (mg/day)	&1
	P002 3 000020102	アルブミン(Alb) 3A015-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	1～2	❶ 11 ※4	BCP改良法	3.8～5.2 (g/dL)	ヒトアルブミンと特異性の高いBCPと反応させる方法です。
	4602 8 8L1130000	尿中アルブミン 3A015-0000-004-061	蓄尿 0.5	U00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❷ 99 ※1	免疫比濁法	2～20 (mg/day)	酸 &1
	4603 7 8L1140000	尿中アルブミン (クレアチニン換算値) 3A015-0000-001-061	部分尿 1	U00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❷ 99 ※1	免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g･CRE)	酸 &1
	P020 3 000040102	A/G比 3A016-0000-023-919	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2		BCP改良法 /Biuret法	1.1～2.1	
	A051 4 01213A302	蛋白分画 3A020-0000-023-237	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 18 ※4	キャピラリー 電気泳動法	ALB 55.8～66.1 (%) α1-グロブリン 2.9～4.9 (%) α2-グロブリン 7.1～11.8 (%) β1-グロブリン 4.7～7.2 (%) β2-グロブリン 3.2～6.5 (%) γ-グロブリン 11.1～18.8 (%) A/G 1.3～1.9	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &1
	P003 2 000061102	クンケル反応(ZTT) 3A030-0000-023-292	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (3日)	1～2		日本消化器病学会 肝機能研究班 標準法変法	4.0～12.0 (U)	
酵素および関連物質	P087 0 000070202	CK(CPK) 3B010-0000-023-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (10日)	1～2	11 ※4	JSCC 標準化対応法	M 62～287 F 45～163 (U/L)	
	3684 9 013740202	CK-MB (CPK-MB) 3B015-0000-023-272 3B015-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (6日)	2～4		免疫阻止-UV法	MB 25以下 TOTAL M 62 ～ 287 F 45 ～ 163 (U/L)	本項目は、TOTALのCK(CPK)の測定結果も併せてご報告いたします。 &1
	A672 5				冷蔵 (14日)		90 ※4	CLEIA	M 5.7 以下 F 3.1 以下 (ng/mL)	&1

❶「蛋白分画」、「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	0021 7 000080202	AST(GOT) 3B035-0000-023-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (14日)	1～2	17 ※4	JSCC 標準化対応法	10～40 (U/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
	P007 8 000090202	ALT(GPT) 3B045-0000-023-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (14日)	1～2	17 ※4	JSCC 標準化対応法	5～40 (U/L)	
	L774 1 00015A802	LD(LDH)IFCC 3B050-0000-023-279	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (3日)	1～2	11 ※4	IFCC 標準化対応法	124～222 (U/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
	3261 8 011233502	LD(LDH) アイソザイム 3B055-0000-023-233	血清 0.3	S09 ↓ A00	室温	2～4	48 ※4	アガロースゲル 電気泳動法	LDH1 21～31 LDH2 28～35 LDH3 21～26 LDH4 7～14 LDH5 5～13 (%)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 (溶血の場合LDH1、2、3の上昇が考えられます。) LDH5が多く含まれる検体では、IFCC法に基づく分画値と乖離する場合があります。 &1
	L773 2 00017A802	アルカリフォスファターゼ (ALP)IFCC 3B070-0000-023-275	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	IFCC 標準化対応法	38～113 (U/L)	
	3345 5 016410602	骨型アルカリ フォスファターゼ(BAP) 3B072-0000-023-052	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶❷ 157 ※5	CLEIA	男性 3.7～20.9 閉経前女性 2.9～14.5 閉経後女性 3.8～22.6 (μg/L)	&1
	A190 0 030140629	胎盤型アルカリ フォスファターゼ (PLAP) 3B076-0000-041-052	髄液 0.5	A00	冷蔵 (28日)	2～6		CLEIA	(pg/mL)	&1
	3267 2 011243502	ALPアイソザイム (IFCC) 3B080-0000-023-238	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	48 ※4	アガロースゲル 電気泳動法	ALP1 0.0～5.3 ALP2 36.6～69.2 ALP3 25.2～54.2 ALP5 0.0～18.1 (%)	血液型BまたはO型でLewis分泌型の人では、ALP総活性値およびALP5の出現率が高くなることがあります。 &1
	0020 8 000120102	γ-GT(γ-GTP) 3B090-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	JSCC 標準化対応法	M 70 以下 F 30 以下 (U/L)	基準値には飲酒群が含まれております。
	3686 7 012260202	アルドラーゼ 3B100-0000-023-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	11 ※4	UV-酵素法	2.1～6.1 (U/L)	溶 &1
	P021 2 000130202	コリンエステラーゼ (ChE) 3B110-0000-023-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	JSCC 標準化対応法	M 242～495 F 200～459 (U/L)	
	3702 8 014560102	アデノシンデアミナーゼ (ADA) 3B130-0000-023-272	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	32 ※4	酵素法	5.0～20.0 (U/L)	&1
	P022 1 000140102	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP) 3B135-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	酵素法 (L-ロイシル-D-ニトロアニリド基質)	35～73 (U/L)	

❶「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」、「ALPアイソザイム及び骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」及び「骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」、「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)」、「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)」及び「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

酵素および関連物質

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	P018 6 000150102	アミラーゼ(AMY) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶ 11 ※4	JSCC 標準化対応法	37～125 (U/L)	
	P082 5 000150121		部分尿 5	U00	冷蔵		❶ 11 ※4		65～700 (U/L)	
	3274 4 011252602	アミラーゼ アイソザイム 3B165-0000-023-233 3B165-0000-001-233	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 48 ※4	アガロースゲル 電気泳動法	TOTAL-S 36.0～84.3 TOTAL-P 15.7～64.0 (%)	
	4591 1 011252621		部分尿 0.5	U00	冷蔵		❶ 48 ※4		TOTAL-S 17.7～61.3 TOTAL-P 38.7～82.3 (%)	&1
	A346 7	P型アミラーゼ定量 3B175-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (14日)	2～4	❶ 48 ※4	JSCC 標準化対応法	16～52 (U/L)	&1
	3681 2 012230102	リパーゼ 3B180-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶ 24 ※4	合成基質 比色法	13～55 (U/L)	&1
	B049 6 000340702	トリプシン 3B185-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 189 ※4	ラテックス 凝集比濁法	210～570 (ng/mL)	&1
	3788 4 012392002	膵ホスホリパーゼA_2 (膵PLA_2) 3B192-0000-023-005 3B192-0000-022-005	冷却遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	204 ※4	RIA固相法	130～400 (ng/dL)	
	4067 3 012392003		冷却遠心 血漿 0.3	PN2、PN5 ↓ A00	凍結		204 ※4			&1
	3037 7 013011902	エラスターゼ1 3B195-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結	2～4	❶ 120 ※5 腫2	ラテックス 免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	&1
	8775 3 015140738	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ 3B200-0000-058-062	子宮頸管 粘液	VP6	凍結 (1ヵ月)	2～4	❷ 113 ※1	ラテックス 凝集免疫法	1.60以下 (μg/mL)	検体採取方法は50ページをご参照ください。 &1
	K128 9 019880802	骨型酒石酸抵抗性 酸性フォスファターゼ (TRACP-5b) 3B222-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結	2～4	❸ 156 ※5 腫2	EIA	男性: 170～590 女性:閉経前 120～420 閉経後 250～770 (mU/dL)	&1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(47ページ参照)

❶「トリプシノーゲン2(尿)」と、「アミラーゼ」、「リパーゼ」、「アミラーゼアイソザイム」、「トリプシン」又は「エラスターゼ1」を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。

❷「顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)」は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

❸「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
本検査と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

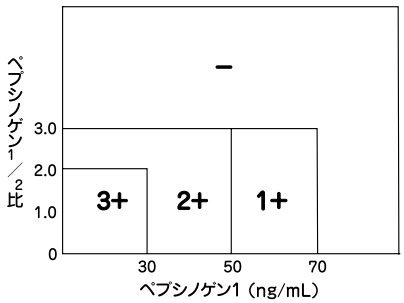
	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	3683 0 012241102	リゾチーム 3B255-0000-023-292 3B255-0000-001-292	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4		比濁法	5.0～10.2 (μg/mL)	&1
	4682 0 012241121		部分尿 0.4	U00	冷蔵				0.1未満 (μg/mL)	
	3698 4 010190102	アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE) 3B325-0000-023-271	血清 0.7	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	136 ※4	笠原法	8.3～21.4 (U/L)	EDTA血漿は測定不能となります。 &1
	4683 9 017820121	N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG) 3B330-0000-001-272	部分尿 0.5	U00	冷蔵	2～4	41 ※1	比色法	0.7～11.2 (IU/L)	&1
	6762 9 019140602	ペプシノゲン 3B339-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4		CLEIA	下記参照	&1
	4646 0 016850702	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3) 3B503-0000-023-062	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶❷ 116 ※6	LTIA	M 36.9～121 F 17.3～59.7 (ng/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1

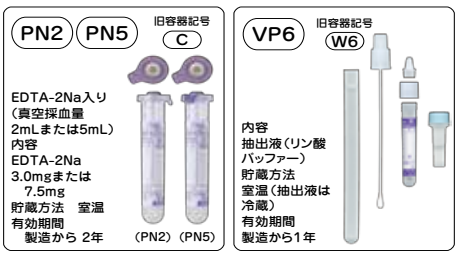
❶「リウマトイド因子(RF)定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

❷「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」、「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

[6762 9]ペプシノゲン(判定基準)

		ペプシノゲン1		ペプシノゲン1/2比
強陽性	3+	30 ng/mL以下	かつ	2.0以下
中程度陽性	2+	50 ng/mL以下	かつ	3.0以下
陽性	1+	70 ng/mL以下	かつ	3.0以下
陰性	−	上記条件以外		





酵素および関連物質

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	5506 4 T00005506	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕 3B347-0000-023-920	血清 各1.0	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4		ラテックス凝集比濁法 CLEIA	下記参照	＜ピロリ菌の除菌治療前＞ ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ抗体を実施し、それぞれの検査結果とABC分類をご報告いたします。 &1
	5507 3 T00005507	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)除菌あり〔LA〕 3B347-0000-023-920								＜ピロリ菌の除菌治療後＞ ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC分類の判定対象にはなりません。除菌判定結果に関わらず、E群(除菌群)としてご報告いたします。 &1

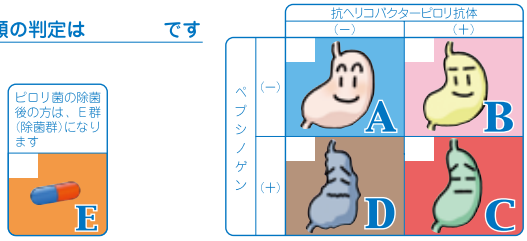
[5506 4、5507 3]胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕報告書

SRL Communication for Health　胃がんリスク層別化検査報告書　サービスコード

殿　　殿

カルテNo.　提出医　先生
材料　採取日　月　日　科名
受付日　年　月　日　病棟
受付No.　報告日　年　月　日　その他No.

ABC分類の判定は　　です



検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
ペプシノゲン1（PG1）		ng/mL		3+：PG1 30ng/mL以下 かつ 1/2比2.0以下
ペプシノゲン2（PG2）		ng/mL		2+：PG1 50ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下
ペプシノゲン1/2比				1+：PG1 70ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下
ペプシノゲン判定				－：上記以外

・検査方法：CLEIA

検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
抗ヘリコバクターピロリ抗体		U/mL		10未満（－）

・検査方法：ラテックス凝集比濁法（H.ピロリーラテックス「生研」）

ABC分類に適さない方
胃の病気の治療中の方、胃切除後の方、胃酸を抑える薬を服用中の方、腎不全の方、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、医療機関にご確認・ご相談ください。

コメント

検査責任者

SRL 株式会社エスアールエル
八王子ラボ　東京都八王子市小宮町51番地

94962-1912-01-H141

胃がんリスク層別化検査は、「ヘリコバクターピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃粘膜萎縮（老化）の有無を調べる検査」を組み合わせて、胃の健康度を分類するものです。
「がんを見つける検査」ではありません。

A群　おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査等の画像検査を受ける事が理想的です。

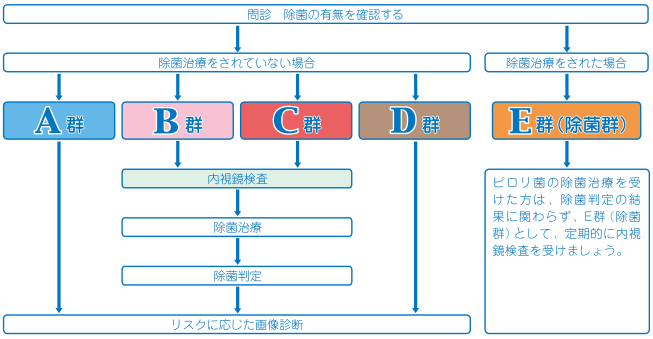
B群　少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群　萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群　萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡など診断を受けご相談ください。

ピロリ菌の除菌治療を受けた方はE群となります。

E群　ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらずE群（除菌群）として定期的に内視鏡検査を受けましょう。E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡による経過観察が必要です。



ペプシノゲン法（検査項目名称：ペプシノゲン）
「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮（老化）を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクターピロリ抗体（検査項目名称：抗ヘリコバクターピロリ抗体）
胃がヘリコバクターピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

監修　一般財団法人浮風会　浮風会健康管理センター　井上和彦

[5506 4]胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕の注意事項

以下の場合には、正しい結果が得られない可能性があります。
1. 明らかな上部消化器症状のある方
2. 上部消化管疾患治療中の方
3. プロトンポンプ阻害剤服用中の方
4. 胃切除をされた方
5. 腎不全の方
6. ピロリ菌の除菌治療を受けた方

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	3622 7 012200102	クレアチン 3C010-0000-023-271 3C010-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	11 ※4	酵素法	0.17～1.00 (mg/dL)	&1
	4662 2 012200123		蓄尿 5	U00	冷蔵		11 ※4		M 0.20以下 F 0.43以下 (g/day)	
	P012 2 000170102	緊急 クレアチニン 3C015-0000-023-271 3C015-0000-001-271 3C015-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※4	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 (mg/dL)	推算GFRcreat(項目コード No.P228 3)を同時に依頼いただきますと推算GFRcreat値をご報告いたします。 (下記参照)
	0124 3 000170121		部分尿 5	U00	冷蔵		❶ 11 ※4		(mg/dL)	
	L484 3 000170123		蓄尿 5	U00	冷蔵	2～4	❶ 11 ※4		M 0.70～2.20 F 0.40～1.50 (g/day)	&1
	0112 6 019641802	シスタチン C 3C016-0000-023-064	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 109 ※4	金コロイド凝集法	M 0.63～0.95 F 0.56～0.87 (mg/L)	推算GFRcys(項目コード No.K591 5)を同時に依頼いただきますと推算GFRcys値をご報告いたします。 (下記参照) &1
	P016 8 000190102	尿酸(UA) 3C020-0000-023-271 3C020-0000-001-271 3C020-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※4	酵素法 (ウリカーゼ POD法)	M 3.7～7.0 F 2.5～7.0 (mg/dL)	高尿酸血症：7.0 mg/dL超〔高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン(日本痛風・核酸代謝学会)〕
	0127 0 000190121		部分尿 5	U00	冷蔵	2～4	11 ※4		(mg/dL)	重 蓄尿：凍結保存は避けてください。蓄尿は依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。
	L485 2 000190123		蓄尿 5	U00	冷蔵		11 ※4		0.4～1.2 (g/day)	&1
	0004 6 000210202	緊急 尿素窒素(UN) 3C025-0000-023-272 3C025-0000-001-272 3C025-0000-004-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※4	ウレアーゼ GLDH・UV法 (アンモニア消去)	8.0～22.0 (mg/dL)	
	0104 5 000210221		部分尿 5	U00	冷蔵	2～4	11 ※4	ウレアーゼ・LED・UV法 (回避)	(mg/dL)	
	L486 1 000210223		蓄尿 5	U00	冷蔵		11 ※4		6.5～13.0 (g/day)	&1
	P091 5 000160119	アンモニア 3C040-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白液 3	M40 ↓ A00	凍結	1～2	50 ※4	酵素サイクリング法	30～80 (μg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M40)に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

❶「イヌリン」は、「尿素窒素」又は「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、6月に1回に限り算定できる。ただし、「クレアチニン(腎クリアランス測定の目的で行い、血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷シスタチンC
ア「シスタチンC」は、EIA法、ラテックス凝集比濁法、金コロイド凝集法又はネフェロメトリー法により実施した場合に限り算定できる。
イ「シスタチンC」は、「尿素窒素」又は「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、「ペントシジン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

推算GFRcreatについて

日本人のGFRcreat推算式
男性：推算GFRcreat値(mL/min/1.73m^2)＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$
女性：推算GFRcreat値(mL/min/1.73m^2)＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$×0.739

報告条件
①クレアチニン(項目コード No.P0122)と同時依頼された場合のみ、ご報告いたします。
②下記に該当する場合は、ご報告できません。
・「クレアチニン」あるいは「推算GFRcreat」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③正式な単位は、「mL/min/1.73m^2」ですが、報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。

推算GFRcysについて

日本人のGFRcys推算式
男性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys − C$^{-1.019}$×0.996^{Age})−8
女性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys − C$^{-1.019}$×0.996^{Age}×0.929)−8
血清シスタチンCは国際的な標準物質に基づく測定結果を用いて推算いたします。
18歳以上に適用されます。(18歳未満には適用しません。)

報告条件
①シスタチンC(項目コード No.0112 6)と同時に依頼された場合のみ、ご報告いたします。
②下記に該当する場合は、ご報告できません。
・「シスタチンC」あるいは「推算GFRcys」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③正式な単位は、「mL/min/1.73m^2」ですが、報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。

低分子窒素化合物

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	K347 6 02040A103	アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕 3C045-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	凍結(21日)	4～6	1074 ※5	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &1
	4693 8 020401423	アミノ酸分析(41種類) 3C045-0000-004-204	酸性蓄尿 2	U00	凍結(21日)	7～10	1074 ※5	HPLC	下記参照	6N塩酸約20mLを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量を必ず凍結保存しご提出ください。 尿量が少ない場合には尿100mLに対して6N塩酸1mLの割合で入れてください。 必ず酸性蓄尿に(pH1.0～3.0)してください。 &1
	K348 5 02040A203	アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕 3C046-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	凍結(21日)	4～6	1074 ※5	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &1
	K349 4 02040A303	アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕 3C046-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	凍結(21日)	4～6	279 + 279 ※5	LC/MS	チロシン 40.4～90.3 (nmol/mL) フェニルアラニン 42.6～75.7 (nmol/mL) フィッシャー比 2.43～4.40	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &1
	0165 8 02305A102	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR) 3C047-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結	2～4	283 ※5	酵素法	BCAA/TYR RATIO(BTR) 4.41～10.05 BCAA 344～713 (μmol/L) TYR 51～98 (μmol/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &1

アミノ酸分析(39種類(血漿)、41種類(尿)、9種類(血漿))基準値

単位　血漿：nmol/mL、尿：μmol/day(ただし◎印(Urea)はmmol/day)

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
Taurine	Tau	39.5～93.2	322.2～5214.5
Phosphoethanolamine★	PEA		31.0～110.0
Urea ★	Urea		◎130.3～493.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下	12.7以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下	ND
Threonine	Thr	66.5～188.9	79.9～528.3
Serine	Ser	72.4～164.5	208.8～1020.0
Asparagine	Asn	44.7～96.8	60.7～372.3
Glutamic acid	Glu	12.6～62.5	11.3～42.7
Glutamine	Gln	422.1～703.8	207.0～1357.3
Sarcosine	Sarco	TR	99.0以下
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND	16.7～118.6
Proline	Pro	77.8～272.7	ND
Glycine	Gly	151.0～351.0	652.1～3670.6
Alanine	Ala	208.7～522.7	141.2～833.9
Citrulline	Cit	17.1～42.6	13.5～55.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9～26.6	27.1以下
※Valine	Val	147.8～307.0	24.8～82.2
Cystine	Cys	13.7～28.3	23.7～170.9
Cystathionine	Cysthio	TR	TR～44.7
※Methionine	Met	18.9～40.5	TR～20.2
※Isoleucine	Ileu	43.0～112.8	7.5～23.5
※Leucine	Leu	76.6～171.3	24.6～89.3
※Tyrosine	Tyr	40.4～90.3	50.6～308.4
※Phenylalanine	Phe	42.6～75.7	27.2～110.2

※印はアミノ酸分析(9種類)の実施アミノ酸名
ND：測定感度以下　TR：痕跡
★印は「アミノ酸」ではありませんが、本項目に含めて測定いたします。

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND	ND
β-Alanine	β-Ala	TR	TR～153.0
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR	TR～1623.9
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND	ND
Monoethanolamine ★	MEA	10.4以下	195.3～606.2
Homocystine	Homocys	ND	ND
※Histidine	His	59.0～92.0	436.4～2786.5
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下	113.4～480.9
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下	59.3～2816.2
Carnosine ★	Carno	ND	87.6以下
Anserine ★	Ans	ND	231.4以下
Tryptophan	Trp	37.0～74.9	20.7～150.7
Hydroxylysine	Hylys	ND	22.9以下
Ornithine	Orni	31.3～104.7	6.9～43.9
※Lysine	Lys	108.7～242.2	51.6～1639.6
※Arginine	Arg	53.6～133.6	11.6～54.8
Total AA(総アミノ酸：非必須アミノ酸の和＋必須アミノ酸の和)		2068.2～3510.3	
NEAA(非必須アミノ酸の和)		1381.6～2379.4	
EAA(必須アミノ酸の和)		660.0～1222.3	
BCAA(分岐鎖アミノ酸の和)		265.8～579.1	
EAA/NEAA(必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和)		0.40～0.63	
BCAA/Total AA(分岐鎖アミノ酸の和／総アミノ酸)		0.11～0.18	
フィッシャー比		2.43～4.40	

EAA/NEAA、BCAA/Total AA、フィッシャー比においては単位なし

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	4694 7 017721423	ハイドロキシプロリン-総 3C055-0000-004-204	蓄尿 1	U00	冷蔵 (28日)	4～17	279 ※5	HPLC	83～330 (μmol/day)	&1
	9047 0 00086A103	血中総ホモシステイン 3C070-0000-022-205	速やかに遠心 血漿 0.3	PN2、PN5 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	4～6	279 ※5	LC/MS/MS	M 7.0～17.8 F 5.3～15.2 (nmol/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。 &1
糖質および関連物質	P023 0 000230203	緊急 血糖 3D010-0000-022-272	血漿 0.5	PF2 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※4	ヘキソキナーゼUV法	70～109 (mg/dL)	
	0547 4 000250703	ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP) 3D046-0000-019-271	血液 2.0 (フッ化Na加)	PF2	冷蔵 (5日)	1～2	❶ 49 ※3	酵素法	4.6～6.2 (%)	凍 凍結保存は避けてください。データに影響を及ぼす場合がありますので、必ず専用容器(PF2)に採血しご提出ください。
	3342 8 000240102	グリコアルブミン 3D055-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❶ 55 ※4	酵素法	12.4～16.3 (%)	溶 &1
	3617 3 012450702	ヒアルロン酸 3D080-0000-023-062 3D080-0000-042-062	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❷❸ 179 ※4	ラテックス凝集免疫比濁法	50以下 (ng/mL)	&1
	3627 2 012450731		胸水 0.4	A00					(ng/mL)	
	3874 8 013350102	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG) 3D085-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 80 ※4	酵素法	M 14.9～44.7 F 12.4～28.8 (μg/mL)	溶 &1
	7712 3 011730102	シアル酸 3D105-0000-023-272	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (1ヵ月)	2～5		酵素法	44～71 (mg/dL)	&1

❶「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」、「グリコアルブミン」又は「1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」を月1回に限り別に算定できる。
❷「ヒアルロン酸」は、サンドイッチバインディングプロテインアッセイ法、^{125}Iによる競合法を用いたバインディングプロテインアッセイ法、LA法(測定機器を用いるもの)又はLBA法による。ただし、本検査は慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。
❸「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」と「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[4644 2]糖代謝解析基準値

グルコース	6.25～ 115.85 μg/mg Cr.
ソルビトール	0.00～ 11.01 μg/mg Cr.
フルクトース	0.00～ 197.62 μg/mg Cr.
ミオイノシトール	1.02～ 8.34 μg/mg Cr.
1,5ーアンヒドログルシトール	0.00～ 9.38 μg/mg Cr.
クレアチニン	0.30～ 2.30 mg/mL

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
有機酸	7706 0 012140117	乳酸 3E010-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	M30 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 47 ※4	乳酸オキシダーゼによる酵素法	3.0～17.0 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M30)に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。 &1
	7707 9 012150117	ピルビン酸 3E015-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	M30 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 47 ※4	ピルビン酸オキシダーゼによる酵素法	0.30～0.94 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M30)に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。 &1
	4641 5 01588A123	尿中シュウ酸 3E025-0000-004-237	酸性蓄尿 3	A00	冷蔵 (21日)	3～9	❷ 200 ※1	キャピラリー電気泳動法	M 10.3～41.5 F 9.0～37.7 (mg/day)	凍 6N塩酸10mLを入れた蓄尿ビンへ24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。 なお、尿量があらかじめ少ないと予想される場合には、尿200mLに対して6N塩酸1mLの割合で添加してください。酸性蓄尿されていない場合は、シュウ酸カルシウムが析出する可能性がありますので、必ず酸性蓄尿(pH1.0～2.0)してください。 凍結保存は避けてください。 &1
	3774 9 018080102	血中ケトン体分画 3E045-0000-023-271 3E045-0000-020-271	速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (静脈血)	S09 ↓ A00	凍結 (7日)	2～4	❸ 59 ※4	酵素法	アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酪酸 85以下 総ケトン体 130以下 (μmol/L)	早朝空腹時採血(静脈)してください。採血後は速やかに冷却遠心にて分離し、凍結保存してください。 &1
	3778 5 01808A102		速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (動脈血)				❸ 59 ※4		ケトン体比 アセト酢酸/3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	ブドウ糖投与下または食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血してください。 採血後は速やかに冷却遠心にて分離し、凍結保存してください。 &1
	3605 6 014334302	アセトン定量 3E060-0000-023-202	血清 0.7	S7P ↓ A00	凍結 (15日)	7～10		Gas-Chromatograph法	5 未満 (μg/mL)	分離剤入り容器は使用しないでください。 &M
	K153 1 014334321	尿中アセトン定量 3E060-0000-001-202	部分尿 1.2	U00	凍結	7～10		Gas-Chromatograph法	5 未満 (μg/mL)	&M
	8248 8 024246721	有機酸 スクリーニング検査 3E105-0000-001-203	部分尿 5	U00	凍結	7～14	1141 ※5	Gas-Chromatograph法 (GC-MS)		酸 酸性蓄尿は避けてください。専用依頼書に臨床所見を必ずご記入ください。本検査は疑われる先天性有機酸代謝異常症を専門医が判定する検査です。判定医による判定に時間を要する場合は所要日数より遅れる場合があります。 &1

❶「有機モノカルボン酸」については、グルタチオン、乳酸、ピルビン酸及びα-ケトグルタール酸の各物質の測定を行った場合に、それぞれの測定ごとに所定点数を算定する。
❷「シュウ酸(尿)」は、再発性尿路結石症の患者に対して、キャピラリー電気泳動法により行った場合に、原則として1年に1回に限り算定する。
❸「ケトン体」及び「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	P011 3 000270102	中性脂肪(TG) 3F015-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	酵素法 (GK-GPO・遊離グリセロール消去)	50～149 (mg/dL)	
	0422 2 012180102	リン脂質 3F025-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	15 ※4	酵素法	160～260 (mg/dL)	&1
	L341 1 00105A202	遊離脂肪酸(NEFA) 3F035-0000-023-271	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	2～4	59 ※4	酵素法	140～850 (μEq/L)	&1
	P010 4 000280202	総コレステロール (T-Cho) 3F050-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 17 ※4	コレステロール酸化酵素(COD-POD)法	150～219 (mg/dL)	
	0426 8 000290402	エステル型 コレステロール(Echo) 3F055-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4		コレステロール酸化酵素(COD-POD)法、酵素法	90～200 (mg/dL)	&1
	0421 3 000310102	遊離コレステロール (F-Cho) 3F065-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	11 ※4	酵素法	30～60 (mg/dL)	&1
	P149 1 000320102	HDL-コレステロール 3F070-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 17 ※4	直接法	M 40～86 F 40～96 (mg/dL)	
	3230 2 011219402	HDL$_{2,3}$コレステロール 3F075-0000-023-221	血清 1.0	S09 ↓ A00	冷蔵 (20日)	2～6		超遠心法	HDL2 コレステロール M 16.0～61.0 F 23.0～73.0 HDL3 コレステロール M 13.0～25.0 F 13.0～24.0 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &1
	P151 8 000330102	LDL-コレステロール 3F077-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 18 ※4	直接法	70～139 (mg/dL)	
	3341 9 015330102	レムナント様リポ蛋白 コレステロール(RLP-C) 3F078-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 174 ※4	酵素法	7.5 以下 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。糖尿病、冠動脈疾患などの既往歴のある場合は、5.2mg/dL以上がハイリスク域といわれています。 &1
	B893 9 00141A102	sd LDL- コレステロール 3F088-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (5日)	2～4		直接法	35.0未満 (mg/dL)	&1

❶「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」及び「LDL-コレステロール」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)」は免疫吸着法-酵素法又は酵素法により実施し、3月に1回を限度として算定できる。

[K836 3]LDL-C/HDL-C比

・LDL-コレステロールとHDL-コレステロールと本項目の3項目を同時にご依頼いただいた場合、LDL-コレステロールとHDL-コレステロールの測定結果とともにLDL-C/HDL-C比を算出し、ご報告いたします。
・LDL-C/HDL-C比のみのご依頼はできません。

脂質および関連物質

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	K222 4 019980802	酸化LDL (MDA-LDL) 3F087-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	3~14	❶ 194 ※4	ELISA	男性 45才未満：46~82 45才以上：61~105 女性 55才未満：46~82 55才以上：61~105 (U/L)	採血後、冷蔵保存にて6時間以内に血清分離し、速やかに凍結保存してください。 &1
	L539 2 042770102	sd LDL-C(健診) 3F088-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (5日)	2~4		直接法	(mg/dL)	&1
	A084 8	脂肪酸分画(24成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	PH5 ↓ A00	冷蔵 (45日)	10~14	389 ※5	Gas-Chromatograph法	下記参照	&1
	L349 3		血清 0.5	S09 ↓ A00			389 ※5			
	A066 8 00117A310	脂肪酸分画 (4成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	PH5 ↓ A00	冷蔵 (45日)	4~6	389 ※5	Gas-Chromatograph法	ジホモ-γ-リノレン酸 22.6~72.5 アラキドン酸 135.7~335.3 エイコサペンタエン酸 10.2~142.3 ドコサヘキサエン酸 54.8~240.3 (μg/mL) EPA/AA比 0.05~0.61 DHA/AA比 0.27~1.07 (EPA+DHA)/AA比 0.32~1.66	DHLA：ジホモ-γ-リノレン酸 AA：アラキドン酸 EPA：エイコサペンタエン酸 DHA：ドコサヘキサエン酸 &1
	G058 1 00117A302		血清 0.5	S09 ↓ A00			389 ※5			

❶「マロンジアルデヒド修飾LDL(MDA-LDL)」は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

脂肪酸分画(24成分)基準値

No.	脂肪酸名	略号(炭素数)	基準値 μg/mL	基準値 重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8~61.1	0.36~1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
7	オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
8	リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
9	γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
10	リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
12	エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下
15	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
16	アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
19	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~10.4	0.10~0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
24	ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64

T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)	0.02以下
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)	0.05~0.61
DHA/AA比(C22:6ω3/C20:4ω6)	0.27~1.07
(EPA+DHA)/AA比	0.32~1.66
ω3/ω6比	0.09~0.36

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	2601 1 014430102	総胆汁酸 3F110-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 47 ※4	酵素法	10.0以下 (μmol/L)	&1
	0006 4 012161302	β-リポ蛋白 3F130-0000-023-061	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4		免疫比濁法	220～650 (mg/dL)	&1
	3211 3 011223502	リポ蛋白分画 3F135-0000-023-233	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (7日)	2～4	49 ※4	アガロースゲル電気泳動法	α M 26.9～50.5 F 32.6～52.5 PREβ M 7.9～23.8 F 6.6～20.8 β M 35.3～55.5 F 33.6～52.0 (%)	凍 凍結保存は避けてください。 &1
	3226 7 018553502	コレステロール分画 3F150-0000-023-233	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵 (7日)	2～4	57 ※4	アガロースゲル電気泳動法	HDLコレステロール 23～48 LDLコレステロール 47～69 VLDLコレステロール 2～15 (%)	凍 凍結保存は避けてください。 &1
	3233 9 012790702	リポプロテイン(a) 3F156-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❷ 107 ※4	LA(ラテックス凝集比濁法)	40以下(参考値) (mg/dL)	&1
	4480 4 015300803	リポ蛋白リパーゼ(LPL) 3F160-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3	PH5 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	2～8	❸ 219 ※4	ELISA	164～284 (ng/mL)	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器(PH5)に採取し、4℃で遠心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。EDTA血漿は避けてください。 基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。 &1
	3234 8 011661302	アポリポ蛋白 A-Ⅰ 3F180-0000-023-061	血清 各0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❹ 各31 ※4 3項目以上測定した場合 94 ※4	免疫比濁法	M 119～155 F 126～165 (mg/dL)	アポリポ蛋白Bと重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &1
	3235 7 011671302	アポリポ蛋白 A-Ⅱ 3F185-0000-023-061							M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 (mg/dL)	
	3236 6 011691302	アポリポ蛋白 B 3F190-0000-023-061							M 73～109 F 66～101 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &1
	3237 5 011701302	アポリポ蛋白 C-Ⅱ 3F195-0000-023-061							M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 (mg/dL)	アポリポ蛋白Bと重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &1
	3238 4 011481302	アポリポ蛋白 C-Ⅲ 3F200-0000-023-061							M 5.8～10.0 F 5.4～9.0 (mg/dL)	
	3239 3 011721302	アポリポ蛋白 E 3F205-0000-023-061							M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 (mg/dL)	
	3343 7 016630802	肺サーファクタントプロテインA(SP-A) 3F250-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❺ 130 ※4	CLEIA	43.8未満 (ng/mL)	&1
	A671 6	肺サーファクタントプロテインD(SPD) 3F253-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❺ 136 ※4	ラテックス免疫凝集法	110未満 (ng/mL)	&I

❶肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、「コレステロール分画」に準じて算定する。ただし、「胆汁酸」を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。
❷「リポ蛋白(a)」は、3月に1回を限度として算定できる。
❸「リポ蛋白リパーゼ(LPL)」は、高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは薬剤料の「薬剤」として算定できるが、注射料は算定できない。
❹「アポリポ蛋白」は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。
❺「KL-6」、「肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)」及び「肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。

[3730 7]アポリポ蛋白Eフェノタイプ検査結果について(試薬メーカー説明書より引用)

・研究用試薬のため、本測定結果は、補助診断としてご利用ください。
・診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断に行ってください。

ビタミンおよび関連物質

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ビタミンおよび関連物質	3619 1 022021402	β-カロチン 3G011-0000-023-204	血清 0.6	S09 ↓ ASS	凍結 (1ヵ月) 遮光	5～11		HPLC	M 6.6～47.6 F 20.4～105.2 (μg/dL)	遮光してください。 &1
	3721 7 014051402	ビタミンA 3G015-0000-023-204	血清 0.4	S09 ↓ ASS	冷蔵 遮光	4～6		HPLC	97～316 (IU/dL)	遮光してください。 &1
	3725 3 010121401	ビタミンB_1 3G025-0000-019-205	血液 0.5 (EDTA-2K加)	PNS	凍結 (6ヵ月) 遮光	3～5	239 ※4	LC/MS/MS	24～66 (ng/mL)	&1
	4329 2 016591401	ビタミンB_2 3G030-0000-019-204	血液 0.5 (EDTA-2K加)	PNS	凍結 (1ヵ月) 遮光	3～5	231 ※4	HPLC	66.1～111.4 (ng/mL)	(検体のご提出について)血液は必ず遮光ポリスピッツ(ASS)に移し替え、凍結してご提出ください。 &1
	3731 6 014151402	ビタミンB_6 3G036-0000-023-204	血清 0.5	S09 ↓ ASS	冷蔵 遮光	3～5		HPLC	ピリドキサミン M 0.6以下 F 0.6以下 ピリドキサール M 6.0～40.0 F 4.0～19.0 ピリドキシン M 3.0以下 F 3.0以下 (ng/mL)	遮光してください。 &1
	3737 0 010130602	ビタミンB_{12} 3G040-0000-023-052	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	136 ※4	CLEIA	180～914 (pg/mL)	血清材料以外でのご依頼は避けてください。(特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &1
	8712 2 016130102	カルニチン分画 3G055-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 95+95 ※4	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 (μmol/L)	&1

❶総カルニチン及び遊離カルニチン
ア「総カルニチン」及び「遊離カルニチン」は、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。
イ 本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。
ウ 静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。
エ 同一検体について、本検査と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ビタミンおよび関連物質	3735 2 022171418	ビタミンC (アスコルビン酸) 3G060-0000-031-204	(血清中) 除蛋白上清 0.5	M50 ↓ ASS	凍結 (7日) 遮光	3～5	296 ※4	HPLC	5.5～16.8(血清中) (μg/mL)	正確に血清0.5mLを専用容器(M50)に加え、混和後遠心分離し、その上清を遮光ポリスピッツ(ASS)にてご提出ください。 &1
	A099 2 001520902	25OHビタミンD (骨粗鬆症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶ 117 ※4	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0～29.9 (ng/mL)	&1
	A087 5 001520602	25ヒドロキシビタミンD (くる病・骨軟化症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❷ 117 ※4	CLEIA	ビタミンD欠乏 20以下 (ng/mL)	&1
	3794 7 015871902	1,25-(OH)$_2$ ビタミンD 3G070-0000-023-001	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	3～7	❸ 388 ※4	RIA2抗体法	成人 20.0～60.0 小児 20.0～70.0 (pg/mL)	&1
	3743 3 014177802	ビタミンE 3G080-0000-023-282	血清 0.5	S09 ↓ ASS	凍結 遮光	7～13		蛍光法	0.75～1.41 (mg/dL)	遮光してください。 &M
	4147 4 018191403	ビタミンK分画 3G090-0000-022-204	速やかに遠心 血漿 2.0	PC5 ↓ ASS	凍結 (17日) 遮光	3～9		HPLC	ビタミン K1 0.15～1.25 ビタミン K2 (MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスピッツ(ASS)で凍結してご提出ください。 &1
	3738 9 010140602	葉酸 3G105-0000-023-052	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	146 ※4	CLEIA	4.0以上 (ng/mL)	溶 溶血および血清材料以外でのご依頼は避けてください。(溶血の場合、赤血球中葉酸の影響で高値となります。特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &1
	3744 2 014165101	ニコチン酸 (ナイアシン) 3G110-0000-019-905	血液 1.5 (ヘパリン加)	PH5	冷蔵	7～13		Bioassay	4.7～7.9 (μg/mL)	&1

❶「25-ヒドロキシビタミンD」は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。
❷「25-ヒドロキシビタミンD」は、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。
❸「1,25-ジヒドロキシビタミンD_3」は、ラジオレセプターアッセイ法、RIA法又はELISA法により、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

電解質・血液ガス

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
電解質・血液ガス	P013 1 000350502	緊急 Na(ナトリウム) 3H010-0000-023-261 3H010-0000-001-261 3H010-0000-004-261	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※4	電極法	136～147 (mEq/L)	採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存はナトリウムが低値を示しますので避けてください。
	0133 3 000350521		部分尿 5	U00	冷蔵				(mEq/L)	
	L487 0 000350523		蓄尿 5	U00	冷蔵	2～4			1.6～5.8 (g/day)	&1
	P014 0 000370502	緊急 K(カリウム) 3H015-0000-023-261 3H015-0000-001-261 3H015-0000-004-261	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	電極法	3.6～5.0 (mEq/L)	溶 採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存又は溶血は、カリウムが高値を示しますので避けてください。
	0134 2 000370521		部分尿 5	U00	冷蔵				(mEq/L)	
	L488 9 000370523		蓄尿 5	U00	冷蔵	2～4			1.0～3.9 (g/day)	&1
	P015 9 000360502	Cl(クロール) 3H020-0000-023-261 3H020-0000-001-261 3H020-0000-004-261	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※4	電極法	98～109 (mEq/L)	
	0135 1 000360521		部分尿 5	U00	冷蔵				(mEq/L)	
	L489 8 000360523		蓄尿 5	U00	冷蔵	2～4			2.5～8.9 (g/day)	&1
	0030 7 000420102	Mg(マグネシウム) 3H025-0000-023-271 3H025-0000-001-271 3H025-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	キシリジルブルー法	1.8 ～2.6 (mg/dL)	
	0130 6 000420121		部分尿 5	U00	冷蔵	2～4			(mg/dL)	&1
	L490 6 000420123		蓄尿 5	U00	冷蔵				0.02～0.13 (g/day)	重 (蓄尿)依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。蓄尿は凍結保存を避けてください。 &1
	P017 7 000380102	Ca(カルシウム) 3H030-0000-023-271 3H030-0000-001-271 3H030-0000-004-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(28日)	1～2	❷ 11 ※4	アルセナゾⅢ法	8.5～10.2 (mg/dL)	
	0108 1 000380121		部分尿 5	U00	冷蔵				(mg/dL)	
	L491 5 000380123		蓄尿 5	U00	冷蔵	2～4			0.1～ 0.3 (g/day)	重 (蓄尿)依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。蓄尿は凍結保存を避けてください。 &1
	P153 6 000430202	P(無機リン) 3H040-0000-023-272 3H040-0000-001-272 3H040-0000-004-272	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❸ 17 ※4	モリブデン酸直接法	2.4～4.3 (mg/dL)	
	0105 4 000430221		部分尿 5	U00	冷蔵	2～4			(mg/dL)	
	L492 4 000430223		蓄尿 5	U00	冷蔵				0.5～1.0 (g/day)	&1
	3771 2 014066202	浸透圧 3H045-0000-023-902 3H045-0000-001-902	血清 0.7	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	15 ※3	氷点降下法	276～292 (mOsm/Kg·H_2O)	凍 凍結保存は避けてください。
	4692 9 014066221		部分尿 1	U00			16 ※1		濃縮時 850以上 希釈時 40～85 (Fishberg試験時) (mOsm/Kg·H_2O)	&1

❶「ナトリウム」及び「クロール」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
❷「カルシウム」及び「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
❸「P(無機リン)」及び「リン酸」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
生体微量金属	P0195 000460102	鉄(Fe) 3I010-0000-023-271 3I010-0000-004-274	血清 0.5	S09 ↓ AZZ	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※4	ニトロソーPSAP法	M 54～200 F 48～154 (μg/dL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
	3625 4 000463423		蓄尿 10	AZZ	冷蔵	6～11	11 ※4	原子吸光法	0.10～0.20 (mg/day)	&ミ
	0038 9 000470402	総鉄結合能(TIBC) 3I015-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ AZZ	冷蔵 (28日)	1～2	❶ 11 ※4	ニトロソーPSAP法(計算法)	M 253～365 F 246～410 (μg/dL)	P0195鉄(Fe)と00316不飽和鉄結合能(UIBC)を同時にご依頼ください。
	0031 6 000480102	不飽和鉄結合能(UIBC) 3I020-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ AZZ	冷蔵 (28日)	1～2	❶ 11 ※4	ニトロソーPSAP法	M 104～259 F 108～325 (μg/dL)	
	3653 3 012210102	Cu(銅) 3I025-0000-023-271 3I025-0000-004-274	血清 0.5	S09 ↓ AZZ	冷蔵 (28日)	2～4	23 ※4	比色法	68～128 (μg/dL)	&1
	4671 2 012213423		蓄尿 5	AZZ	冷蔵	2～6	23 ※4	原子吸光分析法	M 4.2～33.0 F 2.5～20.0 (μg/day)	&1
	3654 2 012223402	Zn(亜鉛) 3I030-0000-023-271 3I030-0000-004-274	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ↓ AZZ	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	132 ※4	比色法	80～130 (μg/dL)	溶 採血後は速やかに血清分離をしてください。 &1
	4672 1 012223423		蓄尿 5	AZZ	冷蔵	2～8	132 ※4	原子吸光分析法	M 260～1000 F 160～ 620 (μg/day)	&1
生体色素関連物質	P0041 000490102	緊急 総ビリルビン(T-Bil) 3J010-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	化学酸化法	0.3～1.2 (mg/dL)	
	0012 7 000510102	直接ビリルビン 3J015-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	11 ※4	化学酸化法	0.4以下 (mg/dL)	
	0039 8 000530102	間接ビリルビン 3J020-0000-023-271	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2		計算法	0.8以下 (mg/dL)	P0041総ビリルビン(T-Bil)と00127直接ビリルビンを同時にご依頼ください。
	2624 6 01440A121	コプロポルフィリン定性 3J040-1351-001-204 3J040-1351-004-204	部分尿 2	U00	冷蔵 遮光	4～10		HPLC	(－)	遮光してください。
	2625 5 01440A123		蓄尿 2							&1
	2626 4 014401421	コプロポルフィリン 3J040-1352-001-204 3J040-1352-004-204 3J040-0000-019-204	部分尿 2	U00	冷蔵 遮光	4～10	131 ※1	HPLC	170以下 (μg/g･CRE)	遮光してください。
	2627 3 014401423		蓄尿 2				131 ※1			&1
	3601 0 014401401		血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	7～11	210 ※4	HPLC	1 以下 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 &N
	3602 9 014081401	ウロポルフィリン 3J050-0000-019-204	血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	7～11		HPLC	1 以下 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 &N
	3603 8 014521401	プロトポルフィリン 3J055-0000-019-204	血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	7～11	272 ※4	HPLC	30～86 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 &N
	2609 3 014071421	δ-アミノレブリン酸(δALA) 3J075-0000-001-204 3J075-0000-004-204	部分尿 0.7	U00	冷蔵 遮光	3～5	106 ※1	HPLC	(mg/L)	遮光してください。 18ページをご参照ください。
	2610 1 014071423		蓄尿 0.7				106 ※1			&1

❶「総鉄結合能(TIBC)(比色法)」と「不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)」を同時に実施した場合は、「不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)」又は「総鉄結合能(TIBC)(比色法)」の所定点数を算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒物・産業医学的代謝物質	4721 6 017694321	尿中総三塩化物 トリクロルエチレン 3K011-0000-001-202	部分尿 各2	U00	冷蔵	4~10		Gas-Chromatograph法	(mg/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 18ページをご参照ください。 &1
	4722 5 017704321	1·1·1-トリクロルエタン 3K012-0000-001-202								
	4723 4 017714321	テトラクロルエチレン 3K013-0000-001-202								
	4724 3 018034321	尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン 3K016-0000-001-202	部分尿 各2	U00	冷蔵	4~10		Gas-Chromatograph法	(mg/L)	
	4725 2 018044321	1·1·1-トリクロルエタン 3K017-0000-001-202								
	4726 1 018054321	テトラクロルエチレン 3K018-0000-001-202								
	4697 4 017541421	尿中馬尿酸 3K025-0000-001-204	部分尿 2	U00	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 18ページをご参照ください。 &1
	4698 3 017561421	尿中メチル馬尿酸 3K030-0000-001-204	部分尿 2	U00	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	
	9179 4 044801421	尿中スチレン代謝物 3K042-0000-001-204	部分尿 2	U00	冷蔵(14日)	4~14		HPLC	(g/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 測定値は、マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値(MA+PGA)です。 生物学的許容値：0.43(g/L)以下です。(生物学的許容値とは、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。)依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 18ページをご参照ください。 &1
	K855 2 00197A121	尿中マンデル酸エチルベンゼン 3K041-0000-001-204	部分尿 2	U00	冷蔵(28日)	4~14		HPLC	(g/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 &1
	4703 6 018706721	尿中N-メチルホルムアミド 3K045-0000-001-203	部分尿 5	U00	冷蔵	4~10		Gas-Chromatograph法(GC-MSD)	(mg/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 18ページをご参照ください。 &1
	4704 5 018716721	尿中2,5-ヘキサンジオン 3K050-0000-001-203	部分尿 5	U00	冷蔵	4~10		Gas-Chromatograph法(GC-MSD)	(mg/L)	
	3656 0 014503407	アルミニウム(Al) 3K105-0000-023-274	血清 0.6	SZZ	冷蔵	3~5	109 ※4	原子吸光分析法	10以下 (μg/L)	重 凍 SZZ容器は凍結保存を避けてください。 &1
	2620 0 014183401	鉛(Pb) 3K110-0000-019-274	血液 3.0(ヘパリン加)	PH5	冷蔵	3~5		原子吸光分析法	(μg/dL)	18ページをご参照ください。 &1
	3657 9 014103401	クロム 3K115-0000-019-274 3K115-0000-001-274	血液 0.7(ヘパリン加)	PH5	冷蔵	6~19		原子吸光分光光度法	1.0以下 (μg/dL)	血液:凍結保存は避けてください。 &N
	4674 9 014103421		部分尿 1	AZZ					2以下 (μg/L)	
	3662 3 014193401	カドミウム 3K120-0000-019-299 3K120-0000-001-274	血液 0.5(ヘパリン加)	PH5	冷蔵	7~11		ICP-MS	0.5以下 (μg/dL)	血液:凍結保存は避けてください。 &M
	4992 6 014193421		部分尿 1	AZZ		7~13			3.8以下 (μg/L)	
	9520 4 014113401	マンガン 3K125-0000-019-274	血液 0.7(ヘパリン加)	PH5	冷蔵	7~20	❶ 27 ※4	原子吸光分光光度法	0.8~2.5 (μg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &N

❶「マンガン(Mn)」は、1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
生化学(その他)	3787 5 012611402	ネオプテリン 3Z024-0000-023-204	血清 0.3	S09 ⬇ ASS	冷蔵 遮光	6~12		HPLC	2~8 (pmol/mL)	遮光してください。 &1
	3785 7 014034301	エタノール 3Z040-0000-019-202	血液 1.0 (ヘパリン加)	PH5 ⬇ A00	凍結	3~6	105 ※4	Gas-Chromatograph法	0.1未満 (mg/mL)	血液はポリスピッツに移し替え、必ず凍結保存にてご提出ください。 &1
	7741 1 014234779	結石分析(成分比率) 3Z065-0000-081-273	結石 10mg	XC0	室温	4~6	117 ※5	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	(%)	サンプルは乾燥させ結石専用容器にてご提出ください。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。 &%

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業者、鉛作業者を対象として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を、所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤、鉛関連検査結果分布表

有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)
鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)より

対象物質	測定項目	単位	分布 1	分布 2		分布 3
トルエン	** 尿中馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超
キシレン	** 尿中メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超
1·1·1-トリクロルエタン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
N·N-ジメチルホルムアミド	** 尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
ノルマルヘキサン	** 尿中2, 5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超
鉛	血中鉛	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超
	* 尿中δ-アミノレブリン酸	mg/L	5以下	5超	10以下	10超
スチレン	*** 尿中スチレン代謝物※1	g/L	分布報告はいたしません。			
トリクロルエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超
テトラクロルエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超

※1：測定値は、マンデル酸とフェニルグリオキシル酸の合算値です。
2014年11月より、スチレン、トリクロルエチレン、テトラクロルエチレンは、有機溶剤中毒予防規則から特定化学物質障害予防規則の対象に位置づけられました。

検体取り扱い方法

* 遮光保存してください。

** 連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。

*** 週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。

抗菌薬

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗菌薬	3854 0 013710702	アミカシン 3M601-0000-023-062	血清 0.4	S7P ↓ A00	凍結	2～4	❶特	KIMS	Peak 50～60 Trough 4未満 (μg/mL) 下記参照	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください。 アミカマイシン、ビクリン &1
	3853 1 013702302	トブラマイシン 3M602-0000-023-024	血清 0.4	S7P ↓ A00	凍結	2～4	❶特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 (μg/mL) 下記参照	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	トブラシン &1
	3851 3 014492302	ゲンタマイシン 3M606-0000-023-024	血清 0.4	S7P ↓ A00	凍結	2～4	❶特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 (μg/mL) 下記参照	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	ゲンタシン、エルタシン、ルイネシン &1
	3830 6 013590702	アルベカシン 3M613-0000-023-062	血清 0.3	S7P ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❶特	ラテックス凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1 ～ 2未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	ハベカシン &1
	3859 5 012462302	バンコマイシン 3M530-0000-023-062	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶特	ラテックス凝集比濁法	Trough 10 ～ 15 (μg/mL)	投与前30分以内(Trough濃度)	塩酸バンコマイシン &1
	3846 9 015890702	テイコプラニン 3M532-0000-023-062	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶特	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 (μg/mL)	投与前30分以内(Trough濃度)	タゴシッド &1
	K132 4 019521403	ボリコナゾール 3M698-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ブイフェンド &1

特：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

[3846 9]テイコプラニン検査について

医薬品添付文書には、「テイコプラニンのトラフレベルの血中濃度は、敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために10μg/mL以上を保つこと。ただし、トラフレベルの血中濃度が60μg/mL以上になった場合には腎障害、聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。また、トラフレベルの血中濃度が20μg/mL以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。(医薬品添付文書・2003年1月改訂第8版より)」の内容が記載されております。

グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値

(単位：μg/mL)

最小発育阻止濃度(MIC)	8μg/mL(重症)		≦4μg/mL(軽・中等症)	
アミカシン	Peak 50 ～ 60	Trough 4未満	Peak 41 ～ 49	Trough 4未満

最小発育阻止濃度(MIC)	2μg/mL(重症)		≦1μg/mL(軽・中等症)	
ゲンタマイシン トブラマイシン	Peak 15 ～ 20	Trough 1未満	Peak 8 ～ 10	Trough 1未満

抗菌薬TDMガイドライン2016より改変

※基準値は重症における目標値を基準値(治療濃度範囲)として設定いたしました。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗てんかん薬	0064 0 001312302	緊急 カルバマゼピン 3L115-0000-023-024	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	4～12 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	テグレトール、 テレスミン、 レキシン &1
	3814 4 014481402	クロナゼパム 3L125-0000-023-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	20～70 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	リボトリール、 ランドセン &1
	3816 2 014471402	ジアゼパム 3L130-0000-023-204	血清 0.5	S7P ↓ A00	冷蔵	3～6	❶ ㊥	HPLC	ジアゼパム 600～1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度) ただし、抗てんかん剤として用いる場合	N-デスメチルジアゼパムも同時報告いたします。 セルシン、 ホリゾン、 ジアパックス &1
	3809 0 014002302	エトスクシミド 3L135-0000-023-024	血清 0.5	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	40.0～100.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ザロンチン、 エピレオプチマル &1
	3085 4 024131402	クロバザム 3L145-0000-023-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	(ng/mL)		デスメチルクロバザムも同時報告いたします。 マイスタン &1
	3815 3 014011402	ニトラゼパム 3L165-0000-023-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	20～200 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度) ただし、抗てんかん剤として用いる場合	ベンザリン、 ネルボン &1
	0061 3 001322302	緊急 フェノバルビタール 3L175-0000-023-024	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	10～40 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	フェノバール、 ワコビタール、 ルミナール &1
	0063 1 001332302	緊急 フェニトイン 3L185-0000-023-024	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	10.0～20.0 (μg/mL)	経口: 次回投与直前 (Trough濃度) 静注: 投与後 2～4時間	アレビアチン、 ヒダントール、 ジフェニルヒダントイン &1

㊥：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

抗てんかん薬

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗てんかん薬	3802 7 013982302	プリミドン 3L190-0000-023-024 3L190-0000-022-024	血清 0.3	S7P→A00	冷蔵	2～4	❶ ㊕	EIA	5.0～12.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	プリミドン、プリムロン &1
			血漿 0.3	PH5→A00			❶ ㊕				
	P209 4 001342302	緊急 バルプロ酸 3L195-0000-023-024 3L195-0000-022-024	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	1～2	❶ ㊕	EIA	50～100 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	デパケン, セレニカR, バレリン, ハイセレニン
	3813 5 014554302	トリメタジオン 3L205-0000-023-205	血清 0.5	S7P→A00	凍結 (12日)	7～13	❶ ㊕	LC-MS/MS	300～500 (μg/mL)		ミノアレ (活性代謝物であるジメタジオンを測定) &M
	A257 6 002470702	ゾニサミド 3L210-0000-023-062	血清 0.5	S7P→A00	冷蔵	2～4	❶ ㊕	ラテックス凝集法	10～30 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	エクセグラン &1
	E948 5 019661403	ガバペンチン 3L215-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	(μg/mL)		ガバペン錠 &1
	K218 9 02797A103	ラモトリギン 3L220-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	2.5～15 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ラミクタール &1
	K599 7 02090A103	トピラマート 3L225-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵 (21日)	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	5～20 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	トピナ &1
	K598 8 02089A103	レベチラセタム 3L230-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵 (21日)	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	12～46 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	イーケプラ &1
	A288 2 04297A103	スチリペントール 3L235-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵 (28日)	5～11	❶ ㊕	LC/MS/MS	(μg/mL)		ディアコミット &1
	A289 1 04393A103	ルフィナミド 3L240-0000-022-205	血漿 0.3	PN2、PN5→A00	冷蔵 (28日)	3～9	❶ ㊕	LC/MS/MS	(μg/mL)		イノベロン &1
	A067 7 04257A110	ペランパネル 3L245-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵 (28日)	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	(ng/mL)		フィコンパ &1
	A231 4 04254A110	ラコサミド 3L248-0000-022-205	血漿 0.3	PH5→A00	冷蔵 (28日)	3～5	❶ ㊕	LC/MS/MS	(μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ビムパット &1
	3817 1 017791402	アセタゾラミド 3L950-0000-023-204	血清 0.3	S7P→A00	冷蔵	3～9	❶ ㊕	HPLC	(μg/mL)		ダイアモックス &1

㊕：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

PH5 旧容器記号 G

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 2年

PN2 PN5 旧容器記号 C

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 2年
(PN2)(PN5)

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
免疫抑制薬	A878 7 018731901	シクロスポリン 3M805-0000-019-052	血液 0.7 (EDTA-2K加)	PKF	凍結 (14日)	2～4	❶特	CLEIA	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 ネオラール、サンディミュン &1
	A879 6 021663301	タクロリムス 3M810-0000-019-052	血液 0.7 (EDTA-2K加)	PKF	凍結 (21日)	2～4	❶特	CLEIA	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 プログラフ、グラセプター &1
	A159 5 030102303	ミコフェノール酸 3M816-0000-022-024	血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	冷蔵 (7日)	2～5	❶特	EIA	(μg/mL)		セルセプト &1
循環器用薬	0068 6 001352302	緊急 ジゴキシン 3L765-0000-023-024	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶特	EIA	消失相濃度 0.8～2.0 (ng/mL)	投与後6時間～ 次回投与直前 (消失相)	ジゴシン、 ジゴキシン
	4227 5 016661403	アミオダロン 3L800-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	アミオダロン 有効血中濃度: 500～1000ng/mL (200mg/日投与、定常状態、トラフ値) Desethylamiodarone/Amiodarone＝0.8 (定常状態)。 アンカロン &1
	K588 9 020851403	ベプリジル 3L802-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ↓ A00	冷蔵 (21日)	3～5	❶特	LC/MS/MS	250～800 (ng/mL)		ベプリコール &1
	3839 7 018581402	アプリンジン 3L855-0000-023-205 3L855-0000-022-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	0.25～1.25 (μg/mL)	経口: 次回投与直前 (Trough濃度) 投与後 2～4時間 (Peak濃度) 静注: 次回投与直前 (Trough濃度)	アスペノン &1
			血漿 0.3	PH5 ↓ A00			❶特				

特：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

循環器用薬

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
循環器用薬	3836 0 011792302	ジソピラミド 3L865-0000-023-024 3L865-0000-022-024	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶特	EIA	2.0～5.0 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	ノルペース、リスモダン、カフィール、リスラミドR &1
			血漿 0.3	PH5 ↓ A00			❶特				
	3834 2 012292302	リドカイン 3L875-0000-023-024	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶特	EIA	1.2～5.0 (μg/mL)	静注:投与後2時間 点滴静注:6～12時間	キシロカイン &1
	3841 4 021891402	メキシレチン 3L880-0000-023-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	0.5～2.0 (μg/mL)	経口:次回投与直前(Trough濃度) 静注：随時	メキシチール &1
	3837 9 013722302	プロカインアミド 3L890-0000-023-024 3L890-0000-022-024	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶特	EIA	4.0～10.0 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	アミサリン &1
			血漿 0.4	PH5 ↓ A00			❶特				
	3840 5 017771402	プロプラノロール 3L895-0000-023-204 3L895-0000-022-204	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	4~17		HPLC	50～100 (ng/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	インデラル &1
			血漿 0.3	PH5 ↓ A00							
	3877 5 015971402	ピルシカイニド 3L896-0000-023-205 3L896-0000-022-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	0.2～0.9 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	サンリズム &1
			血漿 0.3	PH5 ↓ A00			❶特				
	3822 5 015661402	プロパフェノン 3L897-0000-023-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	(ng/mL)		プロノン &1
	8748 3 015001402	シベンゾリン 3L898-0000-023-205 3L898-0000-022-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶特	LC/MS/MS	Trough濃度 70～250 (ng/mL)	朝投与直前(Trough濃度)	シベノール &1
			血漿 0.3	PH5 ↓ A00			❶特				

特：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

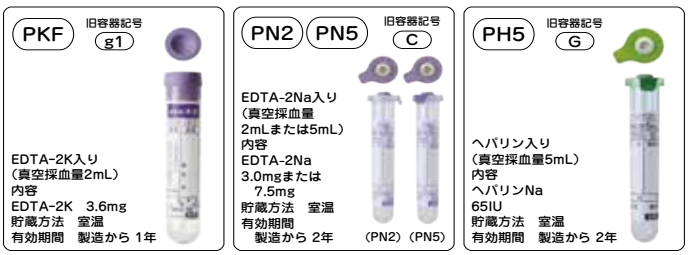
❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。



	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
循環器用薬	4240 0 016621403	ピルメノール 3L899-0000-022-204	血漿 1.3	PH5 ↓ A00	冷蔵	3～9	❶ 特	HPLC	400.0以上 (ng/mL)	随時	ピメノール &1
	8756 4 015021402	フレカイニド 3L905-0000-023-205 3L905-0000-022-205	血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ 特	LC/MS/MS	200～1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	タンボコール &1
	A978 6		血漿 0.3	PH5 ↓ A00			❶ 特				
精神神経用薬	3818 0 018271802	ハロペリドール 3L300-0000-023-064	血清 0.5	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 特	金コロイド凝集法	3～17 (ng/mL)	随時(ただし、採血時刻を一定とする)	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。セレネース、ハロマンス、リントン、ネオペリドール、ハロステン &1
	3843 2 016521802	ブロムペリドール 3L302-0000-023-064	血清 0.5	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 特	金コロイド凝集法	至適血中濃度 15以下 (ng/mL)	随時(ただし、採血時刻を一定とする)	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。インプロメン、ルナプロン &1
	3807 2 014043402	リチウム 3L320-0000-023-271	血清 0.5	S7P ↓ AZZ	冷蔵	2～4	❶ 特	比色法	治療濃度範囲 0.3～1.2 (mEq/L)	最終投与後12時間または早朝投与前 (Trough濃度)	リーマス、リチオマール &1

特：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

薬物（その他）

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 （mL）	容器	保存 （安定性）	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値（単位） （治療濃度範囲）	採血時刻	備考 （製品名、薬剤名等）
薬物（その他）	3838 8 015370102	アセトアミノフェン 3L005-0000-023-024	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	2～8	❶ 180 ※4	EIA	中毒域 200.1以上（4時間） 100.1以上（8時間） 50.1以上（12時間） （μg/mL）		アセトアミノフェン、 ピリナジン、 ナパ &1
	0067 7 001362302	緊急 テオフィリン 3M070-0000-023-024	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ ㊥	EIA	10.0～20.0 （μg/mL）	☆下記参照	テオドール、 テオロング、 ユニフィル &1
	3872 0 014020102	サリチル酸 3M205-0000-023-271	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ ㊥	酵素法	抗炎症作用として 100～250 （μg/mL）	次回投与直前 （Trough濃度）	アスピリン、 バファリン &1
	3871 1 01375A102	メトトレキサート 3M725-0000-023-024 3M725-0000-022-024	血清 0.5	S7P ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ ㊥	EIA	危険限界濃度： 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 （μmol/L）	メトトレキサート・ ロイコボリン 救護療法時 24、48、72時間	メソトレキセート &1
			血漿 0.5	PH5 ↓ A00			❷ ㊥				

㊥：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「アセトアミノフェン」は、同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。
❷「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

☆経口・静注

経口：徐放性製剤では投与後4時間、裸錠では投与後2時間（Peak濃度）、次回投与直前（Trough濃度）
静注：負荷投与後30分、点滴開始後4～6、および12～18時間

特定薬剤治療管理料1

特定薬剤治療管理料1は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

当社で取り扱っていない検査項目も掲載しております。

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料（同一患者月1回）		加算点（初回月）	備考
		1～3ヵ月	4ヵ月以降		
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン	470点	235点	280点	*1、2
抗てんかん剤（てんかん）	フェノバルビタール、プリミドン、フェニトイン、カルバマゼピン、バルプロ酸ナトリウム、エトスクシミド、トリメタジオン、クロナゼパム、ニトラゼパム、ゾニサミド、ガバペンチン、クロバザム、レベチラセタム、ラモトリギン、トピラマート、スチリペントール、ルフィナミド、ペランパネル、ラコサミド、ジアゼパム、アセタゾラミド	470点	470点	280点	
免疫抑制剤（臓器移植後）	シクロスポリン、タクロリムス水和物、エベロリムス、ミコフェノール酸モフェチル	470点	470点	2740点（臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り加算）	*3、4
テオフィリン製剤（気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作）	テオフィリン	470点	235点	280点	
不整脈用剤（不整脈）	プロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、ピルジカイニド塩酸塩、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリンコハク酸塩、ピルメノール、アミオダロン、ソタロール塩酸塩、ベプリジル塩酸塩	470点	235点	280点	
ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤（統合失調症）	ハロペリドール、ブロムペリドール	470点	235点	280点	
リチウム製剤（躁うつ病）	リチウム	470点	235点	280点	
バルプロ酸ナトリウム又はカルバマゼピン（躁うつ病又は躁病）	バルプロ酸ナトリウム、カルバマゼピン	470点	470点	280点	
シクロスポリン(免疫抑制剤)（ベーチェット病(活動性・難治性眼症状を有するもの)、その他の非感染性ぶどう膜炎(既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。)、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎(既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。)、ネフローゼ症候群、川崎病の急性期）	シクロスポリン	470点	470点	280点	
タクロリムス水和物(免疫抑制剤)（全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎(多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。)）	タクロリムス水和物	470点	470点	280点	
サリチル酸系製剤（若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ）	サリチル酸	470点	235点	280点	
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート	470点	235点	280点	
エベロリムス（結節性硬化症）	エベロリムス	470点	235点	280点	
アミノ配糖体抗生物質[入院中]	ゲンタマイシン、トブラマイシン、アミカシン、アルベカシン	470点	235点	280点	
グリコペプチド系抗生物質[入院中]	バンコマイシン、テイコプラニン	470点	235点	280点（バンコマイシン除く）	*5
トリアゾール系抗真菌剤[入院中]	ボリコナゾール	470点	235点	280点	
トリアゾール系抗真菌剤（重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植(造血幹細胞移植の患者にあっては、深在性真菌症の予防を目的とするものに限る。)）	ボリコナゾール	470点	235点	280点	
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点	280点	
シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）	シロリムス	470点	235点	280点	
スニチニブ(抗悪性腫瘍剤)（腎細胞癌）	スニチニブ	470点	235点	280点	
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸ナトリウム	470点	235点	280点	
治療抵抗性統合失調症治療薬（統合失調症）	クロザピン	470点	235点	280点	
ブスルファン	ブスルファン	470点	235点	280点	

*1：ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
*2：てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。
*3：ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、6月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
*4：エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
*5：入院中の患者であって、バンコマイシンを数日間以上投与しているものに対して、バンコマイシンの安定した血中至適濃度を得るため、血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回に限り、530点を所定点数に加算する。
※特定薬剤治療管理料2(サリドマイド製剤及びその誘導体)は省略しております。

血液一般・形態検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血液一般・形態検査	5503 7 T00005503	緊急 血球計算8種 (5種，MCV，MCH，MCHC)	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❶ 21 ※3	自動化法	下記 各項目の基準値欄をご参照ください。	凍 溶 溶血・凝固・凍結検体は避けてください。 採血後直ちに4～5回軽く転倒混和して冷蔵保存してください。 (注)採血直後、直ちに転倒混和してください。転倒混和が不充分であったり、転倒混和するまで時間を要すると血液の部分凝固や目視では確認できないレベルの血液凝固が生じるため、検査結果に影響を及ぼします。
	P094 2 000571201	緊急 白血球数(WBC) 2A010-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❶ 21 ※3	自動化法	M 3900～9800 F 3500～9100 (/μL)	
	P093 3 000581201	赤血球数(RBC) 2A020-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 427～570 F 376～500 (×10⁴/μL)	
	P095 1 000591201	緊急 血色素量(Hb) 2A030-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 (g/dL)	
	P096 0 000601201	緊急 ヘマトクリット値(Ht) 2A040-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 (%)	
	P097 9 000611201	緊急 血小板数(PLT) 2A050-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 13.1～36.2 F 13.0～36.9 (×10⁴/μL)	
	P098 8 000620401	平均赤血球容積(MCV) 2A060-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 82.7～101.6 F 79.0～100.0 (fL)	
	P099 7 000630401	平均赤血球血色素量(MCH) 2A070-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 (pg)	
	P100 4 000640401	平均赤血球血色素濃度(MCHC) 2A080-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2		自動化法	M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 (%)	
	P103 1 000671201	網赤血球数(RET) 2A110-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵		12 ※3	自動化法	M 2～27 F 2～26 (‰)	
	0852 5 000691201	曜日指定 好酸球数 2A090-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	2～4	❷ 17 ※3	自動化法	70～440 (/μL)	凍 溶 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。ただし、祝祭日の前日は受付不可です。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 &1
	P134 7 00071A101	緊急 末梢血液像 2A160-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❷❸ 15 ※3	自動化法	*桿状核球(Stab)：0.0～6.0 *分葉核球(Seg)：32.0～73.0 好中球(Neut)：40.0～74.0 好酸球(Eosino)：0.0～6.0 好塩基球(Baso)：0.0～2.0 単球(Mono)：0.0～8.0 リンパ球(Lym)：18.0～59.0 (%)	凍 溶 溶血・凝固・凍結検体は避けてください。 採血後直ちに4～5回軽く転倒混和して冷蔵保存してください。 (注1)採血直後、直ちに転倒混和してください。転倒混和が不充分であったり、転倒混和するまで時間を要すると血液の部分凝固や目視では確認できないレベルの血液凝固が生じるため、検査結果に影響を及ぼします。
	0853 4 000705445	鼻汁中好酸球 2A300-0000-063-604	鼻汁塗抹標本 2～3枚	Z10	室温	2～4	15 ※3	メイ・グリュンワルド・ギムザ染色法による鏡検法	(－)	

❶「末梢血液一般検査」は、赤血球数、白血球数、血色素測定(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。
❷同一検体について、「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
❸「末梢血液像(自動機械法)」、「末梢血液像(鏡検法)」及び「骨髄像」の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶関連検査	P154 5 000751703	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT) 2B020-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	1～2	29 ※3	凝固時間測定法	24.3～36.0 (秒)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	P185 1 000741703	緊急 プロトロンビン時間(PT) 2B030-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	1～2	18 ※3	凝固時間測定法	秒 10.5～13.5 (秒) % 70～130 (%) 比 0.85～1.15	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比(INR)もご報告いたします。
	P155 4 000781703	フィブリノゲン(FIB) 2B100-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	1～2	23 ※3	凝固時間測定法	150～400 (mg/dL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	0095 6 003410709	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC) 2B110-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	93 ※3	LPIA	7未満 陰性 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	8558 4 018440703	フィブリンモノマー複合体定量 2B110-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❶❷ 215 ※3	ラテックス免疫比濁法	6.1以下 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4099 8 000790703	FDP定量 2B120-0000-022-062 2B120-0000-001-062	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	95 ※3	ラテックス免疫比濁法	4以下 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4738 8 000790721		部分尿 0.5	U90 ↓ A00		2～6	77 ※1	LPIA	100以下 (ng/mL)	新鮮尿を専用容器(U90)に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。 &1
	B143 1 017840703	Dダイマー 2B140-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	127 ※3	ラテックス免疫比濁法	1.0未満 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	0176 6 019650803	プロトロンビンフラグメントF1+2 2B170-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～5	❷ 192 ※3	ELISA	69～229 (pmol/L)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4122 1 014396403	アンチトロンビン(AT) 2B200-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	2～4	70 ※3	発色性合成基質法	79～121 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	A258 5 003470609	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT) 2B210-0000-022-052	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❷ 166 ※3	CLEIA	3.0以下 (ng/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4119 5 014546403	プラスミノーゲン 2B260-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	2～4	100 ※3	発色性合成基質法	75～125 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4120 3 011366403	アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター) 2B270-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	2～4	128 ※3	発色性合成基質法	85～115 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4133 9 018250703	α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト) 2B280-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	150 ※3	LPIA	0.8以下 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4166 3 015940703	トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体) 2B310-0000-022-062	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～5	240 ※3	LPIA	50以下 (ng/mL)	採血後、速やかに低温(4℃)で血漿分離してください。室温遠心や専用容器(PC5)での採血はデータが高値となるため避けてください。 速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に血漿分離してください。 測定対象はトータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体および活性型、潜在型PAI-1)です。 &1

❶「フィブリンモノマー複合体」は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓塞栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。
❷「トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)」、「プロトロンビンフラグメントF1+2」及び「フィブリンモノマー複合体」のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

Z10 旧容器記号 t

[オブジェクトケース]
プレパラート
(スライドグラス)
貯蔵方法　室温

PC2 旧容器記号 K

3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
(25本入りプラスティック
ケース開封後1ヵ月)

U90 旧容器記号 b2

抗プラスミン剤入り
内容
アプロチニン
精製ゼラチン
デヒドロ酢酸
ナトリウム
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 2年
(アルミ包装
開封後1週間)

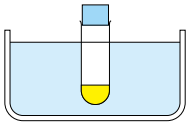
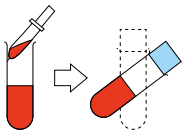
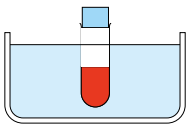
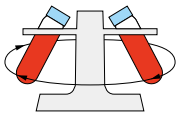
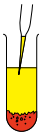
凝固・線溶関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶関連検査	A302 5 003556403	凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕 2B390-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 各 0.3	PC2 ↓ A00	凍結(7日)	2～6	223 ※3	合成基質法	60～140 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	A303 4 003566403	第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕 2B400-0000-022-315			凍結(28日)		223 ※3			
	4104 1 013611703	第Ⅱ因子(F2) 2B350-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 0.4		凍結(21日)	2～4	223 ※3	凝固時間法	75～135 (%)	
	4105 0 013621703	第Ⅴ因子(F5) 2B370-0000-022-311					223 ※3		70～135 (%)	
	4107 8 013631703	第Ⅶ因子(F7) 2B380-0000-022-311					223 ※3		75～140 (%)	
	4108 7 013641703	第Ⅷ因子(F8) 2B390-0000-022-311					223 ※3		60～150 (%)	
	4109 6 013651703	第Ⅸ因子(F9) 2B400-0000-022-311					223 ※3		70～130 (%)	
	4110 4 013661703	第Ⅹ因子(F10) 2B410-0000-022-311					223 ※3			
	4111 3 013671703	第Ⅺ因子(F11) 2B420-0000-022-311					223 ※3		75～145 (%)	
	4112 2 013681703	第Ⅻ因子(F12) 2B430-0000-022-311					223 ※3		50～150 (%)	
	4113 1 011376403	第XIII因子(F13) 2B440-0000-022-315					223 ※3	合成基質法	70～140 (%)	&1
	B534 7	フォン・ウィルブランド因子抗原定量 2B450-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結(21日)	2～4	147 ※3	ラテックス免疫比濁法	非O型:66～176 O型:42～141 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4114 0 013601703	凝固因子抑制検査 第Ⅷ(8)因子 2B460-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 1.0	PC5 ↓ A00	凍結	2～4	144 ※3	ベセスダ法	検出せず (ベセスダU/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4115 9 018021703	第Ⅸ(9)因子 2B470-0000-022-311			凍結(21日)		144 ※3			
	A678 9	フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター) 2B480-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結(21日)	2～4	126 ※3	ラテックス免疫比濁法	非O型:61～240 O型:48～202 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	B105 3 00372A203	フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析 2B490-0000-022-233	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結(1ヵ月)	7～11		SDS アガロースゲル電気泳動法	NORMALパターン	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	A092 9 003790809	ADAMTS13-活性 2B495-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結(28日)	2～5	❶ 400 ※3	ELISA	0.10以上 (IU/mL) 10以上 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の判定基準：0.10未満(IU/mL)、10未満(%) 参考基準範囲：0.78～1.57 IU/mL &1
	A091 0 022050809	ADAMTS13インヒビター 2B496-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.6	PC2 ↓ A00	凍結(28日)	2～5	❷ 1000 ※3	ELISA	0.5未満 (BU/mL) 陰性	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 後天性血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の判定基準：0.5以上(BU/mL)陽性 &1

❶ADAMTS13活性
ア「ADAMTS13活性」は、他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
イ 血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
ウ 血栓性血小板減少性紫斑病に対し、血漿交換療法、免疫抑制療法及びカプラシズマブ製剤による治療を行った際に治療の継続の要否を判定することを目的として測定を行った場合、30日間を超えた場合でも、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷ADAMTS13インヒビター
ア「ADAMTS13インヒビター」は、ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
イ 後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶関連検査	4101 4 013570803	β-トロンボグロブリン (β-TG) 2B600-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	PBT ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	2～9	171 ※3	EIA	50以下 (ng/mL)	検体採取方法は下記をご参照ください。 &1
	4102 3 012770803	血小板第4因子 (PF-4) 2B620-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	PBT ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	2～9	173 ※3	EIA	20以下 (ng/mL)	検体採取方法は下記をご参照ください。 &1

容器形態	検査項目	保存	採取方法		注意事項
PBT 旧容器記号 Q (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 製造から 1年	β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器(PBT)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ(19～21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(PBT)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
				針を取って静かに専用容器(PBT)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子 (PF-4)			砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) ＊遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心機のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換算表
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。 (1ヵ月安定)	

半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)
10	4200	22	2800
12	3800	24	2700
14	3500	26	2600
16	3300	28	2500
18	3100	30	2400
20	3000		

PC2 旧容器記号 K

3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
(25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)

PC5 旧容器記号 L

3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量4.5mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.5mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
(25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)

凝固・線溶関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
凝固・線溶関連検査	4138 4 017830703	プロテインC（抗原量） 2B700-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結	2～5	220 ※3	LPIA	70～150 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	4139 3 018131703	プロテインC活性 2B700-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結	2～4	227 ※3	凝固時間法	64～146 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	8540 3 012440803	プロテインS（抗原量） 2B710-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	152 ※3	ラテックス凝集反応	M 73～137 F 59～143 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。測定対象はトータル（遊離型および複合体型）です。 &1
	4152 8 015401703	プロテインS活性 2B710-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結	2～4	163 ※3	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	9767 1 019370703	プロテインS（遊離型抗原量） 2B711-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	152 ※3	ラテックス凝集反応	M 50～131 F 49～133 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
	A865 1 003780602	トロンボモジュリン 2B730-0000-023-052 2B730-0000-022-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❶ 204 ※3	CLEIA	12.1～24.9 (U/mL)	&1
	A866 0 003780603		速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00			❶ 204 ※3		8.7～22.7 (U/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1

❶「トロンボモジュリン」は、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
視床下部・下垂体ホルモン	3002 5	成長ホルモン(GH) 4A010-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	104 ※5	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13～9.88 (ng/mL)	&1
	B355 6	IGF-1 (ソマトメジンC) SDスコア 4A015-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (7日)	2～4	❶ 212 ※5	ECLIA	下記参照	年齢および性別を明記してください。 &1
	3005 2	プロラクチン 4A020-0000-023-053	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	98 ※5	ECLIA	男性 4.29～13.69 閉経前女性 4.91～29.32 閉経後女性 3.12～15.39 (ng/mL)	&1
	4002 4	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) 4A025-0000-022-053	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2,PN5 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	184 ※5	ECLIA	午前7時～10時 7.2～63.3 (pg/mL)	溶 ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。採血後、速やかに血漿分離してください。 &1
	6760 1	黄体形成ホルモン (LH) 4A030-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	105 ※5	CLIA	下記参照	性別を明記してください。 &1
	6761 0	卵胞刺激ホルモン (FSH) 4A035-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	105 ※5	CLIA	下記参照	性別を明記してください。 &1
	A477 2	甲状腺刺激ホルモン (TSH)〔CLEIA〕IFCC 4A056-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	1～2	98 ※5	CLEIA	0.61～4.23 (μIU/mL)	
	A208 0	抗利尿ホルモン (AVP) 4A070-0000-022-001	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00	凍結	5～7	224 ※5	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 (pg/mL)	溶 採血後、速やかに血漿分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 &1

❶「インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)」を「ソマトメジンC」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[A2828]IGF-1（ソマトメジンC)SDスコア　年齢別・性別における基準値

(単位：ng/mL)

年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性
0	11～149	15～154	27	116～322	141～328	54	84～239	76～211
1	14～148	23～186	28	114～315	137～320	55	84～238	75～210
2	18～154	32～213	29	111～309	133～312	56	83～237	74～208
3	24～164	40～227	30	109～303	129～304	57	82～236	73～207
4	32～176	48～238	31	107～297	126～297	58	81～235	72～205
5	44～193	56～252	32	105～292	122～290	59	80～233	71～203
6	55～215	69～287	33	103～287	119～283	60	79～232	70～201
7	63～247	89～357	34	102～283	115～277	61	77～230	69～198
8	72～292	111～438	35	100～279	112～271	62	76～228	68～196
9	84～350	133～517	36	99～275	109～265	63	75～226	66～194
10	99～423	155～588	37	97～272	106～260	64	73～224	65～191
11	113～499	175～638	38	96～269	103～254	65	72～221	64～188
12	125～557	188～654	39	95～266	100～250	66	70～219	62～186
13	133～579	193～643	40	94～263	98～245	67	68～216	61～183
14	138～570	193～625	41	94～261	95～240	68	66～213	60～180
15	141～552	192～611	42	93～259	93～236	69	65～209	59～177
16	142～543	192～611	43	92～257	90～233	70	63～206	57～175
17	142～540	191～599	44	92～255	88～229	71	61～202	56～172
18	142～526	188～574	45	91～253	87～226	72	58～198	55～170
19	143～501	182～539	46	90～250	85～224	73	56～194	54～167
20	142～470	175～499	47	90～250	83～221	74	54～190	53～165
21	139～436	168～459	48	89～248	82～219	75	52～185	52～163
22	135～405	161～425	49	88～246	81～218	76	50～181	50～160
23	131～379	155～397	50	87～245	80～216	77	48～177	49～158
24	128～356	151～375	51	87～243	79～215	78	45～172	48～155
25	125～337	147～358	52	86～242	78～213	79	43～167	44～152
26	119～329	146～336	53	85～240	77～212	80以上	41～163	43～149

[6760 1]黄体形成ホルモン(LH)基準値

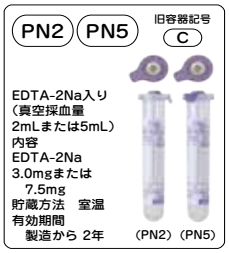
(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	1.76～ 10.24
	排卵期	2.19～ 88.33
	黄体期	1.13～ 14.22
	閉経後	5.72～ 64.31
男性		0.79～ 5.72

[6761 0]卵胞刺激ホルモン(FSH)基準値

(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	3.01～ 14.72
	排卵期	3.21～ 16.60
	黄体期	1.47～ 8.49
	閉経後	157.79以下
男性		2.00～ 8.30



甲状腺ホルモンおよび結合蛋白／副甲状腺ホルモン

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白	A446 6 003930602	トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕 4B010-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	99 ※5	CLEIA	0.62～1.16 (ng/mL)	&1
	P183 3 00394A202	遊離トリヨードサイロニン(Free T_3) 4B015-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	121 ※5	CLEIA	2.52 ～ 4.06 (pg/mL)	
	A452 9 003960602	サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕 4B030-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	105 ※5	CLEIA	4.53～8.38 (μg/dL)	&1
	P184 2 00397A202	遊離サイロキシン(Free T_4) 4B035-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	121 ※5	CLEIA	0.75 ～ 1.45 (ng/dL)	
	A472 7 003980602	サイログロブリン〔CLEIA〕 4B040-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (23日)	2～4	128 ※5	CLEIA	35.1以下 (ng/mL)	&1
	9089 4 003990602	サイロキシン結合グロブリン(TBG) 4B045-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	130 ※5	CLEIA	14～31 (μg/mL)	&1
副甲状腺ホルモン	3154 7 001270902	副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト 4C025-0000-023-053	冷却遠心 血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	161 ※5	ECLIA	10 ～ 65 (pg/mL)	不 &1
	6475 8 020942103	副甲状腺ホルモン(Whole PTH) 4C026-0000-022-052	血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	冷蔵 (14日)	2～4	161 ※5	CLEIA	8.3～38.7 (pg/mL)	&1
	3624 5 016032103	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) 4C030-0000-022-006	冷却遠心 血漿 0.5	PAP ↓ A00	凍結 (7日)	5～7	❶ 185 ※5	RIA固相法 (IRMA)	1.1以下 (pmol/L)	不 &1
	3155 6 013931902	カルシトニン 4C035-0000-023-053	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結	2～4	127 ※5	ECLIA	M 9.52以下 F 6.40以下 (pg/mL)	速やかに血清分離後、凍結保存してください。 &1

❶「副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)」又は「副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)」は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白	3050 2 010867802	血中11-OHCS 4D035-0000-023-282	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～8	60 ※5	蛍光法 (De Moor変法)	午前10時採血 7.0～23.0 (μg/dL)	&1
	4019 6 010212003	コルチゾール 4D040-0000-022-053 4D040-0000-023-053	血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	121 ※5	ECLIA	午前6時～10時 7.07～19.6 (μg/dL)	&1
	3051 1 010212002		血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結		121 ※5			
	B793 0 004111023	尿中コルチゾール 4D045-0000-004-051	蓄尿 5	A00	冷蔵 (21日)	2～6	121 ※5	CLIA	4.3～176 (μg/day)	酸 非抱合型コルチゾールの測定となります。 &1
	3055 7 013830602	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S) 4D090-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	164 ※5	CLEIA	下記参照	性別、年齢を明記してください。 &1
	A791 3 045060802	17α－ヒドロキシプロゲステロン(生後4ヵ月以下) 4F050-0000-023-021	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	3～9	❶ 213 ※5	ELISA	2.3以下(参考値) (ng/mL)	ご依頼の際には必ず年齢(0歳児は月齢)を明記してください。 生後4ヵ月以下の検体は、交差性の影響を避けるため前処理(抽出操作)が必要ですので、本項目にてご依頼ください。 生後5ヵ月以上の検体は前処理(抽出操作)が必要ありませんので、「B798 5：17α－ヒドロキシプロゲステロン(生後5ヵ月以上)」にてご依頼ください。 本項目の参考基準値は、日本人健康児0～17歳より算出しております。 &1
	B798 5 04506A102	17α－ヒドロキシプロゲステロン(生後5ヵ月以上) 4F050-0000-023-021	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	3～9	❶ 213 ※5	ELISA	2.3以下(参考値) (ng/mL)	ご依頼の際には必ず年齢(0歳児は月齢)を明記してください。 生後5ヵ月以上の検体は前処理(抽出操作)が必要ありませんので、本項目にてご依頼ください。 生後4ヵ月以下の検体は、交差性の影響を避けるため前処理(抽出操作)が必要ですので、「A791 3：17α－ヒドロキシプロゲステロン(生後4ヵ月以下)」にてご依頼ください。 本項目の参考基準値は、日本人健康児0～17歳より算出しております。 &1

❶「17α－ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)」は、先天性副腎皮質過形成症の診断又は治療効果判定のために行った場合に算定する。

[3055 7]デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値

(単位：μg/dL)

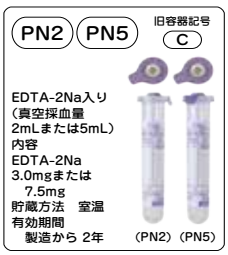
年齢(歳)	男　性	女　性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71～	5～253	7～177

副腎髄質ホルモン

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎髄質ホルモン	4504 7 010791423	カテコールアミン総 4E010-0000-004-204	酸性蓄尿 2	U00	冷蔵 (28日)	4～6	184 ※5	HPLC	52.0～195.3 (μg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &1
	4710 8 012281403	カテコールアミン3分画 〔A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン〕 4E016-0000-022-204 4E016-0000-041-204 4E016-0000-004-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	4～6	161 ※5	HPLC	アドレナリン 100以下 ノルアドレナリン 100～450 ドーパミン 20以下 (pg/mL)	&1
			髄液 1.5	A00	凍結		161 ※5		(pg/mL)	
	4508 3 012281423		酸性蓄尿 2	U00	冷蔵 (28日)		161 ※5		アドレナリン 3.4～26.9 ノルアドレナリン 48.6～168.4 ドーパミン 365.0～961.5 (μg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &1
	A299 0 00428A423	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿 2	U00	冷蔵 (28日)	4～6	❶ 220 ※5	LC/MS/MS	メタネフリン 0.04～0.19 ノルメタネフリン 0.09～0.33 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 メタネフリン総(mg/day)も報告いたします。 &1
	4018 7 014511403	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00	凍結	5～18		HPLC	1.2～2.2 (ng/mL)	&1
	4014 1 010801403	ドーパミン総 4E050-0000-022-204 4E050-0000-041-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00	凍結	5～18		HPLC	1.8～7.7 (ng/mL)	&1
	7608 9 010801429		髄液 1.5	A00					(ng/mL)	

❶「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎髄質ホルモン	4017 8 013521403	HVA	血漿 1.5	PN7 ↓ A00	冷蔵 (21日)	4～6	69 ※5	HPLC	4.4～15.1 (ng/mL)	&1
	7603 4 013521429		髄液 1.5	A00			69 ※5		(ng/mL)	
	4514 6 013521423	4E055-0000-022-204 4E055-0000-041-204 4E055-0000-004-204	酸性蓄尿 1.5	U00	冷蔵 (28日)	4～5	69 ※5		2.1～6.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &1
	4016 9 013531403	VMA	血漿 1.5	PN7 ↓ A00	冷蔵 (21日)	4～6	90 ※5	HPLC	3.3～8.6 (ng/mL)	&1
	4513 7 013531423	4E060-0000-022-204 4E060-0000-004-204	酸性蓄尿 1.5	U00	冷蔵 (28日)	3～5	90 ※5		1.5～4.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &1
	4506 5 010871401	セロトニン	血液 1.0 (EDTA-2Na加)	PN2、PN5 ↓ A00	凍結	3～16		HPLC	57～230 (ng/mL)	(検体のご提出について)血液はポリスピッツに移し替え必ず凍結保存にてご提出ください。 &1
	4010 5 010871403	4E065-0000-019-204 4E065-0000-022-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00					P(血漿) 0.04～0.35 PRP(多血小板血漿) 0.17～0.62 (μg/mL)	P:低温(4℃)で1500rpm 10分間血漿分離 PRP:低温(4℃)で900rpm 20分間血漿分離 &1
	4015 0 013541403	5-HIAA	血漿 1.5	PN7 ↓ A00	冷蔵 (25日)	4～6	95 ※5	HPLC	1.8～6.1 (ng/mL)	&1
	7601 6 013541429		髄液 1.5	A00			95 ※5		(ng/mL)	
	4512 8 010821423	4E070-0000-022-204 4E070-0000-041-204 4E070-0000-004-204	酸性蓄尿 0.5	U00	冷蔵 (28日)	3～5	95 ※5		1.0～6.0 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &1



性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白	A256 7 00438A702	エストラジオール(E_2) 4F025-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 167 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &1
	3079 1 013760902	プロゲステロン 4F045-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	139 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &1
	4545 2 013876723	プレグナンジオール 4F055-0000-004-203	蓄尿 12	U20	冷蔵 (28日)	5～7	213 ※5	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 &1
	4546 1 013886723	プレグナントリオール 4F060-0000-004-203	蓄尿 12	U20	冷蔵 (28日)	5～7	232 ※5	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 &1
	3081 8 013890902	テストステロン 4F065-0000-023-053	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	119 ※5	ECLIA	M 1.31～8.71 F 0.11～0.47 (ng/mL)	性別を明記してください。
	A221 5 01857A102	フリーテストステロン〔RIA〕 4F070-0000-023-005	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結	2～6	156 ※5	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。性別、年齢を明記してください。 &1
	B889 4	絨毛性ゴナドトロピン(βHCG) 4F080-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (34日)	2～4	❷ 130 ※5	CLEIA	4.0以下 (mIU/mL)	トータルのHCGを測定しています。抗体はHCG-βを認識しています。絨毛性疾患の診断、予後管理に有用です。絨毛性疾患取り扱い規約 第3版 2011年(日本産科婦人科学会/日本病理学会)における推奨方法です。 &1
	C908 1 00449A102	遊離HCG-β(HCG-βサブユニット) 4F090-0000-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❷❸ 129 ※5	CLIA	1.00未満 (ng/mL)	&1
	9247 8 00451A202	抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕 4F100-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❹ 597 ※5	CLEIA	下記参照	&1

❶「エストロゲン半定量」又は「エストロゲン定量」については、「エストリオール(E_3)」又は「エストラジオール(E_2)」と同時に実施した場合は算定できない。
❷「ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量」又は「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
❸「ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)」は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。
❹「抗ミュラー管ホルモン(AMH)」は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法又はECLIA法により測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

[A256 7]エストラジオール(E_2)基準値

(単位：pg/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	28.8～196.8
		排卵期	36.4～525.9
		黄体期	44.1～491.9
		閉経後	47.0以下
	男性		14.6～48.8
妊婦	妊娠初期		208.5～4289
	妊娠中期		2808～28700
	妊娠後期		9875～31800

[3079 1]プロゲステロン基準値

(単位：ng/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	0.28以下
		排卵期	5.69以下
		黄体期	2.05～24.2
		閉経後	0.33以下
	男性		0.22以下
妊婦	妊娠初期(4～13週)		13.0～51.8
	妊娠中期(14～27週)		24.3～82.0
	妊娠後期(28～38週)		63.5～174

[4545 2]プレグナンジオール基準値

(単位：mg/day)

非妊婦	卵胞期	0.28 ～ 1.42
	黄体期	0.79 ～ 6.83
男性		0.16 ～ 0.79
妊婦	前期	1.29 ～ 6.08
	中期	3.05 ～ 24.22
	後期	9.10 ～ 60.51

[4546 1]プレグナントリオール基準値

(単位：mg/day)

女性	卵胞期	0.13 ～ 1.30
	分泌期	0.13 ～ 1.90
	閉経後	0.02 ～ 0.83
男性		0.13 ～ 1.60

[A221 5]フリーテストステロン〔RIA〕年齢別・性別における基準値(メーカー参考値)

(単位：pg/mL)

年齢	男性	女性
20 ～ 29	7.6 ～ 23.8	0.4 ～ 2.3
30 ～ 39	6.5 ～ 17.7	0.6 ～ 2.5
40 ～ 49	4.7 ～ 21.6	0.3 ～ 1.8
50 ～ 59	4.6 ～ 19.6	0.8 ～ 1.7
60 ～ 69	5.3 ～ 11.5	
70以上	4.6 ～ 16.9	

[9247 8]抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕基準値

(単位：ng/mL)

女性	22 ～ 25歳	0.28 ～ 8.01
	26 ～ 30歳	0.29 ～ 12.2
	31 ～ 35歳	0.07 ～ 10.0
	36 ～ 40歳	9.23以下
	41 ～ 45歳	4.48以下

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)カットオフ値

(単位：ng/mL)

女性	20 ～ 29歳	4.40
	30 ～ 39歳	3.10

※「多嚢胞性卵巣症候群に関する全国症例調査の結果と本邦における新しい診断基準(2024)」によるカットオフ値です。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
膵・消化管ホルモン	P190 5 001280602	インスリン 4G010-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	100 ※5	CLEIA	負荷前 1.84～12.2 (μIU/mL)	溶
	3033 1 001290602	C-ペプチド(CPR) 4G020-0000-023-052 4G020-0000-004-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 105 ※5	CLEIA	負荷前 0.61～2.09 (ng/mL)	&1
	4503 8 001290623		蓄尿 1	U00	凍結 (20日)	2～4	❶ 105 ※5		29.2～167 (μg/day)	重 酸 蓄尿は冷蔵保管しながら行うかあらかじめ専用保存剤を蓄尿容器に一袋全量(10g/袋 最終濃度約0.5%)を入れて蓄尿を行ってください。他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	B949 7	膵グルカゴン 4G030-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PAP ↓ A00	凍結 (28日)	5～11	150 ※5	ELISA	空腹時 8.8～45.2 (pg/mL)	重 溶 指定の容器(PAP)に採血し、よく混和させ、1時間以内に低温(4℃)で血漿分離し、ただちに凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。溶血でのご依頼は避けてください。 &1

❶「C-ペプチド(CPR)」を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

内分泌学的（その他）

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
内分泌学的（その他）	9073 1	アルドステロン〔CLEIA〕 4D115-0000-022-052 4D115-0000-023-052 4D115-0000-004-052	血漿 0.5	PN2、PN5 ⬇ A00	凍結 (21日)	2～4	122 ※5	CLEIA	4.0 ～ 82.1 (pg/mL)	下記参照*1 &1
	9039 9		血清 0.5	S09 ⬇ A00			122 ※5			
	A730 0		蓄尿 1.5	A00		5～7	122 ※5		1.0～19.3 (μg/day)	蓄尿剤として塩酸およびC-ペプチド安定化剤を使用しないでください。 &1
	9040 7	レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕 4Z020-0000-022-052 4Z020-0000-023-052	血漿 0.5	PN2、PN5 ⬇ A00	凍結 (21日)	2～4	❶ 102 ※5	CLEIA	2.21～39.5 (pg/mL)	下記参照*2 &1
	C975 7		血清 0.5	S09 ⬇ A00						
	A719 3	レニン活性(PRA)〔EIA〕 4Z010-0000-022-021	冷却遠心 血漿 0.7	PN2、PN5 ⬇ A00	凍結 (14日)	3～5	❶ 100 ※5	EIA	臥位 0.2～2.3 座位 0.2～3.9 立位 0.2～4.1 (ng/mL/hr)	下記参照*3 &1
	B687 8	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 4D122-0000-022-919 4D122-0000-023-919	血漿 1.0	PN2、PN5 ⬇ A00	凍結 (21日)	2～4	122 + 102 ※5	CLEIA	下記参照	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 下記参照*1、2 &1
	D121 3		血清 1.0	S09 ⬇ A00			122 + 102 ※5			
	B691 3	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 4D120-0000-022-919	冷却遠心 血漿 1.2	PN2、PN5 ⬇ A00	凍結 (14日)	3～5	122 + 100 ※5	アルドステロン：CLEIA レニン活性：EIA	下記参照	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 下記参照*1、3 &1

❶「レニン活性」と「レニン定量」を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

＊1：「9073 1：アルドステロン〔CLEIA〕」、「B687 8：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比」、「B691 3：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比」は同時依頼はできません。
＊2：「9040 7：レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕」、「B687 8：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比」は同時依頼はできません。
＊3：「A719 3：レニン活性(PRA)〔EIA〕」、「B691 3：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比」は同時依頼はできません。

[9073 1、9039 9]アルドステロン〔CLEIA〕
[9040 7]レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕 の留意事項

・採血時間は午前が推奨されています。
・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。
・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

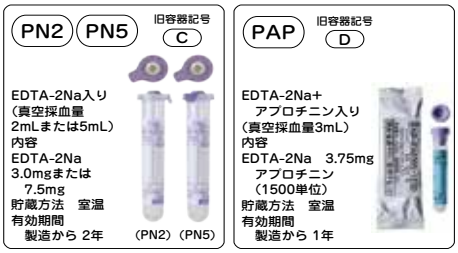
[B687 8]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比
[B691 3]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 の留意事項

・採血条件は早朝空腹時の安静臥位後が望ましいが、スクリーニングでは随時座位で行って良い、とされています。
・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

[B687 8]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比
[B691 3]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 基準値

アルドステロン〔CLEIA〕	(pg/mL)	4.0 ～ 82.1
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	(pg/mL)	2.21 ～ 39.5
レニン活性(PRA)〔EIA〕	(ng/mL/hr)	臥位 0.2 ～ 2.3 座位 0.2 ～ 3.9 立位 0.2 ～ 4.1
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比		20未満
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比		100未満

※陽性判定は、濃度比≧40または活性比≧200かつ血漿アルドステロン濃度≧60 pg/mLです。
　ただし、「ARR境界域」の濃度比20 ～ 40未満または活性比100 ～ 200未満かつ血漿アルドステロン濃度≧60 pg/mLの場合には、暫定的に陽性とされます。
※暫定的に陽性の場合、患者ニーズと臨床所見、特に低カリウム血症や副腎腫瘍の有無、年齢などを考慮して、機能確認検査実施の要否を個別に検討する、とされています。



	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
内分泌学的（その他）	4035 8 01016A103	サイクリックAMP 4Z255-0000-022-004 4Z255-0000-004-004	冷却遠心 血漿 0.3	PN2, PN5 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	事前にご確認ください	161 ※5	RIA DCC法	11～21 （pmol/mL）	（蓄尿）トルエン1～2mLを入れて冷暗所にて24時間蓄尿し、よく混和し必要量をご提出ください。 &1
	4558 8 01016A123		蓄尿 1	U00	凍結		161 ※5		1.8～6.3 （μmol/day）	
	4033 0 011550603	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド（HANP） 4Z270-0000-022-052	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PAP ⬇ A00	凍結（21日）	2～4	❶ 221 ※5	CLEIA	43.0以下 （pg/mL）	溶 &1
	4263 5 016210603	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP） 4Z271-0000-022-052	速やかに遠心 血漿 0.5	PN2, PN5 ⬇ A00	凍結	1～2	❶❷ 130 ※5	CLEIA	18.4以下 （pg/mL）	溶 採血後、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離し、速やかに凍結保存してください。
	P265 2 001300902	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP） 4Z272-0000-023-053	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶❷ 136 ※5	ECLIA	125以下 （pg/mL）	125pg/mLは心不全除外カットオフ値です。
	3171 8 011640602	エリスロポエチン 4Z275-0000-023-052	血清 0.8	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	2～4	209 ※5	CLEIA	4.2～23.7 （mIU/mL）	&1
	A220 6 018200902	オステオカルシン 4Z280-0000-023-053	血清 0.3	S09 ⬇ A00	凍結	2～4	❸ 153 ※5	ECLIA	閉経前女性 7.8～30.8 閉経後女性 14.2～54.8 男性 8.4～33.1（ng/mL）	溶 &1
	E779 3 019860902	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC） 4Z282-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（21日）	2～4	150 ※5	ECLIA	4.50未満 （ng/mL）	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &1
	3795 6 015060802	肝細胞増殖因子（HGF） 4Z315-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	2～8	227 ※4	ELISA	0.39以下 （ng/mL）	&1
	A297 2 044020602	FGF23〔CLEIA〕 4Z323-0000-023-052	血清 0.4	S09 ⬇ A00	凍結（21日）	4～10	❹ 788 ※4	CLEIA	19.9～52.9 （pg/mL）	トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値は30pg/mL以上です。 &1
	B607 6 004830802	レプチン〔ELISA〕 4Z400-0000-023-023	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（7日）	事前にご確認ください	❺ 1000 ※6	ELISA	M 0.6～8.9 F 1.9～26.6 （ng/mL）	採血後、速やかに血清分離してください。 全身性脂肪萎縮症におけるカットオフ値は男性0.6ng/mL未満、女性1.9ng/mL未満です。 &1
	A514 0 044990902	sFlt-1/PlGF比 4Z335-0000-023-053	血清 0.7	S09 ⬇ A00	冷蔵（7日）	2～6	❻❼ 340 ※5	ECLIA	38.0以下	&1

❶「脳性Na利尿ペプチド（BNP）」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）」及び「心房性Na利尿ペプチド（ANP）」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
❷「脳性Na利尿ペプチド（BNP）」と「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）」は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
❸「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）」、「オステオカルシン（OC）」又は「デオキシピリジノリン（DPD）（尿）」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
❹「FGF23」は、CLEIA法により、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時又は治療効果判定時に測定した場合に限り算定できる。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に1回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に1回を限度として算定する。
❺「レプチン」は、脂肪萎縮、食欲亢進、インスリン抵抗性、糖尿病及び脂質異常症のいずれも有する患者に対して、全身性脂肪萎縮症の診断の補助を目的として、ELISA法により測定した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
❻「sFlt-1/PlGF比」は、妊娠18週から36週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか1つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき1回に限り算定できる。なお、リスク因子を2つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できない。
（イ）収縮期血圧が130mmHg以上又は拡張期血圧80mmHg以上
（ロ）蛋白尿
（ハ）妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状又は検査所見
（ニ）子宮内胎児発育遅延
（ホ）子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見
❼「sFlt-1/PlGF比」を算定する場合は、❻のリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。また、❻の（ハ）又は（ホ）に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載すること。なお、医学的な必要性から、リスク因子を2つ以上有する妊婦において算定する場合、又は一連の妊娠につき2回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[A514 0]sFlt-1/PlGF比 妊娠高血圧腎症（PE）発症予測のカットオフ値（試薬添付文書より）

●sFlt-1/PlGF比≦38：1週間以内のPEの非発症予測
●sFlt-1/PlGF比＞38：4週間以内のPEの発症予測

腫瘍関連抗原

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連抗原	P261 6 001090602	癌胎児性抗原(CEA) 5D010-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶ 99 ※5 腫2	CLEIA	5.0以下 (ng/mL)	
	P262 5 001100602	α-フェトプロテイン定量 5D015-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	98 ※5 腫2	CLEIA	10.0以下 (ng/mL)	
	3129 5 018590802	塩基性フェトプロテイン(BFP) 5D025-0000-023-023	速やかに遠心 血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	2～8	150 ※5 腫2	EIA	75未満 (ng/mL)	溶 採血後、2時間以内に血清分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。&1
	A255 8 042591002	ヒト精巣上体タンパク4(HE4) 5D110-0000-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	200 ※5 腫2	CLIA	閉経前女性 70.0以下 閉経後女性 140以下 (pmol/L)	&1
	P264 3 001150602	CA125 5D100-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❷ 136 ※5 腫2	CLEIA	35.0以下 (U/mL)	
	3115 0 001140602	CA15-3 5D120-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❸ 112 ※5 腫2	CLEIA	25.0以下 (U/mL)	&1
	3116 9 010080802	BCA225 5D125-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	158 ※5 腫2	CLEIA	160未満 (U/mL)	&1
	P263 4 001120602	CA19-9 5D130-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	121 ※5 腫2	CLEIA	37.0以下 (U/mL)	
	3012 4 018500902	CA72-4 5D150-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	146 ※5 腫2	ECLIA	10.0以下 (U/mL)	&1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(49ページ参照)

❶「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」と、「癌胎児性抗原(CEA)」、「DUPAN-2」又は「SPan-1」を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
❷「CA125」及び「CA602」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

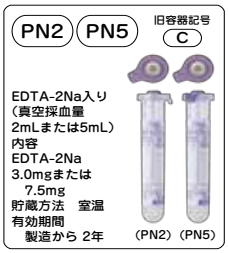
	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連抗原	3448 1 021290802	CA54/61 5D155-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	4~17	184 ※5 腫2	ELISA	12以下 (U/mL)	&1
	3108 8 018230802	DUPAN-2 5D170-0000-023-023	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	❶ 115 ※5 腫2	EIA	150以下 (U/mL)	&1
	C878 5 039500803	APOA2 アイソフォーム 3F186-0000-022-023 3F186-0000-023-023	血漿 0.3	PN2、PN5 ↓ A00	冷蔵	5~7	❶❷ ❸ 335 ※5 腫2	ELISA	APOA2-i Index 59.5以上 (μg/mL)	&1
	C953 1 039500802		血清 0.3	S09 ↓ A00						
	3117 8 018152102	シアリルLe^{x}-i抗原(SLX) 5D175-0000-023-006	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	140 ※5 腫2	RIA固相法 (IRMA)	38以下 (U/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &1
	3065 6 015260802	シアリルLe^{x}抗原 (CSLEX) 5D177-0000-023-023	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2~8	❹ 152 ※5 腫2	EIA	8.0未満 (U/mL)	&1
	3114 1 018170802	NCC-ST-439 5D200-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	112 ※5 腫2	EIA	女性 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 男性 4.5未満 (U/mL)	&1
	3113 2 018682102	SPan-1 5D220-0000-023-006	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	❶ 144 ※5 腫2	RIA固相法 (IRMA)	30以下 (U/mL)	&1
	3126 8 011501002	SCC 5D300-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	101 ※5 腫2	CLEIA	2.5以下 (ng/mL)	唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには充分にご注意ください。 &1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(49ページ参照)

❶「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」と、「癌胎児性抗原(CEA)」、「DUPAN-2」又は「SPan-1」を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
❷「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」は、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して、膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法により測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(イ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。
(ロ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。
(ハ)関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。
❸「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」を❷の(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、❷の(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)
ア「シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)」は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
イ「シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

[C878 5、C953 1] APOA2アイソフォームの結果形式について

APOA2-ATが3.25未満、APOA2-TQが5.75未満のいずれか、もしくは両方を満たす場合、APOA2-i Indexは0.0となります。



腫瘍関連抗原

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連抗原	P181 5 888790000	前立腺特異抗原(PSA) 5D305-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶❷ 121 ※5 腫2	CLEIA	4.00以下 (ng/mL)	
	A061 3 00523A102	PSA F/T比 5D308-0000-023-052	血清 0.8	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❷❸ 150 ※5 腫2	CLEIA	25 (PSA4.00～10.0ng/mLにおけるカットオフ値) (%)	本項目は、PSAとフリー PSAの測定結果も併せてご報告いたします。(基準値について)25%はPSA4.00～10.0ng/mLにおける前立腺癌と非癌(前立腺肥大症等)との判別に用いるカットオフ値です。(低値ほど前立腺癌の確率が高くなります)。 &1
	3121 3 017810802	γ-セミノプロテイン(γ-Sm) 5D310-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	187 ※5 腫2	CLEIA	4.0以下 (ng/mL)	(基準値について)4.0 ng/mLは良性疾患との鑑別値です。 &1
	3797 4 016050602	シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント) 5D325-0000-023-052	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❹ 154 ※5 腫2	CLEIA	3.5以下 (ng/mL)	検体の混和・攪拌により低値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いにはご注意ください。 &1
	7874 4 014991402	5-S-システイニルドーパ(5-S-CD) 5D350-0000-023-204	血清 1.0	S09 ↓ A00	凍結	3～7		HPLC	1.5～8.0 (nmol/L)	&1
	3127 7 001160902	NSE(神経特異エノラーゼ) 5D410-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❺ 142 ※5 腫2	ECLIA	16.3以下 (ng/mL)	溶 採血後、1時間以内に血清分離し冷蔵保存してください。溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります。) &1
	8608 8 001170902	PIVKA-Ⅱ 5D520-0000-023-052 5D520-0000-022-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	131 ※5 腫2	CLEIA	40未満 (mAU/mL)	&1
	4043 9 001170903		血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00			131 ※5 腫2			
	3664 1 016400603	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) 5D550-0000-022-052	血漿 0.4	PN2、PN5 ↓ A00	凍結	2～4	❺ 175 ※5 腫2	CLEIA	81未満 (pg/mL)	&1
	E821 5 019810802	血清抗p53抗体 5D560-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	163 ※5 腫2	CLEIA	1.30以下 (U/mL)	&1
	E871 0 019741002	血清 HER2タンパク 5D590-0000-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	腫2	CLIA	15.2以下 (ng/mL)	&1
	K440 2 020240602	可溶性メソテリン関連ペプチド 5D600-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	4~10	220 ※5 腫2	CLEIA	1.5未満 (nmol/L)	&1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(44ページ参照)

❶「前立腺特異抗原(PSA)」は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❷「S2,3PSA%」と、「前立腺特異抗原(PSA)」、「遊離型PSA比(PSA F/T比)」又は「プロステートヘルスインデックス(phi)」を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
❸「遊離型PSA比(PSA F/T比)」は、診療及び他の検査(前立腺特異抗原(PSA)等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
❹「サイトケラチン19 フラグメント(シフラ)」は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」を算定できる。
❺「ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)」を「神経特異エノラーゼ(NSE)」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。
悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は「特定疾患治療管理料」の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、「特定疾患治療管理料」の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」と同一月に併せて算定できない。
ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、「特定疾患治療管理料」の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
ア)急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために「エラスターゼ1」を行った場合
イ)肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、「α-フェトプロテイン(AFP)」、「PIVKA-Ⅱ半定量」又は「PIVKA-Ⅱ定量」を行った場合(月1回に限る。)
ウ)子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「CA125」又は「CA602」を行った場合(診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。)
エ)家族性大腸腺腫症の患者に対して「癌胎児性抗原(CEA)」を行った場合

悪性腫瘍特異物質治療管理料

当社で取り扱っていない検査項目も掲載しております。

	検査項目		悪性腫瘍特異物質治療管理料(同一患者月1回)	加算点(初回月)
1.測定方法が一般的なもの[(腫1)で表示]	尿中BTA		220点	
2.測定方法が精密なもの[(腫2)で表示]	α-フェトプロテイン(AFP) 癌胎児性抗原(CEA) 扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原) 組織ポリペプタイド抗原(TPA) NCC-ST-439 CA15-3 DUPAN-2 エラスターゼ1 前立腺特異抗原(PSA) CA19-9 PIVKA-Ⅱ半定量 PIVKA-Ⅱ定量 CA125 シアリルLe^{x}-i抗原(SLX) 神経特異エノラーゼ(NSE) SPan-1 CA72-4 シアリルTn抗原(STN) 塩基性フェトプロテイン(BFP) 遊離型PSA比(PSA F/T比) サイトケラチン19フラグメント(シフラ) シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)	BCA225 抗p53抗体 Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ⅠCTP) ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) CA54/61 α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%) CA602 組織因子経路インヒビター2(TFPI2) γ-セミノプロテイン(γ-Sm) ヒト精巣上体蛋白4(HE4) 可溶性メソテリン関連ペプチド S2,3PSA% プロステートヘルスインデックス(phi) 癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液) HER2蛋白 アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム 可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R) Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	1項目 360点 2項目以上 400点	150点

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	K416 9 019100802	HBVゲノタイプ 5F015-1405-023-023	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 340 ※6	EIA		HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。 &1
	A238 7 00545A304	HBV DNA定量(IU) 5F015-1441-023-862	血清 1.8	S5F	冷蔵 (28日)	3～5	❷❸ 256 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (LogIU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	P267 0	HBs抗原(HQ) 5F016-1410-023-051-32	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❹ 88 ※6	CLEIA	0.005未満 (IU/mL)	不 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	P089 8	HBs抗体(定量) 5F016-1492-023-051-01	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❹ 88 ※6	CLEIA	10.0未満 (mIU/mL)	不 (基準値について)B型肝炎ウイルス感染防御の最小HBs抗体価である10.0mIU/mLを基準に設定しています。
	C764 1 019920602	B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg) 5F020-1410-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～5	❺ 246 ※6	CLEIA	2.1未満 (LogU/mL)	&1
	A059 6 005510602	HBc抗体(IgG) 5F018-1430-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❻❼ 130 ※6	CLEIA	C.O.I. 1.0未満	不 &1
	1238 6 019461002	IgM-HBc抗体 5F018-1432-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❼ 146 ※6	CLIA	S/CO 1.00未満	不 &1
	1416 8 005540602	HBe抗原 5F019-1410-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	98 ※6	CLEIA	C.O.I. 1.0未満	不 &1
	1227 8 005550602	HBe抗体 5F019-1430-023-052	血清 0.7	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	98 ※6	CLEIA	INHIBITION 60未満 (%)	不 &1

❶「HBVジェノタイプ判定」は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
❷「HBV核酸定量」は、分岐DNAプローブ法、TMA法又はPCR法による。また、B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、「HBV核酸定量」を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
❸「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」と「HBV核酸定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❹免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に「HBs抗原」、「HBs抗体」及び「HBc抗体半定量・定量」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
❺「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原(HBcrAg)を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、「HBV核酸定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❻免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に「HBs抗原」、「HBs抗体」及び「HBc抗体半定量・定量」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
❼「HBc抗体半定量・定量」と「HBc-IgM抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。

[P267 0]HBs抗原(HQ)について

【HBV感染の診断】
B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性または陰性の検査結果のみにより行わず、HBc抗体測定、HBV-DNA定量検査等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法にご留意ください。

1.健康診断時のスクリーニング検査
できるだけ検出感度の高いEIA法／化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、充分にご留意ください。

2.緊急検査
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めいたします。

3.B型肝炎と診断された患者の経過観察検査
EIA法／化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めいたします。

(注)HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ(空白)期間」と呼ばれており、ウインドウ時に採取された血液では、HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性　能】
感度 0.005 IU/mL以上

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	E661 3 019771002	HA抗体 5F350-1430-023-051	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 146 ※6	CLIA	下記参照	不 IgG型を測定しています。 &1
	E664 0 019761002	IgM-HA抗体 5F350-1432-023-051	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 146 ※6	CLIA	下記参照	&1
	P083 4 001081002	HCV抗体(第3世代) 5F360-1518-023-052	血清 0.7	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	102 ※6	CLEIA	1.0未満 (一) (COI)	不 不活化(非働化)検体は偽陽性を呈する場合がありますので避けてください。
	3435 5 016580802	HCV群別(グルーピング) 5F360-1406-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 215 ※6	CLEIA	(グループ)	不 不活化(非働化)検体は、判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	6574 8 016767504	HCV RNA コアジェノタイプ 5F360-1405-023-867	血清 0.5	S3F S5F	冷蔵 (14日)	5～7		RT-PCR	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1

❶「HA抗体」と「HA-IgM抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
❷「HCV血清群別判定」は、EIA法により、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

肝炎ウイルス項目の判定基準

検査項目		陰性	保留	陽性
HA抗体〔CLIA〕	S/CO	1.00未満		1.00以上
IgM-HA抗体〔CLIA〕	S/CO	0.80未満	0.80～1.20	1.21以上

[P083 4]HCV抗体(第3世代)について

本検査に用いている試薬の添付文書には重要な基本的注意点として、「C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本製品による検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断すること。」が記載されております。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	E660 4 019782804	HCV RNA定量 5F360-1453-023-875	血清 1.8	S5F	冷蔵 (28日)	3～5	❶ 412 ※7	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (Log IU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	6234 5 017050602	HCV抗原(コア蛋白質) 5F360-1500-023-051	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	102 ※6	CLIA	3.0未満 (定量下限値) (fmol/L)	&1
	K568 1 020690802	IgA-HEV抗体(定性) 5F370-1433-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～5	210 ※6	EIA	陰性	&1
	3501 1 022090802	ヒトパルボウイルス B19 IgG 5F011-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4		EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	固相法 &1
	3502 0 022100802	ヒトパルボウイルス B19 IgM 5F011-1432-023-023					❷ 200 ※6			捕捉法 &1
	8522 3 020306302	ヒトパルボウイルス B19DNA 定性 5F011-1440-023-851	血清 0.7	S09 ↓ ARR	凍結 (3ヵ月)	3～5		PCR	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1

❶HCV核酸定量
ア「HCV核酸定量」は、分岐DNAプローブ法、PCR法又はTMA法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
イ 治療経過の観察の場合において、「HCV核酸検出」及び「HCV核酸定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。

[3501 1、3502 0]ヒトパルボウイルスB19 (判定基準)

判定	抗体指数
−	0.80未満
±	0.80～0.99
＋	1.00以上

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	A011 8 601702462	ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ) 5F101-1405-076-862	子宮頸部 3.0	V41	室温	2～4	❶ 347 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	HPV16型 陰性 HPV18型 陰性 その他ハイリスクグループ 陰性	重 測定対象は16型、18型、その他ハイリスクグループ(31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型および66型)です。「その他のハイリスクグループ」については、型別の判定ではありません。検体に血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますのでご注意ください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B245 8	ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定 5F101-1405-076-898	子宮頸部	V41	室温 (28日)	4～6	❷ 2000 ※7	PCR-rSSO法	陰性	重 検出可能な型は16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。本検査はあらかじめ組織診断によりCIN1またはCIN2と診断された患者から採取された検体を専用容器V41でご提出ください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けてください。&1

❶HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ア「HPV核酸検出」及び「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
イ「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

❷HPVジェノタイプ判定
ア「HPVジェノタイプ判定」は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。
イ「HPVジェノタイプ判定」は、「HPV核酸検出」及び「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。
ウ 当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
エ 同一の患者について、「HPVジェノタイプ判定」を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

[A011 8]ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)
[B245 8]ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定 について

[K968 7] 細胞診(婦人科LBC)または[L455 5] 細胞診(婦人科LBCベセスダシステム)との同時依頼のみ可能ですが、その際、細胞診の所要日数が1 ～ 2日遅れます。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	2426 6 00562A102	アデノウイルス 5F150-1430-023-141		速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6119 3 013255502	アデノウイルス	1型 5F151-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	7～20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6120 1 013265502		2型 5F152-1430-023-151								
	6121 0 013275502		3型 5F153-1430-023-151								
	6122 9 013285502		4型 5F154-1430-023-151								
	6123 8 013295502		5型 5F155-1430-023-151								
	6124 7 013305502		6型 5F156-1430-023-151								
	6125 6 013315502		7型 5F157-1430-023-151								
	6127 4 017755502		11型 5F161-1430-023-151								
	6128 3 013325502		19型 5F169-1430-023-151								
	6112 0 015865502		21型 5F171-1430-023-151								
	6129 2 018475502		37型 5F177-1430-023-151								

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

*NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6821 3 018167454	単純ヘルペスウイルス特異抗原 5F190-1420-094-161	塗抹標本2枚	V30	凍結	2～4	❶ 180 ※6	FA	単純ヘルペスウイルス1型抗原(FA) 陰性 単純ヘルペスウイルス2型抗原(FA) 陰性	塗抹標本の採取方法は㉜ページをご参照ください。 &1
	2429 3 00579A102	単純ヘルペスウイルス 5F190-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	6～7	❷ 79 ※6	CF(補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6179 7 017900802	単純ヘルペスウイルス IgG 5F190-1431-023-023 5F190-1431-041-023	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸ 200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	固相法 同時期の髄液と血清の双方を同時測定することにより、髄液中の局所産生抗体の証明が可能です。 &1
	6679 2 017900829		髄液 0.4	A00			❸ 200 ※6		0.20未満 陰性 判定基準:下記参照	
	6181 4 017910802	単純ヘルペスウイルス IgM 5F190-1432-023-023	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸ 200 ※6	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &1

❶「単純ヘルペスウイルス抗原定性」は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❸グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）
*捕捉法：髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.80未満 陰性

[6181 4]単純ヘルペスウイルスIgM
[6179 7、6679 2]単純ヘルペスウイルスIgG の判定基準

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価) 血清	IgG(EIA価) 髄液
−	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80～1.20	2.0～3.9	0.20～0.39
＋	1.21以上	4.0以上	0.40以上

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6828 6 018336301	単純ヘルペスウイルス DNA 定性 5F190-1440-019-851 5F190-1440-041-851 5F190-1440-064-851 5F190-1440-070-851	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)	3～5		PCR	陰性	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	6827 7 018336329		髄液 0.7	ARR	凍結 (3ヵ月)					
			患部ぬぐい液							
	6839 4 018336354		組織 50mg							
	1419 5 018332401	単純ヘルペスウイルス DNA定量 5F190-1441-041-862 5F190-1441-041-862	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 450 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10^{1}未満 (コピー/10^{6}cells)	重 血液:凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B503 1 018332429		髄液 0.7	ARR	凍結 (1ヵ月)		❶ 450 ※7		1.0×10^{2}未満 (コピー/mL)	
	6084 2 011745502	単純ヘルペスウイルス1型 5F191-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	6～19	❷ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) 1型、2型間には抗原交差性があります。 &1
	6085 1 011755502	単純ヘルペスウイルス2型 5F192-1430-023-151								
	A311 5 044461502	単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG 5F195-1431-023-662	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 (15日)	2～4	❸ 200 ※6	FIA	0.9未満 (AI) 判定基準:下記参照	&1

❶「単純疱疹ウイルス・水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量」は、免疫不全状態であって、単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症が強く疑われる患者を対象としてリアルタイムPCR法により測定した場合に、一連として1回のみ算定できる。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❸グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

[A311 5]単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgGの判定基準

判定	HSV-1型(抗体価※)	HSV-2型(抗体価※)
陰性(－)	0.9未満:陰性(－)	0.9未満:陰性(－)
判定保留(±)	0.9未満:陰性(－)	0.9～1.0:判定保留(±)
	0.9～1.0:判定保留(±)	0.9未満:陰性(－)
		0.9～1.0:判定保留(±)
陽性(＋)	0.9未満:陰性(－)	1.1以上:陽性(＋)
	0.9～1.0:判定保留(±)	
	1.1以上:陽性(＋)	0.9未満:陰性(－)
		0.9～1.0:判定保留(±)
		1.1以上:陽性(＋)

※メーカー設定した抗体価。単位はAI(Antibody Index)

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6824 0 013917454	水痘・帯状疱疹ウイルス抗原 5F193-1410-094-161	塗抹標本 2枚	V30	凍結	2～4	227 ※6	FA	陰性	塗抹標本の採取方法は㉜ページをご参照ください。 &1
	6000 4 00589A102	水痘・帯状疱疹ウイルス 5F193-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6171 5 017860802	水痘・帯状疱疹ウイルス IgG 5F193-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*固相法) &1
	6173 3 017870802	水痘・帯状疱疹ウイルス IgM 5F193-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &1
		水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性 5F193-1440-064-851 5F193-1440-019-851 5F193-1440-041-851	患部ぬぐい液	ARR	凍結 (3ヵ月)	3～5		PCR	陰性	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	6836 7 021076301		血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)					
	6837 6 021076329		髄液 0.7	ARR	凍結 (3ヵ月)					
	K311 5 021072401	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量 5F193-1441-019-862 5F193-1441-041-862	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	2～4	❸ 450 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10^{1}未満 (コピー/10^{6}cells)	重 血液:凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B504 0 021072429		髄液 0.7	ARR	凍結 (1ヵ月)		❸ 450 ※7		1.0×10^{2}未満 (コピー/mL)	

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。
❸「単純疱疹ウイルス・水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量」は、免疫不全状態であって、単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症が強く疑われる患者を対象としてリアルタイムPCR法により測定した場合に、一連として1回のみ算定できる。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 陰性

*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 陰性

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

[6171 5、6173 3]水痘・帯状疱疹ウイルスの判定基準

判　定	IgG(EIA価)	IgM(抗体指数)
−	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
+	4.0以上	1.21以上

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6745 8 014883701	曜日指定 サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP) 5F194-1422-019-174	血液 3.0 (EDTA-2Na加)	PN5	室温	2～4	❶ 356 ※6	直接酵素抗体法	陰性	受託可能日は月～金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 &1
	A002 8 00597A202	サイトメガロウイルス 5F194-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❷❸ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &1
	B128 8 00598A102	サイトメガロウイルス IgG 5F194-1431-023-051	血清 各 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸❹ 200 ※6	CLIA	6.0未満 陰性 (AU/mL)	下記参照 (判定基準は、案内書欄外に記載) &1
	B113 4 00599A202	サイトメガロウイルス IgM 5F194-1432-023-051					❸❹ 200 ※6		0.85未満 陰性 (Index)	
	6830 3 018346301	サイトメガロウイルス DNA 定性 5F194-1440-019-851 5F194-1440-041-851 5F194-1440-064-851 5F194-1440-001-851 5F194-1440-070-851	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)	3～5		PCR	陰性	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	6832 1 018346329		髄液 0.7	ARR	凍結 (3ヵ月)					
			患部 ぬぐい液							
	6831 2 018346321		部分尿 0.7							
	6658 5 018346354		組織 50mg							
	A094 7 04279A121	サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿) 5F194-1440-001-890	部分尿 0.2	ARR	凍結 (42日)	3～9	❸❺ 777 ※7	等温核酸増幅法	陰性	重 生後3週間以内に採取された新生児尿をご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーション(便を含む)の影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	9211 7	サイトメガロウイルス核酸定量 5F194-1441-022-862	血漿 1.8	PSF	冷蔵 (28日)	2～4	❻ 450 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (IU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1

❶「サイトメガロウイルスpp65抗原定性」は免疫染色法により、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❸先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「サイトメガロウイルス核酸検出」と「ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)におけるサイトメガロウイルス」又は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるサイトメガロウイルス」を対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❹グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。
❺「サイトメガロウイルス核酸検出」は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として等温核酸増幅法により測定した場合に、1回に限り算定できる。
❻「サイトメガロウイルス核酸定量」は、以下のいずれかに該当する場合であって、血液を検体としてリアルタイムPCR法によりサイトメガロウイルスDNAを測定した場合に算定する。
ア 臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断又は治療効果判定を目的として行った場合。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、本検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
イ 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

[B128 8、B113 4]サイトメガロウイルスの判定基準

判定	IgG(AU/mL)	IgM(Index)
陰性	6.0未満	0.85未満
判定保留		0.85 ～ 1.00未満※2
陽性	6.0以上※1	1.00以上

※1：6.0～15.0AU/mLの結果値の際には、適切な期間(例:2週間)内に再採取し再検査をお勧めします。
※2：判定保留の際には、適切な期間(例:2週間)内に再採取し再検査をお勧めします。

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	9212 6 04326A201	EBウイルスDNA定量 5F201-1441-019-862 5F201-1441-022-862	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (28日)	2～4	❶ 310 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (Log IU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
			血漿 2.0	PN5 ⬇ ARR						
	7749 3 015907601	EBウイルスDNA(クロナリティ) 5F201-1440-019-831 5F201-1440-070-831	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵 (10日)	17～23		サザンブロットハイブリダイゼーション		血液:凍結保存は避けてください。化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 本法では、ウイルスDNA数が少ないと、EBV DNAが検出されない場合があります。 &1
			組織 250mg	ARR	凍結 (3ヵ月)					

❶「EBウイルス核酸定量」は、以下のいずれかに該当する患者に対して、リアルタイムPCR法により実施した場合に算定する。

ア 臓器移植後の患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定する。ただし、移植後1年以内にEBウイルス核酸定量の測定を行い、核酸量の高値が認められた患者については、移植後1年以上経過した場合も、3月に1回に限り算定できる。

イ 造血幹細胞移植後の患者であって、HLA型不一致の移植が行われた患者又は移植に伴い抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定する。

ウ 臓器移植後の急性拒絶反応又は造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病に対して抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。

エ 移植後リンパ増殖性疾患を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の経過観察を目的として実施する場合に算定する。ただし、経過観察を目的とする場合は、当該疾患と診断された日から起算して1月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。

オ 悪性リンパ腫又は白血病の患者に対して、EBウイルス陽性の確認又は確認された後の経過観察を目的として実施する場合に算定する。ただし、経過観察を目的とする場合は、悪性リンパ腫又は白血病と診断された日から1年以内に限り、1月に1回に限り算定する。

カ 再生不良性貧血の患者であって、抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。

キ 慢性活動性EBウイルス感染症を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の経過観察を目的に実施された場合は、1月に1回に限り算定する。

ク 上咽頭癌を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の治療効果判定を目的として実施した場合に、それぞれ1回に限り算定できる。ただし、「ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)におけるEBウイルス」又は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるEBウイルス」を対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

EBウイルスDNA(クロナリティ)について

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

	項目コード 新項目コード	検査項目	JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6159 9 015990802	EBウイルス	抗VCA IgG 5F202-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❶ 200 ※6	EIA	0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	6141 8 015991502		抗VCA IgG 5F202-1431-023-162				2～4	❶ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6158 0 016000802		抗VCA IgM 5F202-1432-023-023				2～4	❶ 200 ※6	EIA	0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	6142 7 016001502		抗VCA IgM 5F202-1432-023-162				2～4	❶ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6143 6 011871502		抗VCA IgA 5F202-1433-023-162				2～4	❷ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6751 1 016020802		抗EA IgG 5F203-1431-023-023				2～4	❶ 200 ※6	EIA	0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	6144 5 011881502		抗EA-DR IgG 5F203-1431-023-162				2～4	❶ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6145 4 011891502		抗EA-DR IgA 5F203-1433-023-162				2～4	❷ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6146 3 011901502		抗EBNA 5F204-1430-023-162				2～4	❷ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈　10倍 &1
	6160 7 016010802		抗EBNA IgG 5F204-1431-023-023				2～4	❶ 200 ※6	EIA	0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&1

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。

[6159 9]EBウイルス 抗VCA IgG
[6158 0]EBウイルス 抗VCA IgM
[6751 1]EBウイルス 抗EA IgG
[6160 7]EBウイルス 抗EBNA IgG
の判定基準

判　定	抗体指数
−	0.5未満
±	0.5～0.9
＋	1.0以上

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6060 8 020256301	ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性 5F210-1440-019-851 5F210-1440-023-851 5F210-1440-041-851 5F210-1440-085-851 5F210-1440-070-851	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)	3～9		PCR	陰性	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	4996 2 020256302		血清 0.7	S09 ↓ ARR	凍結 (3ヵ月)					
	K131 5 020256329		髄液 0.7	ARR						
			患部ぬぐい液							
	6664 8 020256354		組織 50mg							
	0242 2 020252401	ヒトヘルペスウイルス 6型DNA定量 5F210-1441-019-862	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	2～4		PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10^1未満 (コピー/10^6cells)	凍 重 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	6646 8 015546301	ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性 5F211-1440-019-851 5F211-1440-023-851 5F211-1440-041-851 5F211-1440-085-851 5F211-1440-070-851	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)	3～9		PCR	陰性	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
			血清 0.7	S09 ↓ ARR	凍結 (3ヵ月)					
	K079 4 015546329		髄液 0.7	ARR						
			患部ぬぐい液							
			組織 50mg							

	項目コード 新項目コード	検査項目	JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
ウイルス感染症検査	6117 5 011865502	エンテロウイルス	70型 5F270-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	6～19		NT （中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） &1
	6118 4 011855502		71型 5F271-1430-023-151								
	6089 7 017985502	コクサッキーウイルス	A群2型 5F282-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7～20	❶ 79 ※6	NT （中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） &1
	6090 5 017995502		A群3型 5F283-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6091 4 018625502		A群4型 5F284-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6092 3 018635502		A群5型 5F285-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6093 2 018645502		A群6型 5F286-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6094 1 013035502		A群7型 5F287-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6095 0 011475502		A群9型 5F289-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	9265 8 00637A102		A群9型 5F289-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6～7	❶ 79 ※6	CF （補体結合反応）		下記参照（*CF） &E
	6096 9 018005502		A群10型 5F290-1430-023-151	血清 各 0.2			7～20	❶ 79 ※6	NT （中和反応）		下記参照（*NT） &1
	6097 8 011845502		A群16型 5F296-1430-023-151				7～20	❶ 79 ※6			

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（65ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6098 7 011495502	コクサッキーウイルス	B群1型 5F301-1430-023-151	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	9267 6 00640A102		B群1型 5F301-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6099 6 013045502		B群2型 5F302-1430-023-151	血清 0.2			7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1
	A326 9 00641A102		B群2型 5F302-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6100 3 011515502		B群3型 5F303-1430-023-151	血清 0.2			7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1
	9270 2 00642A102		B群3型 5F303-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6101 2 013055502		B群4型 5F304-1430-023-151	血清 0.2			7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1
	A329 6 00643A102		B群4型 5F304-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6102 1 013065502		B群5型 5F305-1430-023-151	血清 0.2			7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1
	A332 2 00644A102		B群5型 5F305-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6103 0 013075502		B群6型 5F306-1430-023-151	血清 0.2			7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1
	A335 9 00645A102		B群6型 5F306-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

*NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6104 9 013085502	エコーウイルス	1型 5F311-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~18	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6105 8 011585502		3型 5F313-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6106 7 013095502		4型 5F314-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6130 0 021425502		5型 5F315-1430-023-151				7~20	❶ 79 ※6			
	6107 6 013105502		6型 5F316-1430-023-151				7~18	❶ 79 ※6			
	6108 5 011595502		7型 5F317-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6109 4 013115502		9型 5F319-1430-023-151				7~11	❶ 79 ※6			
	6131 9 011625502		11型 5F321-1430-023-151				7~20	❶ 79 ※6			
	6138 2 011635502		12型 5F322-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6110 2 013125502		13型 5F323-1430-023-151				7~18	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6139 1 021505502		14型 5F324-1430-023-151				7~20	❶ 79 ※6			
	6111 1 018465502		16型 5F326-1430-023-151				5~18	❶ 79 ※6			
	6113 9 013135502		17型 5F327-1430-023-151				7~18	❶ 79 ※6			
	6114 8 018455502		18型 5F328-1430-023-151				5~18	❶ 79 ※6			
	6132 8 021465502		19型 5F329-1430-023-151				7~20	❶ 79 ※6			
	6140 9 021515502		21型 5F331-1430-023-151					❶ 79 ※6			
	6133 7 021455502	エコーウイルス(パレコウイルス1型)	22型 5F332-1430-023-151	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6134 6 021495502	エコーウイルス	24型 5F334-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6115 7 013145502		25型 5F335-1430-023-151				7~18	❶ 79 ※6			
	6116 6 013465502		30型 5F340-1430-023-151					❶ 79 ※6			

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6041 9 011462902	日本脳炎ウイルス(JaGAr株) 5F385-1430-023-111	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	4～7	❶ 79 ※6	HI (赤血球凝集抑制反応)	ジャガー 10未満 ジャガー 2ME 10未満 (倍)	下記参照(*HI) &1
	9217 1 00678A102	日本脳炎ウイルス 5F385-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6045 5 011762902	風疹ウイルス 5F395-1430-023-111	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ 79 ※6	HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(*HI) &1
	6187 8 017920802	風疹ウイルス IgG 5F395-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*固相法) &1
	6189 6 017930802	風疹ウイルス IgM 5F395-1432-023-023					❷ 200 ※6	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &1

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 陰性

*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 陰性

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*HI(赤血球凝集抑制反応)：
・日本脳炎ウイルス(JaGAr株)：出発希釈　10倍(髄液の測定も可能です　検体量　1.0mL(冷蔵)　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍)
・風疹ウイルス：出発希釈　8倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

[6187 8、6189 6]風疹ウイルスの判定基準

判　定	IgG(EIA価)	IgM(抗体指数)
−	2.0未満	0.80未満
±	2.0 ～ 3.9	0.80 ～ 1.20
＋	4.0以上	1.21以上

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6056 3 011322902	インフルエンザウイルス	A型 (H1N1)(H3N2) 5F400-1430-023-111	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶❷ 79 ※6	HI (赤血球凝集抑制反応)	A型(H1N1) 10未満 A型(H3N2) 10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照(*HI) &1
	0386 3 00687A302		A型 5F400-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			4～6	❶❷ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6057 2 011332902		B型 5F410-1430-023-111	血清 0.2			3～5	❶❷ 79 ※6	HI (赤血球凝集抑制反応)	B-1 10未満 B-2 10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照(*HI) &1
	0406 0 00688A202		B型 5F410-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			4～6	❶❷ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6052 7 011652902	パラインフルエンザウイルス 1型 5F421-1430-023-111		血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❷ 79 ※6	HI (赤血球凝集抑制反応)	10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照(*HI) &1
	6053 6 011682902	パラインフルエンザウイルス 2型 5F422-1430-023-111						❷ 79 ※6			
	6054 5 011712902	パラインフルエンザウイルス 3型 5F423-1430-023-111						❷ 79 ※6			
	9290 0 00695A102	RSウイルス 5F430-1430-023-141 5F430-1430-023-151		速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	❷ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6081 5 011525502			血清 0.2			7～11	❷ 79 ※6	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &1

❶「インフルエンザウイルスA型」若しくは「インフルエンザウイルスB型」又は「インフルエンザウイルス抗原定性」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

*NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

*HI(赤血球凝集抑制反応)：出発希釈 10倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 10倍未満 出発希釈 10倍）

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6082 4 011575502	麻疹ウイルス 5F431-1430-023-151	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~11	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	6183 2 017960802	麻疹ウイルス IgG 5F431-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*固相法) &1
	6185 0 017970802	麻疹ウイルス IgM 5F431-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &1

[6183 2、6185 0]麻疹ウイルスの判定基準

判定	IgG(EIA価)	IgM(抗体指数)
−	2.0未満	0.80未満
±	2.0 ~ 3.9	0.80 ~ 1.20
+	4.0以上	1.21以上

[6185 0]麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項

伝染性紅斑(パルボウイルスB19感染)、デング熱、突発性発疹(HHV6感染)などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。診断においては臨床症状および他の検査法を加味し、総合的に判断してください。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6083 3 011345502	ムンプスウイルス 5F432-1430-023-151 5F432-1430-023-141	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7~20	❶ 79 ※6	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) &1
	0409 7 00701A202		速やかに遠心 血清 0.3			6~7	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
	6191 3 017940802	ムンプスウイルス IgG 5F432-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*固相法) &1
	6193 1 017950802	ムンプスウイルス IgM 5F432-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &1

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(65ページ)を参照ください。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 陰性
*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 陰性
*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）
*NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*HI(赤血球凝集抑制反応)：出発希釈　8倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　8倍未満　出発希釈　8倍）

[6191 3、6193 1]ムンプスウイルスの判定基準

判定	IgG(EIA価)	IgM(抗体指数)
−	2.0未満	0.80未満
±	2.0 ~ 3.9	0.80 ~ 1.20
+	4.0以上	1.21以上

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	A433 0 00707A102	HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(一次検査) 5F450-1430-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	159 ※6	CLEIA	陰性	検査結果が「陽性」であった場合、ラインブロット法による確認検査をお勧めいたします。測定対象は、抗HTLV-Ⅰ抗体および抗HTLV-Ⅱ抗体です。型別の報告ではありません。 &1
	A095 6 00705A202	HTLV-1抗体(確認検査) 5F460-1430-023-833	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3～5	❶ 425 ※6	ラインブロット法 (LIA法)	陰性 判定基準:下記参照	一次検査で陽性が確認された症例について、確認検査としてご依頼ください。 測定対象は、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体です。型別の報告ではありません。 &1
	A237 8 04255A101	HTLV-1核酸検出定性 5F454-1440-019-862	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵 (14日)	10～16	❷ 450 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	陰性 (プロウイルスを認めませんでした)	重 凍 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	A232 3 04255A201	HTLV-1プロウイルスDNA定性 5F454-1440-019-862 5F454-1440-070-862	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵 (14日)					
	A233 2 04255A237		組織 50mg	ARR	凍結					
	6815 0 021097601	HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ) 5F455-1440-019-831 5F455-1440-070-831	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵 (10日)	17～23		サザンブロットハイブリダイゼーション		血液:凍結保存は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 &1
	6814 1 021097654		組織 250mg	ARR	凍結 (1ヵ月)					

❶「HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)」は、「HTLV-Ⅰ抗体定性」、「HTLV-Ⅰ抗体半定量」又は「HTLV-Ⅰ抗体」によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的としてウエスタンブロット法又はラインブロット法により行った場合に算定する。

❷「HTLV-1核酸検出」は、「HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)」によって判定保留となった妊婦、移植者(生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。)又は臓器等提供者(生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。)を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

*PA：出発希釈 16倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 設定なし 出発希釈 2倍）

[A095 6]HTLV-1抗体〔ラインブロット法〕(判定基準)

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる	陰性
	env gp21が認められる	保留
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められない	保留
	env gp21が認められる	陽性
ラインが3本以上認められる(≧±)		陽性

[6815 0、6814 1]HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	P179 8	HIV抗原・抗体 5F560-1550-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	109 ※6	CLEIA	陰性	
	B279 1	HIV-1RNA定量 5F500-1453-022-875	血漿 1.8	PSF	冷蔵 (28日)	3～5	520 ※7	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (コピー /mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B490 6 007189302	HIV-1/2特異抗体 5F560-1430-023-190	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (7日)	3～5	660 ※6	イムノクロマト法	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。 確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。 &1
	E817 0 025260826	ノロウイルス抗原 5F630-1410-015-023	糞便 0.5g	F00	凍結	2～8		ELISA	陰性	依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 &1
	A072 1 00725A126	ノロウイルス RNA定性 5F630-1450-015-875	糞便 0.5g	F00	凍結 (7日)	2～8		RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 &1
	A206 2 030370802	デングウイルスNS1抗原 5F390-1410-023-023	血清 0.2	S09 ↓ A00	凍結	2～8	233 ※6	ELISA	陰性	依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 &1

HIV検査手順

HIV-1/2スクリーニング検査(抗原抗体同時スクリーニング)

↓

陽性・判定保留 → HIV確認検査(HIV抗体確認検査法および核酸増幅検査法)

陰性①

抗体確認検査法			総合判定 HIV-1核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	陽性あるいは検出感度未満	検出せず
陽性	陽性②	HIV-1,2感染	HIV-1およびHIV-2重複感染	HIV-1(治療中)③・HIV-2感染
	判定保留	HIV-1感染	HIV-1感染	HIV-1感染(治療中)③
	陰性	HIV-1感染	HIV-1感染	HIV-1感染(治療中)③
判定保留	陽性②	HIV-2感染	急性HIVおよびHIV-2重複感染	HIV-2感染
	判定保留	HIV-1,2判定保留	急性HIV-1感染	HIV-1,2判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染	HIV-1判定保留(2週間後再検査)
陰性	陽性②	HIV-2感染	急性HIVおよびHIV-2重複感染	HIV-2感染
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染	HIV-2判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染	HIV非感染④

①感染リスクがない場合は非感染と判定されますが、感染リスクがある場合または不明の場合は数週間後に再度スクリーニ ング検査を実施してください。
②HIV-2核酸増幅検査法は保険収載されていないため、専門機関に相談してください。
③HIV-1治療中または低ウイルス量感染が考えられます。
④感染リスクがある場合または不明の場合は、数週間後に再検査を実施してください。

ウイルス検査の特徴

検査方法	原理	測定対象	感度	特異度	特徴
補体結合反応(CF)	補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。	抗体	比較的低い	中程度	古典的な手法
赤血球凝集抑制反応(HI)	ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法	抗体	中程度	中～高程度	早期に抗体が上昇し持続
蛍光抗体法(FA)	目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。	抗原・抗体	中～比較的高い	中～比較的高い	抗体分画が可能
中和反応(NT)	ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。	中和抗体	中程度以下	極めて高い	機能的抗体評価ゴールドスタンダード
酵素免疫測定法(EIA/ELISA)	標識の物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	抗原・抗体	比較的高い	比較的高い	汎用性高い定量・半定量可能
化学発光免疫測定法(CLIA)	固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に２次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。	抗原・抗体	高い	高い	微量検出が可能
化学発光酵素免疫測定法(CLEIA)	固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に２次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。	抗原・抗体	高い～非常に高い	高い～非常に高い	CLIAよりも高感度
イムノクロマト法(IC)	検体中の抗原または抗体と、金コロイド粒子などで標識させた標識抗体または標識抗原が、メンブレンフィルター上を免疫複合体を形成しながら移動し、メンブレンフィルター上にあらかじめ固定化された抗体または抗原で免疫複合体が補足され、呈色し、目視などで結果判定する検出法。	抗原・抗体	比較的低い～中程度	比較的高い	主にスクリーニング用途　迅速・簡便
ラインプロット法	抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、２次反応させ、抗体の検出を行う方法。	抗体	比較的高い	非常に高い	確認試験(confirmatory test)
蛍光免疫測定法(FIA)	相化した抗原に対して標的物質を反応させた後、蛍光物質で標識した抗体または抗原を２次反応させ、蛍光強度を測定する方法。	抗体	中～高程度	中～高程度	比色法より高感度定量が可能

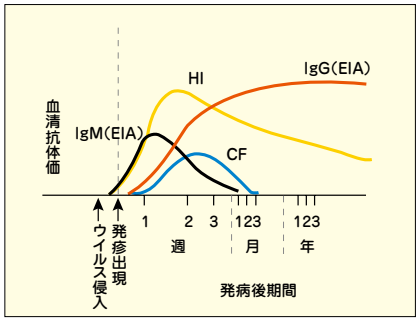
注記：本表の感度・特異度は検査法の一般的特性を示す相対評価であり、特定の検査試薬の性能を示すものではございません。

検出抗体の性質

		性質			
		動態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
	IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	＋	＋	＋
	IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能	＋	－	－

抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。
ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。
ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。
急性期(発病後早期)と回復期(発病後14～21日)のペア血清の抗体価が４倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



ウイルス感染症検査 参考資料

目的別検査法選択の目安

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。
また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAよるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	NT、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)
風疹	HI、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	HI、EIA(IgG)、FIA(IgG)	HI、EIA(IgG)、FIA(IgG)
ムンプス	CF、NT、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)
水痘	CF、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)
日本脳炎	HI、CF		HI
インフルエンザ	CF、HI		HI

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)

同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、８項目を限度として算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス　②コクサッキーウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤エコーウイルス　⑥ヘルペスウイルス
⑦インフルエンザウイルスA型　⑧インフルエンザウイルスB型　⑨ムンプスウイルス　⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型
⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型　⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型　⑬ポリオウイルスⅠ型　⑭ポリオウイルスⅡ型　⑮ポリオウイルスⅢ型
⑯RSウイルス　⑰風疹ウイルス　⑱麻疹ウイルス　⑲日本脳炎ウイルス　⑳オーム病クラミジア　㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価

同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、２項目を限度として算定する。
グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
ただし、⑦のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①ヘルペスウイルス　②風疹ウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤麻疹ウイルス　⑥ムンプスウイルス　⑦ヒトパルボウイルスB19
⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	7655 7 012430802	クラミジアトラコマティス IgA 5E017-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❶ 200 ※6	EIA	0.90未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	7653 9 012420802	クラミジアトラコマティス IgG 5E018-0000-023-023					❶ 200 ※6			
	7700 6 016242438	クラミジア トラコマティスDNA 5E021-0000-050-862 5E021-0000-001-862 5E021-0000-079-862	分泌物	V50	室温 (28日)	2～4	❷❸ 188 ※7	PCR (リアルタイム PCR)	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	7644 9 016242421		部分尿 5	U10			❷❸ 188 ※7			
	K589 8 016242499		うがい液 5				❷❸ 188 ※7			

❶グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体
ア「グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体」は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。
イ IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷クラミジア・トラコマチス核酸検出
ア「クラミジア・トラコマチス核酸検出」と「クラミジア・トラコマチス抗原定性」を併用した場合は、主なもののみ算定する。
イ「クラミジア・トラコマチス核酸検出」は、PCR法、LCR法、ハイブリッドキャプチャー法若しくはTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法若しくは核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。
❸「クラミジア・トラコマチス抗原定性」、「淋菌抗原定性」、「細菌培養同定検査(淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)」、「クラミジア・トラコマチス核酸検出」又は「淋菌核酸検出」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[7655 7、7653 9]クラミジアトラコマティスIgA、IgG(判定基準)

インデックス値	判定
0.90未満	(－)
0.90 ～ 1.09	(±)※
1.10以上	(＋)

※10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[7700 6、7644 9]クラミジアトラコマティスDNAについて

[B877 7、B880 3]腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出、[4759 5、4719 9]淋菌DNAとの同時依頼のみ可能です。

感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	A041 5 00738A102	オーム病クラミドフィラ(クラミジアシッタシ) 5E026-0000-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	6～7	❶ 79 ※6	CF	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	3373 4 018061502	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG 5E027-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3~16		FA	10未満 (倍)	下記参照(*FA) &1
	3374 3 018071502	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgM 5E028-0000-023-162								
	A023 5 01538A202	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG 5E031-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❷❸ 70 ※6	ELISA	30未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	A024 4 01539A202	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA 5E032-0000-023-023					❷❸ 75 ※6		8未満 陰性 判定基準:下記参照	
	K425 9 01661A202	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM 5E033-0000-023-023					❷❸ 152 ※6		0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(65ページ)を参照ください。
❷「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」を、「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」又は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」と併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定する。
❸「肺炎クラミジア核酸検出」と「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」、「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」若しくは「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」、「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)」又は「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含む。)」を併せて実施した場合は、主たるもののみを算定する。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）
*FA：出発希釈 10倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

[A023 5]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG(判定基準)

EIU値	判定
EIU<30	陰性(－)
30≦EIU≦45	判定保留(±)※
EIU>45	陽性(＋)

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[A024 4]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA(判定基準)

EIU値	判定
EIU<8	陰性(－)
8≦EIU≦12	判定保留(±)※
EIU>12	陽性(＋)

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[K425 9]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM(判定基準)

S/CO値	判定
S/CO<0.5	陰性(－)
0.5≦S/CO≦1.1	判定保留(±)※
S/CO>1.1	陽性(＋)

※10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	0502 3 001390702	抗ストレプトリジン-O抗体(ASO) 5E035-0000-023-062	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	15 ※6	ラテックス凝集免疫法	239以下 (IU/mL)	&1
	6449 7 020916101	エンドトキシン定量 5E046-0000-019-297	血液 2.0 (ノボヘパリン加)	PE2	冷蔵	2～4	❶ 229 ※6	比濁時間分析法	1.0以下 (カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。1.0pg/mLは、グラム陰性菌による敗血症診断のカットオフ値です。1.1pg/mL以上は、グラム陰性菌による敗血症の疑いがあります。β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。本検査においては、血漿中のエンドトキシンを測定いたします。血液2.0mLを専用容器(PE2)にて採血し、よく混和してください。データ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。&1
	K402 4 020910184	透析液中エンドトキシン A液 5E048-0000-095-271	透析液 各 4.0	PE4	冷蔵	2～4		発色合成基質法	(EU/mL)	専用依頼書、専用容器を使用してください。採取部位(透析液の種類)を必ず明記してください。電解質、酸、アルカリの反応阻害を防ぐため、A液は40倍希釈、B液は20倍希釈して測定いたします。&1
	K403 3 02091A184	B液 5E048-0000-095-271								
	K404 2 02091A284	RO水 5E048-0000-095-271								
	K405 1 02091A384	調整液 5E048-0000-095-271								
	K406 0 02091A484	その他 5E048-0000-095-271								
	K478 1 028340802	百日咳抗体〔EIA〕 5E054-0000-023-023	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	250 ※6	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 (EU/mL)	&1
	A253 0 042660802	百日咳抗体IgA 5E101-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	80 ※6	ELISA	8.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&1
	A254 9 042670802	百日咳抗体IgM 5E102-0000-023-023					80 ※6			
	A310 6 007551802	抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕 5E064-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷ 80 ※6	ラテックス凝集比濁法	10未満 (U/mL)	&1
	4657 8 016950826	便中ヘリコバクターピロリ抗原 5E068-0000-015-023	糞便 (専用スティック1本)	F20	冷蔵	2～4	❷ 138 ※6	EIA	陰性	必ず専用容器で採取してご提出ください。&1

❶「プレセプシン定量」と「プロカルシトニン(PCT)定量」、「プロカルシトニン(PCT)半定量」又は「エンドトキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」に即して行うこと。

[A253 0、A254 9]百日咳抗体 IgA、IgM(判定基準)

NTU値	判定
<8.5	陰性(−)
8.5～11.5	判定保留(±)※
>11.5	陽性(+)

※2～4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	P177 0 001510702	梅毒定性RPR〔LA〕 5E074-1351-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶ 15 ※6	ラテックス比濁法	(－)	溶 乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。また、溶血検体では高値となる場合がありますので避けてください。
	0730 0 001520702	梅毒定量RPR〔LA〕 5E074-1352-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶ 34 ※6	ラテックス比濁法	1.0未満 (R.U.)	溶 乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。また、溶血検体では高値となる場合がありますので避けてください。
	P159 0	梅毒定性TP抗体〔CLEIA〕 5E075-0000-023-116-11	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	32 ※6	CLEIA	(－)	陽性(＋)時はイムノクロマト法にて確認検査を実施します
	0728 3 001540702	梅毒定量TP抗体〔LA〕 5E075-1352-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	53 ※6	ラテックス比濁法	5未満 (U/mL) 判定基準:下記参照	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	4412 9 011947102	寒冷凝集反応 5E105-0000-023-102	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	11 ※6	HA	256未満 (倍)	採血後、速やかに血清分離してください。 (血清分離までは37℃保存) &1
	A323 2 00767A102	マイコプラズマニューモニエ 5E106-0000-023-141 5E106-0000-023-117	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	❷ 32 ※6	CF	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	3363 5 011781802		血清 0.2			2～4	❷ 32 ※6	PA	40未満 (倍)	下記参照(*PA) &1

❶「梅毒血清反応(STS)定性」、「梅毒血清反応(STS)半定量」及び「梅毒血清反応(STS)定量」は、従来の梅毒沈降反応(ガラス板法、VDRL法、RPR法、凝集法等)をいい、梅毒血清反応(STS)定性、梅毒血清反応(STS)半定量及び梅毒血清反応(STS)定量ごとに梅毒沈降反応を併せて２種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。
❷「マイコプラズマ抗体定性」、「マイコプラズマ抗体半定量」、「マイコプラズマ抗原定性(免疫クロマト法)」又は「マイコプラズマ抗原定性(FA法)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

*FA：髄液の測定も可能です　検体量　0.5mL(冷蔵)　基準値　陰性
*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）
*PA：出発希釈　40倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　設定なし　出発希釈　2倍）

[0728 3]梅毒定量 TP抗体〔LA〕(判定基準)

U/mL	判定
5 未満	陰性
5 ～ 9	判定保留
10 以上	陽性

梅毒血清反応検査の結果の解釈

STS RPR〔LA〕	TP抗原 TP抗体〔LA〕	結果の解釈
(－)	(－)	非梅毒 ごく初期の早期梅毒(まれ)
(＋)	(－)	ごく初期の早期梅毒※ 生物学的偽陽性(BFP)
(＋)	(＋)	活動性梅毒(要治療) 治癒状態の梅毒
(－)	(＋)	治癒状態の梅毒 ごく初期の早期梅毒 TP抗原系の非特異反応による偽陽性(まれ)

※BFPを呈する疾患や最近の感染機会の有無を調査する。
STS抗体価の推移をモニターし、TP抗体の陽性反応を認めた場合、初期の梅毒感染を疑う。
あくまでも臨床診断が優先であり、血清学的検査は補助診断である。

〔梅毒血清反応検査の使用と留意点〕
《STS》
カルジオリピン抗原に対する抗体。梅毒感染初期から陽性化し、治療後は陰性化する場合が多く梅毒症状をよく反映する。
生物学的偽陽性反応(BFP)が多い。
《生物学的偽陽性(BFP)》
STS(RPR)は生物学的偽陽性(BFP)が多く、梅毒感染以外に肝疾患、自己免疫疾患、妊婦などで偽陽性を示す場合がある。
《TP抗体》
トレポネーマ抗原に対する抗体で梅毒感染時に認められる特異的な抗体。
過去に梅毒陽性となった患者血清では、いつまでも抗体価が高値で持続する場合がある。
まれに非特異反応が認められる。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	3380 6 013431502	ツツガムシカープIgG 5E122-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～6	❶ 203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 &1
	3379 8 013441502	ツツガムシカープIgM 5E123-0000-023-162					❶ 203 ※6			
	3378 9 013411502	ツツガムシカトー IgG 5E125-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～6	❶ 203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 &1
	3377 0 013421502	ツツガムシカトー IgM 5E126-0000-023-162					❶ 203 ※6			
	3376 1 013391502	ツツガムシギリアムIgG 5E128-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	3～6	❶ 203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 &1
	3375 2 013401502	ツツガムシギリアムIgM 5E129-0000-023-162					❶ 203 ※6			
	3591 2 012851802	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原 5E140-0000-023-117 5E140-0000-041-117	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 164 ※6	ラテックス凝集反応	陰性	EDTA(抗凝固剤)は酵素処理に影響を与え、検査不能となる場合がありますので、EDTAの使用は避けてください。 &1
	K285 5 012851829		髄液 0.8	A00			❷ 164 ※6			
	7682 7 01780A102	海外委託 カンジダ抗体 5E143-0000-023-091	血清 1.0	S7P ↓ A00	凍結	14~16		免疫拡散法	(－)	&K
	C771 3 007820802	アスペルギルス抗体IgG 5E146-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	390 ※6	ELISA	5.0未満 陰性 (AU/mL) 判定基準：下記参照	&1
	3679 5 016560802	アスペルギルス抗原 5E148-0000-023-023	血清 1.0	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷❸ 157 ※6	ELISA	0.5未満 陰性	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに充分ご注意ください。また、ピペラシリン/タゾバクタム合剤の投与で偽陽性となる場合があります。 &1
	3626 3 016600101	β-D-グルカン 5E151-0000-019-271	血液 2.0 (ノボヘパリン加)	PE2	冷蔵	2～4	❷ 190 ※6	発色合成基質法	20.0以下 (カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 (基準値について)20pg/mLは、深在性真菌症のカットオフ値です。エンドトキシン定量以外の項目との重複依頼は避けてください。本検査においては、血漿中の(1→3)-β-D-グルカンを測定いたします。血液2.0mLを専用容器(PE2)にて採血し、よく混和させ、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。グルカン製剤(抗悪性腫瘍剤)、セルロース膜で精製した血液製剤などの投与、セルロース膜での透析後の血液などは、データが高値を示す可能性があります。また、多発性骨髄腫・高γ-グロブリン血症では非特異的反応を示す可能性があります。溶血検体では、溶血の度合いにより検査不能となる場合があります。 &1

❶「ツツガムシ抗体半定量」又は「ツツガムシ抗体定性」は、各株ごとに算定する。
❷「(1→3)-β-D-グルカン」を「カンジダ抗原定性」、「カンジダ抗原半定量」、「カンジダ抗原定量」、「アスペルギルス抗原」、「D-アラビニトール」、「クリプトコックス抗原半定量」又は「クリプトコックス抗原定性」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「アスペルギルス抗原」はLA法又はELISA法により、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。

[C771 3]アスペルギルス抗体IgG(判定基準)

AU/mL	判定
5.0 未満	陰性
5.0 ～ 9.9	判定保留
10 以上	陽性

感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	K213 4 027950802	トリコスポロン・アサヒ抗体 5E154-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	7~14	❶ 798 ※6	Antigen-captured ELISA	0.15未満 (CAI) 判定基準:下記参照	&Λ
	B645 4	鳥特異的IgG抗体 5A110-2331-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (7日)	3~9	❷ 873 ※6	FEIA	陰性 判定基準：下記参照 (mg_A/L)	&1
	3471 5 013490802	トキソプラズマIgG抗体 5E156-0000-023-023	血清 各 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2~4	93 ※6	ELISA	6未満 判定基準:下記参照	&1
	3472 4 013500802	トキソプラズマIgM抗体 5E157-0000-023-023					95 ※6		0.8未満 判定基準:下記参照	IgM抗体は長期間陽性が持続する場合がありますので、下記判定基準をご参照ください。 &1
	K602 2 02079A101	結核菌特異的IFN-γ 5E301-0000-019-031	血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温 (54時間)	3~5	❸ 593 ※6	ELISPOT法	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。検体は採取後、当日中にご提出ください。 &1
	9163 1 044760802	MAC抗体 (抗酸菌抗体定性) 5E069-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (15日)	3~5	151 ※6	ELISA	陰性 0.7未満 (U/mL)	本検査は定性検査です。抗体濃度を参考値としてご報告いたします。 &E

❶「抗トリコスポロン・アサヒ抗体」は、ELISA法により、夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。
❷「鳥特異的IgG抗体」は、診察又は画像診断等により鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として、EIA法により測定した場合に算定する。なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❸「結核菌特異的インターフェロン-γ産生能」は、診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

[K213 4]トリコスポロン・アサヒ抗体(判定基準)

CAI(Corrected Absorbance Index)※	判　定
0.15未満	陰性
0.15~0.30未満	判定保留
0.30以上	陽性

※CAI(Corrected Absorbance Index)：補正吸光度

[B645 4]鳥特異的IgG抗体の判定基準

両方またはいずれか一方の測定値がカットオフ値(セキセイインコ：8.00mg_A/L、ハト：24.0mg_A/L)以上となった場合を陽性と判定し、両方がカットオフ値未満の場合を陰性と判定いたします。

	セキセイインコIgG	ハトIgG	判定
カットオフ	8.00(mg_A/L)	24.0(mg_A/L)	
結果	(+)	(+)	陽性
	(+)	(-)	
	(-)	(+)	
	(-)	(-)	陰性

[3471 5]トキソプラズマIgG抗体(判定基準)

IU/mL	判　定	解　釈
6未満	陰性	トキソプラズマの感染は認められません。
6 ~ 8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽性	トキソプラズマ感染が考えられます。

[3472 4]トキソプラズマIgM抗体(判定基準)

Cut off index	判　定	解　釈
0.8未満	陰性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8 ~ 0.9	判定保留	10~20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽性	

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	1258 4 019471502	抗核抗体(ANA) 5G010-0000-023-162	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	99 ※6	FA	40未満 (倍)	&1
	3505 7 012073602	抗DNA抗体〔RIA〕 5G020-0000-023-002	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	159 ※6	RIA硫安塩析法	6.0以下 (IU/mL)	&1
	E667 7 019820802	抗ss-DNA IgG抗体 5G026-0000-023-023	血清 各 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	159 ※6	ELISA	25以下 (AU/mL)	&1
	E668 6 019830802	抗ss-DNA IgM抗体 5G028-0000-023-023				2～15			17未満 (U/mL)	
	E669 5 019840802	抗ds-DNA IgG抗体 5G036-0000-023-023	血清 各 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	159 ※6	ELISA	12以下 (IU/mL)	&1
	E670 3 019850802	抗ds-DNA IgM抗体 5G038-0000-023-023				2～15			6未満 (U/mL)	
	A214 3 015170602	抗Sm抗体〔CLEIA〕 5G065-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	147 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	A213 4 015160602	抗RNP抗体〔CLEIA〕 5G066-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	144 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	A215 2 015180602	抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕 5G076-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	161 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	A216 1 015190602	抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕 5G077-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	153 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	A217 0 015630602	抗Scl-70抗体〔CLEIA〕 5G085-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	157 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	6203 9 021400802	抗セントロメア抗体 5G090-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 173 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	&1

❶「抗セントロメア抗体定量」又は「抗セントロメア抗体定性」は、原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。

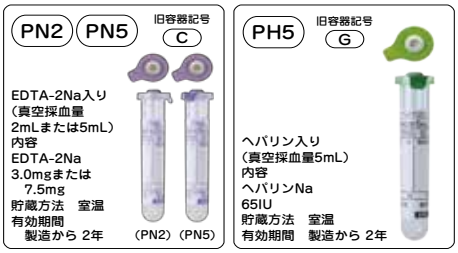
[1258 4]抗核抗体(ANA)の成人健常者における出現率

抗体価	出現率(%)
40倍未満	67～75
40倍	16～22
80倍	7～13
160倍	1～4
320倍	1

＊当社検討結果(最小・最大値)より

[K034 3]抗RNAポリメラーゼⅢ抗体(判定基準)

Index	判　定
28未満	陰性(－)
28 ～ 50未満	(±)
50以上	陽性(＋)



抗核抗体(ANA)染色型と主な関連検査および疾患

染色型	主な関連検査	主な関連疾患
Homogeneous型 (均質型) Peripheral型[1)] (辺縁型)	抗DNA抗体(DNAテスト)[2)]	全身性エリテマトーデス
	抗DNA抗体	
	抗ss-DNA IgG抗体	
	抗ss-DNA IgM抗体	
	抗ds-DNA IgG抗体	
	抗ds-DNA IgM抗体	
	抗ヒストン抗体	全身性エリテマトーデス、薬剤性ループス
Speckled型 (斑紋型)	抗RNP抗体	混合性結合組織病、強皮症、全身性エリテマトーデス
	抗Sm抗体	全身性エリテマトーデス
	抗SS-A/Ro抗体	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス
	抗SS-B/La抗体	シェーグレン症候群
	抗Scl-70抗体[3)]	強皮症
	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	
	抗Mi-2抗体	多発性筋炎・皮膚筋炎
	抗TIF1-γ抗体	
Nucleolar型 (核小体型)	抗U3RNP抗体[2)]	強皮症
	抗7-2RNP抗体[2)]	
	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	
	抗PM-Scl抗体[2)]	筋炎・強皮症重複症候群
	抗リボゾームP抗体[4)]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
Discrete-Speckled型 (セントロメア型)	抗セントロメア抗体	強皮症(CREST症候群)、原発性胆汁性肝硬変
Cytoplasmic型[5)] (細胞質型)	抗ミトコンドリア抗体	原発性胆汁性肝硬変
	抗ミトコンドリアM2抗体	
	抗Jo-1抗体	多発性筋炎・皮膚筋炎
	抗MDA5抗体	
	抗SS-A/Ro抗体	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス
	抗リボゾームP抗体[4)]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
	抗平滑筋抗体	自己免疫性肝炎
PCNA型	抗PCNA抗体[2)]	全身性エリテマトーデス
PCNA様型	抗Na抗体[2)]など	全身性エリテマトーデスなど
核膜型	抗核膜ラミン抗体[2)]	原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎など
	抗gp210抗体[2)]	
Granular型	抗p80 coilin抗体[2)]	原発性胆汁性肝硬変、シェーグレン症候群など
	抗Sp-100抗体[2)]	
紡錘体型[5)] NuMA-1 NuMA-2	抗NuMA-1抗体[2)]	シェーグレン症候群など 全身性エリテマトーデスなど
	抗NuMA-2抗体[2)]	
中心体型[5)]	抗中心体抗体[2)]	レイノー病、強皮症など
ゴルジ体型[5)]	抗golgin-97抗体[2)]など	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、関節リウマチなど

1)Homogeneous型との鑑別は難しく、多くのPeripheral型陽性血清は希釈していくとHomogeneous型に変化します。
2)未実施項目です。
3)染色型はSpeckled型とHomogeneous型の中間的な染色像であり、またNucleolar型が陽性となることがあります。
4)項目の詳細につきましては営業員へお問い合わせください。
5)対応抗原の局在が核ではないため、狭義の抗核抗体には含まれません。

〔参考文献〕
竹内　健，他：医学検査 51（9）：1256～1264，2002.
三森　経世：リウマチ 32（4）：366～378，1992.

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	A218 9 015640602	抗Jo-1抗体〔CLEIA〕 5G120-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❶ 140 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	A022 6 030050802	抗ARS抗体 5G121-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❶ 190 ※6	ELISA	25.0未満 陰性	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	B639 1 04052A102	抗MDA5抗体 5G122-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷ 275 ※6	ELISA	32未満 陰性	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	G979 9 040800802	抗Mi-2抗体 5G123-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷ 270 ※6	ELISA	53未満 陰性	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますで避けてください。 &1
	G985 2 040810802	抗TIF1-γ抗体 5G124-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷ 270 ※6	ELISA	32未満 陰性	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますで避けてください。 &1
	2599 5 001411302	リウマチ因子(RF)定量 5G160-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	❸❹ 30 ※6	ラテックス凝集免疫比濁法	15以下 (IU/mL)	
	3310 3 011950802	IgG型リウマチ因子 5G161-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸❺ 198 ※6	ELISA	2.00未満	&1
	3674 0 016430902	抗ガラクトース欠損IgG抗体 5G166-0000-023-053	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸❹❺ 111 ※6	ECLIA	6.0未満 (AU/mL)	&1
	E872 9 019700602	抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体 5G167-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❺❻ 193 ※6	CLEIA	4.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますで避けてください。 &1
	3539 0 014251502	抗ミトコンドリア抗体 5G175-0000-023-162	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	181 ※6	FA	陰性(20未満) (倍)	&1
	A008 2 020840602	抗ミトコンドリアM2抗体 5G176-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	189 ※6	CLEIA	7.0未満	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますで避けてください。 &1
	3537 2 012031502	抗平滑筋抗体 5G180-0000-023-162	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4		FA	陰性(40未満) (倍)	&1
	3541 7 012121502	抗胃壁細胞抗体 5G185-0000-023-162	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4		FA	陰性(10未満) (倍)	&1

❶「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体定性」、「抗Jo-1抗体半定量」又は「抗Jo-1抗体定量」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
❷「抗MDA5抗体」、「抗TIF1-γ抗体」及び「抗Mi-2抗体」は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において、ELISA法により測定した場合に算定できる。
❸「リウマトイド因子(RF)定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
❹「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「リウマトイド因子(RF)定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❺「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」、「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。
❻「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」又は「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」は、以下のいずれかの場合に算定できる。
（イ）関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
（ロ）（イ）とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

自己免疫関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	9252 2 032220621	プロスタグランジンE主要代謝物(PGE-MUM) 4Z150-0000-001-052	部分尿 2.0	A00	冷蔵 (21日)	2～6	❶❷ 187 ※1	CLEIA	濃度 (ng/mL) 換算値 30.2以下 (カットオフ値) (μg/ gCr)	潰瘍性大腸炎の病態把握の補助における参考カットオフ値は30.2μg/gCr以下です。 &1
	A399 9 042680826	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	糞便	F30	凍結 (28日)	3～7	❷❸❹ 268 ※1	FEIA	50.0以下 潰瘍性大腸炎の内視鏡的非活動状態のカットオフ値 300以下 クローン病の内視鏡的非活動状態のカットオフ値 80以下 (mg/kg)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	A252 1 04268A126	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	糞便 1g	F00	凍結	5～9	❷❸❹ 268 ※1	ELISA	94.0未満 潰瘍性大腸炎の病態把握のカットオフ値 240未満 クローン病の病態把握のカットオフ値 80以下 (μg/g)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	9201 8 04407A102	ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG) 5C245-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷❺ 268 ※4	ラテックス凝集免疫法	16.0未満 (カットオフ値) (μg/mL)	炎症性腸疾患の活動期の判定の補助における参考基準値は16.0μg/mLです。 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。

❶「プロスタグランジンE主要代謝物(尿)」は、潰瘍性大腸炎の患者の病態把握の補助を目的として、尿を検体とし、CLEIA法により測定した場合に、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、「プロスタグランジンE主要代謝物(尿)」、「カルプロテクチン(糞便)」、「ロイシンリッチα_2グリコプロテイン」又は「大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

❸「カルプロテクチン(糞便)」を慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定する場合は、ELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド疑集法により測定した場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❹「カルプロテクチン(糞便)」を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合、潰瘍性大腸炎についてはELISA法、FEIA法、金コロイド凝集法、イムノクロマト法又はLA法により、クローン病についてはELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド疑集法により測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❺「ロイシンリッチα_2グリコプロテイン」は、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	A458 3 008260602	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕 5G285-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶ 138 ※6	CLEIA	3.3未満 (IU/mL)	&1
	A469 1 008270602	抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕 5G290-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	136 ※6	CLEIA	19.3未満 (IU/mL)	&1
	B977 6 00828A102	甲状腺刺激抗体(TSAb) 5G300-0000-023-905	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❷ 330 ※6	Bioassay	110未満 (%)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。(溶血検体では、測定値が低値となる可能性があります。) &1
	A475 4 008300602	TSHレセプター抗体〔CLEIA〕 5G310-0000-023-052	血清 0.8	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❷ 208 ※6	CLEIA	2.0未満 (IU/L)	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターモノクローナル抗体(ヒト))を用いた第3世代TRAbです。 &1
	A212 5 015130802	抗GAD抗体 5G340-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	❸ 134 ※5	ELISA	5.0未満 (U/mL)	&1
	A263 9 008330802	抗IA-2抗体 5G342-0000-023-023	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～9	❹ 213 ※5	ELISA	0.6未満 (U/mL)	&1
	K485 3 020585302	インスリン抗体 5G360-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～7	107 ※6	RIA	0.4未満 (U/mL)	&1
	4497 6 015505302	抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体) 5G385-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～7	❺ 752 ※6	RIA	0.2以下 (nmol/L)	&1
	A148 7 017345302	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体) 5G386-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	3～9	❻ 1000 ※6	RIA	0.02未満 (nmol/L)	&1

❶「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」を、「抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「抗TSHレセプター抗体(TRAb)」及び「甲状腺刺激抗体(TSAb)」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。
❸「抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)」は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
❹「抗IA-2抗体」は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)」の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。
なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❺抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)
ア「抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)」は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
イ「抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❻抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
ア「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」は、RIA法により重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。
イ「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」と「抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

自己免疫関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	6077 0 017140802	抗デスモグレイン1抗体 5G396-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶❷❸ 300 ※6	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	6079 8 017150802	抗デスモグレイン3抗体 5G397-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷❸❹ 270 ※6	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	E884 6 019750802	抗BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体) 5G398-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❺ 270 ※6	CLEIA	9.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	7685 4 016460602	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体) 5G420-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❻ 257 ※6	CLEIA	3.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	3550 7 018436902	精子不動化抗体 5G440-0000-023-186	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (9ヵ月)	事前にご確認ください		不動化法 (Isojima法)	(−) 判定基準:下記参照	溶 溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。 &1
	K091 0 01843A202	精子不動化抗体 (SI50) 5G440-0000-023-186	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (9ヵ月)	事前にご確認ください		不動化法 (Isojima法)	1.0未満	溶 溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。 &1
	4158 2 015041703	ループスアンチコアグラント 5G500-0000-022-311 5G501-0000-022-311 5G502-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 1.0	PC5 ↓ A00	凍結	2～4		APTT 凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm) &1
	4167 2 01504A203				凍結 (21日)	2～4	❼ 265 ※6	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	
	A049 7 01504A303				凍結	2～4	❼ 265 ※6	リン脂質中和法	1.16以下	

❶「抗デスモグレイン1抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
❷落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン3抗体」と「抗デスモグレイン1抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❹「抗デスモグレイン3抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
❺「抗BP180-NC16a抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
❻「抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)」は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。
❼「ループスアンチコアグラント定量」及び「ループスアンチコアグラント定性」は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

[3550 7]精子不動化抗体(判定基準)

SIV値	判　定
1.40以下	(−)
1.41～1.99	判定保留
2.00～20.00	(+)
20.01以上	STRONG　POSITIVE

[4167 2]ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕(計算式について)

dRVVTはスクリーン比*1とコンファーム比*2の比から求められます。
＊1：スクリーン比は患者のdRVVTスクリーン試薬測定結果(秒)と健常者のdRVVTスクリーン試薬の平均凝固時間(秒)の比から求めます。
＊2：コンファーム比は患者のdRVVTコンファーム試薬測定結果(秒)とdRVVTコンファーム試薬の健常者の平均凝固時間(秒)の比から求めます。
本項目はdRVVTとあわせて、患者のdRVVTスクリーン試薬測定結果(秒)を中和前、患者のdRVVTコンファーム試薬測定結果を中和後として、それぞれ報告します。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3142 0 015290802	**抗カルジオリピン β_2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β_2GPⅠ抗体）** 5G504-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	凍結 (1ヵ月)	2～4	❶ 223 ※6	ELISA	3.5未満 (U/mL)	&1
	B601 2 045370802	**抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体** 5G515-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶❷ ❸ 226 ※6	CLEIA	0.7未満 (U/mL)	&1
	B597 8 045380802	**抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体** 5G517-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶❷ ❹ 226 ※6	CLEIA	17.5以下 (U/mL)	&1
	B603 0 00851A102	**抗カルジオリピンIgG抗体** 5G508-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (7日)	2～4	❶❷ 226 ※6	ELISA	12.3以下 (U/mL)	&1
	B599 6 00852A102	**抗カルジオリピンIgM抗体** 5G510-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵 (14日)	2～4	❶❷ ❺ 226 ※6	ELISA	20.8以下 (U/mL)	&1

❶「抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体」と「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」又は「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」及び「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定する。
❸「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
❹「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
❺「抗カルジオリピンIgM抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、ELISA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。

自己免疫関連検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3580 4 012023102	抗血小板抗体 5G520-0000-023-103	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	3～6	261 ※6	MPHA (混合受身凝集法)	陰性	不 採血後室温で静置し完全に血餅凝固後、血清分離してください。(不活性化しないでください。) 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &1
	3315 8 018113301	曜日指定 PAIgG (血小板関連IgG) 5G525-0000-019-021	血液 7.5 (ACD-A液加)	PAC	冷蔵	2～4	❶ 190 ※6	ELISA	46以下 (ng/10^7cells)	凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。末梢血の血小板が3×10^4/μL以下の場合は、専用容器(PAC)2本を使用し必ず10mL以上採血してください。 &1
	K593 3 020871803	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体) 5G530-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	2～6	❷❸ 390 ※6	ラテックス比濁法	1.0未満 陰性 (U/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG, IgM、IgA)を測定しております。なお、検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 &1
	7710 5 015490602	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA) 5G551-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	250 ※6	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	4184 3 017040602	抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA) 5G552-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❹ 250 ※6	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &1
	4162 7 016770802	抗LKM-1抗体 5G555-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～8	❺ 215 ※6	ELISA	17未満 判定基準:下記参照	&1
	A064 0 02061A202	抗アクアポリン4抗体 5G821-0000-023-023	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	2～8	❻ 1000 ※6	ELISA	3.0未満 陰性 (U/mL)	&1

❶「血小板関連IgG(PA-IgG)」は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
❷「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)」、「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)」及び「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性」は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。
❸一連の検査で、「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)」、「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)」及び「血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性」を測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❹「抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)」は、ELISA法、CLEIA法、ラテックス免疫比濁法又はFIA法により、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
❺抗LKM-1抗体
ア 「抗LKM-1抗体」は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に限り算定できる。
イ 本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載すること。
❻「抗アクアポリン4抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[4162 7]抗LKM-1抗体(判定基準)

Index	判　定
17未満	陰性(－)
17 ～ 49	判定保留(±)
50以上	陽性(＋)

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫血液学的検査	0515 9 001422201	ABO式血液型 5H010-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	39 ※6	マイクロプレート法		凍 凍結保存は避けてください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	0517 7 001432201	Rh(D因子)式血液型 5H020-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	39 ※6	マイクロプレート法		凍 凍結保存は避けてください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	3582 2 012002201	Rh-Hr式血液型 5H025-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵	2～4	163 ※6	カラム凝集法		凍 凍結保存は避けてください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。&1
	3579 6 011982211	血液型不適合妊娠 5H030-0000-098-101	速やかに遠心 血清 4.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) S09 ↓ A00 と (血液) PN2、PN5	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3～5		2-メルカプトエタノール法		重 ＊)血清と血液(EDTA-2Na加)をペアでご提出ください。 血清につきましては、血液を採血後、速やかに分離してください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。また、妊婦・ベビー・移植のいずれかを明記してください。 &3
	P160 8 001442201	緊急 直接クームス試験 5H121-0000-019-101	血液 1.0 (EDTA-2K加)	PK2	室温	1～2	34 ※6	試験管法	陰性	重 ＊)血液は採血後、速やかにご提出ください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	P161 7 001452202	間接クームス試験 5H122-0000-023-101	速やかに遠心 血清 2.0	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	47 ※6	試験管法	陰性	重 抗凝固剤を入れずに採血してください。 ＊)血液は採血後、速やかに分離し、血清をご提出ください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	3577 8 001462211	不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定) 5H180-0000-098-101	速やかに遠心 血清 5.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) S09 ↓ A00 と (血液) PN2、PN5	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3～5	❶ 174 ※6	カラム凝集法 〔クームス法、酵素法 (フィシン法)〕		重 ＊)血清と血液(EDTA-2Na加)をペアでご提出ください。 血清につきましては、血液を採血後、速やかに分離してください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &3

❶「不規則抗体」は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、「腹部手術」又は「子宮全摘術」、「子宮悪性腫瘍手術」、「子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)」、「帝王切開術」若しくは「異所性妊娠手術」が行われた場合に、手術の当日に算定する。
また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は「輸血」の「注６」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。

＊)検査結果に影響を及ぼすことがありますので検体(血液や血清)は、採血当日中にご提出ください。
なお、検査時において採血後48時間を越えた検体での検査は、参考値としてご報告させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

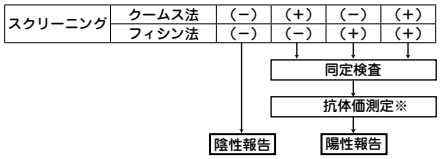
[0515 9]ABO式血液型・[0517 7]Rh(D因子)式血液型について

ABO式血液型
生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A、抗B抗体の産生が不充分なため、表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧めいたします。
Rh(D因子)式血液型
マイクロプレート法陰性の場合は、D陰性確認試験を実施いたします。

[P161 7]間接クームス試験、[3577 8]不規則性抗体、[3579 6]血液型不適合妊娠について

血漿検体では補体の活性化により検出される抗体を見逃す場合がありますので、血清をご提出ください。

[3577 8]不規則性抗体について



※一部を除き、不規則性抗体が同定された場合に抗体価測定を実施します。

1. 不規則性抗体検査は、カラム凝集法にて、クームス法・酵素法(フィシン法)を実施しております。これらの方法は37℃にて加温するため、低温反応性抗体(冷式抗体および寒冷凝集素)は検出できない場合があります。
2. 自己対照陽性時の解離同定試験は実施しておりません。

血球を使用する検査の血液検体について

血球を使用する検査におきましては、凝固促進剤、分離剤入り容器の使用の際、偽陽性または異常反応を示す場合がありますので、血液材料は必ず指定容器(EDTA-2Na加)での提出をお願いいたします。

[3582 2]Rh-Hr式血液型・[3579 6]血液型不適合妊娠について

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合があります。あらかじめご了承ください。

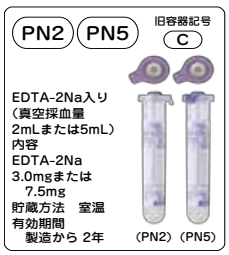
免疫グロブリン

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫グロブリン	3311 2 011081302	IgG 5A010-0000-023-061	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	38 ※6	免疫比濁法	870～1700 (mg/dL)	&1
	3312 1 011091302	IgA 5A015-0000-023-061	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	38 ※6	免疫比濁法	110～410 (mg/dL)	&1
	3313 0 011101302	IgM 5A020-0000-023-061	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	38 ※6	免疫比濁法	M 33～190 F 46～260 (mg/dL)	&1
	A065 9 008951302	IgGサブクラス分画(TIA) 5A050-0000-023-920	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～6		免疫比濁法 およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351～962 IgG2 239～838 IgG3 8.5～140 IgG4 4.5～117 (mg/dL)	&1
	A240 4 008971302	IgG2 5A056-0000-023-061	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～6	239 ※6	免疫比濁法	239～838 (mg/dL)	&1
	A273 8 043810702	IgG4 5A058-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	373 ※6	ラテックス免疫比濁法	11～121 (mg/dL)	&1
	A260 2 01154A602	免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕 5A136-0000-023-086	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	❶❷ 218 ※6	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。 &1
	A295 4 01155A202	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン) 5A141-0000-023-062	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 388 ※6	ラテックス比濁法	κ型 3.3～19.4 (mg/L) λ型 5.7～26.3 (mg/L) κ/λ比 0.26～1.65	&1
	A261 1 01156A221	尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕 5A145-0000-001-086	部分尿 0.4	U00	冷蔵	3～5	201 ※6	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。使用する抗血清はIgG、IgA、IgM、κ、λの5つになります。 &1
	A259 4 01157A212	オリゴクローナルバンド 5A150-0000-098-236	血清 1.0 と 髄液 1.0	S09 ↓ A00 と A00	冷蔵	10～14	❸ 507 ※1	等電点電気泳動法	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	3336 5 01105A102	クリオグロブリン定性 5A160-0000-023-920	血清 1.0	S09 ↓ A00	冷蔵	4～6	42 ※6	寒冷沈澱法	陰性	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行い、血清分離後は冷蔵保存してください。必ず血清でご依頼ください。 &1

❶「免疫グロブリンL鎖κ/λ比」と「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」又は「免疫電気泳動法(特異抗血清)」を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)
ア「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」及び「免疫電気泳動法(特異抗血清)」については、同一検体につき一回に限り算定する。
イ 同一検体について「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」及び「免疫電気泳動法(特異抗血清)」を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
ウ「免疫電気泳動法(特異抗血清)」は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。
❸「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」及び「ミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)」は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

[A295 4]免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)検査結果について(試薬メーカー資料より引用)

- 本測定結果は、補助診断としてご利用ください。
- 診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断で行ってください。
- 遊離L鎖の増加のため、抗原過剰により、予想外に低い測定値を示すこともあります。
- 遊離L鎖の構造変化により、前回測定値と結果が大きく乖離する場合があります。



	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
補体および関連物質	3513 8 012083002	血清補体価 5B010-0000-023-142	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (-20℃以下) (1ヵ月)	2～4	38 ※6	Mayer法 相対比濁法	25.0～48.0 (CH50/mL)	血清分離後、直ちに-20℃以下で保存してください。 &1
	3325 7 011171302	C3 5B023-0000-023-061	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	70 ※6	免疫比濁法	86～160 (mg/dL)	&1
	3326 6 011181302	C4 5B024-0000-023-061	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	70 ※6	免疫比濁法	17～45 (mg/dL)	&1
	3324 8 017732702	C1q 5B040-0000-023-063	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結	2～14		ネフェロメトリー	8.8～15.3 (mg/dL)	&1
	4123 0 018146403	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性) 5B045-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 (16日)	2～4	253 ※6	発色性合成基質法	70～130 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 &1
血漿蛋白	3335 6 014321302	プレアルブミン 5C010-0000-023-061	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	101 ※6	免疫比濁法	22.0～40.0 (mg/dL)	&1
	3319 4 018120702	α_1-マイクログロブリン 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	129 ※6	ラテックス凝集免疫法	M 12.5～25.5 F 11.0～19.0 (mg/L)	&1
	4608 2 018120721		部分尿 0.5	U00			129 ※6		M 1.0～15.5 F 0.5～9.5 (mg/L)	
	3317 6 011122702	α_1アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	80 ※3	ネフェロメトリー	94～150 (mg/dL)	&1
	3318 5 011132702	α_1アシドグリコプロテイン 5C025-0000-023-063	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4		ネフェロメトリー	M 45～98 F 39～86 (mg/dL)	&1
	3745 1 014300702	レチノール結合蛋白 (RBP) 5C030-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	129 ※6	ラテックス凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 (mg/dL)	&1
	3320 2 011142702	α_2-マクログロブリン 5C035-0000-023-063	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	138 ※3	ネフェロメトリー	M 100～200 F 130～250 (mg/dL)	&1
	3332 9 011192702	ハプトグロビン 5C040-0000-023-063	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	129 ※6	ネフェロメトリー	1-1型 83～209 2-1型 66～218 2-2型 25～176 (mg/dL)	&1
	3321 1 011152702	セルロプラスミン 5C045-0000-023-063	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	90 ※6	ネフェロメトリー	21～37 (mg/dL)	&1

PC2 旧容器記号 K

3.2%クエン酸ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
(25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)

血漿蛋白

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	3322 0 011161302	トランスフェリン 5C060-0000-023-061	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	60 ※6	免疫比濁法	M 190～300 F 200～340 (mg/dL)	&1
	4609 1 011160723	尿中トランスフェリン 5C060-0000-004-062	蓄尿 0.5	U00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 98 ※1	ラテックス凝集比濁法	0.80以下 (mg/day)	酸 凍 凍結保存は避けてください。採尿後、速やかにご提出ください。 &1
	4606 4 011160721	尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値) 5C060-0000-001-062	部分尿 1	U00	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 98 ※1	ラテックス凝集比濁法	尿中トランスフェリン換算値 1.00以下 (mg/g･CRE)	酸 凍 凍結保存は避けてください。採尿後、速やかにご提出ください。 &1
	3103 3 001490702	β_2-マイクログロブリン 5C065-0000-023-062 5C065-0000-004-062 5C065-0000-001-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	98 ※6	ラテックス凝集免疫法	1.0～1.9 (mg/L)	&1
	4730 6 001490723		蓄尿 0.5	U00		2～4	98 ※6		230以下 (μg/L)	酸 尿はpH5.5～7.5にし、必要量をご提出ください。 &1
	4551 5 001490721		部分尿 0.5				98 ※6			
	P158 1 01177A202	C反応性蛋白(CRP)定量 5C070-0000-023-062	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❷ 16 ※6	ラテックス凝集比濁法	0.140以下 (mg/dL)	
	B517 6 01179A102	血清アミロイドA蛋白(SAA) 5C080-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❷ 47 ※6	ラテックス凝集免疫法	3.0以下 (mg/L)	&1
	B836 2	ミオグロビン 5C090-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❸ 131 ※4	CLEIA	男性:15.8～105.9 女性:10.5～70.0 (ng/mL)	&1
	B801 0 011800621	尿中ミオグロビン〔CLEIA〕 5C090-0000-001-052	部分尿 6	U50	冷蔵 (22日)	2～4	❸ 131 ※4	CLEIA	2.0未満 (ng/mL)	凍 採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵してください。凍結は避けてください。 &1
	3649 8 016220702	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP) 5C091-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❸ 131 ※4	ラテックス凝集法	6.2未満 (ng/mL)	&1
	3173 6 018660802	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ 5C092-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～6	❹ 184 ※4	EIA	2.5以下 (ng/mL)	&1
	9532 1 012340902	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (14日)	2～4	❺ 109 ※4	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100 (ng/mL)	&1

❶「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」及び「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
❷「血清アミロイドA蛋白(SAA)」を「C反応性蛋白(CRP)定性」又は「C反応性蛋白(CRP)」と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性」及び「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量」は、ELISA法、免疫クロマト法、ラテックス免疫比濁法又はラテックス凝集法により、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。ただし、「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性」又は「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量」と「ミオグロビン定性」又は「ミオグロビン定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❹「心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ」は、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
❺「心筋トロポニンI」と「心筋トロポニンT(TnT)定性・定量」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	P180 6 001110602	フェリチン 5C095-0000-023-052	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	102 ※4	CLEIA	M 39.4～340.0 F 3.6～114.0 (ng/mL)	鉄欠乏性貧血および貧血のない鉄欠乏の診断基準は12ng/mL 未満です。[鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会)]
	A042 4 020560621	L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕 5C100-0000-001-052	部分尿 2.0	U00	冷蔵 (14日)	2～4	❶❷ 210 ※1	CLEIA	L-FABPクレアチニン換算値 8.4以下 (μg/gCr)	酸 凍 凍結保存は避けてください。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので、避けてください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。 &1
	A073 0 042721021	尿中NGAL 5C230-0000-001-051	部分尿 2	⬇ U00	冷蔵 (7日)	2～4	❷❸ 210 ※1	CLIA	NGAL濃度 30.5以下 (ng/mL) クレアチニン換算値 21.7以下 (μg/gCr)	白血球の混入により高値となる可能性があるため、採尿後、24時間以内にできるだけ速やかに400G以上で5分間以上遠心分離し、上清を提出容器に移しご提出ください。 &1
	4157 3 016190842	ヒト癌胎児性フィブロネクチン 5C111-0000-067-023	腟分泌物	VP5	凍結 (1ヵ月)	2～4	❹ 204 ※6	ELISA	陰性	検体採取方法は㉞ページをご参照ください。 &1
	A197 3 030320902	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP) 5C120-0000-023-053	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❺ 160 ※5	ECLIA	男性(30～83歳) 18.1～74.1 閉経前女性(30～44歳) 16.8～70.1 閉経後女性(45～79歳) 26.4～98.2 (ng/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。 &1
	4716 2 015343321	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx) 5C123-0000-001-052	部分尿 3	U00	冷蔵	2～4	❻❼ 153 ※5 腫2	CLEIA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。血尿でのご提出は避けてください。 &1
	4753 1 016513321	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症) 5C123-0000-001-052	部分尿 3	U00	冷蔵	2～4	❻❼ 153 ※5	CLEIA	男性 13.0～66.2 閉経前女性 9.3～54.3 閉経後女性 14.3～89.0 (参考値) (nmolBCE/mmol・CRE) 判定基準:下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。血尿でのご提出は避けてください。 &1
	8768 1 016441902	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP) 5C124-0000-023-001	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	2～4	腫2	RIA2抗体法	4.5末満 (ng/mL)	&1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(49ページ参照)

❶「L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)」は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
❷「L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)」と「好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン(NGAL)(尿)」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❸「好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン(NGAL)(尿)」は、急性腎障害の診断時又はその治療中に、CLIA法により測定した場合に算定できる。ただし、診断時においては1回、その後は急性腎障害に対する一連の治療につき3回を限度として算定する。なお、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹「腟分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型(IGFBP-1)」定性」及び「癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❺「骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」、「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)」、「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)」及び「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❻「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
❼「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」及び「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[4716 2] Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)基準値、判定基準

(単位:nmolBCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌、肺癌、前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

[4753 1] Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)の判定基準

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単位
	骨折リスク カットオフ値	骨量減少 カットオフ値	
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	54.3	35.3	nmolBCE/mmol・CRE
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	7.6	5.9	nmol/mmol・CRE

血漿蛋白

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	A857 0 030380602	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi) 5C141-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶❷ 194 ※4	CLEIA	0.84未満	&1
	A234 1 011951002	プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕 5C130-0000-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 136 ※4	CLIA	3.62～9.52 (ng/mL)	溶 カットオフ値(肝に線維化のみられる疾患)6.95ng/mL &1
	6785 4 019150702	Ⅳ型コラーゲン 5C134-0000-023-062	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶❷ 131 ※4	ラテックス凝集比濁法	150以下 (ng/mL)	&1
	4582 1 019150821	尿中Ⅳ型コラーゲン 5C134-0000-001-023	部分尿 5	U70	冷蔵 (1ヵ月)	3～9	❸ 179 ※1	EIA	30～39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下 (μg/g・CRE)	重 凍 早朝一番尿をご提出ください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。 なお、随時尿による参考基準値(健常人)は7.3μg/g・CRE以下と報告されています。 &1
	9246 9 011970602	Ⅳ型コラーゲン・7S〔CLEIA〕 5C135-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (23日)	2～4	❶❷ 148 ※4	CLEIA	4.4以下 (ng/mL)	&1
	C963 0 045900802	サイトケラチン18フラグメント(CK-18F) 5D326-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (31日)	3～9	❶❷❹ 194 ※4	EIA	260未満 (カットオフ値) (U/L)	非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の診断補助のためのカットオフ値は260U/Lです。 &1

❶「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」と「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「ELFスコア」と、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「オートタキシン」又は「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」及び「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
❹「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」は、1ステップサンドイッチ法を用いた酵素免疫測定法により、非アルコール性脂肪肝疾患の患者(疑われる患者を含む。)に対して、非アルコール性脂肪性肝炎の診断補助を目的として、実施した場合に算定する。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	4742 3 01535A121	デオキシピリジノリン 5C146-0000-001-021	部分尿 3	U00	冷蔵	2～4	❶❷ 191 ※5 腫2	EIA	クレアチニン 換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol・CRE)	午前中の第二尿をご提出ください。 &1
	4756 8 015353321	デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症) 5C146-0000-001-021	部分尿 3	U00	冷蔵	2～4	❶❷ 191 ※5	EIA	クレアチニン換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol・CRE) 判定基準:下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 &1
	3067 4 016280902	KL-6 5C210-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❸ 108 ※4	CLEIA	500未満 (U/mL)	&1
	K219 8 012060602	プロカルシトニン 5C215-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	2～4	❹ 276 ※4	CLEIA	0.05以下 (ng/mL)	敗血症(細菌性)鑑別診断のカットオフ値:0.50ng/mL未満 敗血症(細菌性)重症度判定のカットオフ値:2.00ng/mL以上 &1
	A249 5 042650602	プレセプシン 5C216-0000-023-052 5C216-0000-022-052	速やかに遠心 血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	2～4	❹ 301 ※4	CLEIA	敗血症(細菌性)診断のカットオフ値 500 (pg/mL)	重 採血後は、速やかに血清または血漿分離し凍結保存してください。ボルテックスミキサー等による激しい撹拌、緩やかな長時間撹拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	A250 3 042650603		速やかに遠心 血漿 0.4	PH5 ↓ A00			❹ 301 ※4			

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(49ページ参照)

❶「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
❷「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」及び「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。
❸「KL-6」、「肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)」及び「肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。
❹「プレセプシン定量」と「プロカルシトニン(PCT)定量」、「プロカルシトニン(PCT)半定量」又は「エンドトキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[4756 8]デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)の判定基準

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単位
	骨折リスク カットオフ値	骨量減少 カットオフ値	
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	54.3	35.3	nmolBCE/mmol・CRE
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	7.6	5.9	nmol/mmol・CRE

サイトカイン

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
サイトカイン	A274 7 043800602	可溶性IL-2レセプター(sIL-2R) 5J095-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (21日)	2～4	❶ 438 ※5 腫2	CLEIA	157～474 (U/mL)	&1
	E287 9 019940602	TARC (Th2ケモカイン) 5J228-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷❸ 179 ※6	CLEIA	6ヵ月以上～12ヵ月未満：1367未満 1歳以上～2歳未満 ： 998未満 2歳以上～16歳未満：743未満 16歳以上 ：450未満 (pg/mL)	血漿はデータ低下が見られますので避けて下さい。 トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 &1
	B531 0 045340602	TARC (COVID-19) 5J228-0000-023-052	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❹ 179 ※6	CLEIA	カットオフ値 95.1以上 (pg/mL)	採血後は速やかに血清分離をしてください。 血漿はデータ低下が見られますので避けてください。 トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 &1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(49ページ参照)

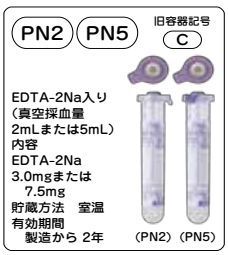
❶「可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)」は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。
また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」の「ロ」により算定する。
❷アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。
❸アトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として「SCCA2」及び「TARC」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
❹COVID-19と診断された患者(呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。)の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、一連の治療につき1回を限度として算定できる。
❺インターフェロン-λ3(IFN-λ3)
ア「インターフェロン-λ3(IFN-λ3)」は、COVID-19と診断された患者(呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。)の重症化リスクの判定補助を目的として、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により測定した場合に算定する。
イ 本検査を2回以上算定する場合は、前回の検査結果が基準値未満であることを確認すること。

[B531 0]TARC(COVID-19)の留意事項

1. SARS-CoV-2陽性患者の重症化リスクの判定補助を目的としているため、重症化後のご依頼は避けてください。
2. 重症化する患者でもカットオフ値 (95.0 pg/mL) 以下であったTARC濃度が病態経過に応じて上昇する症例があるため、SARS-CoV-2陽性患者の重症化リスクの判定補助には、他の関連検査及び臨床症状等により総合的に判断してください。
3. 免疫反応においては、一般的に非特異反応により異常高値となる場合があることが知られていますのでご注意ください。
4. SARS-CoV-2陽性患者検体をご依頼の際は、カテゴリー Bの三重梱包にてご提出ください。
5. SARS-CoV-2陽性患者検体の返却はいたしません。追加検査をご検討の場合は、予備検体の採取・保管をお願いいたします。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
サイトカイン	8525 0 02165A102	ヒトインターフェロンγ〔EIA〕 5J050-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	事前にご確認ください		EIA	0.1以下 (参考値) (IU/mL)	&1
	3161 9 02193A102	IL-1β(インターロイキン-1β) 5J062-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	事前にご確認ください		ELISA	10以下 (参考値) (pg/mL)	&1
	3165 5 016340602	IL-4 (インターロイキン-4) (高感度) 5J105-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	事前にご確認ください		CLEIA	6.0以下 (参考値) (pg/mL)	&1
	C969 4 012350902	インターロイキン-6(IL-6) 5J130-0000-023-052	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (21日)	2～4	❶ 170 ※6	CLEIA	5.8以下 (pg/mL)	採血後は、速やかに血清分離し凍結保存してください。 &1
	3162 8 021520602	IL-6 (インターロイキン-6) 5J130-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～5		CLEIA	4.0以下 (pg/mL)	&1
	3163 7 021950891	IL-8 (インターロイキン-8) 5J140-0000-097-023 5J140-0000-022-023	培養液 0.5	A00	凍結	事前にご確認ください		ELISA	(pg/mL)	血清検体は高値となります。
	6169 8 021950803		血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00					2.0以下 (参考値) (pg/mL)	&1
	3185 3 015120802	IL-10 (インターロイキン-10) 5J150-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	事前にご確認ください		ELISA	5以下 (参考値) (pg/mL)	&1

❶「インターロイキン-6(IL-6)」は、全身性炎症反応症候群の患者(疑われる患者を含む。)の重症度判定の補助を目的として、血清又は血漿を検体とし、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。なお、本検査を実施した年月日を診療報酬明細書に記載すること。また、医学的な必要性から一連の治療につき3回以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



アレルギー検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
アレルギー検査	7001 2	IgE(非特異的IgE)〔FEIA〕 5A090-0000-023-023	血清 各 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	100 ※6	FEIA	173以下 (IU/mL)	&1
	A050 5 030520602	特異的IgE (MAST36アレルゲン) 5A100-2807-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ 1430 ※6	CLEIA	MASTクラス 0 1.39以下 (LC)	判定基準、アレルゲン一覧表は90ページをご参照ください。 &1
	A089 3 043100602	特異的IgE (MAST48mix) 5A100-2809-023-052	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 (18日)	4～6	❶ 1430 ※6	CLEIA	MASTクラス 0 1.39以下 (LC)	判定基準、アレルゲン一覧表は90ページをご参照ください。 &□
	A294 5 8A2940000	特異的IgE (View アレルギー 39) 5A100-2808-023-023	血清 1.0	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	2～4	❶ 1430 ※6	FEIA	クラス 0 0.27未満 (Index)	判定基準、アレルゲン一覧表は90ページをご参照ください。検査結果をクラスとIndex値で表示する半定量検査です。 &1
	7003 0 012380802	アトピー鑑別試験 (12種吸入性アレルゲン) 5A100-2820-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❷ 194 ※6	FEIA	陰性	対象アレルゲンは91ページをご参照ください。 &1
	0396 2	特異的IgE (C-PAC16 アレルゲン) 小児用	血清 各 1.8	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 1430 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は91ページをご参照ください。 &1
	0397 1	アトピー性皮膚炎用					❶ 1430 ※6			
	0398 0	鼻炎・喘息用					❶ 1430 ※6			
	0400 6	特異的IgE (C-PAC5アレルゲン) 小児除去食用 5A100-2847-023-023	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 550 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は91ページをご参照ください。 &1
		特異的IgE (マルチアレルゲン)	血清 各 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 各110 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は91ページをご参照ください。 &1
		特異的IgE (シングルアレルゲン)	1アレルゲン 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 1アレルゲン 110 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は92、93ページをご参照ください。 &1
	A026 2	特異的IgE (Ara h 2) (ピーナッツ由来) 5A100-2500-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	2～4	❶ 110 ※6	FEIA	0.35未満　陰性 (UA/mL)	特異的IgEピーナッツの陽性者が対象です。判定基準は91ページをご参照ください。 &1
	B530 1 045330802	SCCA2 5C250-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 (30日)	11～23	❸ 300 ※6	ELISA	参考基準範囲 1.6未満 軽症 1.6以上 2.6未満 中等症 2.6以上 6.0未満 重症 6.0以上 (ng/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので、検体の取り扱いには充分にご注意ください。 &八

❶特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1430点を限度として算定する。
❷「アトピー鑑別試験定性」は、12種類の吸入性アレルゲン(ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア)に対する特異的IgEを測定した場合に算定する。
❸SCCA2
ア「SCCA2」は、15歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として、ELISA法により測定した場合に、月1回を限度として算定する。
イ アトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として「SCCA2」及び「TARC」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

[A089 3]特異的IgE(MAST48mix)、[A050 5]特異的IgE(MAST36アレルゲン)

分類	構成アレルゲン	MAST48mix		MAST36アレルゲン	
		項目	対象	項目	対象
食物アレルゲン	ミルク*	ミルク	●	ミルク	●
	小麦*	小麦	●	小麦	●
	卵白*	卵白	●	卵白	●
	オボムコイド*	オボムコイド	●	オボムコイド	●
	ゴマ**	ゴマ	●	ゴマ	●
	ソバ*	ソバ	●	ソバ	●
	大豆**	大豆	●	大豆	●
	米	米	●	米	●
	ピーナッツ*	ピーナッツ	●	ピーナッツ	●
	サバ**	サバ	●	—	
	マグロ	マグロ	●	マグロ	●
	サケ**	サケ	●	サケ	●
	エビ*	エビ	●	エビ	●
	カニ*	カニ	●	カニ	●
	豚肉**	豚肉	●	豚肉	●
	牛肉**	牛肉	●	牛肉	●
	鶏肉**	鶏肉	●	鶏肉	●
	トマト	トマト	●	トマト	●
	モモ**	モモ	●	モモ	●
	キウイ**	キウイ	●	キウイ	●
	バナナ**	バナナ	●	バナナ	●
	ヘーゼルナッツ	木の実ミックス	●	—	
	アーモンド**			—	
	クルミ**			—	

分類	構成アレルゲン	MAST48mix		MAST36アレルゲン	
		項目	対象	項目	対象
花粉アレルゲン	スギ	スギ	●	スギ	●
	ヒノキ	ヒノキ	●	ヒノキ	●
	ハンノキ	ハンノキ	●	ハンノキ	●
	シラカンバ	シラカンバ	●	シラカンバ	●
	ヨモギ	ヨモギ	●	ヨモギ	●
	オオアワガエリ	イネ科ミックス	●	オオアワガエリ	●
	カモガヤ			カモガヤ	●
	ナガハグサ			—	
	ハルガヤ			—	
	ギョウギシバ			—	
	ブタクサ	ブタクサミックス	●	ブタクサ混合物1	●
	オオブタクサ				
	ブタクサモドキ			—	
その他アレルゲン	ハウスダスト1	ハウスダスト1	●	ハウスダスト1	●
	アスペルギルス	アスペルギルス	●	アスペルギルス	●
	カンジダ	カンジダ	●	カンジダ	●
	ラテックス	ラテックス	●	ラテックス	●
	コナヒョウヒダニ	ダニミックス	●	コナヒョウヒダニ	●
	ヤケヒョウヒダニ			—	
	イヌ皮屑	イヌ・ネコ皮屑ミックス	●	イヌ皮屑	●
	ネコ皮屑			ネコ皮屑	●
	アルテルナリア	カビミックス	●	アルテルナリア	●
	ペニシリウム			—	
	クラドスポリウム			—	

* ：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
** ：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

特異的IgE(MAST48mix、MAST36アレルゲン)(判定基準)

MASTクラス	ルミカウント(LC)	判　定
0	0～1.39	陰性
1	1.40～2.77	疑陽性
2	2.78～13.4	陽性
3	13.5～58.0	
4	58.1～119	
5	120～159	
6	160～200	

特異的IgE(View アレルギー39)(判定基準)

クラス	Index値	判　定
0	0.27未満	陰性
1	0.27～ 0.50未満	疑陽性
2	0.50～ 1.80未満	陽性
3	1.80～ 7.05未満	
4	7.05～17.35未満	
5	17.35～29.31未満	
6	29.31以上	

[A294 5]特異的IgE(View アレルギー39)

含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、卵白*、ミルク*、小麦*、米、ゴマ**、ソバ*、ピーナッツ*、大豆**、カニ*、エビ*、豚肉**、牛肉**、マグロ、サケ**、リンゴ**、サバ**、鶏肉**、キウイ**、バナナ**、オボムコイド*、カモガヤ、オオアワガエリ、ハウスダスト1、ゴキブリ、ガ、ラテックス、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、マラセチア(属)、ハンノキ(属)、シラカンバ(属)、スギ、ヒノキ、ブタクサ、ヨモギ

* ：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
** ：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

アレルギー検査

[7003 0]アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)

混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア

特異的IgE(C-PAC16アレルゲン、C-PAC5アレルゲン)(抗体保有率順)

項目コード	名　称	含まれるアレルゲン
0396 2	C-PAC16 小児用	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、卵白、イヌのフケ、スギ、牛乳、ネコのフケ、ピーナッツ、小麦、大豆、ゴキブリ、ソバ、イクラ、エビ、イワシ、サケ、鶏肉
0397 1	C-PAC16 アトピー性 皮膚炎用	スギ、ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、マラセチア(属)、カンジダ、ガ、イヌのフケ、ネコのフケ、ピーナッツ、小麦、カモガヤ、カニ、ソバ、大豆、エビ、サバ、イワシ
0398 0	C-PAC16 鼻炎・喘息用	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、スギ、ガ、ネコのフケ、イヌのフケ、ゴキブリ、ヒノキ、ユスリカ(成虫)、カンジダ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、アスペルギルス、ハンノキ(属)、アルテルナリア、ハムスター上皮
0400 6	C-PAC5 小児除去食用	卵白、牛乳、ピーナッツ、小麦、ソバ

※お預かりした検体の量が指定の提出量より少ない場合、全アレルゲンの検査が実施できないことがあります。
この場合は、上記の抗体保有率の高いアレルゲンの順から検査を実施させていただきます。

特異的IgE(マルチアレルゲン)

項目コード	分　野	混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
7461 2	イネ科 5A100-2821-023-023	G1:ハルガヤ、G2:ギョウギシバ、G3:カモガヤ、G6:オオアワガエリ、G7:アシ
7463 0	雑草 5A100-2822-023-023	W1:ブタクサ、W6:ヨモギ、W7:フランスギク、W8:タンポポ(属)、W12:アキノキリンソウ
7465 8	食物 5A100-2823-023-023	F1:卵白、F2:牛乳、F4:小麦、F13:ピーナッツ、F14:大豆
7467 6	穀物 5A100-2824-023-023	F4:小麦、F8:トウモロコシ、F9:米、F10:ゴマ、F11:ソバ
7469 4	動物上皮 5A100-2825-023-023	E1:ネコのフケ、E5:イヌのフケ、E6:モルモット上皮、E87:ラット、E88:マウス
7471 1	カビ 5A100-2826-023-023	M1:ペニシリウム、M2:クラドスポリウム、M3:アスペルギルス、M5:カンジダ、M6:アルテルナリア、M8:ヘルミントスポリウム

特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)
特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)小児除去食用（判定基準）
特異的IgE(マルチアレルゲン)

クラス	特異的IgE抗体価(UA/mL)	判　定
0	0.35未満	陰性
1	0.35 ～ 0.70未満	疑陽性
2	0.70 ～ 3.50未満	陽性
3	3.50 ～ 17.5未満	
4	17.5 ～ 50.0未満	
5	50.0 ～ 100未満	
6	100以上	

[A026 2]特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)(判定基準)

判　定	特異的IgE抗体価(UA/mL)
陽性	4.00以上
疑陽性	0.35 ～ 3.99
陰性	0.35未満

特異的IgE(シングルアレルゲン)FEIA法

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし、1回につき1430点を限度とします。判断料区分:※6

項目コード	略語	アレルゲン名
イネ科植物花粉		
7011 1	G1	ハルガヤ
7013 9	G2	ギョウギシバ
7015 7	G3	カモガヤ
7017 5	G4	ヒロハウシノケグサ
7019 3	G5	ホソムギ
7021 0	G6	オオアワガエリ
7023 8	G7	アシ
7025 6	G8	ナガハグサ
7027 4	G9	コヌカグサ(属)
7031 9	G10	セイバンモロコシ
7035 5	G17	スズメノヒエ(属)
7041 8	G15	小麦(花粉)
7043 6	G16	オオスズメノテッポウ
雑草花粉		
7061 6	W1	ブタクサ
7063 4	W2	ブタクサモドキ
7065 2	W3	オオブタクサ
7069 8	W5	ニガヨモギ
7071 5	W6	ヨモギ
7073 3	W7	フランスギク
7075 1	W8	タンポポ(属)
7077 9	W9	ヘラオオバコ
7079 7	W10	シロザ
7083 2	W12	アキノキリンソウ
7089 6	W20	イラクサ(属)
7095 9	W18	ヒメスイバ
8861 7	W22	カナムグラ
樹木花粉		
7111 0	T1	カエデ(属)
7113 8	T2	ハンノキ(属)
7115 6	T3	シラカンバ(属)
7119 2	T5	ブナ(属)
7121 9	T6	ビャクシン(属)
7123 7	T7	コナラ(属)
7125 5	T8	ニレ(属)
7127 3	T9	オリーブ
7129 1	T10	クルミ(属)
7133 6	T12	ヤナギ(属)
7135 4	T17	スギ
7151 6	T24	ヒノキ
7143 5	T19	アカシア(属)
7147 1	T70	クワ(属)
7149 9	T16	マツ(属)
真菌		
7171 4	M1	ペニシリウム
7173 2	M2	クラドスポリウム
7175 0	M3	アスペルギルス
B483 4	M218	Asp f 1(アスペルギルス由来)
7177 8	M4	ムコール
7179 6	M6	アルテルナリア
7181 3	M5	カンジダ
7183 1	M8	ヘルミントスポリウム
K371 9	M227	マラセチア(属)
7239 9	M205	トリコフィトン
動物表皮		
7201 0	E1	ネコのフケ
7205 6	E3	ウマのフケ
7207 4	E4	ウシのフケ
7209 2	E5	イヌのフケ
7211 9	E6	モルモット上皮
7215 5	E70	ガチョウ羽毛
7217 3	E77	セキセイインコのフン
7219 1	E78	セキセイインコ羽毛
8837 4	E80	ヤギ上皮
7221 8	E81	羊上皮
7223 6	E82	家兎上皮
7225 4	E83	豚上皮
7227 2	E84	ハムスター上皮
7229 0	E85	ニワトリ羽毛
7231 7	E86	アヒル羽毛
7233 5	E87	ラット
7235 3	E88	マウス
寄生虫		
7251 5	P1	回虫
7255 1	P4	アニサキス
昆虫		
7261 4	I1	ミツバチ
7263 2	I3	スズメバチ
7265 0	I4	アシナガバチ
7267 8	I6	ゴキブリ
7273 1	I7	ユスリカ　(成虫)
7269 6	I71	ヤブカ(属)
7237 1	I8	ガ
ダニ		
7281 2	D1	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)
7283 0	D2	コナヒョウヒダニ(ダニ2)
7285 8	D70	アシブトコナダニ
7287 6	D71	サヤアシニクダニ
7289 4	D72	ケナガコナダニ
室内塵		
7301 9	H1	ハウスダスト1
7303 7	H2	ハウスダスト2
食餌性アレルゲン		
7311 8	F2	牛乳
7313 6	F1	卵白
7315 4	F3	タラ
7317 2	F13	ピーナッツ
7319 0	F20	アーモンド
K375 5	F202	カシューナッツ
A272 9	F443	Ana o 3(カシューナッツ由来)
7321 7	F17	ハシバミ
7323 5	F14	大豆
A054 1	F353	Gly m 4(大豆由来)
7325 3	F23	カニ
7327 1	F24	エビ
7329 9	F4	小麦
K373 7	F416	ω-5グリアジン
7331 6	F5	ライ麦
7333 4	F6	大麦
7335 2	F7	オート麦
7337 0	F8	トウモロコシ
7339 8	F12	エンドウ
7341 5	F18	ブラジルナッツ
7343 3	F9	米
7345 1	F25	トマト
7347 9	F31	ニンジン
7349 7	F33	オレンジ
7351 4	F40	マグロ
7353 2	F26	豚肉
7355 0	F35	ジャガイモ
7357 8	F36	ココナッツ
7359 6	F37	ムラサキイガイ
7361 3	F44	イチゴ
7363 1	F41	サケ
7365 9	F10	ゴマ

シングルアレルゲン〔FEIA〕一覧（CAP）

特異的IgE（シングルアレルゲン）FEIA法

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし、1回につき1430点を限度とします。判断料区分:※6

項目コード	略語	アレルゲン名
7367 7	F11	ソバ
7369 5	F47	ニンニク
7371 2	F48	タマネギ
7373 0	F27	牛肉
7375 8	F45	ビール酵母
7377 6	F49	リンゴ
7379 4	F75	卵黄
7381 1	F76	α-ラクトアルブミン
7383 9	F77	β-ラクトグロブリン
7385 7	F78	カゼイン
7387 5	F80	ロブスター
7389 3	F81	チーズ
7391 0	F83	鶏肉
7393 8	F84	キウイ
7395 6	F85	セロリ
7397 4	F86	パセリ
7399 2	F87	メロン
7401 8	F88	羊肉
7403 6	F89	マスタード
7405 4	F15	インゲン
8853 6	F51	タケノコ
7433 3	F54	サツマイモ
7435 1	F55	キビ

項目コード	略語	アレルゲン名
7437 9	F56	アワ
8855 4	F58	イカ
8857 2	F59	タコ
8845 5	F50	サバ
7407 2	F60	アジ
8859 0	F61	イワシ
7452 2	F79	グルテン
8863 5	F82	モールドチーズ
8849 1	F90	麦芽
8803 1	F91	マンゴ
7450 4	F92	バナナ
7448 7	F93	カカオ
7441 4	F94	洋ナシ
7487 4	F95	モモ
8865 3	F96	アボカド
0956 0	F97	ヤマイモ
8867 1	F209	グレープフルーツ
7489 2	F214	ホウレンソウ
7456 8	F225	カボチャ
7275 9	F233	オボムコイド
0958 8	F256	クルミ
A271 0	F441	Jug r 1（クルミ由来）
0997 5	F329	スイカ

項目コード	略語	アレルゲン名
7454 0	F254	カレイ
6534 2	F349	イクラ
6536 0	F350	タラコ
6484 8	F338	ホタテ
6486 6	F207	アサリ
6488 4	F290	カキ（貝）
職業性アレルゲン		
7497 3	K72	オオバコ種子
7491 9	K75	イソシアネート　TDI
7477 5	K76	イソシアネート　MDI
7473 9	K77	イソシアネート　HDI
7495 5	K79	無水フタル酸
7185 9	K80	ホルマリン
7475 7	K82	ラテックス
A055 0	K220	Hev b 6.02（ラテックス由来）
その他		
7529 7	C73	ヒトインシュリン
7309 1	C74	ゼラチン
7305 5	M80	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA
7307 3	M81	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB
7409 0	O1	綿

アレルゲンは一時的に入手不可能なものがありますので、あらかじめご了承ください。

特異的IgE（シングルアレルゲン）FEIA法（判定基準）

クラス	特異的IgE抗体価（UA/mL）	判　定
0	0.35未満	陰性
1	0.35 ～ 0.70未満	疑陽性
2	0.70 ～ 3.50未満	陽性
3	3.50 ～ 17.5未満	
4	17.5 ～ 50.0未満	
5	50.0 ～ 100未満	
6	100以上	

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
細胞性免疫検査	7880 7 01249A101	曜日指定 CD34定量 5I164-0000-019-662	血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	(/μL)	重 受託可能日は月～金曜日です。 末梢血幹細胞(PBSC)でご依頼の場合は、ご依頼時に最寄りの営業所・営業拠点までご連絡ください。 なお、DMSO含有の場合は、凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	7902 2 015584401	曜日指定 赤血球表面マーカー検査CD55 5I235-0000-019-662	血液 1.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	85.4以上 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	7903 1 015594401	曜日指定 赤血球表面マーカー検査CD59 5I247-0000-019-662	血液 1.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	99.8以上 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	A158 6 030094401	曜日指定 高感度PNH型血球検査 5I050-0000-019-662	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵	3～5		フローサイトメトリー	判定基準:次ページ参照	重 凍 EDTA-2Na入りの採血管で必ず採血してください。 必ず冷蔵保存にてご提出ください。 受託可能日は月～金曜日です。 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
	7881 6 017854401	曜日指定 白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	3～5	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 &1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温		1882 ※3			
	7734 9 015914401	曜日指定 悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 5×5×5mm	H20	冷蔵	3～5	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 &1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温		1882 ※3			
	E850 3 019684428	曜日指定 多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 1.0	H00	冷蔵 (1日)	3～5	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 &1
		曜日指定 多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)	骨髄液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	室温	4～6	1882 ※3	フローサイトメトリー		重 凍 骨髄液をEDTA-2Na入りの採血管に採取し、室温にてご提出ください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 &1
		曜日指定 悪性リンパ腫解析検査7AAD解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 5×5×5mm	H20	冷蔵 (1日)	3～5	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 末梢血、骨髄液は避けてください。 &1

細胞性免疫検査のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器(H00)を使用し冷蔵にてご提出ください。ただしCD34定量は保存液により希釈されると正しい検査結果が得られないため、専用容器(PH5)をご使用ください。
4.リンパ節等、組織でのご依頼の場合は、専用容器(H20)に浮遊させ冷蔵にてご提出ください。
※[A158 6]高感度PNH型血球検査、多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)は除きます。

白血病・リンパ腫解析検査(LLA)・悪性リンパ腫解析検査(MLA)
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析・多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)・悪性リンパ腫解析検査7AAD解析

項目	検出抗体
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)	CD1a CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR
悪性リンパ腫解析検査(MLA)	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD11c CD16 CD19 CD20 CD23 CD25 CD30 CD34 CD56 κ-chain λ-chain
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析	CD7 CD19 CD20 CD33 CD45 CD49e CD54 CD56 CD138 MPC-1 cy κ-chain cy λ-chain
多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)	CD19 CD27 CD38※ CD45 CD56 CD138 cylgκ cylgλ
悪性リンパ腫解析検査7AAD解析	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD19 CD20 CD25 CD30 CD34 CD38 CD45 CD56 IgM κ-chain λ-chain

※マルチエピトープ抗体を使用しております。

多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー(8color)のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.骨髄液をEDTA-2Na入りの採血管に採取し、室温にてご提出ください。
3.本項目は、多発性骨髄腫の患者に対して、8カラーのマルチパラメーターフローサイトメトリーを用い、1000万個以上の白血球の解析が可能です。

細胞性免疫検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
細胞性免疫検査	3929 7 012595801	曜日指定 **PHAによるリンパ球幼若化検査** 5I010-0000-019-814	血液各 5.0 (ヘパリン加) 〔同時依頼の場合は 8.0mL〕	PH9	室温	7～8	❶ 345 ※6	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA+ 20500～56800 CONTROL 127～456 (cpm)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	3932 3 012605801	曜日指定 **Con-Aによるリンパ球幼若化検査** 5I011-0000-019-814		PH9	室温	7～8	❶ 345 ※6	^{3}H-サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300～65700 CONTROL 127～456 (cpm)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	3935 0 839350000 3936 9 839360000 3937 8 839370000 3938 7 839380000 3939 6 839390000	曜日指定 **薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)** 5I014-0000-019-814	1薬剤 血液 12.0 (ヘパリン加)	PH9	室温	8～10	❶	^{3}H-サイミジン取り込み能	陰性	受託可能日は月～金曜日です。 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全ての採血管に(PNK)の容器を使用してください。 &1
	9534 9 018105801	予約検査 曜日指定 **MLC(リンパ球混合培養)** 5K160-0000-019-814	(受給者) 血液 20.0 (ヘパリン加) と (提供者) 血液 10.0 (ヘパリン加) と (非血縁者) 血液 10.0 (ヘパリン加)	PH9	室温	9～11		^{3}H-サイミジン取り込み能		受託可能日は火～金曜日です。 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 MLCの非血縁者血液はコントロールとして使用します。 &1

❶「リンパ球刺激試験(LST)」は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。(1薬剤 345点、2薬剤 425点、3薬剤以上 515点)

薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)の検体について

1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
3.目安として白血球数が3000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。
4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】)。皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。
6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器(PNK)に採血し、ご提出ください。
7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚せい剤取締法」第三章および別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
8.ご依頼の際は、麻薬、覚せい剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。

MLC(リンパ球混合培養)について

MLC(リンパ球混合培養)は予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。

[A158 6]高感度PNH型血球検査(判定基準)

	%	判定
PNH型顆粒球	0.003未満	陰性
	0.003以上	陽性
PNH型赤血球	0.005未満	陰性
	0.005以上	陽性

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
細胞性免疫検査	3920 6 012574401	曜日指定 T細胞百分率 B細胞百分率 5I020-0000-019-662	血液 3.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5	193 ※6	フローサイトメトリー	T 66～89 B 4～13 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	3923 3 012644401	曜日指定 B細胞表面免疫グロブリン(Smｍｉｇ) IgG 5I021-0000-019-662	血液 各 1.0 (ヘパリン加) 〔3項目以上の依頼の場合は3.0mL〕	PH5	室温	3～5	155 ※6	フローサイトメトリー	1～3 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	3924 2 012654401	IgA 5I022-0000-019-662					155 ※6			
	3925 1 012664401	IgM 5I023-0000-019-662					155 ※6		3～12 (%)	
	3926 0 012674401	IgD 5I024-0000-019-662					155 ※6		1～10 (%)	
	3927 9 012684401	K 5I025-0000-019-662					155 ※6		3～8 (%)	
	3928 8 012694401	L 5I026-0000-019-662					155 ※6		1～5 (%)	
		曜日指定 モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液 3.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	108ページ参照	受託可能日は月～金曜日です。 実施項目一覧は、97ページをご参照ください。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血してください。 &1
		曜日指定 Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	血液 3.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		Two-colorフローサイトメトリー	109ページ参照	受託可能日は月～金曜日です。 実施項目一覧は、98ページをご参照ください。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血してください。 &1
	3922 4 012584401	曜日指定 IgG-FcR^{+}・T細胞百分率 5I040-0000-019-662	血液 1.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5	193 ※6	フローサイトメトリー	2～23 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	7900 4 015564401	曜日指定 血小板表面マーカー検査CD41 5I185-0000-019-662	血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	97.0以上 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	7901 3 015574401	曜日指定 血小板表面マーカー検査CD42b 5I189-0000-019-662	血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	3～5		フローサイトメトリー	74.9以上 (%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	7916 7 016204401	曜日指定 Th1/Th2 (IFN-γ×IL-4/CD4) 5I880-0000-019-662	血液 3.0 (ヘパリン加)	PH5	室温	4～6		フローサイトメトリー	(%)	受託可能日は月～金曜日です。 &1
	3942 2 012637901	曜日指定 NK細胞活性 5I900-0000-019-907	血液 5.0 (保存液加)	PNK	冷蔵	3～5		^{51}Cr遊離法	18～40 (参考値) (%)	凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 &1

細胞性免疫検査のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器(H00)を使用し冷蔵にてご提出ください。ただしCD34定量は保存液により希釈されると正しい検査結果が得られないため、専用容器(PH5)をご使用ください。
4.リンパ節など、組織でのご依頼の場合は、専用容器(H20)に浮遊させ冷蔵にてご提出ください。
※[7900 4、7901 3]血小板表面マーカー検査CD41、CD42bは除きます。

[7900 4、7901 3]血小板表面マーカー検査CD41、CD42bについて

検体は採取後、当日中にご提出ください。

細胞表面マーカー

曜日指定 受託可能日は月～金曜日です。

モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析実施項目一覧

CD：Cluster of differentiation

項目コード 新項目コード	CD No. JLAC10	基準値 （単位）	実施料 判断料	主として反応する細胞・代表的な反応性
3946 8 017504401	CD1a 5I060-0000-019-662	1.0以下(%)		胸腺皮質細胞
3945 9 017514401	CD2 5I064-0000-019-662	71.0 ～ 91.0（%）		T細胞・Eロゼット形成細胞
3972 9 017464401	CD3 5I067-0000-019-662	58.0 ～ 84.0（%）	185 ※6	成熟(末梢)T細胞
3973 8 017474401	CD4 5I070-0000-019-662	25.0 ～ 54.0（%）		ヘルパー T細胞
3974 7 017484401	CD8 5I082-0000-019-662	23.0 ～ 56.0（%）		細胞傷害性T細胞
	CD4/CD8 比	0.40 ～ 2.30		
3956 7 017594401	CD5 5I073-0000-019-662	60.0 ～ 90.0（%）		T細胞・一部のB細胞
3964 8 010024401	CD7 5I079-0000-019-662	72.0 ～ 90.0（%）		T細胞
3957 6 017674401	CD10 5I088-0000-019-662	1.0以下(%)		ALL・好中球
3976 5 017534401	CD11b 5I092-0000-019-662	18.0 ～ 49.0（%）		NK細胞・T細胞の一部
3948 6 010094401	CD13 5I098-0000-019-662	9.0以下(%)		単球・顆粒球・骨髄細胞
3952 1 010104401	CD14 5I101-0000-019-662	5.0以下(%)		単球
3958 5 017584401	CD16 5I110-0000-019-662	6.0 ～ 39.0（%）		NK細胞(Fcγレセプター) 好中球
3959 4 010114401	CD19 5I119-0000-019-662	5.0 ～ 24.0（%）		B細胞
3947 7 018294401	CD20 5I122-0000-019-662	3.0 ～ 20.0（%）		成熟B細胞
3966 6 010184401	CD21 5I125-0000-019-662	3.0 ～ 18.0（%）		成熟B細胞
3898 2 012474401	CD22 5I128-0000-019-662	2.0 ～ 17.0（%）		B細胞
3960 2 018304401	CD25 5I137-0000-019-662	8.0 ～ 34.0（%）		IL-2レセプター Tac
3900 8 012484401	CD30 5I152-0000-019-662	1.0以下(%)		活性化T・B細胞・ホジキン細胞
3967 5 011074401	CD33 5I161-0000-019-662	5.0以下(%)		顆粒球・単球・骨髄細胞
3899 1 012494401	CD34 5I164-0000-019-662	1.0以下(%)		造血幹細胞
3977 4 017524401	CD38 5I176-0000-019-662	18.0 ～ 59.0（%）		活性化および増殖細胞 形質細胞(強陽性)
3968 4 011204401	CD56 5I238-0000-019-662	9.0 ～ 43.0（%）		NK細胞
3961 1 017574401	CD57 5I241-0000-019-662	4.0 ～ 45.0（%）		NK細胞・LGL
3979 2 017494401	HLA-DR 5I680-0000-019-662	11.0 ～ 46.0（%）		B細胞・活性化T細胞(HLA-DR抗原) 単球

曜日指定 受託可能日は月～金曜日です。

Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査

項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	基準値(%)	実施料 判断料
7841 0 017604401	Two-color CD4/CD45RA 5I700-0000-019-662	CD4(−) CD45RA(+) 30.0～57.0 CD4(−) CD45RA(−) 5.0～23.0 CD4(+) CD45RA(−) 15.0～34.0 CD4(+) CD45RA(+) 9.0～37.0	185 ※6
7842 9 017614401	Two-color CD4/CD29 5I701-0000-019-662	CD4(−) CD29(+) 22.0～59.0 CD4(−) CD29(−) 12.0～38.0 CD4(+) CD29(−) 9.0～34.0 CD4(+) CD29(+) 11.0～26.0	
7843 8 017624401	Two-color CD11b/CD8 5I710-0000-019-662	CD11b(−) CD8(+) 11.0～40.0 CD11b(−) CD8(−) 29.0～64.0 CD11b(+) CD8(−) 8.0～32.0 CD11b(+) CD8(+) 6.0～27.0 CD8/BRIGHT 20.0以下 CD8/DULL 3.0～17.0	
4056 5 017634401	Two-color HLA-DR/CD4 5I706-0000-019-662	HLA-DR(−) CD4(+) 22.0～51.0 HLA-DR(−) CD4(−) 24.0～61.0 HLA-DR(+) CD4(−) 8.0～37.0 HLA-DR(+) CD4(+) 1.0～12.0	
4046 6 017644401	Two-color HLA-DR/CD8 5I707-0000-019-662	HLA-DR(−) CD8(+) 15.0～49.0 HLA-DR(−) CD8(−) 28.0～62.0 HLA-DR(+) CD8(−) 6.0～25.0 HLA-DR(+) CD8(+) 2.0～27.0	
7833 9 017654401	Two-color CD57/CD16 5I721-0000-019-662	CD57(−) CD16(+) 1.0～15.0 CD57(−) CD16(−) 49.0～87.0 CD57(+) CD16(−) 2.0～40.0 CD57(+) CD16(+) 2.0～27.0	
7834 8 015604401	Two-color CD16/CD56 5I724-0000-019-662	CD16(−) CD56(+) 2.0～20.0 CD16(−) CD56(−) 57.0～91.0 CD16(+) CD56(−) 9.0以下 CD16(+) CD56(+) 4.0～33.0	
7838 4 015624401	Two-color CD45RO/CD4 5I703-0000-019-662	CD45RO(−) CD4(+) 6.0～34.0 CD45RO(−) CD4(−) 28.0～58.0 CD45RO(+) CD4(−) 7.0～32.0 CD45RO(+) CD4(+) 10.0～32.0	185 ※6
3893 7 016684401	Two-color CD4/CD8 5I702-0000-019-662	CD4(−) CD8(+) 22.0～54.0 CD4(−) CD8(−) 14.0～38.0 CD4(+) CD8(−) 23.0～52.0 CD4(+) CD8(+) 7.0以下 CD4/CD8比 0.40～2.30	
7845 6 018724401	Two-color HLA-DR/CD3 5I705-0000-019-662	HLA-DR(−) CD3(+) 33.0～75.0 HLA-DR(−) CD3(−) 7.0～36.0 HLA-DR(+) CD3(−) 3.0～18.0 HLA-DR(+) CD3(+) 5.0～33.0	
7836 6 01874A101	Two-color CD4/CD25 5I751-0000-019-662	CD4(−) CD25(+) 2.0～14.0 CD4(−) CD25(−) 37.0～69.0 CD4(+) CD25(−) 15.0～39.0 CD4(+) CD25(+) 6.0～21.0	
7781 7 018754401	Two-color CD20/CD5 5I715-0000-019-662	CD20(−) CD5(+) 54.0～87.0 CD20(−) CD5(−) 9.0～40.0 CD20(+) CD5(−) 9.0以下 CD20(+) CD5(+) 13.0以下	

尿一般検査

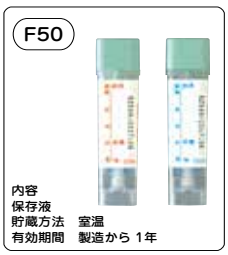
	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
尿一般検査	5510 9 T00005510	尿一般定性検査 pH，蛋白，糖，ウロビリノーゲン，ビリルビン，ケトン体，潜血，比重(部分尿)	部分尿 10	U40	冷蔵	1～2	❶★	下記 各項目の検査方法欄をご参照ください。	下記 各項目の基準値欄をご参照ください。	凍 凍結保存は避けてください。 採尿後、当日中にご提出ください。
	P049 2 002028621	尿一般検査 蛋白定性 1A010-0000-001-911	部分尿 10	U40	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)	
	P048 3 002038621	糖定性 1A020-0000-001-911							(－)	
	P051 9 002088721	比重 1A030-0000-001-903						屈折率法	1.005～1.030	
	P050 0 002018621	pH 1A035-0000-001-911						試験紙法	5.0～8.0	
	P044 7 002048621	ウロビリノーゲン 1A040-0000-001-911							(±)	
	P046 5 002058621	ビリルビン 1A055-0000-001-911							(－)	
	P047 4 002068621	ケトン体 1A060-0000-001-911							(－)	
	P045 6 002078621	潜血 1A100-0000-001-911							(－)	
検査	L493 3 000850123	尿蛋白定量 1A015-0000-004-271 1A015-0000-001-271	蓄尿 0.5	U00	冷蔵	2～4	7 ※1	ピロガロールレッド法	31.2～120.0 (mg/day)	&1
	P213 9 000850121		部分尿 0.5			1～2			10以下 (mg/dL)	
	L492 2 000870223	尿糖定量 1A025-0000-004-272 1A025-0000-001-272	蓄尿 1	U00	冷蔵	2～4	9 ※1	ヘキソキナーゼUV法		&1
	P215 7 000870221		部分尿 1			1～2			20以下 (mg/dL)	
	P052 8 000842521	尿沈渣 1A105-0000-001-310	部分尿 10	U40	冷蔵	1～2	❶★	鏡検法	赤血球:4個以下 白血球:4個以下 (/HPF)	凍 凍結保存は避けてください。 (JCCLS GP1-P4「尿沈渣検査法」準拠)採尿後、当日中にご提出ください。凍結検体は測定できません。 ・HPF(HF)は強拡大視野(400倍)にて鏡検

❶★当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。(尿一般検査26点、尿沈渣(鏡検法27点、フローサイトメトリー法24点))

尿一般検査・尿沈渣における採尿方法について

早朝尿かつ中間尿で採尿しご提出ください。
中間尿は最初と最後の尿は採らず中間の尿を採ったもので、尿道や外陰部からの成分(赤血球、白血球、扁平上皮、細菌など)の混入を防ぎます。
採尿方法について「尿沈渣検査法2010」では、尿沈渣に最も適しているのは早朝尿かつ中間尿であると記載されています。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
糞便検査	P212 0	便中ヘモグロビン1回目 1B040-1301-015-062	糞便	F50	冷蔵	1～2	37 ※1	ラテックス凝集法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目＝青色、2回目＝赤色ラベル容器を使用してください。
	P214 8	便中ヘモグロビン2回目 1B040-1302-015-062	糞便	F50	冷蔵	1～2	37 ※1		(－)	
	E767 6	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン1回目 1B042-1301-015-064	糞便	F80	冷蔵	2～4	56 ※1	金コロイド凝集法	ヘモグロビン 100未満 トランスフェリン 50未満 (ng/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目=ピンク色、2回目=黄色ラベル容器を使用してください。 &1
	E770 2	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン2回目 1B042-1302-015-064								
	0671 6	便中ヘモグロビン定性［金コロイド法］1回目 1B040-1301-015-064	糞便	F80	冷蔵	2～4	37 ※1	金コロイド凝集法	陰性	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目=ピンク色、2回目=黄色ラベル容器を使用してください。 &1
	0672 5	便中ヘモグロビン定性［金コロイド法］2回目 1B040-1302-015-064								
	0668 0	便中ヘモグロビン定量［金コロイド法］1回目 1B040-1301-015-064	糞便	F80	冷蔵	2～4	41 ※1	金コロイド凝集法	100未満 (ng/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目=ピンク色、2回目=黄色ラベル容器を使用してください。 &1
	0669 9	便中ヘモグロビン定量［金コロイド法］2回目 1B040-1302-015-064								



微生物学的検査

一般細菌 結果判定基準

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき、下記表示方法にて報告します。
（参考：Clinical Microbiology Procedures Handbook－4th edition, 2016.）

項目名	区分および鏡検倍率	表示方法	細菌数／細胞数	備　考
塗抹鏡検	細菌数※（鏡検倍率1,000倍）	（－）	菌がみられない	
		1＋	1視野　＜1	
		2＋	1視野　1～5	
		3＋	1視野　6～30	
		4＋	1視野　＞30	
	細胞数（白血球・上皮細胞）（鏡検倍率100倍）	（－）	細胞がみられない	
		1＋	1視野　＜1	
		2＋	1視野　1～9	
		3＋	1視野　10～25	
		4＋	1視野　＞25	

※カルチャーボトルおよび菌株で受託した際、細菌数の表示方法は「陽性」となります。

項目名	表示方法	培地発育状態	備　考
培養同定 嫌気性培養	（－）	未発育	菌種名は、細菌命名に関する国際規約に基づき報告します。
	1＋	1/3未満	
	2＋	1/3以上2/3未満	
	3＋	2/3以上	
	4＋	培地全面	

項目名	表示方法	内　容	備　考
薬剤感受性検査	S	Susceptible（感性）	CLSIの基準に基づき表示します。
	I	Intermediate（中間）	
	R	Resistant（耐性）	

CLSI：Clinical and Laboratory Standards Institute（旧 NCCLS）

抗酸菌 結果判定基準

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき、下記表示方法にて報告します。（参考；抗酸菌検査ガイド2020）

項目名	表示方法	蛍光法（200倍）	チール・ネルゼン法（1,000倍）	備　考（相当するガフキー号数）
抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕	－	0／30視野	0／300視野	G0☆
	±	1～2／30視野	1～2／300視野	G1
	1＋	1～19／10視野	1～9／100視野	G2
	2＋	＞20／10視野	＞10／100視野	G5
	3＋	＞100／1視野	＞10／1視野	G9

※ガフキー号数は現在では使用しない。また、簡易法との一致は正確ではない。（抗酸菌検査ガイド2020より）
☆抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕で陰性の場合は、ガフキー号数は記載しません。

細菌培養同定検査については、緊急報告範囲（1ページ参照）が設定されており、範囲を超えた場合、当社より緊急報告します。

	項目コード	検査項目 JLAC10		検査材料	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
一般細菌	00665 3	塗抹鏡検	口腔、気道または呼吸器	喀痰、咽頭ぬぐい液	110 111 ページ参照	冷蔵	2～4	❶❷ 各67 ※7	グラム染色		凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00670 7		消化管	胆汁、胃液							凍 凍結保存は避けてください。便での塗抹鏡検は実施しておりません。 &1
	00675 2		泌尿器または生殖器	中間尿、カテーテル尿、膣分泌物、膿							凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00681 5		血液または穿刺液	静脈血、動脈血、髄液、胸水、腹水、関節液							凍 凍結保存は避けてください。髄液は室温保存してください。血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。 &1
	00686 0		その他の部位	耳漏、眼脂、皮膚、爪、組織、膿							凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00666 2	緊急 培養同定	口腔、気道または呼吸器	喀痰、咽頭ぬぐい液		冷蔵	3～6	❸ 180 ※7	培養同定および MALDI-TOF-MS		凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00671 6		消化管	糞便、胆汁、胃液				❸ 200 ※7			凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00676 1		泌尿器または生殖器	中間尿、カテーテル尿、膣分泌物、膿				❸ 190 ※7			凍 凍結保存は避けてください。目的菌が淋菌の場合は室温保存してください。 &1
	00682 4		血液または穿刺液	静脈血、動脈血、髄液、胸水、腹水、関節液			3～10	❸ 240 ※7			凍 凍結保存は避けてください。髄液は室温保存してください。血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。 &1
	00687 9		その他の部位	耳漏、眼脂、皮膚、爪、組織、膿			3～6	❸ 180 ※7			凍 凍結保存は避けてください。 &1
	00669 9	嫌気性培養	口腔、気道または呼吸器	喀痰、咽頭ぬぐい液		冷蔵	6～14	❹❺ 各137（加算）	嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS		凍 凍結保存は避けてください。必ず培養同定と同時にご依頼ください。 &1
	00674 3		消化管	糞便、胆汁、胃液							
	00679 8		泌尿器または生殖器	中間尿、カテーテル尿、膣分泌物、膿							
	00685 1		血液または穿刺液	静脈血、動脈血、髄液、胸水、腹水、関節液							
	00690 5		その他の部位	耳漏、眼脂、皮膚、爪、組織、膿							
	00668 0	感受性検査	口腔、気道または呼吸器	喀痰、咽頭ぬぐい液		冷蔵	3～6	1菌種 各185 2菌種 各240 3菌種以上 各310 ※7	微量液体希釈法 ディスク拡散法		凍 凍結保存は避けてください。感受性薬剤は、当社標準の薬剤にて実施します。 &1
	00673 4		消化管	糞便、胆汁、胃液							
	00678 9		泌尿器または生殖器	中間尿、カテーテル尿、膣分泌物、膿							
	00684 2		血液または穿刺液	静脈血、動脈血、髄液、胸水、腹水、関節液			3～10				
	00689 7		その他の部位	耳漏、眼脂、皮膚、爪、組織、膿			3～6				
	00680 6	尿中生菌数定量		中間尿、カテーテル尿		冷蔵	3～5	❸ 60 ※7	標準白金耳法	（CFU/mL）	凍 凍結保存は避けてください。尿以外の材料では実施しておりません。 &1

❶同一検体について「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」と「尿沈渣（鏡検法）」又は「尿沈渣（フローサイトメトリー法）」を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
❷「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」と「尿沈渣（鏡検法）」又は「尿沈渣（フローサイトメトリー法）」を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❸細菌培養同定検査
ア　細菌培養同定検査は、抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とする。
イ　同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「その他の部位からの検体」までの項により算定するが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類にかかわらず、「簡易培養」により算定する。
ウ　細菌培養同定検査は、液体ごとに「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「その他の部位からの検体」までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、「簡易培養」は算定できない。
エ　症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液又は穿刺液」を2回算定できる。この場合、「嫌気性培養加算」から「質量分析装置加算」までに掲げる加算は2回算定できる。
オ　各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。
❹同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として、137点を所定点数に加算する。
❺嫌気性培養又は真菌培養のみを行った場合は、「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「簡易培養」までの所定点数のみ算定し、「嫌気性培養加算」（137点）又は「真菌培養加算」（122点）の加算は算定できない。
注）ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

微生物学的検査

主な材料の釣菌基準

一般細菌培養同定における釣菌工程は、次の当社基準に基づき実施します。

菌名	喀痰、咽頭	尿	膣分泌物	血液、髄液
黄色ブドウ球菌	○	○	○	◎
コアグラーゼ陰性ブドウ球菌	◆注1	○	○	◎
β-溶血連鎖球菌	◎	○	◎	◎
肺炎球菌	◎	○	○	◎
腸球菌	◆注1	○	○	◎
腸内細菌	◆注2、注3	○	○	◎
緑膿菌	○	○	○	◎
非発酵菌	◆注1	○	○	◎
ヘモフィルス	◆注2	ー	○	◎
モラクセラ	◆注2	ー	ー	◎

上記以外の菌については、目的菌のご依頼をいただいた場合のみ釣菌します。(目的菌は下記をご参照ください。)
目的菌のご依頼がある場合は、１コロニーでも釣菌します。

記号表示内容

◎：１コロニーでも釣菌します。
○：１＋以上検出されたとき釣菌します。
◆：２＋以上検出されたとき釣菌します。
ー：対象外

注１：優位な発育でなければ釣菌しません。
注２：１＋でも優位な発育ならば釣菌します。
注３：１＋でも肺炎桿菌ならば釣菌します。

便の釣菌基準

材料が便の場合、次の当社基準に基づき釣菌します。

区分	釣菌対象菌	備考
通常釣菌	サルモネラ菌、赤痢菌、コレラ菌、ビブリオ、エルシニア、エロモナス、プレジオモナス、黄色ブドウ球菌	検出時に必ず釣菌します。
優位発育時釣菌	クレブシエラ・オキシトカ、緑膿菌、セレウス菌	優位に発育した場合のみ釣菌します。
依頼時釣菌	下痢原性大腸菌	培養同定と目的菌をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。
	カンピロバクター	培養同定と目的菌をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。
	クロストリジオイデス・ディフィシル	培養同定と嫌気性培養をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。
	クロストリジウム・パーフリンゲンス	培養同定と嫌気性培養、目的菌をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。

目的菌

項目コード	目的菌名	項目コード	目的菌名	項目コード	目的菌名	項目コード	目的菌名
00M66 6	腸管出血性大腸菌 ※	03068 3	ジフテリア菌	03401 2	ブドウ球菌 ※	0X108 8	カンジダ
03087 2	エルシニア菌 ※	03077 3	赤痢菌 ※	03374 3	MRSA	03403 0	クリプトコッカス
03067 4	百日咳菌	03073 7	サルモネラ菌 ※	03379 8	肺炎球菌 ※	0X109 7	アスペルギルス
03101 5	淋菌 室温	03080 9	腸炎ビブリオ ※	03377 0	A群溶連菌 ※	0X110 5	白癬菌 ※
0Y102 3	髄膜炎菌 室温	03083 6	コレラ菌 ※	03106 0	B群溶連菌(GBS) ※	0X112 3	糸状菌
03097 1	カンピロバクター	03375 2	緑膿菌 ※	0X766 8	クロストリジオイデス・ディフィシル ※	06907 8	下痢原性大腸菌(O157含)
03069 2	レジオネラ	03376 1	ヘモフィルス ※	03382 4	クロストリジウム・パーフリンゲンス ※	06906 9	O157大腸菌 ※

目的菌について留意事項

・目的菌のみのご依頼はできません。一般細菌培養同定も同時にご依頼ください。
・淋菌は初尿・尿道分泌物でご依頼ください。
・クロストリジオイデス・ディフィシル、クロストリジウム・パーフリンゲンスは嫌気性培養を同時にご依頼ください。
　便の嫌気性培養で目的菌のご依頼がない場合はクロストリジオイデス・ディフィシルを対象として検査します。
・腸管出血性大腸菌は、培養同定(消化管)と大腸菌ベロトキシンを同時にご依頼ください。(注)チェックがない場合は検査を実施いたしませんのでご注意ください。
・下痢原性大腸菌、O157 大腸菌は、培養同定（消化管）と同時にご依頼ください。（注）チェックがない場合は検査を実施いたしませんのでご注意ください。
・MRSA は薬剤感受性の結果から判定されます。薬剤感受性のご依頼がない場合、スクリーニング培地の結果から判定しますので、より確実な判定のため薬剤感受性検査の同時依頼をお勧めします。
・百日咳菌、レジオネラ、ジフテリア菌などはチェックをいただいた場合のみ検査を実施します。
・目的菌の指定は 10 項目までお願いします。それ以上のご依頼は、報告書には反映できません。
・※の目的菌費用については培養同定に含みます。

(注）175 点※６
・「大腸菌血清型別」は、「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、及び「大腸菌ベロトキシン定性」により毒素が確認または腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌の O 抗原又は H 抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において「細菌培養同定検査」の費用は別に算定できない。
・嫌気性培養又は真菌培養のみを行った場合は、「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「簡易培養」までの所定点数のみ算定し、「嫌気性培養加算」（137 点）又は「真菌培養加算」（122 点）の加算は算定できない。

薬剤感受性標準セット

系統	略号	一般名	ブドウ球菌	(コリネバクテリウム)グラム陽性桿菌	バチルス菌	リステリア菌	ノカルジア菌	モラクセラ	肺炎球菌	連鎖球菌	腸球菌	ヘモフィルス	グラム陰性桿菌	緑膿菌	アシネトバクター	マルトフィリア	セパシアバークホルデリア	(グラム陰性桿菌)その他の非発酵菌	カンピロバクター	ビブリオ	嫌気性菌	淋菌
ペニシリン系(penicillins)	PCG	ペンジルペニシリン	●	●	●	●	●		●	●	●										●	◎
	MPIPC	オキサシリン	●																			
	ABPC	アンピシリン	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●						●	●	●	
	PIPC	ピペラシリン												●	●			●		●	●	
セフェム系(cephems)	CEZ	セファゾリン	●										●							●		
	CTM	セフォチアム	●					●				●	●									
	CXM	セフロキシム							●													
	CTX	セフォタキシム		●	●		●	●	●	●		●	●		●			●		●	●	
	CMX	セフメノキシム		●								●										
	CAZ	セフタジジム											●	●	●	●	●	●		●		
	CTRX	セフトリアキソン					●	●	●	●		●										◎
	CFPM	セフェピム		●			●		●	●			●	●	●			●		●		
	CMZ	セフメタゾール											●								●	
	CCL	セファクロル										●	●									
	CFIX	セフィキシム																				◎
	CPDX-PR	セフポドキシム-プロキセチル											●									
	CDTR-PI	セフジトレン-ピボキシル										●										
	CFDN	セフジニル										●										
	FMOX	フロモキセフ	●																			
	LMOX	ラタモキセフ											●									
カルバペネム系(carbapenems)	IPM/CS	イミペネム／シラスタチン	●	●	●		●				●		●	●	●			●	●	●	●	
	MEPM	メロペネム		●		●			●	●		●	●	●	●		●	●		●	●	
	DRPM	ドリペネム												●								
モノバクタム系(monobactams)	AZT	アズトレオナム											●	●				●				
β-ラクタマーゼ阻害剤合剤(β-lactamase inhibitors)	CVA/AMPC	クラブラン酸／アモキシシリン						●	●	●		●	●							●	●	
	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン	●					●				●	●		●					●	●	
	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォペラゾン												●								
	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン										●	●	●	●			●		●	●	
アミノグリコシド系(aminoglycosides)	GM	ゲンタマイシン	●	●	●	●							●	●	●			●	●	●		
	AMK	アミカシン			●		●						●	●	●			●				
	TOB	トブラマイシン												●	●			●				
	ABK	アルベカシン	●																			
マクロライド系(macrolides)	CAM	クラリスロマイシン						●		●		●							●			
	EM	エリスロマイシン	●	●	●	●	●	●	●	●	●								●			
	AZM	アジスロマイシン						●	●	●		●							●	●		
テトラサイクリン系(tetracyclines)	MINO	ミノサイクリン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	
	TC	テトラサイクリン						●	●	●		●							●	●		◎
リンコマイシン系(lincomycins)	CLDM	クリンダマイシン	●	●	●	●	●		●	●											●	
キノロン系(quinolones)	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		
	CPFX	シプロフロキサシン		●			●	●				●	●	●	●			●	●	●		◎
	MFLX	モキシフロキサシン							●												●	
	GRNX	ガレノキサシン								●		●										
	STFX	シタフロキサシン								●												
グリコペプチド系(glycopeptides)	VCM	バンコマイシン	●	●	●				●	●	●										▲	
	TEIC	テイコプラニン	●								●											
その他の系(miscellaneous antibacterial agents)	ST	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	●	●	●	●	●	●	●			●	●		●	●	●	●		●		
	FOM	ホスホマイシン									●		●						●			
	CP	クロラムフェニコール			●			●	●	●		●				●	●	●	●		●	
	MNZ	メトロニダゾール																			●	
	RFP	リファンピシン	●								●											
	LZD	リネゾリド	●	●			●				●											
	DAP	ダプトマイシン	●								●											

●検出された菌種(群)によって、効力の高い薬剤の組み合わせが検査されます。
●上記一覧の菌種(群)に該当しない場合は、当社にて薬剤の選定をさせていただきます。あらかじめご了承ください。
▲：VCMはC.difficile検出時報告します。
◎：淋菌はディスク拡散法を用いて検査します。

●常在細菌(Normal flora)の感受性検査は実施しておりません。
●感受性検査の報告は下記カテゴリーにて報告します。
S：感性(Susceptible)
I：中間(Intermediate)
R：耐性(Resistant)

微生物学的検査

一般細菌特殊検査

項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
02232 1	ヘリコバクター培養同定	胃生検組織	C20	冷蔵	培養同定	① 200 ※7	9～11	採取法は111ページ参照 &1
02884 8	ヘリコバクター感受性検査				寒天平板希釈法	185 ※7	14～20	薬剤名：アモキシシリン、クラリスロマイシン、メトロニダゾール &1
01055 9	CDトキシン(GDH)	便1.0g	F00	冷蔵	イムノクロマト法	95 ※6	2～4	単独の検体にてご依頼ください。凍結保存は避けてください。 &1
04897 2	CDトキシンB遺伝子 定性 6B642-0000-015-862	便1.0g	F00	冷蔵	PCR（リアルタイムPCR）	②③ 450 ※7	2～4	基準値：陰性 単独の検体にてご依頼ください。凍結保存は避けてください。 &1

①「大腸菌O157抗体定性」、「大腸菌O157抗原定性」及び「細菌培養同定検査の消化管からの検体によるもの」のうちいずれかを複数測定した場合は、主たるもののみ算定する。なお、「大腸菌O157抗体定性」はLA法による。
②クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出
ア「クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出」は、以下の(イ)から(ハ)をいずれも満たす入院中の患者に対して実施した場合に限り算定する。
(イ)クロストリジオイデス・ディフィシル感染症を疑う場合であって、「クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性」において、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原陽性かつクロストリジオイデス・ディフィシルトキシン陰性であること。
(ロ)2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。
(ハ)24時間以内に3回以上、又は平常時より多い便回数があること。
イ 本検査は、関連学会の定める指針に沿って実施した場合に限り算定できる。なお、下痢症状並びに本検査を行う前のクロストリジオイデス・ディフィシル抗原及びクロストリジオイデス・ディフィシルトキシンの検査結果について診療録に記載すること。
③別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において実施した場合に算定する。

大腸菌毒素関連

項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
02220 4	大腸菌ベロトキシン	菌株	–	室温	RPLA	① 184 ※7	3～6	下痢原性大腸菌検出時の追加時には、最寄りの営業所・営業拠点までご連絡ください。 &1

①大腸菌ベロトキシン定性
ア「大腸菌ベロトキシン定性」は、「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
イ「大腸菌ベロトキシン定性」のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、「細菌培養同定検査」を踏まえることなく行った場合にも算定できる。
※当社で検出された大腸菌に追加した場合の所要日数です。

環境検査

項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
0Y103 2	院内環境(ふきとり法)	環境材料	VS1	冷蔵	培養同定		4～8	採取法は111ページ参照 &1
0Y126 7	院内環境(スタンプ法)	環境材料	C30	室温				

※院内環境検査は、MRSAを含むブドウ球菌、腸内細菌、緑膿菌、酵母様真菌、糸状菌等の一般細菌を目的として検査します。

黄色ブドウ球菌関連

項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
08834 7	コアグラーゼ型別	菌株	–	室温	中和反応		4～6	純培養された黄色ブドウ球菌をご提出ください。 &1
08917 5	エンテロトキシン型別				RPLA		4～6	
08918 4	TSST-1産生						4～6	
05762 0	POT法(黄色ブドウ球菌) 6B631-0000-080-856				POT法		14～21	純培養された黄色ブドウ球菌およびMRSAをご提出ください。 &1

	項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
スクリーニング検査	02128 7	O157スクリーニング	便	VS1	冷蔵	4～6		培養同定		凍 凍結保存は避けてください。病院内、施設内職員(健常者)のスクリーニング検査としてご依頼ください。 &1
	02174 6	MRSAスクリーニング	咽頭ぬぐい液、鼻腔など	VS1 VS2	冷蔵	3～5		培養同定		
便検診検査	0Y084 4	便検診2菌種	便	VS1	冷蔵	4～6		培養同定		凍 凍結保存は避けてください。病院内、施設内職員(健常者)のスクリーニング検査としてご依頼ください。対象菌種については下記便検診対象一覧をご参照ください。 &1
	0Y066 4	便検診3菌種-1								
	0Y087 1	便検診3菌種-2								
	0Y067 3	便検診3菌種-3								
	0Y303 0	便検診3菌種-4								
	0X445 4	便検診3菌種-5								
	0Y056 5	便検診4菌種-1								
	0Y057 4	便検診4菌種-2								
	0Y095 2	便検診4菌種-3								
	0Y073 6	便検診4菌種-4								
	0Y304 9	便検診4菌種-5								
	0Y305 8	便検診4菌種-6								
	0X446 3	便検診4菌種-7								
	0Y074 5	便検診5菌種-1								
	0Y075 4	便検診5菌種-2								
	0Y306 7	便検診6菌種-1								

便検診対象一覧

検査項目	対象菌種												
	赤痢	サルモネラ	腸管出血性大腸菌	下痢原性大腸菌	O157	腸炎ビブリオ	腸チフス	パラチフス	コレラ	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター	ビブリオ	エルシニア
便検診2菌種	○	○											
便検診3菌種-1	○	○		○									
便検診3菌種-2	○	○			○								
便検診3菌種-3	○	○				○							
便検診3菌種-4	○	○										○	
便検診3菌種-5	○	○	○										
便検診4菌種-1	○						○	○	○				
便検診4菌種-2	○	○		○		○							
便検診4菌種-3	○	○			○	○							
便検診4菌種-4	○	○		○						○			
便検診4菌種-5	○	○			○							○	
便検診4菌種-6	○	○		○								○	
便検診4菌種-7	○	○	○			○							
便検診5菌種-1	○	○			○		○	○					
便検診5菌種-2	○	○			○	○					○		
便検診6菌種-1	○	○			○	○					○		○

抗酸菌

項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
00692 3	緊急 抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕	喀痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体（上記以外はお問い合わせください。）	110ページ参照		集菌蛍光法	① 65+35 ※7	2～4	凍 凍結保存は避けてください。 蛍光法で発光する細菌を認めた場合は、チールネルゼン法にて抗酸性・形態の確認を実施します。 &1
0Y263 5	緊急 抗酸菌分離培養〔液体法〕				酸素感受性蛍光センサー法	② 315 ※7	～6週	凍 凍結保存は避けてください。 陽性の場合は、随時報告します。 陰性の場合は、3週で中間報告します。 &1
00693 2	抗酸菌分離培養〔小川法〕				変法小川法	② 224 ※7	4～8週	凍 凍結保存は避けてください。 4週、6週で中間報告します。 &1
0U168 5	抗酸菌同定〔質量分析〕	培養陽性菌株または菌株（菌株に対して行う検査です。生材料からは直接検査できません。）			MALDI-TOF-MS	③ 376 ※7	2～5★	凍 凍結保存は避けてください。 同定可能な菌種は109ページをご参照ください。 &1
03700 0	結核菌群抗原				イムノクロマト法	291 ※6	2～4	凍 凍結保存は避けてください。 &1
00697 8	抗酸菌薬剤感受性				一濃度比率法	④ 415 ※7	2～4週★	凍 凍結保存は避けてください。 SM、EB、KM、INH、RFP、LVFX、TH、PAS、EVM、CSを実施します。検査結果はカテゴリー（S：感受性　R：耐性）を報告します。 &1
03687 6	結核菌感受性(MIC)☆				微量液体希釈法	④ 415 ※7	2～3週★	凍 凍結保存は避けてください。 SM、EB、KM、INH、RFP、LVFX、CPFX、RBTを実施します。検査結果はMIC値を報告します。 （対象菌種：*Mycobacterium tuberculosis*） &1
00T98 4	抗酸菌感受性(MIC)SGM☆							凍 凍結保存は避けてください。 AMK、KM、AZM、CAM、MFLX、STFX、DOXY、MINO、LZD、EB、TH、INH、RBT、RFPを実施します。検査結果はMIC値を報告します。 （対象菌種：非結核性抗酸菌の遅発育菌） &1
00U90 1	抗酸菌感受性(MIC)RGM☆							凍 凍結保存は避けてください。 FRPM、MEPM、IPM、AMK、TOB、AZM、CAM、LVFX、MFLX、STFX、DOXY、LZD、ST、CLFを実施します。検査結果はMIC値を報告します。 （対象菌種：非結核性抗酸菌の迅速発育菌） &1

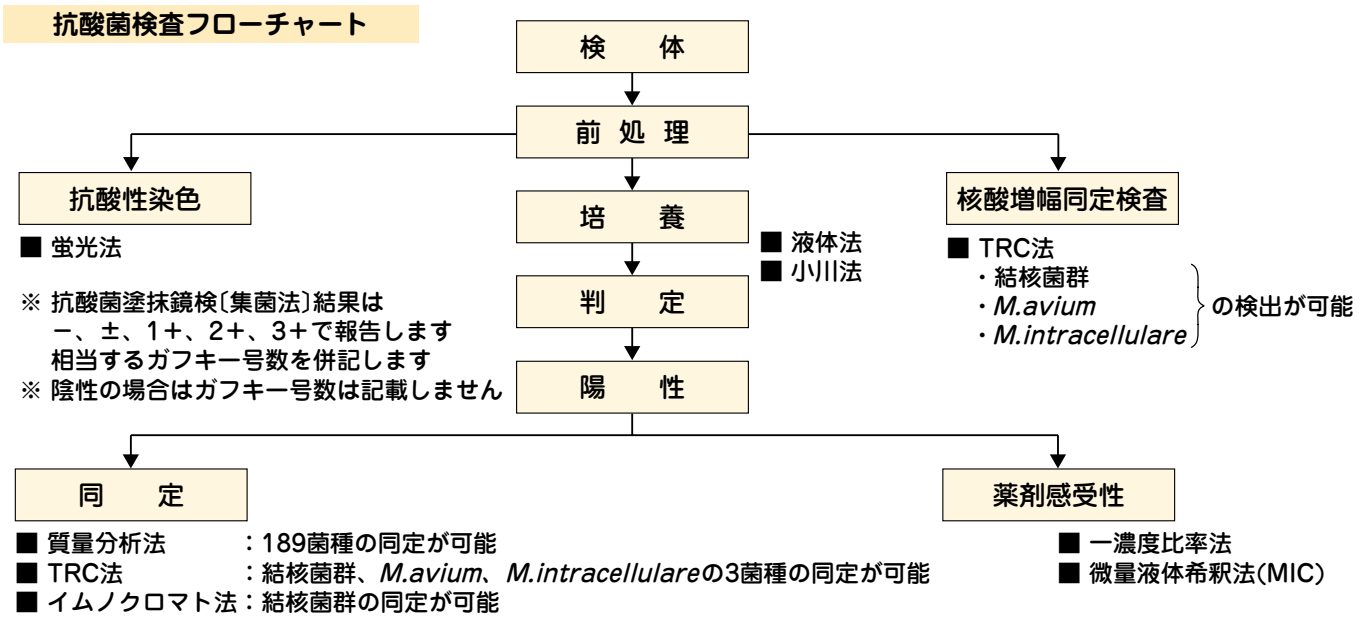
①集菌塗抹法を行った場合には、「集菌塗抹法加算」として、35点を所定点数に加算する。
②抗酸菌分離培養検査
（1）「抗酸菌分離培養検査」は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
（2）「抗酸菌分離培養（液体培地法）」は、液体培地を用いて培養を行い、酸素感受性蛍光センサー、二酸化炭素センサー又は酸化還元呈色色素を用いて検出を行った場合に算定する。
（3）「抗酸菌分離培養（それ以外のもの）」は、（2）に掲げるもの以外について算定する。
（4）「抗酸菌分離培養検査」は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
③抗酸菌同定は、検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定する。
④抗酸菌薬剤感受性検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。
★[0Y263 5]抗酸菌分離培養〔液体法〕からの検査の場合は、平板培地に増菌後に実施となるため日数がさらにかかります。（+3 ～ 7日）
☆[03687 6]結核菌感受性(MIC)と[00T98 4]抗酸菌感受性(MIC)SGMおよび[00U90 1]抗酸菌感受性(MIC)RGMは同時にご依頼いただけません。
注）ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

核酸増幅同定検査

項目コード	検査項目	検査材料	容　器	保　存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備　　考
0Y910 6	緊急 結核菌群核酸同定 〔TRC〕	喀痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体 （上記以外はお問い合わせください。）	110ページ参照	冷蔵	TRC	① 410 ※7	2～4	凍 凍結保存は避けてください。 検体は充分量をご提出願います（検体量が少ない場合は検出感度が低下します）。スワブで提出された場合、きわめて検体量が少ないために偽陰性となることがありますので、ご提出はお避けください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
0Y911 5	緊急 MAC核酸同定 〔TRC〕					② 421 ※7		

①「結核菌群核酸検出」は、核酸増幅と液相ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、LCR法による核酸増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、LAMP法又は核酸増幅とキャピラリ電気泳動分離による検出を組み合わせた方法による。
なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
②マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出
ア「マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出」は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。
イ「抗酸菌同定」と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。

抗酸菌検査フローチャート



抗酸菌同定〔質量分析〕で同定が可能な189菌種抗酸菌名

菌　種　名	菌　種　名	菌　種　名
M. abscessus	*M. fortuitum*	*M. noviomagense*
M. agri	*M. fortuitum* complex	*M. novocastrense*
M. aichiense	*M. fragae*	*M. obuense*
M. aichiense/aromaticivorans	*M. franklinii*	*M. pallens*
M. algericum	*M. frederiksbergense*	*M. palustre*
M. alsense	*M. gadium*	*M. paraense*
M. alvei	*M. gadium/tusciae*	*M. paraffinicum*
M. angelicum	*M. gastri*	*M. parafortuitum*
M. angelicum/szulgai	*M. genavense*	*M. paragordonae*
M. anyangense	*M. gilvum*	*M. parakoreense*
M. aquaticum	*M. goodii*	*M. parascrofulaceum*
M. aquaticum/brisbanense	*M. gordonae*	*M. paraseoulense*
M. arabiense	*M. grossiae*	*M. paraterrae*
M. arcueilense	*M. haemophilum*	*M. parmense*
M. arcueilense/peregrinum	*M. hassiacum*	*M. peregrinum*
M. aromaticivorans	*M. heckeshornense*	*M. phlei*
M. arosiense	*M. heidelbergense*	*M. phocaicum*
M. arupense	*M. helvum*	*M. porcinum*
M. asiaticum	*M. heraklionense*	*M. poriferae*
M. aubagnense	*M. hiberniae*	*M. pseudoshottsii*
M. aurum	*M. hippocampi*	*M. psychrotolerans*
M. austroafricanum	*M. hodleri*	*M. pulveris*
M. austroafricanum/vanbaalenii	*M. holsaticum*	*M. pyrenivorans*
M. avium ※	*M. houstonense*	*M. rhodesiae*
M. bacteremicum	*M. immunogenum*	*M. riyadhense*
M. boenickei	*M. insubricum*	*M. rufum*
M. bohemicum	*M. interjectum*	*M. rutilum*
M. botniense	*M. intermedium*	*M. salmoniphilum*
M. bourgelatii	*M. intracellulare* ※	*M. saopaulense*
M. branderi	*M. iranicum*	*M. sarraceniae*
M. brisbanense	*M. kansasii*	*M. saskatchewanense*
M. brumae	*M. komossense*	*M. scrofulaceum*
M. canariasense	*M. koreense*	*M. sediminis*
M. canariasense/cosmeticum	*M. kubicae*	*M. senegalense*
M. celatum	*M. kumamotonense*	*M. senuense*
M. celeriflavum	*M. kyorinense*	*M. seoulense*
M. chelonae	*M. lacus*	*M. septicum*
M. chelonae complex	*M. lehmannii*	*M. setense*
M. chitae	*M. lehmannii/neumannii*	*M. sherrisii*
M. chlorophenolicum	*M. lentiflavum*	*M. sherrisii/simiae*
M. chubuense	*M. litorale*	*M. shimoidei*
M. chubuense complex	*M. llatzerense*	*M. shinjukuense*
M. colombiense	*M. longobardum*	*M. simiae*
M. conceptionense	*M. lutetiense*	*M. smegmatis*
M. confluentis	*M. madagascariense*	*M. sphagni*
M. conspicuum	*M. mageritense*	*M. stephanolepidis*
M. cookii	*M. malmoense*	*M. stomatepiae*
M. cosmeticum	*M. mantenii*	*M. szulgai*
M. crocinum	*M. marinum*	*M. talmoniae*
M. crocinum/pallens	*M. marseillense*	*M. terrae*
M. diernhoferi	*M. minnesotense*	*M. thermoresistibile*
M. doricum	*M. monacense*	*M. tokaiense*
M. duvalii	*M. montefiorense*	*M. triplex*
M. eburneum	*M. montmartrense*	*M. triviale*
M. eburneum/talmoniae	*M. moriokaense*	*M. tuberculosis* ※
M. elephantis	*M. mucogenicum*	*M. tusciae*
M. engbaekii	*M. murale*	*M. vaccae*
M. europaeum	*M. murale/tokaiense*	*M. vanbaalenii*
M. fallax	*M. nebraskense*	*M. virginiense*
M. farcinogenes	*M. neoaurum*	*M. vulnerans*
M. flavescens	*M. neumannii*	*M. wolinskyi*
M. florentinum	*M. neworleansense*	*M. xenopi*
M. fluoranthenivorans	*M. nonchromogenicum*	*Mycobacterium* sp.

※TRC法　同定可能菌種

専用輸送容器・輸送培地一覧

分類	材料	検体量（mL）	保存条件	採取容器	
口腔・気道・呼吸器	喀痰	2～3	冷蔵	X00	滅菌喀痰採取容器
	咽頭ぬぐい液	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
消化管	便	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	胆汁	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	胃液	2～3	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
泌尿器・生殖器	中間尿	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	カテーテル尿	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	膣分泌物	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	膿	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
血液・穿刺液	静脈血	最適量 8～10	室温	CBG CBS	血液カルチャーボトル
	動脈血		室温	CBG CBS	血液カルチャーボトル
	髄液	2～3	室温	C10	シードチューブⅡ
	胸水	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
	腹水	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
	関節液	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
その他の部位	耳漏	適量	冷蔵	VS2	eSwab106ミニチップ FLOQスワブ
	眼脂	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	皮膚	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	爪	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	組織	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	膿	適量	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
他	環境材料	–	室温	C30	スタンプ培地（院内環境検査用）
		–	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	胃生検組織	適量	冷蔵	C20	シードチューブHP（ヘリコバクター培養同定用）
	便	1.0g	冷蔵	F00	糞便容器

ARR　旧容器記号 r
滅菌スピッツ10mL用
貯蔵方法　室温

F00　旧容器記号 U
糞便容器
貯蔵方法　室温

C10　旧容器記号 n
シードチューブⅡ
嫌気培養用
（容器容量4mL）
内容
寒天、塩化ナトリウム、リン酸塩等
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から6ヵ月

VS1　旧容器記号 k
eSwab105レギュラー FLOQスワブ
内容
アミーズ培地　1mL
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から1年3ヵ月

C20　旧容器記号 n2
シードチューブHP
（ヘリコバクター培養同定用）
貯蔵方法　冷蔵
有効期間　製造から3ヵ月

VS2　旧容器記号 k1
eSwab106ミニチップ FLOQスワブ
内容
アミーズ培地　1mL
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から1年3ヵ月

C30　旧容器記号 n3
スタンプ培地
院内環境検査用
貯蔵方法　冷蔵
有効期間　製造から4ヵ月

X00　旧容器記号 ℓ
滅菌喀痰採取容器
貯蔵方法　室温

CBG　旧容器記号 m1
血液培養ボトル（嫌気用）
抗生物質
吸着中和剤入
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から9ヵ月
最適量　8～10mL
（許容範囲
3～10mL）

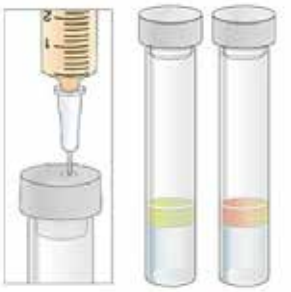
CBS　旧容器記号 q1
血液培養ボトル（好気用）
抗生物質
吸着中和剤入
貯蔵方法　室温
有効期間
製造から9ヵ月
最適量　8～10mL
（許容範囲
3～10mL）

専用容器の採取方法

細菌検査採取方法

●検査材料名または材料採取部位を必ず明記してください。
●目的菌が淋菌、髄膜炎菌の場合は、室温保存してください。
●嫌気性培養の検査材料は、シードチューブⅡに採取してください。
●所要日数は目的菌等により異なりますので、ご了承ください。

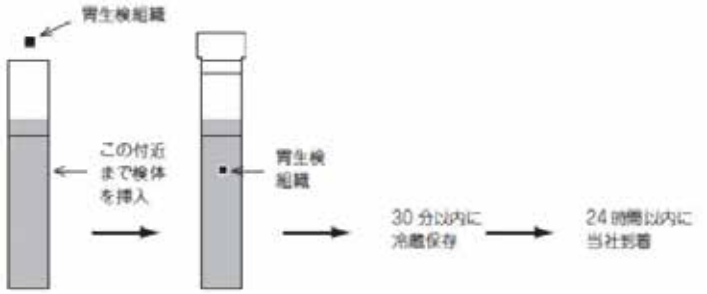
〈シードチューブⅡの取り扱い方法〉
■液体検体(穿刺液、消化液など)
①穿刺部(ゴムキャップ上の小円)を消毒用アルコール綿などで消毒します。
②注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。
③チューブラベルを貼付し輸送してください。
④検体は速やかに検査してください。
　やむを得ず保存する場合は、冷蔵保存してください。



■個体検体(膿、糞便、組織片など)
①ゴムキャップを消毒用アルコール綿などで消毒します。
②ゴムキャップをはずし、固形液体を入れます。
　検体は寒天の奥まで挿入してください。
　(注)綿棒は長さ7cmまで入ります。
　それ以上のものは、切断してください。
③ゴムキャップを速やかにしっかり締めます。
④チューブラベルを貼付し輸送してください。
⑤検体は速やかに検査してください。
　やむを得ず保存する場合は、冷蔵保存してください。

ヘリコバクター培養同定採取方法

〈シードチューブHPの取り扱い方法〉
1．採取した「胃生検組織」を直ちに採取容器(C20)に入れ、黒線より下へ挿入してください。
2．検体は30分以内に冷蔵保存し、当日中にご依頼ください。

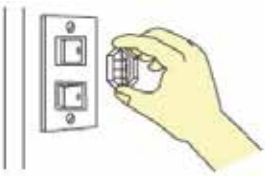


環境検査採取方法

院内環境検査(ふきとり法)
被検体の一定面積(10cm×10cm通例)をeSwab105レギュラーFLOQスワブに添付されている綿棒(あらかじめ培地に刺して湿らせておく)にてよくふきとり再度培地に刺しご提出ください。

テープ等でわくをつくり、
培地で湿らせた綿棒で全体をよくふきとります。

院内環境検査(スタンプ法)
スタンプ培地(C30)のキャップをとりはずし、培地面に手指など触れないよう注意し被検体の表面に培地面をかるく押しつけます。約5秒後再びキャップをしてご提出ください。



約5秒間かるく押しつけます。
(スタンプ培地は担当営業までお問い合わせください)

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
培養同定検査	6853 8	ニューモシスチス イベロチイ (P.jirovecii) DNA定性 6B614-0000-061-862 6B614-0000-091-862	喀痰 0.7	X00	凍結 (28日)	3～5		PCR	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	K299 0		肺胞洗浄液 0.7	ARR						
	K600 4 02077A150	マイコプラズマ ニューモニエDNA 6B616-0000-064-883 6B616-0000-061-883	咽頭ぬぐい液	ARR	凍結 (21日)	2～4	291 ※7	LAMP	陰性	重 咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で拭い、滅菌ポリスピッツ(ARR)に綿棒を入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	K601 3 02077A140		喀痰 2.0	X00						
	A293 6 04410A140	レジオネラDNA 定性 6B611-0000-061-883	喀痰 1.0	X00	凍結 (28日)	3～9	296 ※7	LAMP	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	A235 0 04060A1E8	百日咳菌DNA 6B636-0000-063-883	後鼻腔ぬぐい液	VS4 ARR	凍結 (21日)	2～4	❶ 360 ※7	LAMP	陰性	重 後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ(VS4)で採取し、滅菌ポリスピッツ(ARR)にスワブを入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	A264 8	赤痢アメーバ DNA 定性 6B637-0000-015-851 6B637-0000-086-851	糞便 0.5g	F00	凍結	5～11		PCR	陰性	重 採便後、速やかに凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B950 5		膿 0.7	ARR	凍結 (28日)					

❶「百日咳菌核酸検出」は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、LAMP法又はPCR法により測定した場合に算定できる。

培養同定検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
培養同定検査	4759 5 016452438	淋菌DNA 6B610-0000-050-862 6B610-0000-001-862 6B610-0000-079-862	分泌物	V50	室温 (28日)	2～4	❶ 198 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。 尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	4719 9 016452421		部分尿 5	U10						
	K590 6 016452499		うがい液 5							
	A004 6 020862438	淋菌および クラミジア トラコマチスDNA 同時同定 6B615-0000-050-862 6B615-0000-001-862 6B615-0000-079-862	分泌物	V50	室温 (28日)	2～4	❷ 262 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。 尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	A005 5 020862421		部分尿 5	U10						
	A006 4 020862499		うがい液 5							
	B877 7 045662438	腟トリコモナスおよび マイコプラズマ ジェニタリウム 同時核酸検出 6B643-0000-050-862 6B643-0000-001-862	分泌物	V50	室温 (28日)	2～4	❸ 350 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。 尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1
	B880 3 045662421		部分尿 5	U10						

❶淋菌核酸検出
ア「淋菌核酸検出」、「淋菌抗原定性」又は「細菌培養同定検査(淋菌感染を疑って実施するもの)」を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
イ「淋菌核酸検出」は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による。「淋菌核酸検出」は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。

❷淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出
ア「淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。
ただし、「クラミジア・トラコマチス抗原定性」、「淋菌抗原定性」、「細菌培養同定検査(淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)」、「クラミジア・トラコマチス核酸検出」又は「淋菌核酸検出」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
イ「淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法による。「淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。なお、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、SDA法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。

❸「腟トリコモナス及びマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同時検出」は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。
ア 腟トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ 腟トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。

[B877 7、B880 3]腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出について

[A004 6、A005 5]淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定、[4759 5、4719 9]淋菌DNA、[7700 6、7644 9]クラミジアトラコマティスDNAとの同時依頼のみ可能です。

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
培養同定検査	6703 4 011828850	ウイルス分離 6B655-1410-064-748	下記参照	V10	冷蔵	4~69		細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		凍 凍結保存は避けてください。 分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。 PHfb(ヒト繊維芽細胞)、HEp-2（ヒト喉頭癌細胞)、Vero(ミドリザル腎細胞)、MA104（アカ毛ザル腎細胞)、RD-18S(ヒト横紋筋腫細胞)、MDCK(イヌ腎細胞)、B95a(マーモセットB細胞)、AGMK(アフリカミドリザル腎細胞)、A549（ヒト肺癌細胞)、Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞） &1
	6704 3 011838850	ウイルス同定 6B705-1410-064-748	※1参照	V10	冷蔵	13~77		標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		

[6704 3]ウイルス同定

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

検査材料

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

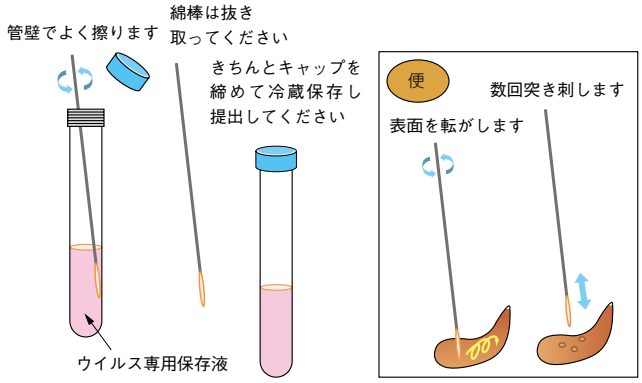
臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状疱疹、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
嘔吐・下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	結膜ぬぐい液

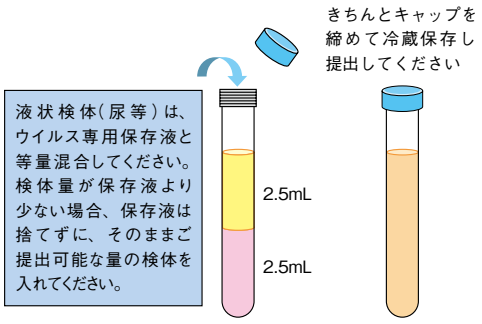
検体採取および保存方法

検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　等	※2 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁　等	下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。
組織	組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存してください。

※1 同定検査は当社の分離検査において分離された検体のみの受付けとなります。
※2 滅菌綿棒はプラスチック棒かアルミニウム棒付の綿棒で採取してください。

●ウイルス専用保存液は当社にて準備しておりますので、ご依頼前に営業員にお申し付けください。





細胞診検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法
細胞診検査	00X42 1	細胞診 (喀痰・体腔液・その他)	喀痰	塗抹標本 (湿固定)2枚	Z10	室温	6～9	❶❷❸❹ 1部位につき 190 ※8	パパニコロウ染色 &P
			擦過物・洗浄液・ 針穿刺吸引液状検体 (胸水・腹水・髄液・胆汁等)・ 捺印標本(リンパ節等)・ 圧挫標本・その他	塗抹標本2枚 (湿固定)1枚 (乾燥固定)1枚	Z10	室温			パパニコロウ染色とギムザ染色、必要に応じPAS染色 &P
	06241 7	細胞診(婦人科LBC ベセスダシステム) 7A020-1652-076-650	子宮頸部・子宮膣部・膣内容・膣断端	容器ごと提出	V41	室温	4～7	❷❺❻ 1部位につき 150+45 ※8	TP染色 &1
	00X44 9	細胞診 (婦人科Class判定) 7A020-8910-085-433	子宮内膜	塗抹標本 (湿固定)1枚	Z10	室温	5～8	❶❷ 1部位につき 150 ※8	パパニコロウ染色 &P
	02326 7	細胞診 (婦人科LBC) 7A020-8910-076-650	子宮頸部・子宮膣部・膣内容・膣断端	容器ごと提出	V41	室温	4～7	❷❺❻ 1部位につき 150+45 ※8	TP染色 &1
	00X45 8	細胞診喀痰 (蓄痰法Class判定) 7A030-8920-061-433	喀痰 (3～5日蓄痰)	容器ごと提出	X10	室温	6～9	❶❷❸ 1部位につき 190 ※8	パパニコロウ染色 &P
	00X46 7	細胞診喀痰 (蓄痰法ABC判定) 7A030-8920-061-433	喀痰 (3～5日蓄痰)	容器ごと提出	X10	室温	6～9	❶❷❸ 1部位につき 190 ※8	パパニコロウ染色 &P
	02329 4	細胞診 (尿LBC) 7A050-8910-001-433	泌尿器材料	尿沈渣 2～4mL	UV6	室温	4～7	❶❷❸ 1部位につき 190 ※8	パパニコロウ染色 &1

❶腟脂膏頸微鏡標本作製、胃液、腹腔穿刺液等の癌細胞標本作製及び眼科プロヴァンツェク小体標本作製並びに天疱瘡又はヘルペスウイルス感染症におけるTzanck細胞の標本作製は、細胞診により算定する。
❷同一又は近接した部位より同時に数検体を搾取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。
❸「穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等」とは、喀痰細胞診、気管支洗浄細胞診、体腔液細胞診、体腔洗浄細胞診、体腔臓器擦過細胞診及び髄液細胞診等を指す。
❹特殊染色加算は、1部位につき、それぞれ所定点数(50点)を加算する。
❺「婦人科材料等によるもの」について、固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、「婦人科材料等液状化検体細胞診加算」として、45点を所定点数に加算する。
❻「注1」に規定する「婦人科材料等液状化検体細胞診加算」は、採取と同時に行った場合に算定できる。なお、過去に穿刺又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製し診断を行った場合には算定できない。

＊専門医の判定が必要な場合(原則的にASC-US、ClassⅢaまたは判定C以上)は通常日数より遅れる場合があります。
＊検査材料、検体量につきましては116ページを参照ください。

細胞診検査の注意事項

・細胞診検査は、必ずしも確定診断ではありません。検査結果はご提出いただいた標本において下されたもので、病変全体を反映するものではないことを、あらかじめご承知おきください。組織診検査等による総合的な診断をお勧めします。(検診検査は偽陰性となる可能性があります。)
・2020年【有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版】(国立がん研究センター)において、「検体は医師採取のみとし、自己採取は認めない」と採取法について明示されました。当該発表を踏まえ、日本臨床細胞学会及び日本産婦人科医会の方針、また今後の動向によりご要望にそえない場合がございます。予めご了承のほどお願いいたします。
・下記については上表よりも日数がかかりますのでご了承ください。
・問い合わせ等の処理工程が増えるものは、上表よりも日数がかかる場合があります。
・コンサルテーションにより上表よりも日数がかかる場合があります。
・集団検診などにより1回で多数のご依頼をいただく場合は、上表よりも日数がかかる場合があります。事前にご相談ください。
・健診時期などによる繁忙期(10～12月頃)は、上表よりも日数がかかる場合があります。

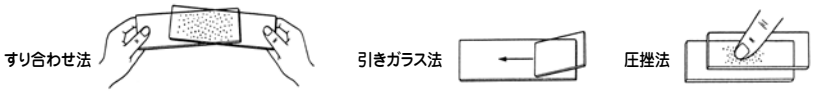
[06241 7]細胞診(婦人科LBCベセスダシステム)、[02326 7]細胞診(婦人科LBC)について

ヒトパピローマウイルス検査(V41：ThinPrep容器)との同時依頼が可能ですが、その際、細胞診の所要日数が1～2日遅れます。

検査材料の提出方法[塗抹、固定、検査材料、検体量]

■各種材料の塗抹

塗抹の仕方は検査材料の種類、性状等に応じて異なります。下記の要領で塗抹してください。



■標本の固定

固定は細胞の変性・融解等の変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。湿固定はパパニコロウ染色、PAS染色等のための固定法で、乾燥固定はギムザ染色等のための固定法です。
固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。迅速な固定をお願いいたします。

1)湿固定【婦人科細胞診・一般細胞診】
塗抹したスライドグラスを95％エタノールに30分以上浸漬して固定してください。湿固定にはサイトタック等を用いたコーティング固定法もあります。コーティング固定剤を使用する場合は、ムラが生じないよう固定液を塗抹全面に充分に噴霧または滴下してください。

2)乾燥固定【一般細胞診】
塗抹後直ちに、塗抹面を扇風機や冷風ドライヤー等で急速に乾燥させます。自然乾燥は乾燥むらを生じるので不充分です。

コーティング固定剤の使用法

噴霧式　　滴下式

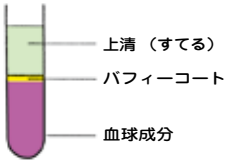
■検査材料、検体量

【細胞診(喀痰・体腔液・その他)】

1) 喀痰
「小豆」大の喀痰を2枚のスライドグラスの間にはさみ、前後左右に押しつぶすように満遍なくのばしてください(すり合わせ法)。癌細胞は血痰部や不透明白濁部、ゼリー状粘液部に多く含まれるので、その部分を塗抹してください。
検体量：湿固定塗抹標本　2枚

2) 擦過材料(気管支、消化管、胸膜・腹膜等)
ブラシ、綿棒等により病巣等を擦過しスライドグラスに塗抹してください。擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

3) 液状材料(胸水、腹水、心嚢液、陰嚢水腫液、各種洗浄液等)
1500rpm5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法または引きガラス法によって塗抹してください。血性検体の場合は有核成分が多いバフィーコート部分を塗抹してください。
検体量：尿・胸水・腹水・心嚢液・陰嚢水腫液、各種洗浄液等　湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚



4) 針穿刺吸引材料(乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、前立腺、睾丸、軟部腫瘍、肝等)
穿刺針内に吸引された材料をスライドグラス中央に静かに吹きだし塗抹します。検体が微量なときはもう1枚のスライドグラスを合わせてからはがし2枚作製してください。多めに得られたときや多量の場合は引きガラス法で塗抹してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

5) 捺印標本(各種固定腫瘍、リンパ節等)
メスやカミソリで切った新しい組織割面をスライドグラスに軽く捺印してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

6) 圧挫標本(中枢神経腫瘍、甲状腺腫瘍等)
組織の小塊(直径1-2mm)を2枚のスライドグラスの間にはさみ、軽く押しつぶして組織が伸展したらスライドグラスをはなし、厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

＜注意＞検体採取から塗抹固定までの許容時間(室温)
喀痰・胸水・腹水・心嚢液…12時間以内　　胆汁・膵液・十二指腸液…氷冷中の容器に採取し、1時間以内
穿刺液・洗浄液・髄液…1時間以内　　擦過材料・捺印材料・圧挫材料…5秒以内

【細胞診(婦人科Class判定)】
婦人科材料
乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚

●検体の取り扱い上、以下の検体についてはご依頼できませんので、ご注意ください。
・ホルマリン固定された検体
・凍結保存された検体
・修復不可能な破損標本
・下記に示すような検査材料
組織、爪、毛髪、便、血液、胆石、結石、骨髄

細胞診検査

検査結果の報告

1）ベセスダシステム
▼標本の適正・不適正の評価について
適正検体：保存状態がよく、鮮明に見える扁平上皮細胞が直接塗抹法では8000～12000個、LBCの場合では5000個以上とされています。
不適正検体：扁平上皮細胞の75％以上が不明瞭である場合、炎症細胞、出血により覆われていた場合、過度な乾燥によるアーチファクトが見られた場合等があてはまります。
＊適正検体とされた場合に、下記の細胞判定が実施されます。

ベセスダ表記	表記の説明	推定病変
陰性（NILM）	陰性	微生物 その他の非腫瘍性所見
扁平上皮系異常		
ASC-US	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い
ASC-H	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い
LSIL	軽度扁平上皮内病変	HPV感染 軽度異形成
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌
腺系異常およびその他の悪性腫瘍		
AGC	異型腺細胞	腺異型または腺癌疑い
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌
Adenocarcinoma	腺癌	腺癌
Other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍

2）Class判定
ClassⅠ：Abscence of atypical or abnormal cells.
ClassⅡ：Atypical cytology but no evidence of malignancy.
ClassⅢ：Cytology suggestive of,but not conclusive for malignancy.
ClassⅢa：Probably benign atypia.
ClassⅢb：Malignancy suspected.
ClassⅣ：Cytology strongly suggestive of malignancy.
ClassⅤ：Cytology conclusive for malignancy.
＊Class判定について、Ⅰ、Ⅱを陰性、Ⅲ、Ⅲa、Ⅲb、を疑陽性、Ⅳ、Ⅴを陽性と読み換えることが可能です。

3）ABC判定

判定区分	細胞所見	指導区分
A	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
B	正常上皮細胞のみ 基底細胞増生 軽度異型扁平上皮細胞 繊毛円柱上皮細胞	現在異常を認めない 次回定期検査
C	中等度異型扁平上皮細胞 核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	再塗抹または6ヵ月内の再検査
D	高度（境界）異型扁平上皮細胞または悪性腫瘍が疑われる細胞を認める	直ちに精密検査
E	悪性腫瘍細胞を認める	

肺癌検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分（2016改定）臨床・病理肺癌取扱い規約第8版

参考文献

1. Masayoshi Takahashi：Color Atlas of Cancer Cytology. IGAKU-SHOIN：1981.
2. 田中　昇, 他：細胞診教本. 宇宙堂八木書店：1988.
3. 田嶋　基男, 他：細胞診全書Ⅱ細胞診の基本技術および細胞診に必要な病理学各論. 宇宙堂八木書店：1980.
4. 栗原　操寿, 他：日本臨床細胞学会教育委員会, 編：臨床細胞診断学教本. 医学図書出版：1985.
5. 高橋　正宜, 他：病理と臨床3（臨時増刊号）針生検細胞診. 文光堂：1985.
6. 日本病理学会, 編：病理技術マニュアル6　細胞診とその技術. 医歯薬出版：1982.
7. 上井　良夫：病理と臨床7（臨時増刊号）腫瘍細胞診　最近の進歩：1989.
8. 矢谷　降一, 他：細胞診を学ぶ人のために. 医学書院：1990.
9. D. Solomon, R. Nayar編　平井康夫監訳：ベセスダシステム2001アトラス
10. 日本産婦人科医会：ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診報告様式の理解のために：2008. 12

	項目コード	検査項目 JLAC10	提出材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法
病理組織検査		病理組織検査(一般病理) 7B010-0000-075-432	ホルマリン固定組織		VP0	室温	5~7*	❶1臓器につき860※8	ヘマトキシリン・エオジン染色 &1
		病理組織検査(肝生検) 7B010-0000-501-432	ホルマリン固定組織(肝生検)		VP0	室温	10~14*		ヘマトキシリン・エオジン染色および特殊染色 ** &1
		病理組織検査(腎生検) 7B010-0000-651-432	ホルマリン固定組織(腎生検)		VP0	室温	10~14*		
		病理組織検査(骨髄生検) 7B010-0000-231-432	ホルマリン固定組織(骨髄生検)		VP0	室温	10~14*		
		手術材料 7B010-0000-075-432	病理組織検査(一般病理)と同時にご依頼ください。						&1
		ヘリコバクターピロリ判定 7B010-0000-075-602	病理組織検査(一般病理)と同時にご依頼ください。ギムザ染色を追加して判定いたします。						&1
		病理標本作製(一般材料)	ホルマリン固定組織		VP0	室温	4~6	❶1臓器につき860※8	ヘマトキシリン・エオジン染色 &1
		病理標本作製(手術材料)					7~10		
		ブロック作製	ホルマリン固定組織	1×1×1mm以上 10×10×5mm以下	VP0	室温	5~7*		
		未染標本作製	パラフィンブロック			室温	5~7*		
		染色標本作製	未染標本スライド	未染標本スライド2枚	Z10	室温	5~7*		
		酵素抗体染色[ホルマリン固定組織]	ホルマリン固定組織(パラフィンブロック・未染色標本スライドでも可)		VP0	室温	5~8*	❷❸❹❺1臓器につき400※8	&1
		CD30(IHC) 7B100-0000-075-666	未染標本スライド	未染標本スライド2枚	Z10	室温	4~6	❷❻400※8	免疫組織化学染色法 &1
		悪性リンパ腫ALKタンパク(IHC) 5D594-0000-075-666	未染標本スライド	未染標本スライド2枚	Z10	室温	5~8	❷❼2700※8	免疫組織化学染色法 &1

❶病理組織標本作製
(1)「組織切片によるもの」について、次に掲げるものは、各区分ごとに1臓器として算定する。
ア 気管支及び肺臓　イ 食道　ウ 胃及び十二指腸　エ 小腸　オ 盲腸　カ 上行結腸、横行結腸及び下行結腸　キ S状結腸　ク 直腸　ケ 子宮体部及び子宮頸部
(2)「セルブロック法によるもの」について、同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。
(3)病理組織標本作製において、1臓器又は1部位から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても、1臓器又は1部位の標本作製として算定する。
(4)病理組織標本作製において、悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製し、又は連続切片標本を作製した場合であっても、所定点数のみ算定する。
(5)当該標本作製において、ヘリコバクター・ピロリ感染診断を目的に行う場合の保険診療上の取扱いについては、「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」に即して行うこと。
(6)「セルブロック法によるもの」は、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫若しくは乳癌を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルブロック法により標本作製した場合に算定する。なお、肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫又は乳癌を疑う患者に対して実施した場合には、組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❷「免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製」は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。
❸「その他(1臓器につき)」について、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。
❹「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
❺肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等ＨＥ染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載すること。なお、次に掲げるいずれかの項目を既に算定している場合には、当該加算は算定できない。
ア 肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)及びMETex14遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)に限る
イ 肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシング)、METex14遺伝子検査(次世代シーケンシング)及びRET融合遺伝子検査に限る
ウ 肺癌関連遺伝子多項目同時検査
エ ALK融合遺伝子標本作製
❻「CD30」は、HQリンカーを用いた免疫組織化学染色法により、悪性リンパ腫の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
❼「ALK融合タンパク」は、以下に掲げる場合において算定できる。
ア 非小細胞肺癌患者に対して、ALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的として、ブリッジ試薬を用いた免疫組織染色法により病理標本作製を行った場合(当該薬剤の投与方針の決定までの間の１回に限る。)
イ 悪性リンパ腫患者に対して、悪性リンパ腫の診断補助を目的として免疫組織染色法により病理標本作製を行った場合(悪性リンパ腫の病型分類までの間の1回に限る。)

病理組織検査

＊所要日数

	所要日数
脱脂処理・脱灰処理が必要な場合	7～12日
酵素抗体染色が必要な場合	約2週間
蛍光抗体が必要な場合	2～3週間
骨髄像が必要な場合	約3週間
専門医による診断が必要な臓器(皮膚・心臓・口腔等)	約2週間
手術材料(切り出し時、5ブロック以上になる場合)	2～3週間

※特殊なご依頼の場合やまとまった件数(処理内容により異なりますがおおむね20件以上)の場合は通常より所要日数が遅れますので、事前に営業員にお問い合わせください。
※上記所要日数は目安です。検査性質上、病理医による判定を含みますため、多少前後する可能性がございます。
＊＊特殊染色
・病理組織検査(肝生検)：ビクトリア青、アザン、鍍銀
・病理組織検査(腎生検)：PAS、PAM、マッソン
・病理組織検査(骨髄生検)：ギムザ、ナフトール、鍍銀、鉄

●病理組織検査におけるHE染色標本は当社で10年間保管させていただきます。
HE染色標本の返却をご要望の際は、当社保管分をお引渡しいたしますので、依頼書の所定欄にチェックをお願いいたします。
なお、返却後の検査結果等についてのお問い合わせの際は再度標本をご提出していただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
●検査を実施する上で、HE染色および上記特殊染色以外に各種染色・酵素抗体染色等が必要となった場合は、追加オーダーさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
●ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ず記載してください。
●パラフィンブロックで染色のみをご依頼される場合は、未染色標本作製の料金もご請求申し上げます。
●未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は、1染色2枚をご提出ください。
●作製ブロック数が1～4ブロックは一般材料、5ブロック以上は手術材料になります。
●検体の取り扱い上、以下の検体についてはご依頼できませんので、ご注意ください。
・生体組織材料以外の検体
・凍結組織や乾燥した組織
・長期間に渡り放置された組織
・ヒト以外の動植物組織
・クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる患者検体
・犯罪が示唆されるような生体組織材料
・高放射性検体と疑われる生体組織材料(放射能が充分崩壊するまで保管する設備が整っていないため)

病理専用容器(VP0)について

病理専用容器(VP0)に10～20%ホルマリン液を充填し、組織を固定してご提出ください。
病理専用容器(VP0)に入らない大きさの組織は、充分に固定後、ヒストパック(特大、大、中、小)に入れてご提出ください。

病理標本作製(一般材料)、病理標本作製(手術材料)について

・核酸抽出の用途でのご依頼は避けてください。
・本項目は、ホルマリン固定組織から1ブロックにつきHE染色標本1枚を作製し、返却する項目となります。

CD30(IHC)、悪性リンパ腫ALKタンパク(IHC)の提出方法について

1)本検査は、免疫組織化学染色により、悪性リンパ腫の診断補助を目的とした検査です。
別途、鑑別診断を必要とされる場合は、他の染色標本や試料等も必要となるため、検査室までお問い合わせください。
2)未染標本スライドでご提出の場合は、標本は3～4μmの厚さに薄切し、シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、スライドグラス端から50mm以内に貼り付けてください。
3)パラフィンブロックにてご依頼の場合、未染標本スライド作製のため所要日数が遅れますので、営業員へご確認ください。また、未染色標本作製の料金もご請求申し上げます。

検査材料の提出方法

病理学的検査のご提出の際は10～20%ホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、染色済標本でお願いいたします。
注)放射線による治療または検査を実施した患者様検体で、放射能汚染の可能性がある際には、事前にデータインフォメーションへお知らせください。

■10～20%ホルマリン固定組織

1)摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐため、直ちに10～20%ホルマリン液を充填した(VP0)容器に入れ固定してください。
2)固定液は、10～20%ホルマリン液を使用し、組織の10倍を目安とし充分量を使用してください。
3)胃生検等の微小組織片をご提出の場合は、濾紙等に貼り付け10～20%ホルマリン液へ入れてください。
(なお、複数個ご提出の際は、濾紙へナンバー等を鉛筆で記入するか、または、採取部位(各ナンバー)ごとに10～20%ホルマリンの入った容器に入れてください。)
4)一容器に一臓器(一種類の臓器)を入れてご提出ください。なお、大きさが著しく異なる臓器は必ず容器を分けてください。
5)検体輸送時における安全上の観点から、提出容器に「ホルマリン固定組織」であることを明示したうえでご提出ください。
注1)組織を10～20%ホルマリン液に入れた日時を必ず依頼書(「採取月日」「採取時刻」欄)にご記入ください。
注2)下記の組織を提出される際は、表中の点に注意してください。

組　織	注　意　点
消化管・胆嚢	薄い板に粘膜面を上にして、虫ピンでとめ、10～20%ホルマリン液に入れます。充分固定が行われたのち(約1日)上記方法にてご提出ください。
肺	切り出した面の気管支断端から10～20%ホルマリン液を注入し、できるだけ肺胞をふくらませ空気を追い出したのちに組織を10～20%ホルマリン液に浸してください。充分固定が行われたのち(約1日)上記方法にてご提出ください。
子宮・乳房・腎	子宮や大きい臓器等では、固定が不充分となることが多いので、あらかじめ割面を入れてから固定してください。
胃，腸などのパンチバイオプシー(濾紙につける場合)	生検材料の水分をよく取りのぞき、濾紙の上に10秒程度のせたのちにそのまま10～20%ホルマリン液に入れてください。(組織を乾燥させないよう充分注意してください)

注3)病理専用容器(VP0)に入らない大きさの組織は、下記方法にてヒストパックに入れてご提出ください。
固定が充分にされた組織より虫ピンなどをはずした後、ヒストパックに移し、少量のホルマリン固定液を入れます。
ヒストパック内の空気を充分に抜いて、上部のジッパーを閉めてください。ヒストパックには患者名などを記載したらラベルを貼付してください。

■パラフィンブロック

すでに作製済みのパラフィンブロックを、破損のないようガーゼ等で包みビニール袋等に入れてご提出ください。

■未染標本スライド

未染標本スライドにより各種染色をご依頼される場合は、スライドガラスにナンバー等を記入の上、切片が傷つかぬようにしてご提出ください。
染色標本作製や酵素抗体依頼で染色によりましては、染色中に切片がはがれたりする場合があります。その時は、未染標本スライドの再度提出をお願いいたしますのでご了承ください。

■極微細組織

極微細組織などで、検査の材料の有無が不明の検体につきましては、お客様による再確認のため、検体を返却させていただく場合がございます。

依頼書およびラベルへの記入方法

病理組織検査をご依頼の際は専用の「病理検査依頼書」および容器をご使用ください。なお、依頼書およびラベルには下記事項を必ずご記入ください。

■依頼書

1)氏名、性別、年齢、生年月日
2)切除(採取)日、切除臓器名、切除数
3)臨床診断名、臨床経過、治療、臨床検査諸事項
4)前回実施の登録標本№
5)婦人科疾患、女性乳腺疾患等の場合は月経、妊娠の状態等をご記入ください。
6)胃や肺など大きな組織を提出される場合は、切り出し部位の指示をご記入ください。

■容器ラベルおよび凍結組織ラベル

1)施設名、氏名、性別、年齢
2)依頼書における容器№とのひも付けのため、必ず容器№(1、2、3、……)をご記入ください。
また、併せて臓器名、切除数もご記入ください。
(容器№と臓器名称が不明確な場合には、検査結果をお返しできないこともございます)

検査結果の報告

■酵素抗体染色検査および各種染色検査報告

検査結果は、ご依頼の染色済標本の返送をもって行います。

リスク検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
リスク検査	5521 7 T00000246	男性AIRS (認知機能評価あり)	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結 (21日)	9~12		LC/MS		重 溶 50歳以上の方、かつAILS(認知機能低下)を選択した方が受診する際には、本コードをご選択ください。なお、49歳以下の方は、AILS(認知機能低下)の検査対象外(除外基準)となりますので、別コード(認知機能評価なし)をご選択ください。 検体取扱い方法は次ページをご参照ください。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、AICS®及びAILS®を報告する検査です。 なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &1
	5523 5 T00000248	女性AIRS (認知機能評価あり)								
	5519 0 T00000245	男性AIRS (認知機能評価なし)	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結 (21日)	9~12		LC/MS		重 溶 49歳以下の方は、AILS(認知機能低下)の検査対象外(除外基準)となります。49歳以下の方、あるいは50歳以上の方であってもAILS(認知機能低下)を選択しなかった方が受診する際には、本コード(認知機能評価なし)をご選択ください。 検体取扱い方法は次ページをご参照ください。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより、AICS®及びAILS®を報告する検査です。 なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &1
	5522 6 T00000247	女性AIRS (認知機能評価なし)								
	5957 4 T00005957	男性AICS(5種)	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結 (21日)	9~12		LC/MS		重 溶 検体取扱い方法は次ページをご参照ください。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先(味の素株式会社)にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。 なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &1
	5958 3 T00005958	女性AICS(6種)								

アミノインデックス®とは

アミノインデックス®は、血液中の各種アミノ酸濃度のバランスから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。アミノインデックス®の解析は、味の素株式会社に委託して解析されています。

AIRS®(AminoIndex® Risk Screening)とは

アミノインデックス®を用いて1回の採血で、血液中のアミノ酸バランスから、現在・将来のさまざまな疾患リスクを一度に評価する検査です。

AICS®(AminoIndex® Cancer Screening)とは

アミノインデックス®を用いて、現在がんである可能性を評価する検査です。
男性AICS5種:胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
女性AICS6種:胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん(子宮頸がん、子宮体がん)・卵巣がん

AILS®(AminoIndex® LifeStyle diseases)とは

血液中のアミノ酸濃度バランスから10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク、4年以内に糖尿病を発症するリスク、血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ、および現在認知機能が低下している可能性を評価し、検査結果に基づくⅠ~Ⅳ、およびⅠ*~Ⅳ*のタイプを報告します。また、このタイプをもとに、生活改善評価情報が提供できます。なお、AILS®単独での受託はできません。

AIRS®、AICS®の留意事項

AIRS®は下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外は評価対象外となります。

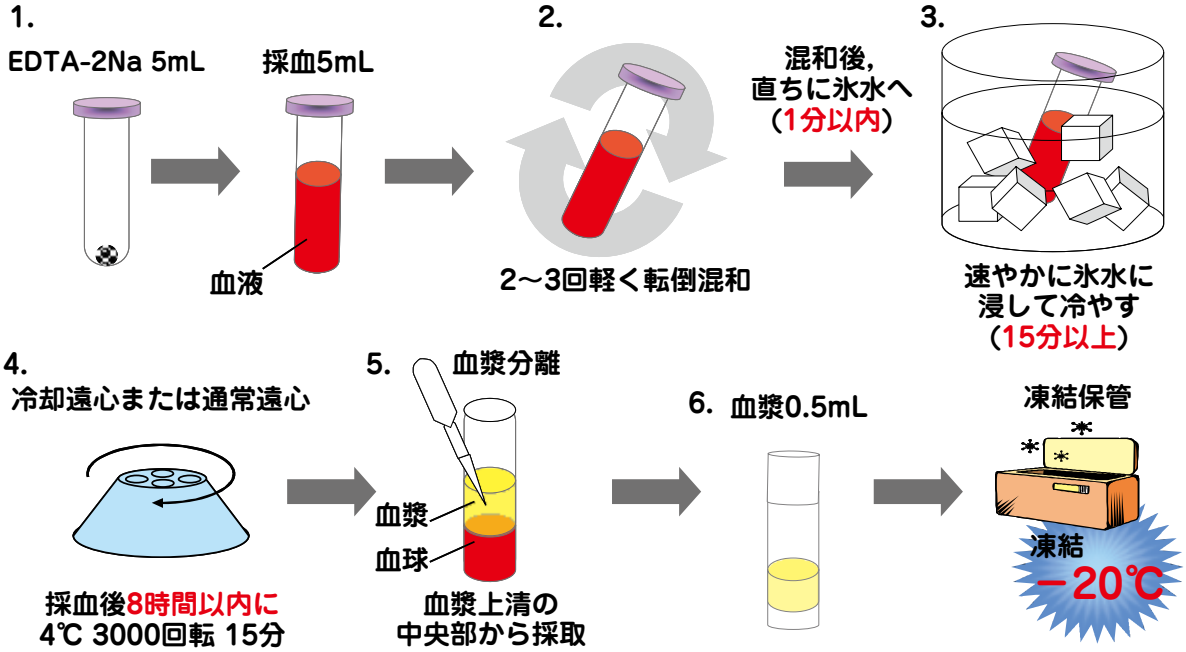
検査項目		評価対象	対象年齢
男性	AICS(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん	25歳～90歳
		前立腺がん	40歳～90歳
	AILS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AILS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません	50歳～100歳※
女性	AICS(6種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25歳～90歳
		子宮がん・卵巣がん	20歳～80歳
	AILS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AILS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません	50歳～100歳※

・脳卒中の方・心筋梗塞の方、糖尿病の方、認知症の方、軽度認知障害の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)の場合、その疾病・所見に関するのAILS値や生活習慣改善タイプは出力されますが、いずれも評価対象外となります。

・妊娠されている方、授乳中の方、がん患者(治療中を含む)の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、検査結果に影響があるため、検査の実施はご遠慮ください。なお、AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません。
・検査前８時間以内に、水以外(食事、サプリメント等)は摂取せず、午前中に採血してください。(検査前日の高タンパク質の食事も避けてください)
また、当日朝の運動はお控えください。
・薬剤による本検査への影響はわかっておりません。
・他項目との重複依頼は避けてください。
・強溶血検体や、血漿(EDTA-2Na)以外の材料での、受託はできません。
・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。

検体の取り扱いについて

1. EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください。
2. 採血直後、血液を2～3回軽く転倒混和してください。(ローラーでの混和は行わないでください。)
3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。
4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温していないこと)してください。
5. 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。
6. 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。



リスク検査

	項目コード 新項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
リスク検査	B751 6 T00000275	My Nightingale (マイ ナイチンゲール)	速やかに遠心 血清 1.0	S09 ↓ A00	凍結 (30日)	12~18		プロトン核磁気共鳴(NMR)分光法		重 検体の取り扱い方法は下記をご参照ください。本項目は株式会社ウェルタスへ委託し、Nightingale Health Japan株式会社にて測定・解析することで総合的な健康状態を把握するための検査です。本検査は特定の病気の診断をするものではありません。 &Y

My Nightingale™(マイ ナイチンゲール)とは

My Nightingale™(マイ ナイチンゲール)は、プロトン核磁気共鳴(NMR)分光法を用いて250項目の血清中バイオマーカーを測定し、得られた測定値からNightingale Health社が開発した総合健康指標(ナイチンゲールヘルススコア)および各種健康指標(炎症スコア/コレステロールバランススコア/脂肪酸バランススコア/糖尿病耐性スコア/心臓年齢/心血管疾患リスク/2型糖尿病リスク)を算出し、総合的な健康状態を把握するための検査です。

バイオマーカー測定値より算出される総合健康指標および各種健康指標

炎症スコア … 全身の炎症状態の把握。慢性的な全身の軽度炎症は、特に腹部の過剰な脂肪量に関連しており、糖尿病や心臓病などの慢性疾患の発症に中心的役割を果たしていることがわかっています。

コレステロールバランススコア … HDL粒子のタンパク質であるApoA1とVLDLやLDL粒子のタンパク質であるApoBの比率。この比が高いほど血中コレステロールのバランスが良いといえます。

脂肪酸バランススコア … 多価不飽和脂肪酸(PUFA)と一価不飽和脂肪酸(MUFA)の比率。PUFAは糖尿病や心臓病のリスクを軽減し、MUFAが高いと太り過ぎやインスリン抵抗性を示唆する。脂肪酸バランスが高いほど健康的であるといえます。

糖尿病耐性スコア … 2型糖尿病の発症に対し、なりにくさを知るための推測値。グルコース、中性脂肪、HDLコレステロール、糖タンパクアセチルなど複数のバイオマーカーから算出されます。

心臓年齢 … 実年齢に対する心血管系の健康状態を反映します。コレステロール、糖タンパクアセチル、ApoB/ApoA1比などから今後10年間の心臓病リスクを算出し、標準データと比較して心臓年齢を算出します。

心血管疾患リスク … 今後10年間の心血管疾患罹患リスク

2型糖尿病リスク … 今後10年間の2型糖尿病罹患リスク

ナイチンゲールヘルススコア … 各種健康指標から算出された総合健康指標。日常生活における生活習慣や食生活の状況を反映し、継続的に検査を受けることで全身の健康状態の変化を把握することができます。

各種健康指標及び総合健康指標の判定基準

スコア名	評価内容	スコア名	評価内容
炎症スコア	非常に良好(90-100) 良好(80-89) 改善の余地あり(60-79) 要改善(50-59) 要注意(40-49)	心血管疾患リスク	低/境界/平均/高
コレステロールバランススコア		2型糖尿病リスク	低/境界/平均/高
脂肪酸バランススコア		心臓年齢	18 ~∞(歳) 良い(実年齢+1歳未満) 要改善(実年齢+1歳以上)
糖尿病耐性スコア			
ナイチンゲールヘルススコア			

[B751 6] My Nightingale(マイナイチンゲール)の留意事項

- 空腹時採血による検査です。採血前4時間以上の絶食をお願いします。
  検査当日に食事をする場合は、脂質の多い食事や食べ過ぎに注意してください。
- 本検査結果は受診者の血液から測定したバイオマーカー(血液中に含まれる様々な成分)を分析することで、集団における統計的な傾向や、測定値が受診者と同様の人の結果を示すことを目的としており、受診者の健康状態や体質、病気を診断するものではありません。
- 現在妊娠中の方、病気をお持ちの方、治療中・投薬中の方は正確な結果が得られない可能性があります。
- 本検査のバイオマーカー測定結果は既存測定方法と同じ値にならない可能性があります。
- 他項目との重複依頼は避けてください。
- 強溶血検体や指定容器以外で採血された検体の受託はできません。
- ご依頼の際は採取日、年齢、性別を必ず記載してください。

検体の取り扱いについて

1.指定の採血容器に5mL程度を採血し、4~5回転倒混和してください。
2.採血後、室温保存(9~25℃)*1では2時間以内、冷所保存(0~15℃)*1では12時間以内に遠心分離(15~20℃で1500G、10分以上)し、血清1.0mLを分注してください。
※分離剤入り採血管で遠心分離した際は、室温保存(9~25℃)*1の場合8時間以内、冷所保存(0~15℃)*1の場合48時間以内に分注してください。
3.分注後、直ちに凍結してご提出ください。

*1 採血後、遠心分離までの間の保存温度は委託先による設定となります。

アレイCGH法

蛍光標識したサンプル由来DNAと正常細胞由来DNAを比較することにより、ゲノムに生じる増幅や欠失などのコピー数変化(CNV)を検出するcomparative genomic hybridization (CGH)の原理とマイクロアレイの技術を組み合わせた方法です。

インベーダー法

DNAの三重鎖構造を特異的に認識して切断するクリベース(エンドヌクレアーゼの一種)を利用した、二段階のホモジニアスな等温反応からなる遺伝子多型の判定法。

ウエスタンブロット法(Western blot)

目的とする蛋白質を電気泳動により分画し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

液相(核酸)ハイブリダイゼーション

液相中でrRNAを遊離させ、化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、ハイブリッドを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する方法。

オクタロニー法(Ouchterlony method)
平板内二重免疫拡散法

平板内二重免疫拡散法と呼ばれるゲル内拡散法の1つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ、抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から、抗原と抗体の反応を確認する方法。

凝固時間法

測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。

金コロイド法

金コロイド標識抗体を反応させ、抗原抗体反応により金コロイド粒子が凝集する色調変化を光学的に測定する方法。

原子吸光分析法

元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管中などで元素の原子化を行い、この原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して、吸光度から元素量を定量する方法。

酵素抗体法

目的とする抗原に対して、酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。
酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

酵素法

測定原理は比色法と同様で、測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。

サザンブロットハイブリダイゼーション(Southern blot hybridization)

制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分画し、1本鎖DNAに変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行い、目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

次世代シークエンス(NGS)法

次世代シーケンサーを用いて、膨大な数のDNA断片の塩基配列の決定を、同時並行的に行う方法。

ダイレクトシーケンス法

PCR法で増幅したDNAを鋳型として直接塩基配列を決定する方法。

超遠心法

超遠心機を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。

電気泳動法

荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。
水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法

電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。
イオン選択電極は特定のイオンに応答し、イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。

等温核酸増幅法

PCR法とは異なり、鎖置換型DNA合成酵素などを用いて、核酸を一定温度で増幅する方法。

ネフェロメトリー (Nephelometry)

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の散乱強度を測定する方法。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法(Colorimetry)

測定物質を着色物質に変換後、可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

フローサイトメトリー (Flow cytometry)

蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光(細胞の大きさ)や90°散乱光(細胞の内部構造)と蛍光強度(細胞表面の対応抗原)から個々の細胞を解析する方法。
2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

検査方法の概略

プロトン核磁気共鳴(NMR)分光法

静磁場に置かれた物質の構成原子核がその核特有の周波数のラジオ波に共鳴して低エネルギーの核スピン状態から高エネルギーの核スピン状態に遷移することに伴いラジオ波を吸収する現象を利用したスペクトル測定法。

マルチプレックスPCR-フラグメント解析(Multiplex PCR Fragment Analysis)

複数の標的遺伝子を増幅後、PCR増幅産物をシーケンサーにてキャピラリー電気泳動を行う。
DNAのサイズに応じて分離され、増幅量に応じたピークを専用ソフトウエアーにより設定されたQMVR幅により解析、識別する方法。

メチレーションPCR

非メチル化シトシンがバイサルファイト処理でウラシルに変換されることを利用し、バイサルファイト処理後のメチル化シトシンと非メチル化シトシンの塩基配列の違いから対象領域のメチル化をPCRで確認する方法。

ラインブロット法(Line immunoassay)

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、2次反応させ、抗体の検出を行う方法。

リアルタイムPCR

PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

(各種)band

リンパ球または骨髄細胞を培養し、分裂中期の細胞を固定する。その後、色素で染色体上に縞模様(バンド)を染め出し、その分布と濃淡から分析を行う方法。
トリプシン溶液で処理後ギムザ染色を行うG-Banding、HCl、$Ba(OH)_2$、2×SCCで処理後ギムザ染色するC-Banding、キナクリン・マスタードで染色後、蛍光顕微鏡で観察するQ-Banding、分裂前期の終わりから分裂中期の始めの分裂像を用い、通常よりバンド数を増やして観察する高精度分染法などがある。

CF(Complement fixation)
補体結合反応

補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。
赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが、抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから、溶血の程度から抗体の存在を判定する。

CLEIA(Chemiluminescent enzyme immunoassay)
化学発光酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。

CLIA(Chemiluminescent immunoassay)
化学発光免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。

ECLIA(Electro chemiluminescence immunoassay)
電気化学発光免疫測定法

抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後、ルテニウムピリジン錯体で標識した抗体を抗原に2次反応させ、電気化学反応によりルテニウムピリジン錯体の発光強度を測定する方法。

EIA(Enzyme immunoassay)
酵素免疫測定法

測定原理はRIAと同様で、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISA(Enzyme-Linked immunosorbent assay)
酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISPOT(Enzyme-Linked ImmunoSpot)

抗体を固相化したプレートに、分離細胞と特異抗原を加え培養し、細胞から産生されたタンパク質を発色基質と反応させ、スポットを得る方法。

FA(Fluorescent antibody method)
蛍光抗体法

IFA(Indirect Fluorescent antibody method)
間接蛍光抗体法

目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。
蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

FEIA(Fluorescence enzyme immunoassay)
蛍光酵素免疫測定法

EIAの1つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。

FIA(Fluorescence Immunoassay)
蛍光免疫測定法

固相化した抗原に対して標的物質を反応させた後、蛍光物質で標識した抗体または抗原を2次反応させ、蛍光強度を測定する方法。

FISH(Fluorescence *in situ* hybridization)
蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。
蛍光色素で標識したプローブと標的DNAを直接結合させる直接法と、標識物質で標識したプローブと標的DNAを結合させた後に、標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

HA(Hemagglutination)
赤血球凝集反応

赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI(Hemagglutination inhibition)
赤血球凝集抑制反応

ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ、凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。

HPLC(High performance liquid chromatography)
高速液体クロマトグラフィー

移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで、高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離する方法。

IC(Immuno-Chromatography)
イムノクロマト法

検体中の抗原または抗体と、金コロイド粒子などで標識させた標識抗体または標識抗原が、メンブレンフィルター上を免疫複合体を形成しながら移動し、メンブレンフィルター上にあらかじめ固定化された抗体または抗原で免疫複合体が補足され、呈色し、目視などで結果判定する検出法。

IRMA(Immuno radio metric assay)
免疫放射定量法

RIAの1つで、固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、放射性同位元素(RI)で標識した抗体を抗原に2次反応させる方法。
固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから、サンドイッチ法とも呼ばれる。

KIMS(Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution)

抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。

LA(Latex agglutination)
ラテックス凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子(感作ラテックス粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

LA(Latex agglutination immunoassay)
ラテックス凝集比濁法

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率または光の散乱強度から測定する方法。

LAMP(Loop-Mediated Isothermal Amplification)

標的遺伝子の配列から6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させる方法。

LC/MS(Liquid chromatography/mass spectrometry)
液体クロマトグラフィー質量分析法

目的物質を高速かつ高精度に分離するHPLCに、MS(質量分析)を検出器として結合させ、検出選択性・定性機能を更に向上させた方法。

LC/MS/MS(Liquid chromatography tandem mass spectrometry)
液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法

液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する方法。

LPIA(Latex photometric immunoassay)
ラテックス近赤外免疫比濁法

抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。

MALDI-TOF-MS

レーザー光を吸収するマトリックスと分析物の混合物にレーザー照射し、タンパク質を分解させずにイオン化する方法(MALDI)と、生成されたイオンの質量電荷比によりイオンの飛行時間が異なることを利用して質量分析を行う方法(TOF-MS)を組み合わせた方法。
MALDI：Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization
マトリックス支援レーザー脱離イオン化
TOF-MS：Time-of-Flight Mass Spectrometry
飛行時間型質量分析法

MLPA(Multiplex ligation-dependent probe amplification)

共通PCRプライマー配列を融合させた特異プローブを標識領域にハイブリダイズ後、PCRを行い、その増幅産物の量的変化について、比較的大規模なゲノム欠失もしくは重複を検出する方法。

NT(Neutralization test)
中和反応

ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。
ウイルスと抗体を反応させた後、ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し、細胞変性効果(cytopathogenic effect:CPE)の有無により中和抗体の存在を判定する。

PA(Particle agglutination)
粒子凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたゼラチン粒子など(感作粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

PCR(Polymerase chain reaction)

DNAが加熱により2本鎖から1本鎖に解離し、冷却することで2本鎖に戻ることを利用し、1本鎖DNAを鋳型として目的のプライマーを結合させ、DNAポリメラーゼの転写反応によりDNA合成を行うことを繰り返し、目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法。

PHA(Passive hemagglutination)
受身赤血球凝集反応

赤血球の表面に抗原を吸着(結合)させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

POT法(PCR-based ORF Typing)

菌株毎に保有状態が異なるORF(Open Reading Frame:遺伝子の読み枠)を選んでおき、それらの保有パターンをマルチプレックスPCRによって検出することで菌株の遺伝子型(POT型)を決定する方法。
POT型を比較することで菌株レベルの識別が可能となり、集団感染から得られた分離株は、多くの場合、同一POT型になります。

RIA(Radio immunoassay)
放射性免疫測定法

抗体に対して放射性同位元素(RI)で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行い、抗体と結合した標識抗原(結合型：Bound)と抗体と結合していない標識抗原(遊離型：Free)を分離し、その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。
結合型と遊離型の分離方法(B/F分離)として、抗体を固相化しておく固相法、抗原抗体複合体に第2抗体を結合させて沈澱させる2抗体法、抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム(硫安)で沈澱させる硫安塩析法、抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させるPEG法などがある。

RRA(Radio receptor assay)
ラジオレセプターアッセイ

測定原理はRIAと同様で、抗体の代わりにレセプター（受容体）を用いて、その反応性から生物活性を求める方法。

RT-PCR(Reverse transcriptase-polymerase chain reaction)

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素(reverse transcriptase:RT)により相補的なcDNAを合成してPCRを行う方法。

TIA(Turbidimetric immnoassay)
免疫比濁法

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、透過率を測定する方法。

TMA(Transcription mediated amplification)

2種類の酵素と2種類のプライマーおよび基質を用いてRNAを増幅する方法。
抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し、この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAを合成することを繰り返し、目的とするRNA領域を増幅させる。

TRC(Transcription Reverse Transcription Concerted reaction)

インターカレーター性蛍光色素が標識されたDNAプローブと一定温度RNA増幅法を組み合わせて、RNAを1ステップで増幅・リアルタイム検出する方法。

UV法(Ultraviolet absorption spectrophotometry)
紫外部吸光光度分析

測定原理は比色法と同様で、紫外部波長を用いて測定する方法。
通常は200 ～ 400nmの近紫外部の波長が使われる。

^{3}H-サイミジン取り込み能(^{3}H-TdR uptake)

リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。
リンパ球に刺激物質と^{3}H-サイミジンを加えて培養し、DNA合成により^{3}H-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA、Con-A、薬剤などが用いられる。

検査項目	測定参考文献
蛋白・膠質反応	
総蛋白(TP)(血清)	Gornall AG et al：J Biol Chem 177：751～766, 1949.
総蛋白(TP)(髄液・蓄尿)	田中　雅美,他：医療と検査機器・試薬 33（3）：393～397, 2010.
アルブミン(Alb)	浅井　孝道：検査と技術 7（10）：815～820, 1979.
尿中アルブミン	舛方　栄二：検査と技術 33（7）：625～630, 2005.
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	舛方　栄二：検査と技術 33（7）：625～630, 2005.
A/G比	浅井　孝道：検査と技術 7（10）：815～820, 1979.
蛋白分画	伊藤　喜久：Medical Technology 39（3）：278～284, 2011.
クンケル反応(ZTT)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：458, 20151.
酵素および関連物質	
CK(CPK)	日本臨床化学会：臨床化学 19（2）：184～208, 1990.
CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	Wurzburg U et al：Klinische Wochenschrift 54：357～360, 1976.
AST(GOT)	日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：226～230, 1989.
ALT(GPT)	日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：250～254, 1989.
LD(LDH)IFCC	Schumann et al：Clin Chem Lab Med 49（9）：1439～1446, 2011.
LD(LDH)アイソザイム	森山　隆則,他：Medical Technology 25（1）：45～51, 1997.
アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	Schumann et al：Clin Chem Lab Med 49（9）：1439～1446, 2011.
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	倉澤　健太郎,他：医学と薬学 55（2）：279～285, 2006.
胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)	Shinichiro Watanabe, et al：Pediatr Neurosurg 48：141～145, 2012.
ALPアイソザイム(IFCC)	芝　紀代子：目でみる電気泳動法 2（医歯薬出版）：55～71, 1989.
γ-GT(γ-GTP)	日本臨床化学会酵素専門委員会：臨床化学 24（2）：106～121, 1995.
アルドラーゼ	三浦　雅一,他：臨床検査機器・試薬 12（5）：1005～1009, 1989.
コリンエステラーゼ(ChE)	大澤　進,他：臨床化学 24（3）：138～145, 1995.
グアナーゼ	手登根　稔,他：検査と技術 13（10）：901～905, 1985.
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	佐野　史良,他：臨床検査機器・試薬 9（4）：715～720, 1986.
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	小林　照明,他：臨床検査機器・試薬14（6）：929～935, 1991.
アミラーゼ(AMY)	高笠　信之：The Chemical Times 201（3）：9～11, 2006.
アミラーゼアイソザイム	星野　忠,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（3）：293～297, 2012.
P型アミラーゼ定量	高笠　信之：The Chemical Times 201（3）：9～11, 2006.
リパーゼ	宇治　義則,他：検査と技術 25（10）：819～824, 1997.
トリプシン	植田　進之介,他：医学と薬学 77（12）：1659～1668, 2020.
膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）	竹田　昌弘,他：ホルモンと臨床 38（7）：729～734, 1990.
エラスターゼ1	大出　勝也,他：肝と膵 23（6）：477～480, 2002.
子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	北村　光,他：臨床検査機器・試薬 21（4）：357～361, 1998.
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	西沢　良記,他：医学と薬学 54（5）：709～717, 2005.
リゾチーム	北村　元仕：実践臨床化学 増補：432～436, 1982.
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	Kasahara Y et al：Clinical Chemistry 27（11）：1922～1925, 1981.
ペプシノゲン	三木　一正,他：医学と薬学 56（6）：889～896, 2006.
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	氏家　真二,他：医学と薬学 67（5）：741～747, 2012.
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕	乾　正幸,他：日本ヘリコバクター学会誌 19（1）：33～42, 2017.
低分子窒素化合物	
クレアチニン	安原　正善,他：臨床検査機器・試薬 17（1）：59～67, 1994.
シスタチンC	Tanaka M, et al：Clinical Biochemistry 37：27～35, 2004.
尿酸(UA)	金井　泉,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：503～507, 2005.
尿素窒素(UN)	森下　芳孝：Medical Technology 26（6）：695～700, 1998.
アンモニア	奥田　拓道,他：最新医学 21（3）：622～627, 1966.
アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
アミノ酸分析(41種類)	日本生化学会：生化学実験講座11 アミノ酸代謝と生体アミン 1版：53～67, 1976.
アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	中村　俊之,他：臨床病理 37（8）：911～917, 1989.
ハイドロキシプロリン-総	鈴木　隆夫,他：日本臨床化学会年会記録 28：118, 1988.
血中総ホモシステイン	Christian Hellmuth, et al：Journal of Chromatography B, 879：83～89, 2011.
糖質および関連物質	
グルコース	日本臨床化学会試薬専門委員会：臨床化学 20（4）：247～254, 1991.
ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)	水松　良光,他：日本臨床検査自動化学会会誌 41（2）：215～220, 2016.
グリコアルブミン	石橋　みどり,他：医学と薬学 52（3）：403～412, 2004.
ヒアルロン酸	島村　朗,他：医学と薬学 44（6）：1141～1146, 2000.
1,5-アンヒドロ-D- グルシトール(1,5AG)	遠藤　輝夫,他：医療と検査機器・試薬 26（1）：45～50, 2003.
シアル酸	水田　亘,他：臨床病理 特(54)：128～134, 1983.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
有機酸	
乳酸	浅沼　和子,他：生物試料分析 8（3）：16～24, 1985.
ピルビン酸	浅沼　和子,他：生物試料分析 8（3）：16～24, 1985.
尿中シュウ酸	小川　由英,他：腎と透析 臨増：151～157, 1997.
血中ケトン体分画	西ヶ谷　晴美,他：医学検査 45（3）：353, 1996.
アセトン定量	深掘　すみ江,他：労働科学 59（12）：555～562, 1983.
有機酸スクリーニング検査	河野　芳功,他：日本小児科学会雑誌 89（10）：2327～2334, 1985.
脂質および関連物質	
中性脂肪(TG)	Tamaoku K et al：Chem Pharm Bull 30（7）：2492～2497, 1982.
リン脂質	Takayama M et al：Clinica Chimica Acta 79：93～98, 1977.
遊離脂肪酸(NEFA)	Sugo S, et al：Clinical Chemistry 36（1）：163, 1990.
総コレステロール(T-Cho)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：512, 2015.
エステル型コレステロール(Echo)	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
遊離コレステロール(F-Cho)	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
コレステロールエステル比	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
HDL-コレステロール	田口　隆由,他：臨床検査機器・試薬 24（1）：35～41, 2001.
$HDL_{2,3}$コレステロール	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry 23（11）：2089～2098, 1977.
LDL-コレステロール	菅野　剛史,他：医学と薬学 37（3）：635～644, 1997.
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	大石　千早,他：日本臨床検査自動化学会会誌 35（1）：83～87, 2010.
sd LDL-コレステロール	伊藤　康樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（1）：10～16, 2012.
酸化LDL(MDA-LDL)	小谷　一夫：酸化ストレスマーカー 学術出版センター：243～246, 2005.
sd LDL-C(健診)	伊藤　康樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（1）：10～16, 2012.
脂肪酸分画(24成分)	小沢　昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
脂肪酸分画(4成分)	小沢　昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
極長鎖脂肪酸	小池　亮子：小児科診療 53（増）：394～397, 1990.
総胆汁酸	今野　稔：臨床検査機器・試薬 16（3）：472～479, 1993.
β-リポ蛋白	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：548, 2005.
リポ蛋白分画(アガロースゲル電気泳動法)	芝　紀代子：目でみる電気泳動法２：91～99, 1989.
コレステロール分画	櫻林　郁之介,他：HDL-コレステロール基礎と臨床（株)テクノ：207～220, 1980.
リポプロテイン(a)	岡野　芳幸,他：日本臨床検査自動化学会会誌 21（5）：705～709, 1996.
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Kobayashi J et al：Clinica Chimica Acta 216：113～123, 1993.
アポリポ蛋白 A-Ⅰ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 A-Ⅱ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 B	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅱ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅲ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 E	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
肺サーファクタント プロテインA(SP-A)	大木　卓,他：医学と薬学 71（1）：161～166, 2014.
肺サーファクタント プロテインD(SP-D)	土居　耕介,他：医学と薬学 78（3）：261～267, 2021.
ビタミンおよび関連物質	
β-カロチン	加美山　茂利,他：臨床検査 31（3）：268～274, 1987.
ビタミンA	須原　聡,他：臨床検査 36（3）：235～239, 1992.
ビタミンB_1	宮川　秀則,他：生物試料分析 36（4）：327～330, 2013.
ビタミンB_2	大石　誠子：ビタミンハンドブック３ ビタミン分析法(化学同人)：71～80, 1989.
ビタミンB_6	吉田　継親,他：薬学雑誌 98（10）：1319～1326, 1978.
ビタミンB_{12}	中森　誠,他：医療と検査機器・試薬 27（3）：215～221, 2004.
カルニチン分画	伊丹　儀友,他：臨床検査58（5）：651～658, 2014.
ビタミンC(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al：Analytical Biochemistry 229:329～335, 1995.
25OHビタミンD(骨粗鬆症)	小島　哲：臨床化学 48（3）：239～244, 2019.
25ヒドロキシビタミンD(くる病・骨軟化症)	小島　哲：臨床化学 48（3）：239～244, 2019.
1,25-$(OH)_2$ビタミンD	Fraser WD et al：Ann Clin Biochem 34：632～637, 1997.
ビタミンE	阿部　皓一,他：栄養と食糧 28（5）：277～280, 1975.
ビタミンK分画	langenberg JP et al：Journal of Chromatography 305：61～72, 1984.
葉酸	西村　和子,他：生物試料分析 35（4）：299～308, 2012.
ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢　滋：ビタミン 56（9・10）：487～499, 1982.
電解質・血液ガス	
Na(ナトリウム)	桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358, 1990.
K(カリウム)	桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358,1990.と高橋　勝幸：検査と技術20（6）：106～110, 1992.
Cl(クロール)	関口　光夫：検査と技術 17（9）：1167～1172,1989.と桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358, 1990.
Mg(マグネシウム)	北村　元仕：実践臨床化学 1版(医歯薬出版)：166～171, 1974.
Ca(カルシウム)	根占　哲也：都臨技会誌 34（5）：270～281, 2006.

検査項目	測定参考文献
P(無機リン)	Drewes PA：Clinica Chimica Acta 39：81 ～ 88, 1972.
浸透圧	鈴木　明,他：検査と技術 6（9）：759 ～ 762, 1978.
生体微量金属	
鉄(Fe)(血清)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
鉄(Fe)(尿)	溝口　秀昭：臨床医 8（10）：1624 ～ 1626, 1982.
総鉄結合能(TIBC)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
不飽和鉄結合能(UIBC)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
Cu(銅)(血清)	Abe A et al：Clinical Chemistry 35（4）：552 ～ 554, 1989.
Cu(銅)(尿)	Ichida T et al：Clinica Chimica Acta 24：299 ～ 303, 1969.
Zn(亜鉛)(血清)	井上　哲,他：医療と検査機器・試薬 41（3）：283 ～ 287, 2018.
Zn(亜鉛)(尿)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17（5）：369 ～ 373, 1971.
生体色素関連物質	
総ビリルビン(T-Bil)	徳田　邦明,他：臨床化学 22（2）：116 ～ 122, 1993.
ビリルビン(直接，間接)	徳田　邦明,他：臨床化学 22（2）：116 ～ 122, 1993.
コプロポルフィリン 定性	近藤　雅雄：日本臨牀 53（6）：1377 ～ 1382, 1995.
コプロポルフィリン(尿)	近藤　雅雄：日本臨牀 53（6）：1377 ～ 1382, 1995.
コプロポルフィリン(血液)	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
ウロポルフィリン(血液)	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
プロトポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
δ-アミノレブリン酸(δALA)	園藤　陽子,他：産業医学 35：126 ～ 127, 1993.
毒物・産業医学的代謝物質	
尿中総三塩化物 トリクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中総三塩化物 1･1･1-トリクロルエタン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中総三塩化物 テトラクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 1･1･1-トリクロルエタン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中馬尿酸	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中メチル馬尿酸	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中スチレン代謝物	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中マンデル酸エチルベンゼン	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中N-メチルホルムアミド	Mraz J et al：Journal of Chromatography 414：399 ～ 404, 1987.
尿中2,5-ヘキサンジオン	Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health 51：253 ～ 260, 1983.
アルミニウム(Al)	Oster O：Clinica Chimica Acta 114：53 ～ 60, 1981.
クロム	松岡　澄：産業医学13（6）：525 ～ 537,1971.と田中　俊行,他：医学と生物学101（5）：277 ～ 281, 1980.
カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry 25（11）：1948 ～ 1953, 1979.
マンガン	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology 17（6）：660 ～ 666, 1977.
生化学(その他)	
ネオプテリン	Hausen A et al：Journal of Chromatography 227：61 ～ 70, 1982.
エタノール	馬嶋　正隆,他：北里医学 14：424 ～ 430, 1984.
イヌリン定量	木全　伸介,他：医療と検査機器・試薬 28（2）：143 ～ 149, 2005.
結石分析(成分比率)	神　ちひろ,他：分析化学 53（7）：735 ～ 741, 2004.
抗菌薬	
アミカシン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
トブラマイシン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
ゲンタマイシン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
バンコマイシン	石澤　春美,他：栃木県臨床衛生検査技師会雑誌 8（2）：103 ～ 107, 2013.
テイコプラニン	諸岡　美里,他：日本臨床検査自動化学会会誌 38（1）：79 ～ 82, 2013.
抗てんかん薬	
カルバマゼピン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
ジアゼパム	Brodie RR et al：Journal of Chromatography 150：361 ～ 366, 1978.
エトスクシミド	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202 ～ 211, 1978.
フェノバルビタール	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
フェニトイン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
プリミドン	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202 ～ 211, 1978.
バルプロ酸	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
トリメタジオン	斉藤　正行,他：ドラッグレベルモニタリング　治療への臨床化学的アプローチ：100 ～ 110, 1982.
ゾニサミド	安田　真依,他：医療と検査機器・試薬 38（2）：205 ～ 210, 2015.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
トピラマート	Matar, K M：Clinica Chimica Acta 411：729～734, 2010.
レベチラセタム	Mendu, D R, Soldin S J：Clinical Biochemistry 43：485～489, 2010.
スチリペントール	Deeb S,et al：J Anal Toxicol 38（8）：485～494, 2014.
ルフィナミド	Deeb S,et al：J Anal Toxicol 38（8）：485～494, 2014.
ペランパネル	Mano Y, et al：J Pharm Biomed Anal 107：56～62, 2015.
ラコサミド	Drew Payto, et al：Bioanalysis 6（23）：3161～3168, 2014.
アセタゾラミド	Sadee W et al：ドラッグレベルモニタリング：90～91, 1982.
免疫抑制薬	
シクロスポリン	古屋　実,他：医学と薬学 70（5・6）：961～973, 2013.
タクロリムス	古屋　実,他：医学と薬学 70（5・6）：961～973, 2013.
ミコフェノール酸	細坪　秀夫,他：今日の移植 14（4）：485～491, 2001.
循環器用薬	
ジゴキシン	水内　由利,他：医学と薬学 35（4）：847～851, 1996.
ジソピラミド	扇谷　茂樹,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：520～523, 1983.
リドカイン	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202～211, 1978.
プロカインアミド	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860～864, 2008.
プロプラノロール	Ahnoff M et al：Journal of Chromatography 340：73～138, 1985.
ピルメノール	市川　林,他：臨床医薬 11（4）：903～906, 1995.
精神神経用薬	
ハロペリドール	白井　晶子,他：医学と薬学 49（6）：1011～1017, 2003.
ブロムペリドール	白井　晶子,他：医学と薬学 50（1）：101～107, 2003.
リチウム	細羽　恵美子,他：臨床化学 46（1）：39～46, 2017.
薬物（その他）	
アセトアミノフェン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860～864, 2008.
テオフィリン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061～1074, 1999.
サリチル酸	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860～864, 2008.
メトトレキサート	鈴木瑛真,他：医療検査と自動化50（1）：16～21, 2025.
イマチニブ	Bakhtiar R, et al：Journal of Chromatography B 768：325～340, 2002.
血液一般・形態検査	
血液一般検査	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版　（金原出版）：265～295, 2005.
好酸球数	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版　（金原出版）：265～295, 2005.
網赤血球数（RET）	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版　（金原出版）：265～295, 2005.
末梢血液像	西　国広,他：血液形態観察のすすめ方 第2版：1～288, 1995. 巽　典之,他：自動血液検査品質保証論：26～27, 2005.
鼻汁中好酸球	奥田　稔：臨床検査 29（3）：267～272, 1985.
凝固・線溶関連検査	
活性化部分 トロンボプラスチン時間（APTT）	日野　志郎：臨床検査講座15　血液学：244～250, 1984.
プロトロンビン時間（PT）	高宮　脩：臨床検査機器・試薬 17（6）：1079～1085, 1994.
フィブリノーゲン（FIB）	金井　正光,他：臨床検査法提要 第33版　（金原出版）：358～360, 2010.
可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	八戸　雅孝,他：臨床病理 60（12）別冊：1139～1144, 2012.
フィブリンモノマー複合体定量	内藤　澄悦,他：医学と薬学 48（4）：595～599, 2002.
FDP定量（血漿）	長野　美恵子,他：医療と検査機器・試薬 27（1）：23～29, 2004.
FDP定量（尿）	堀内　伸純,他：臨床検査機器・試薬 14（2）：267～270, 1991.
Dダイマー	大石　彩,他：Sysmex Journal Web 17（4）：1～10, 2016.
プロトロンビンフラグメントF1+2	Pelzer H, et al：Thrombosis and Haemostasis 65（2）：153～159, 1991.
アンチトロンビンⅢ（ATⅢ）	Scully MF et al：Clinica Chimica Acta 79：595～602, 1977.
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）	木村　真波,他：医療と検査機器・試薬 33（4）：525～533, 2010.
プラスミノーゲン	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145, 1978.
アンチプラスミン（α_2プラスミンインヒビター）	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145, 1978.
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PICテスト）	徐　吉夫,他：臨床検査機器・試薬 16（6）：1107～1113, 1993.
トータルPAI-1（tPA・PAI-1複合体）	曽我部　万紀,他：医学のあゆみ 173（12）：997～998, 1995.
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子（F8）〔合成基質法〕	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版（金原出版）：407～410, 2015.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子（F9）〔合成基質法〕	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版（金原出版）：407～410, 2015.
凝固因子活性検査 第Ⅱ因子（F2）	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅴ因子（F5）	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅶ因子（F7）	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子（F8）	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子（F9）	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.

検査項目	測定参考文献
凝固因子活性検査 第Ⅹ因子(F10)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629 ～ 633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅺ因子(F11)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629 ～ 633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅻ因子(F12)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629 ～ 633, 1996.
凝固因子活性検査 第XIII因子(F13)	Fickenscher K et al：Thrombosis and Haemostasis 65（5）：535 ～ 540, 1991.
凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196 ～ 198, 1983.
凝固抑制因子検査 第Ⅸ(9)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196 ～ 198, 1983.
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	Macfarlane DE et al：Thrombos Diathes Haemorth 34：306 ～ 308, 1975.
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	Susan Oliver et al：international journal of laboratory hematology 41（6）：762～771, 2019.
ADAMTS13-活性	伊藤　晋,他：日本輸血細胞治療学会誌 56（1）：27 ～ 35, 2010.
ADAMTS13 インヒビター	伊藤　晋,他：日本輸血細胞治療学会誌 56（1）：27 ～ 35, 2010.
β-トロンボグロブリン(β-TG)	高橋　芳右,他：血液と脈管 18（4）：326 ～ 335, 1987.
血小板第4因子(PF-4)	高橋　芳右,他：血液と脈管 18（4）：326 ～ 335, 1987.
プロテインC(抗原量)	筒井　聰明,他：検査と技術 12（7）：581 ～ 587, 1984.
プロテインC活性	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621 ～ 626, 2016.
プロテインS(抗原量)	安藤　秀実,他：医療と検査機器・試薬 41（5）：509 ～ 519, 2018.
プロテインS活性	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621 ～ 626, 2016.
プロテインS(遊離型抗原量)	安藤　秀実,他：医療と検査機器・試薬 41（5）：509 ～ 519, 2018.
トロンボモジュリン	小野　真弓,他：日本臨床検査自動化学会会誌 38（1）：114 ～ 117, 2013.
視床下部・下垂体ホルモン	
成長ホルモン(GH)	小山　沙世,他：医学と薬学 68（5）：899 ～ 910, 2012.
プロラクチン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
黄体形成ホルモン(LH)	皆方　良介,他：臨床検査機器・試薬 22（5）：429 ～ 438, 1999.
卵胞刺激ホルモン(FSH)	皆方　良介,他：臨床検査機器・試薬 22（5）：429 ～ 438, 1999.
甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	北川　亘,他：医学と薬学 78（1）：59 ～ 70, 2021.
抗利尿ホルモン(AVP)	田中　誠仁,他：医学と薬学 72（8）：1379 ～ 1388, 2015.
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白	
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793 ～ 804, 2020.
遊離サイロキシン(Free T_4)	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793 ～ 804, 2020.
サイログロブリン〔CLEIA〕	北村　由之,他：医学と薬学 77（12）：1683 ～ 1690, 2020.
副甲状腺ホルモン	
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	猪俣　啓子,他：医学と薬学 74（1）：45 ～ 54, 2017.
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	森山　和重,他：医学と薬学 70（4）：829 ～ 836, 2013.
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	福本　誠二,他：ホルモンと臨床 40（12）：1309 ～ 1314, 1992.
カルシトニン	北川　亘,他：医学と薬学 72（1）：97 ～ 108, 2015.
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白	
血中11-OHCS	宇田川　美佐子,他：臨床化学 5（3）：321 ～ 325, 1977.
コルチゾール	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
尿中コルチゾール	関口　昌江,他：医学と薬学 69（6）：985 ～ 991, 2013.
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸　梨恵,他：医学と薬学 56（3）：443 ～ 448, 2006.
17α-ヒドロキシプロゲステロン(生後4ヵ月以下)	柳瀬　里美,他：医学と薬学 78（4）：461 ～ 466, 2021.
17α-ヒドロキシプロゲステロン(生後5ヵ月以上)	柳瀬　里美,他：医学と薬学 78（4）：461 ～ 466, 2021.
副腎髄質ホルモン	
カテコールアミン総	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297 ～ 303, 1983.
カテコールアミン3分画(血漿)	辻　潮,他：臨床検査機器・試薬 11（4）：635 ～ 641, 1988.
カテコールアミン3分画(尿)	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297 ～ 303, 1983.
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	Clark ZD, et al：Journal of Chromatography B 879（31）：3673 ～ 3680, 2011.
L-ドーパ	守　和子：産業医学 17：170 ～ 171, 1975.
ドーパミン総	守　和子：産業医学 17：170 ～ 171, 1975.
HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34（12）：2504 ～ 2506, 1988.
VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34（12）：2504 ～ 2506, 1988.
セロトニン(血液)	Anderson GM et al：Gastroenterology 88：86 ～ 89, 1985.
セロトニン(血漿)	Nebinger P et al：Journal of Chromatography 427：326 ～ 330, 1988.
5-HIAA(血漿)	小島　司,他：臨床化学 21（2）：119 ～ 126, 1992.
5-HIAA(尿)	Mailman RB et al：Clinical Chemistry 31（11）：1849 ～ 1854, 1985.
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白	
エストラジオール(E_2)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
プロゲステロン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
プレグナンジオール	平井　利生,他：日本臨床検査自動化学会会誌 9（2）：564 ～ 567, 1984.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
プレグナントリオール	平井　利生,他：日本臨床検査自動化学会会誌 9（2）：564 ～ 567, 1984.
テストステロン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819 ～ 830, 2017.
絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	Cole LA, et al：Clinical Chemistry 47（2）：308 ～ 315, 2001.
遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)	Cole LA：Clinical Chemistry 43（12）：2233 ～ 2243, 1997.
抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	浅田　義正,他：医学と薬学 76（10）：1527 ～ 1532, 2019.
膵・消化管ホルモン	
インスリン	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：479 ～ 484, 2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：485 ～ 491, 2006.
膵グルカゴン	稲垣　貴之,他：医学と薬学 72（3）：491 ～ 497, 2015.
ガストリン	花石　智子,他：医学と薬学 80（5）：513 ～ 520, 2023.
内分泌学的(その他)	
アルドステロン〔CLEIA〕	佐藤　文俊,他：医学と薬学 76（12）：1819 ～ 1826, 2019.
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	佐藤　文俊,他：医学と薬学 76（12）：1827 ～ 1832, 2019.
レニン活性(PRA)〔EIA〕	宇津　貴央,他：医学と薬学 73（3）：311 ～ 321, 2016.
サイクリックAMP	孫　孝義,他：日本内分泌学会雑誌 61（9）：912 ～ 923, 1985.
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	浜　典男,他：基礎と臨床 25（13）：4205 ～ 4212, 1991.
ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド(BNP)	伊藤　洋子,他：医学と薬学 64（6）：931 ～ 939, 2010.
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	古屋　実,他：医学と薬学 74（5）：607 ～ 617, 2017.
エリスロポエチン	増田　詩織,他：医学と薬学 67（2）：297 ～ 306, 2012.
オステオカルシン	吉村　典子,他：Osteoporosis Japan 13（3）：759 ～ 765, 2005.
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	西村　順,他：医学と薬学 57（4）：523 ～ 535, 2007.
肝細胞増殖因子(HGF)	二井谷　好行,他：臨床検査 35（13）：1360 ～ 1364, 1991.
FGF23〔CLEIA〕	和泉　裕一,他：医療と検査機器・試薬 42（3）：219 ～ 224, 2019.
アディポネクチン〔LA〕	Nishimura A. et al：Clinica Chimica Acta 371：163 ～ 168, 2006.
レプチン〔ELISA〕	小川　佳宏,他：医学と薬学 77（5）：1 ～ 8, 2020.
sFlt-1/PlGF比	Stefan Verlohren, et al：American Journal of Obstetrics Gynecology 202（2）：161.e1 ～ 161.e11, 2009.
腫瘍関連抗原	
癌胎児性抗原(CEA)	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897 ～ 907, 2006.
α-フェトプロテイン定量	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897 ～ 907, 2006.
塩基性フェトプロテイン(BFP)	設楽　光弘,他：臨床病理 36（9）：1039 ～ 1044, 1988.
CA125	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：589 ～ 596, 2006.
CA15-3	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：589 ～ 596, 2006.
BCA225	小林　美耶子,他：医学と薬学 72（7）：1249 ～ 1259, 2015.
CA19-9	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897 ～ 907, 2006.
CA72-4	矢田　紗世,他：医学と薬学 74（7）：831 ～ 840, 2017.
シアリルTn抗原(STN)	井村　裕夫,他：癌と化学療法 16（9）：3213 ～ 3219, 1989.
CA54/61	野澤　志朗,他：癌と化学療法 19（12）：2085 ～ 2093, 1992.
DUPAN-2	櫻林　郁之介,他：臨床病理 34（6）：705 ～ 710, 1986.
APOA2アイソフォーム	十亀　麻子,他：医学と薬学 80（11）：1089 ～ 1096, 2023.
シアリルLe^x-i抗原(SLX)	井村　裕夫,他：癌と化学療法 14（5）：1315 ～ 1321, 1987.
シアリルLe^x抗原(CSLEX)	三嶋　芳樹,他：医学と薬学 29（5）：1193 ～ 1200, 1993.
NCC-ST-439	吉岡　久,他：臨床病理 35（11）：1233 ～ 1238, 1987.
SPan-1	梅山　馨,他：膵臓 3（4）：528 ～ 539, 1988.
SCC	林　圭織,他：医学と薬学 76（12）：1809 ～ 1818, 2019.
前立腺特異抗原(PSA)	細羽　恵美子,他：医学と薬学 76（11）：1635 ～ 1641, 2019.
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	佐藤　達郎,他：医学と薬学 43（1）：97 ～ 106, 2000.
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：597 ～ 602, 2006.
5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)	Wakamatsu K et al：Clinical Chemistry 40（3）：495 ～ 496, 1994.
NSE(神経特異エノラーゼ)	矢田　紗世,他：医学と薬学 74（7）：831 ～ 840, 2017.
PIVKA-Ⅱ	古谷　桃子,他：医学検査 68（1）：56 ～ 60, 2019.
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	山本　典江,他：医療と検査機器・試薬 32（2）：263 ～ 267, 2009.
血清抗p53抗体	橋本　礼輔,他：医学と薬学 75（8）：955 ～ 964, 2018.
血清 HER2タンパク	LuftnerD, et al：The International Journal of Biological Markers 19（3）：175 ～ 182, 2004.
可溶性メソテリン関連ペプチド	中町　衛,他：医学と薬学 65（2）：261 ～ 267, 2011.
ウイルス感染症検査	
HBVゲノタイプ	田中　靖人,他：臨床病理 57（1）：42 ～ 47, 2009.
HBV DNA定量(IU)	菅原　昌章,他：医学と薬学 73（10）：1329 ～ 1339, 2016.
HBs抗原(HQ)	戸来　孝,他：医学と薬学 72（9）：1569 ～ 1577, 2015.
HBs抗体〔CLEIA〕	大根　久美子,他：臨床病理 63（8）：907 ～ 912, 2015.
HBs抗体	蒲池　正次,他：臨床検査機器・試薬 17（6）：1173 ～ 1180, 1994.

検査項目	測定参考文献
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	Inoue T, et al：J Hepatol 75（2）：302～310, 2021.
HBc抗体(IgG)	八橋　弘,他：医学と薬学 66（6）：1075～1081, 2011.
IgM-HBc抗体	熊谷　保之：日本臨床検査自動化学会会誌 25（1）：70～74, 2000.
HBc抗体	森藤　隆夫,他：臨床病理 特(67)：101～108, 1986.
HA抗体	矢野　公士,他：医学と薬学 58（1）：151～161, 2007.
IgM-HA抗体	矢野　公士,他：医学と薬学 58（1）：151～161, 2007.
HCV群別(グルーピング)	長谷川　瞳, 他：医学と薬学70（3）：633～641, 2013.
HCV RNAコアジェノタイプ	Ohno T et al：Journal of Clinical Microbiology 35（1）：201～207, 1997.
HCV RNA定量	菅原　昌章,他：医学と薬学 73（10）：1329～1339, 2016.
HCV抗原(コア蛋白質)	田原　和子,他：日本臨床検査自動化学会会誌 36（2）：267～274, 2011.
IgA-HEV抗体(定性)	飯野　四郎,他：医学と薬学 53（4）：461～469, 2005.
ヒトパルボウイルスB19 IgG	要藤　裕孝,他：感染症学雑誌 69（10）：1135～1140, 1995.
ヒトパルボウイルスB19 IgM	要藤　裕孝,他：感染症学雑誌 69（10）：1135～1140, 1995.
ヒトパルボウイルスB19DNA 定性	Sevall JS：Molecular and Cellular Probes 4：237～246, 1990.
ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)	三浦　俊昭,他：医学と薬学 69（1）：157～162, 2013.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	Clavel C et al：Diagnostic Molecular Pathology 9（3）：145～150, 2000.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	Ko. V et al：Cancer Cytopathology 108（6）：468～474, 2006.
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	尾崎　聡,他：臨床病理 60（7）：621～626, 2012.
ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	Clavel C et al：Diagnostic Molecular Pathology 9（3）：145～150, 2000.
アデノウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
アデノウイルスDNA 定性	Hierholzer JC et al：Journal of Clinical Microbiology 31（7）：1886～1891, 1993.
アデノウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
アデノウイルス 37型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
単純ヘルペスウイルス特異抗原	川名　尚,他：感染症学雑誌 61（9）：1030～1037, 1987.
単純ヘルペスウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
単純ヘルペスウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第３版 第1分冊：48～61, 1987.
単純ヘルペスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第３版 第1分冊：48～61, 1987.
単純ヘルペスウイルス DNA 定性	Cao M et al：J Invest Dermatol 82：391～392, 1989.
単純ヘルペスウイルス DNA定量	Stevens J：実験医学 15（7S）：728～733, 1997.
単純ヘルペスウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
単純ヘルペスウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	林　伸英,他：生物試料分析 36（3）：229～234, 2013.
水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	新村　眞人,他：感染症学雑誌 64（2）：195～201, 1990.
水痘・帯状疱疹ウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
水痘・帯状疱疹ウイルス IgG	吉田　晃,他：臨床とウイルス 13（4）：490～496, 1985.
水痘・帯状疱疹ウイルス IgM	平野　勝,他：医学と薬学 42（4）：641～645, 1999.
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	本藤　良,他：日本臨牀 50（特別号）：160～165, 1992.
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	Kimura H et al：The Journal of Infectious Diseases 178：310～317, 1998.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	権藤　久司,他：臨床血液 34（11）：1438～1444, 1993.
サイトメガロウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
サイトメガロウイルス IgG	熊田　洋高,他：医学と薬学 72（6）：1087～1094, 2015.
サイトメガロウイルス IgM	熊田　洋高,他：医学と薬学 72（6）：1087～1094, 2015.
サイトメガロウイルス DNA 定性	Olive DM et al：Journal of Clinical Microbiology 27（6）：1238～1242, 1989.
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	Mitani Y, et al：Nat Methods 4（3）：257～262, 2007.
サイトメガロウイルス核酸定量	森　沙耶香,他：医学と薬学 77（8）：1181～1188, 2020.
EBウイルスDNA 定量	Kimura H, et al：J Clin Microbiol 37（1）：132～136, 1999.
EBウイルスDNA(クロナリティ)	Raab-Traub N et al：Cell 47：883～889, 1986.
EBウイルス 抗VCA IgG〔EIA〕	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
EBウイルス 抗VCA IgG〔FA〕	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgM〔EIA〕	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
EBウイルス 抗VCA IgM〔FA〕	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EA IgG	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
EBウイルス 抗EA-DR IgG	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EA-DR IgA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
EBウイルス 抗EBNA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EBNA IgG	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2)：363～369, 2007.
ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	近藤　一博,他：蛋白質核酸酵素 35（17)：3041～3047, 1990.
ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	Tanaka N et al：Bone Marrow Transplantation 26：1193～1197, 2000.
ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	Yalcin S et al：Archives of Virology 136：183～190, 1994.
エンテロ ウイルス 70型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エンテロ ウイルス 71型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス A群10型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群2型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群2型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群3型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群3型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群4型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群4型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群5型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群5型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群6型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群6型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
エコーウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 3型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 7型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 11型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 12型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 13型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 14型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 17型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 18型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 22型(パレコウイルス1型)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 24型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 25型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 30型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
日本脳炎ウイルス(JaGAr株)	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第2分冊：81～97, 1987.
日本脳炎ウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
風疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
風疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
風疹ウイルス IgM	佐藤　俊則,他：臨床とウイルス 23（1)：44～47, 1995.
インフルエンザウイルス A型(H1N1)(H3N2)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
インフルエンザウイルス A型	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
インフルエンザウイルス B型〔HI〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
インフルエンザウイルス B型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
パラインフルエンザウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
RSウイルス〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
RSウイルス〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.

検査項目	測定参考文献
麻疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48 ～ 61, 1987.
麻疹ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48 ～ 61, 1987.
ムンプスウイルス〔HI〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214 ～ 225, 1973.
ムンプスウイルス〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
ムンプスウイルス〔CF〕	北村　元仁,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
ムンプスウイルス IgG	尾崎　隆男,他：臨床とウイルス 50（3）：129 ～ 133, 2022.
ムンプスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第１分冊：48 ～ 61, 1987.
HTLV-Ⅰ(ATLV) 抗体〔CLEIA〕	植柳　泰,他：医学と薬学 73（8）：1031 ～ 1035, 2016.
HTLV-1抗体	Zrein M, et al：Clin Diagn Lab Immunol 5（1）：45 ～ 49, 1998.
HTLV-1核酸検出(妊婦) 定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology 80（21）：10683 ～ 10691, 2006.
HTLV-1プロウイルスDNA 定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology 80（21）：10683 ～ 10691, 2006.
HTLV-Ⅰ(ATLV) プロウイルスDNA(クロナリティ)	渡辺　俊樹,他：Meidical　Immunology 16（6）：785 ～ 791, 1988.
HIV-1RNA定量	目崎　和久,他：医学と薬学 73（6）：705 ～ 709, 2016.
HIV-1/2特異抗体	Kondo M, et al：PLOS ONE 13（10）e0198924：1 ～ 10, 2018.
HIV抗原・抗体	桜庭　尚哉,他：医学と薬学 65（5）：663 ～ 672, 2011.
ノロウイルス抗原	田中　智之：医学と薬学 61（1）：93 ～ 98, 2009.
ノロウイルスRNA定性	Kageyama T, et al：J Clin Microbiol 41（4）：1548 ～ 1557, 2003.
感染症(非ウイルス)関連検査	
クラミジアトラコマティス IgA	梶原　祥子,他：医学と薬学 37（3）：711 ～ 719, 1997.
クラミジアトラコマティス IgG	梶原　祥子,他：医学と薬学 37（3）：711 ～ 719, 1997.
クラミジアトラコマティスDNA	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6）：1007 ～ 1014, 2011.
オーム病クラミドフィラ(クラミジア シッタシ)	北村　元仁,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：62 ～ 75, 1987.
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：62 ～ 75, 1987.
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM	宮下　修行,他：小児科診療 71（1）：95 ～ 99, 2008
抗ストレプトリジン-O 抗体(ASO)	伊藤　忠一：臨床検査 39（6）：685 ～ 688, 1995.
エンドトキシン定量	土谷　正和,他：日本細菌学雑誌 45（6）：903 ～ 911, 1990.
透析液中エンドトキシン A液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68 ～ 70, 2003.
透析液中エンドトキシン B液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68 ～ 70, 2003.
透析液中エンドトキシン RO水	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68 ～ 70, 2003.
透析液中エンドトキシン 調整液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68 ～ 70, 2003.
透析液中エンドトキシン その他	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68 ～ 70, 2003.
百日咳抗体〔EIA〕	岡田　賢司：医学と薬学 65（4）：531 ～ 536, 2011.
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	乾　正幸,他：日本ヘリコバクター学会誌 19（1）：33 ～ 42, 2017.
便中ヘリコバクターピロリ抗原	朝日　佳代子,他：医学と薬学 57（2）：253 ～ 260, 2007.
梅毒定性 RPR〔LA〕	桜庭　尚哉：医学と薬学 63（1）：103 ～ 109, 2010.
梅毒定量 RPR〔LA〕	桜庭　尚哉：医学と薬学 63（1）：103 ～ 109, 2010.
梅毒定性 TP抗体〔LA〕	高橋　勝幸,他：医療と検査機器・試薬 33（1）：89 ～ 95, 2010.
梅毒定量 TP抗体〔LA〕	高橋　勝幸,他：医療と検査機器・試薬 33（1）：89 ～ 95, 2010.
寒冷凝集反応	原島　典子,他：衛生検査 27（1）：67 ～ 71, 1978.
マイコプラズマニューモニエ〔CF〕	北村　元仁,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
マイコプラズマニューモニエ〔PA〕	大関　トシイ,他：自治医科大学臨床検査技師年報 12：62 ～ 64, 1988.
ツツガムシカーブ IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
ツツガムシカーブ IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
ツツガムシカトー IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
ツツガムシカトー IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
ツツガムシギリアム IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
ツツガムシギリアム IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270 ～ 274, 1984.
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	篠田　孝子,他：真菌と真菌症 30（3）：211 ～ 221, 1989.
カンジダマンナン抗原	新崎　晃弘,他：臨床検査機器・試薬 23（3）：197 ～ 203, 2000.
アスペルギルス抗原	見手倉　久治,他：医学と薬学 42（1）：207 ～ 212, 1999.
β-D-グルカン	吉田　耕一郎,他：医学と薬学 67（6）：895 ～ 902, 2012.
トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅　修司,他：日本呼吸器学会誌 39（1）：7 ～ 11, 2001.
トキソプラズマ IgG抗体	亀井　喜世子,他：臨床病理 42（7）：743 ～ 747, 1994.
トキソプラズマ IgM抗体	亀井　喜世子,他：臨床病理 42（7）：743 ～ 747, 1994.
結核菌特異的IFN-γ	Meier T, et al：European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases24：529 ～ 536, 2005.
MAC抗体(抗酸菌抗体定性)	Kitada S, et al：AMERICAN JOURNAL OF Respiratory and Critical Care Medicine 177（1）：793～797, 2008.
自己免疫関連検査	
抗核抗体(ANA)	東條　毅：臨床検査 30（7）：687 ～ 692, 1986.
抗DNA抗体〔RIA〕	鈴木　王洋,他：臨床免疫 25（8）：1096 ～ 1102, 1993.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
抗ss-DNA IgG抗体	陣内　記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：747 ～ 753, 2001.
抗ss-DNA IgM抗体	山下　雅樹,他：医学と薬学 58（5）：763 ～ 767, 2007.
抗ds-DNA IgG抗体	陣内　記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：747 ～ 753, 2001.
抗ds-DNA IgM抗体	山下　雅樹,他：医学と薬学 58（5）：763 ～ 767, 2007.
抗Sm抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345 ～ 355, 2012.
抗RNP抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345 ～ 355, 2012.
抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345 ～ 355, 2012.
抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345 ～ 355, 2012.
抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	松下　雅和,他：医学と薬学 70（1）：109 ～ 117, 2013.
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名　正隆：リウマチ科 40（3）：239 ～ 245, 2008.
抗セントロメア抗体	小島　和夫,他：医学と薬学 69（4）：677 ～ 687, 2013.
抗Jo-1抗体〔CLEIA〕	松下　雅和,他：医学と薬学 70（1）：109 ～ 117, 2013.
抗ARS抗体	山田　祐介,他：リウマチ科 45（2）：133 ～ 138, 2011.
抗MDA5抗体	Sato S, et al：PLOS ONE 11（4）：e0154285, 2016.
抗Mi-2抗体	Fujimoto M, et al：J Dermatol Sci. 84（3）：272 ～ 281, 2016.
抗TIF1-γ抗体	Fujimoto M, et al：J Dermatol Sci. 84（3）：272 ～ 281, 2016.
リウマチ因子（RF）定量	鬼塚　聖子,他：日本臨床検査自動化学会会誌 35（1）：17 ～ 22, 2010.
IgG型リウマチ因子	中園　清：医学と薬学 45（3）：481 ～ 486, 2001.
抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山　吉郎,他：医学と薬学 42（5）：817 ～ 828, 1999.
抗シトルリン化ペプチド（CCP）抗体	山下　里美,他：医学と薬学 66（3）：569 ～ 576, 2011.
抗ミトコンドリア抗体	山内　進：臨床免疫 7（7）：825 ～ 830, 1975.
抗ミトコンドリア M2抗体	丹野　瑞木,他：医学と薬学 67（3）：485 ～ 495, 2012.
抗平滑筋抗体	山内　進：臨床免疫 7（7）：825 ～ 830, 1975.
抗胃壁細胞抗体	山内　進：衛生検査 22（12）：1085 ～ 1089, 1973.
抗内因子抗体	Elizabeth A. Gomez et al：Clinical Chemistry 51（1）：232 ～ 235, 2005.
プロスタグランジンE主要代謝物（PGE-MUM）	森山　和重,他：医学と薬学 77（3）：393 ～ 401, 2020.
ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	高山　茂雄,他：医学と薬学 76（12）：1769 ～ 1780, 2019.
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）〔CLEIA〕	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793 ～ 804, 2020.
抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793 ～ 804, 2020.
甲状腺刺激抗体（TSAb）	保科　元気,他：医学と薬学 79（8）：1079 ～ 1086, 2022.
TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793 ～ 804, 2020.
抗GAD抗体	及川　洋一,他：医学と薬学 72（9）：1551 ～ 1560, 2015.
抗IA-2抗体	川﨑　英二,他：医学と薬学 66（2）：345 ～ 352, 2011.
亜鉛トランスポーター 8（ZnT8）抗体	Eiji Kawasaki et al：Acta Diabetol 51（3）：429 ～ 434, 2014.
インスリン抗体	内潟　安子,他：医学と薬学 65（4）：525 ～ 530, 2011.
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	太田　光熙,他：ホルモンと臨床 48（1）：89 ～ 93, 2000.
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	本村　政勝,他：医学と薬学 70（2）：421 ～ 428, 2013.
抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）	本村　政勝,他：医学と薬学 77（7）：1057 ～ 1063, 2020.
抗デスモグレイン1抗体	吉田　かおり,他：医学と薬学 70（5・6）：989 ～ 1000, 2013.
抗デスモグレイン3抗体	吉田　かおり,他：医学と薬学 70（5・6）：989 ～ 1000, 2013.
抗BP180抗体（血清中抗BP180NC16a抗体）	吉田　かおり,他：医学と薬学 70（5・6）：989 ～ 1000, 2013.
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	臼井　丈一,他：医学と薬学 68（4）：697 ～ 704, 2012.
精子不動化抗体	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌 42（11）：N209 ～ N212, 1990.
精子不動化抗体（SI50）	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌 42（11）：N209 ～ N212, 1990.
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	後藤　守孝,他：Modern Physician 15（12）：1545 ～ 1550, 1995.
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621 ～ 626, 2016.
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621 ～ 626, 2016.
抗カルジオリピン β_2グリコプロテインⅠ 複合体抗体（抗CL・β_2GPⅠ抗体）	野島　順三,他：医学と薬学 32（6）：1315 ～ 1320, 1994.
抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	小川　昌起,他：医学と薬学 78（4）：447 ～ 459, 2021.
抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	小川　昌起,他：医学と薬学 78（4）：447 ～ 459, 2021.
抗カルジオリピンIgG抗体	小川　昌起,他：医学と薬学 78（4）：447 ～ 459, 2021.
抗カルジオリピンIgM抗体	小川　昌起,他：医学と薬学 78（4）：447 ～ 459, 2021.
抗血小板抗体	柴田　洋一：輸血学　（中外医学社）：457 ～ 470, 1978.
PAIgG（血小板関連IgG）	林　悟,他：臨床病理 32（11）：1253 ～ 1257, 1984.
HIT抗体（血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体）	阪田　敏幸：医学と薬学 68（3）：547 ～ 555, 2012.
抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA）	松下　雅和,他：医学と薬学 66（5）：823 ～ 828, 2011.
抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）	松下　雅和,他：医学と薬学 66（5）：823 ～ 828, 2011.
抗LKM-1抗体	竹村　真理,他：医学と薬学 46（1）：109 ～ 114, 2001.
免疫複合体（モノクローナルRF）	森　勝志,他：医学と薬学 27（2）：347 ～ 354, 1992.
抗アクアポリン4抗体	高橋　利幸,他：医学と薬学 73（10）：1297 ～ 1300, 2016.
抗表皮成分自己抗体〔直接法〕	川生　明：病理と臨床 6（増）：10 ～ 13, 1988.
免疫血液学的検査	
ABO・Rh（D因子）式血液型	長田　広司：医薬ジャーナル 32（S1）：215 ～ 219, 1996.

検査項目	測定参考文献
Rh-Hr式血液型	長田　広司：医薬ジャーナル 32（S1）：215～219, 1996.
血液型不適合妊娠	支倉　逸人：日本臨牀 26（2）：262～272, 1968.
直接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
間接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
免疫グロブリン	
IgG	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgA	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgM	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgGサブクラス分画(TIA)	川　茂幸,他：医学と薬学 74（4）：463～470, 2017.
IgG2	川　茂幸,他：医学と薬学 74（4）：463～470, 2017.
IgG4	松木　友里,他：医学と薬学 75（7）：849～858, 2018.
免疫電気泳動〔抗ヒト全血清による同定〕	大谷　英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	大谷　英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕(DIRA)	McCudden C, et al：Clin Chem Lab Med 54（6）：1095～1104, 2016.
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	守田　由香,他：医学と薬学 74（8）：945～950, 2017.
尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	大谷　英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
オリゴクローナルバンド	佐々木　征治,他：最新電気泳動実験法(医歯薬出版)：61～74, 1999.
クリオグロブリン定性	青木　紀生,他：Medical Technology 6（8）：619～624, 1978.
補体および関連物質	
血清補体価	中藤　聡子,他：臨床検査機器・試薬 19（4）：609～613, 1996.
C3	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
C4	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
C1q	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	Dick W et al：Immun Infekt 13：113～118, 1985.
血漿蛋白	
プレアルブミン	古田島　伸雄,他：日本臨床検査自動化学会会誌 32（1）：84～88, 2007.
α1-マイクログロブリン	中野　卓,他：臨床検査機器・試薬 11（3）：469～476, 1988.
α1アンチトリプシン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
α1アシドグリコプロテイン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
レチノール結合蛋白(RBP)	古田島　伸雄,他：日本臨床検査自動化学会会誌 32（1）：84～88, 2007.
α2-マクログロブリン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
ハプトグロビン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
セルロプラスミン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
トランスフェリン	伊藤　忠一：検査と技術 16（7）：593～598, 1988.
尿中トランスフェリン	齋藤　良一,他：日本臨床検査自動化学会会誌 25（5）：687～690, 2000.
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	齋藤　良一,他：日本臨床検査自動化学会会誌 25（5）：687～690, 2000.
β2-マイクログロブリン	伊藤　浩治,他：医療と検査機器・試薬 26（2）：127～134, 2003.
C反応性蛋白(CRP)定量	小林　咲絵,他：医学と薬学 78（1）：81～89, 2021.
ペントラキシン3(PTX3)	Inoue et al：Arterioscler Thromb Vasc Biol. 27（1）：161～167, 2007.
血清アミロイドA蛋白(SAA)	永徳　広美,他：生物物理化学 37（1）：19～23, 1993.
ミオグロビン	吉川　文雄,他：医学と薬学 37（5）：1243～1253, 1997.
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	藤田　孝,他：医療と検査機器・試薬 33（5）：629～632, 2010.
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎　修一,他：医学と薬学 52（3）：443～449, 2004.
心筋トロポニンT	古屋　実,他：医学と薬学 74（5）：607～617, 2017.
フェリチン	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：493～497, 2006.
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕	森　さゆり,他：医療と検査機器・試薬 41（6）：615～620, 2018.
尿中NGAL	Cullen MR, et al：Ann Clin Biochem 49（2）：190～193, 2012.
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ et al：The New England Journal of Medicine 325（10）：669～674, 1991.
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	日高　好博：医学と薬学 70（2）：357～365, 2013.
Ⅰ型コラーゲンC末端 テロペプチド(ⅠCTP)	清原　剛,他：ホルモンと臨床 42（12）：1189～1193, 1994.
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi)	柴田　宏,他：臨床病理 63（1）：72～77, 2015.
オートタキシン	宇佐美　陽子,他：医学検査 68（1）：99～104, 2019.
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕	北原　志穂,他：医学と薬学 72（9）：1579～1590, 2015.
尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡　賢一,他：臨床検査機器・試薬 18（3）：439～444, 1995.
Ⅳ型コラーゲン・7S〔CLEIA〕	大高木　結媛,他：医学と薬学 77（5）：785～792, 2020.
デオキシピリジノリン	山本　逸雄,他：ホルモンと臨床 44（7）：747～757, 1996.
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	山本　逸雄,他：ホルモンと臨床 44（7）：747～757, 1996.
KL-6	桜庭　尚哉,他：医学と薬学 61（4）：629～635, 2009.
プロカルシトニン	小林　一三,他：医学と薬学 73（4）：459～467, 2016.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
免疫血清学（その他）	
β-アミロイド1-42/1-40比	Maria João Leitão, et al：Alzheimers Res Ther 11（1）：91, 2019.
リン酸化タウ	Maria João Leitão, et al：Alzheimers Res Ther 11（1）：91, 2019.
タウ蛋白	湯原　麻子,他：医学と薬学 79（1）：91～97, 2022.
コクリン-トモプロテイン(CTP)	池園　哲郎：Otology Japan 22（5）：911～917, 2012.
サイトカイン	
可溶性IL-2レセプター（sIL-2R）	林　圭織,他：医学と薬学　75（12）：1611～1620, 2018.
TARC(Th2ケモカイン)	山脇　一恋,他：医療と検査機器・試薬 44（5）：428～433, 2021.
IL-4（インターロイキン-4)(高感度)	Kricka LJ：Clinical Chemistry 37（9）：1472～1481, 1991.
インターロイキン-6（IL-6）	B Prieto, et al：Clin Chem Lab Med 48（6）：835～838, 2010.
IL-6（インターロイキン-6）	竹村　正男,他：医学と薬学 36（5）：1071～1076, 1996.
IL-10（インターロイキン-10）	Groote DD et al：Journal of Immunological Methods 177：225～234, 1994.
アレルギー検査	
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	中川　武正,他：アレルギーの臨床 26（3）：238～242, 2006.
特異的IgE(MAST48mix)	澤崎　健：アレルギーの臨床 38（12）：1145～1151, 2018.
特異的IgE(View アレルギー 39)	張田　聖恵：医学と薬学 73（6）：721～726, 2016.
特異的IgE(ミックスアレルゲン)	右田　忍,他：医学と薬学 48（1）：101～107, 2002.
特異的IgE(シングルアレルゲン)〔CLEIA〕	右田　忍,他：医学と薬学 48（1）：101～107, 2002.
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525～1530, 1997.
細胞性免疫検査	
CD34定量	Chen CH et al：Journal of Hematotherapy 3：3～13, 1994.
高感度PNH型血球検査	日本臨床検査標準協議会 血液検査標準化検討委員会：日本臨床検査標準協議会会誌 18（2）：69～85, 2003.
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	Borowitz MJ et al：American Journal of Clinical Pathology 100：534～540, 1993.
悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	Borowitz MJ et al：American Journal of Clinical Pathology 100：534～540, 1993.
多発性骨髄腫解析検査　CD38マルチ解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	HASSERT J, ET AL：CYTOMETRY 22：264～281, 1995.
多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー（8color）	Takamatsu H, et al：Int J Hematol 109（4）：377～381, 2019.
悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	HASSERT J, ET AL：CYTOMETRY 22：264～281, 1995.
PHAによるリンパ球 幼若化検査	笠原　忠,他：臨床検査 23（7）：660～667, 1979.
Con-Aによるリンパ球 幼若化検査	笠原　忠,他：臨床検査 23（7）：660～667, 1979.
薬剤によるリンパ球 刺激試験(DLST)	北見　啓之,他：臨床免疫 15（9）：727～736, 1983.
MLC(リンパ球混合培養)	笹月　健彦,他：移植 14（2）：93～113, 1979.
T細胞百分率 B細胞百分率	Wauwe JV et al：Immunology 44：865～871, 1981.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905～1909, 1982.
IgG-FcR^{+}・T細胞百分率	Perussia B et al：The Journal of Immunology 130（5）：2133～2141, 1983.
血小板表面マーカー検査 CD41	野村　昌作,他：臨床免疫 19（8）：717～724, 1987.
血小板表面マーカー検査 CD42b	野村　昌作,他：臨床免疫 19（8）：717～724, 1987.
Th1/Th2（IFN-γ×IL-4/CD4）	渋谷　和子：細胞工学 17（5）：807～816, 1998.
NK細胞活性	康　浩一,他：Medical Technology 21（7）：574～580, 1993.
尿一般検査	
尿一般検査	金井　泉,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：128～148, 2015.
尿沈渣	日本臨床検査標準協議会 尿沈渣専門委員会：尿沈渣検査法2010 日本臨床検査標準協議会会誌.
糞便検査	
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	加藤　節子,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：473～478, 2006.
便中ヘモグロビン定性・定量〔金コロイド法〕	加藤　節子,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：473～478, 2006.

検査項目	測定参考文献
微生物学的検査	
一般細菌 (塗抹鏡検、培養同定、嫌気性培養、感受性検査、尿中生菌数定量、目的菌、環境検査、便検診検査)	Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.1. Williams & Wilkins, 1984. Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.2. Williams & Wilkins, 1986. 小酒井　望：臨床検査技術全書 7 微生物検査 初版 医学書院, 1974. 微生物検査必携 細菌・真菌検査(厚生省監修) 第3版 財団法人日本公衆衛生協会, 1987. CLSI M100：Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 30th Edition, 2020. 日本化学療法学会抗菌薬感受性測定法検討委員会報告(1989年)：Chemotherapy 38（1)：102～105, 1990. 抗菌薬感受性測定法検討委員会報告(1992年)：Chemotherapy 41（2)：183～190, 1993. 三原　利仁,他：臨床と微生物 23（2)：249～254, 1996. 川上　小夜子,他：日本臨床微生物雑誌 12（2)：86～92, 2002. Clinical Microbiology Procedures Handbook-4th edition, 2016. 永沢　善三,他：日本臨床微生物雑誌 第27巻：臨床微生物質量分析計検査法ハンドブック：5～40, 2017.
ヘリコバクター培養同定・感受性検査	後藤　陽一郎,他：検査と技術 21（13)：1061～1066, 1993. 日本化学療法学会抗菌薬感受性測定委員会,ヘリコバクターピロリ委員会:日本化学療法学会誌 50（1):54～58, 2002.
CDトキシン(GDH)	蔵田　訓,他：臨床と微生物 37（5)：465～470, 2010. Limaye P. A. et al：J. Clin. Microbiol. 38（4)：1696～1697, 2000.
CDトキシンB遺伝子 定性	松浦　成美,他：医学検査 67（4)：451～455, 2018.
POT法(黄色ブドウ球菌)	鈴木　匡弘：THE CHEMICAL TIMES 221（3)：16～21, 2011.
抗酸菌(塗抹、分離培養、結核菌群抗原、感受性検査)	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会：抗酸菌ガイド2016. 小栗　豊子,編　臨床微生物検査ハンドブック 第4版. 三輪書店, 2011.
抗酸菌同定〔質量分析〕	大楠　清文,他：抗酸菌検査ガイド 2016：60～65, 2016.
抗酸菌感受性(MIC)SGM	日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会：抗酸菌検査ガイド2020, 2020.
抗酸菌感受性(MIC)RGM	日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会：抗酸菌検査ガイド2020, 2020.
結核菌群核酸同定〔TRC〕	田村　卓,他：日本臨床微生物学雑誌 18（1)：15～19, 2008.
MAC核酸同定〔TRC〕	田村　卓,他：日本臨床微生物学雑誌 18（1)：15～19, 2008.
培養同定検査	
ニューモシスチスカリニ(P.jirovecii)DNA	Wakefield AE et al：The Lancet 336：451～453, 1990.
マイコプラズマニューモニエDNA	山口　恵三,他：医学と薬学 58（4)：565～571, 2007.
レジオネラDNA 定性	山口　恵三,他：医学と薬学 58（4)：565～571, 2007.
百日咳菌DNA	Kamachi K, et al：J Clin Microbiol 44（5)：1899～1902, 2006.
赤痢アメーバDNA 定性	Tachibana H, et al：J Infect Dis 164（4)：825～826, 1991.
淋菌DNA	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6)：1007～1014, 2011.
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6)：1007～1014, 2011.
腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	Van Der Pol B,et al：JCM 59（10)：e00264-21, 2021.（腟トリコモナス） Van Der Pol B,et al：JCM 58（6)：e02124-19, 2020.（マイコプラズマジェニタリウム）
ウイルス分離	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20, 1973.
ウイルス同定	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20, 1973.
細胞診検査	
細胞診(婦人科LBCベセスダシステム)	Strander B et al：Cancer 111（5)：285～291, 2007.
細胞診(婦人科ベセスダシステム)	Strander B et al：Cancer 111（5)：285～291, 2007.
細胞診(婦人科LBC)	Strander B et al：Cancer 111（5)：285～291, 2007.
細胞診(尿LBC)	Strander B et al：Cancer 111（5)：285～291, 2007.
膀胱癌FISH(ウロビジョン)	Sarosdy MF, et al：J Urol 168（5)：1950～1954, 2002.

容器の取り扱い方法

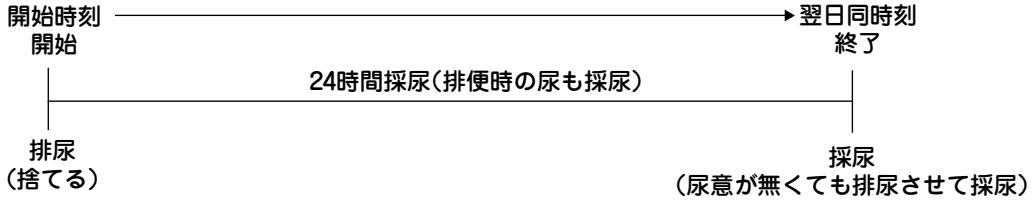
検体の採取・取り扱い方法

血　液

［採血時間］　一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。
［検体採取］
◯血液　所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
◯血清　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
◯血漿　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、容器の取り扱い方法をご参照ください。
容器の規定採血量より少ない場合、項目によってはデータに影響を及ぼすことがあります。必ず指定容量を採取してください。
［注意事項］
◯真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。
必ず、指定容量を採取してください。
◯シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
◯溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
充分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激(極度の高温や低温、振動等)を避けてください。

尿

［部分尿］
採尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および容器の取り扱い方法をご参照ください。
［24時間蓄尿］
蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。
蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。
蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ、指定の保存条件にてご提出ください。
◯酸性蓄尿
検査項目により、防腐・安定化等を目的に当社では、下記の蓄尿時に尿を酸性化する方法を採用しております。
ただし、これらの方法にて酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、ご依頼いただく各検査項目の備考を必ずご参照ください。
1.防腐剤を使用する方法
蓄尿量にかかわらず、専用防腐剤(錠剤と顆粒)全てを蓄尿容器にいれて蓄尿します。
2.塩酸を使用する方法
規定量の6Nの塩酸を蓄尿容器にいれて蓄尿します。(添加する詳細な規定量や注意事項は各検査項目の備考をご参照ください。)



凝固検査用検体のご提出方法 （凝固検査検体取扱いに関するコンセンサスより抜粋）

［採血管］

・容器の素材は、プラスチック製もしくはシリコン処理済みガラス製を使用する
・抗凝固剤には、0.105 ～ 0.109M(3.13 ～ 3.2%)クエン酸ナトリウム溶液を使用する
・クエン酸ナトリウム溶液と血液の比率は1:9とし、許容採血量は公称採血量±10%までとする
・患者のヘマトクリット値(Ht)が55%以上の場合はクエン酸ナトリウム溶液を調整する

［採血］

JCCLSの標準採血法ガイドラインGP4-A3に従う
・真空採血、注射器採血のいずれの組み合わせも使用可とする
　○採血針を用いた真空採血：1番目に凝固検査用採血管もしくは血清用採血管で採血する
　○翼状針を用いた真空採血：1番目にダミーの採血管もしくは他の検査用採血管で採血後、凝固時間検査用採血管で採血する
　○注射器採血：1番目に凝固検査用採血管に血液を分注する
・最低限の血流うっ滞(駆血帯処理)で清潔に穿刺する
・個別の状況に応じて対応することも可能とするため、21 ～ 23Gの注射針あるいは翼状針を使用する
・ヘパリンが混在する静脈ラインは使用不可である
・正確な血液量が採血管に流入したことを確認し、血液と抗凝固剤は速やかに5回程度泡立たぬよう転倒混和する

【遠心分離】

・遠心分離の温度設定は室温(18 ～ 25℃)にコントロールする
・平均遠心重力は1500×gで最低15分間、または2000×gで最低10分間の遠心分離処理を推奨する
・血小板の混入は測定結果に影響するため、残存血小板数を1万/μL未満になるようバフィーコートから最低5mm離れた上清を使用する

［凝固検体の確認］

採血困難な患者を中心に検査室到着時にすでに凝結が確認できる検体があり、遠心前に凝結を視認した場合は、再採血による検査続行か検査中止の確認を臨床側と相談する。

［補足］

CLSI Approved guideline 5th ed H21-A5では、Vascular access device(VAD)からの採血では、エアリークが無いことを確認し、可能な限りヘパリンフラッシュを避け、ヘパリンの混入あるいは希釈を避けることが明記されている。具体的にはまず生食5mLでフラッシュ、続いて5mLあるいはVADのdead spaceの6倍容量の血液を廃棄したのち検体を採取する。生食ロック(cap-off intravenous port)からの採血ではカテーテルと延長セット(extension set)dead spaceの2倍量を廃棄することが明記されている。

〈参考〉

1. 日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループ
凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス　日本検査血液学会雑誌　17, 149-168, 2016.
2. Ieko M et al：expert consensus regarding standardization of sample preparation for clotting time assays. Int J Hematol 112; 614-620, 2020

専用容器について

各頁掲載の専用容器は当社にて準備してございますので最寄りの営業所・営業拠点までお申し付けください。
なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

分割販売について

当社は、お客様からの指示に基づき、容器の被包等を開き、小包装単位で販売(分割販売)を行う場合があります。この場合、お客様には以下の事項をご承諾いただくものとします。
①分割販売の対象となる容器について、その製造者が開示または能書に記載している有効期限内の品質保証が担保されない場合があること。
②分割販売の対象となる容器は、その受領後速やかに使用する必要があること。
③分割販売された容器について、当社は法律上の契約不適合責任を負わないこと。

ラベル貼付済み容器の取り扱いについて

当社は、お客様からの指示のもと、容器に所定のラベルを貼り付ける場合があります。この場合、容器の販売に関する契約・発注書等の記載にかかわらず、ラベル貼付の対象となる容器の所有権は、お客様から容器のご発注を頂いた時点でお客様に移転するものとします。

容　器　形　態	
A00 旧容器記号 X	貯蔵方法　室温 ポリスピッツ

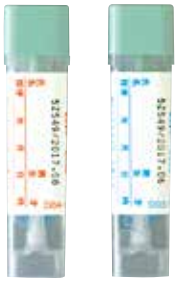
容　器　形　態	
ARR 旧容器記号 r	貯蔵方法　室温 滅菌ポリスピッツ

容　器　形　態	
ASS 旧容器記号 i	貯蔵方法　室温 遮光ポリスピッツ

容　器　形　態	
AZZ 旧容器記号 Z	酸洗浄済みのポリスピッツ 貯蔵方法　室温 金属検査

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
F00 旧容器記号 U 	糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルス DNA 定性	糞便 500mg		凍結	糞便500mgを左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ノロウイルス抗原	糞便 各小指先大		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		ノロウイルス RNA定性				
		便中カルプロテクチン	糞便 1g		凍結	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		虫卵〔塗抹〕	糞便 各拇指頭大		冷蔵	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、冷蔵保存してください。
		虫卵〔集卵〕				
		赤痢アメーバDNA 定性	糞便 0.5g		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、速やかに凍結保存してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
F20 旧容器記号 d4 便中ヘリコバクターピロリ抗原専用容器 内　　容　ほう酸1mL 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	便中ヘリコバクター ピロリ抗原	冷蔵	1.(準備)容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。 2.(便をとる)採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。 3.(便をとったあと)採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んでください。再び開けないでください。 4.(保管上の注意)添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管してください。採便後は、すみやかに提出してください。 (注)出来るだけ新しい便を提出してください。 (注)採便容器の緑キャップは、絶対にはずしたり、ゆるめたりしないでください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
F50  便中ヘモグロビン　専用容器 貯蔵方法　室温 有効期限　製造から 1年	便中ヘモグロビン (特異的便潜血反応)	冷蔵	採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。(取りすぎ、少なすぎは不可) キャップを容器に差込しっかりしめて下さい。(容器内の液を捨てないで採取して下さい。)

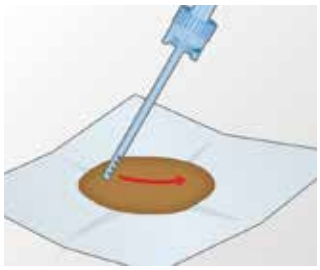
容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存
F30 旧容器記号 d9	便中カルプロテクチン〔FEIA〕	凍結

内容
トリス緩衝液
BSA
アジ化ナトリウム
（0.1%以下）
貯蔵方法　冷蔵
有効期間　製造から 24ヵ月

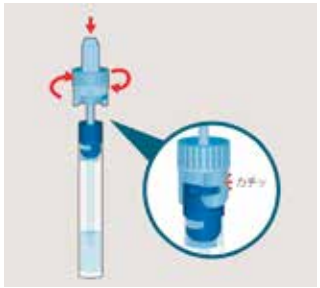
採取方法

1.キャップの青色部分を押さえながら、その上の水色部分を左に回し、スティックを引き抜きます。



2.スティック先端の4つの溝が、充分に埋まるように便をこすり取ります。

3.スティックの先端についた便をトイレットペーパー等で取り除きます。



4.スティックを容器に差し込み、キャップの水色部分が青色部分にカチッとはまるまで右に回します。

●注意事項
容器中の保存液が、目や口に入ったり皮膚に付着したりしないようご注意ください。誤って付着した場合は水で充分に洗い流してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
F80 旧容器記号 d8	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン 便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(1回目) 便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(2回目) 便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 1回目 2回目 便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 1回目 2回目	冷蔵	●採取方法 1.キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2.1回だけ差し込み、キャップをしっかり締めます。 3.袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください。 ●注意事項 1.容器の中の保存液は捨てないでください。 2.便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。 採便時の食事制限はありません。

内　　容　保存液
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り （容器容量5mL） 内　　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	白血病・リンパ腫解析検査 （LLA）CD45ゲーティング （造血器悪性腫瘍細胞検査）	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析 （造血器悪性腫瘍細胞検査）				

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H20 旧容器記号 H2 	保存液入り (容器容量10mL) 内　容 FBS PBS 硫酸カナマイシン 貯蔵方法 凍結 有効期間 製造から 1年	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査) 悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 各5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 各5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M30 旧容器記号 r3 	除蛋白液入り (内容量1mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	乳酸 ピルビン酸	血液 各1.0	速やかに遠心　除蛋白液 各0.4	冷蔵	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M40 旧容器記号 r4 	除蛋白液入り (内容量4mL) 内　容 タングステン酸Na、 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心　除蛋白液 3	凍結	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

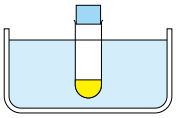
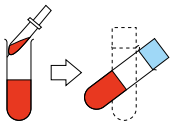
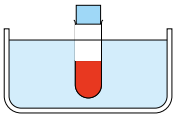
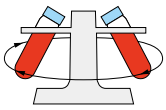
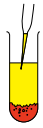
容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M50 旧容器記号 r5 	除蛋白液入り (内容量0.5mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、充分攪拌後、3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を遮光ポリスピッツ(ASS)に移し替え、凍結してご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAC 旧容器記号 B 	ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 (注)末梢血の血小板数が$3\times10^4/\mu L$以下の場合は、専用容器2本を使用し、必ず10mL以上採血してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAP 旧容器記号 D 	EDTA-2Na+ アプロチニン入り (真空採血量3mL) 内　容 EDTA-2Na 3.75mg アプロチニン (1500単位) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	血液 各1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		膵グルカゴン		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離し、直ちに凍結保存してください。
		ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAR 旧容器番号 B1 	ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (アルミ包装 開封後 1ヵ月)	フローサイト クロスマッチ (リンパ球交差試験)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	室温	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、室温保存してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法		
PBT 旧容器記号 Q 	β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器(PBT)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ(19～21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(PBT)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
				針を取って静かに専用容器(PBT)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子(PF-4)			砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) ＊遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心機のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換　算　表
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。 (1ヵ月安定)	

半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)
10	4200	22	2800
12	3800	24	2700
14	3500	26	2600
16	3300	28	2500
18	3100	30	2400
20	3000		

(真空採血禁止)
抗血小板剤入り
内　容
テオフィリン
アデノシン
ジピリダモール
クエン酸ナトリウム
クエン酸
貯蔵方法　遮光・冷蔵
有効期間　製造から 1年

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K 	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	血液 各1.8	速やかに遠心 血漿 各0.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。) 〔注意事項〕 ＊トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1.採取容器は(PC2)を用い、必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器(PC5)での採血はデータが高値となるため、避けてください。 2.速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に分離してください。
		プロトロンビン時間(PT)				
		フィブリノーゲン(FIB)				
		可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)		速やかに遠心 血漿 0.4		
		フィブリンモノマー複合体定量		速やかに遠心 血漿 0.5		
		FDP定量		速やかに遠心 血漿 0.3		
		Dダイマー		速やかに遠心 血漿 0.5		
		プロトロンビンフラグメントF1+2		速やかに遠心 血漿 0.3		
		アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
		トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)				
		プラスミノーゲン				
		アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター)				
		α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)		速やかに遠心 血漿 0.2		
		トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		
		活性固凝検査 第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕		速やかに遠心 血漿 各0.3		
		活性固凝検査 第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕				

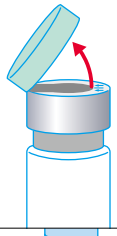
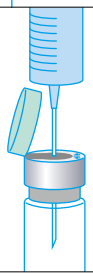
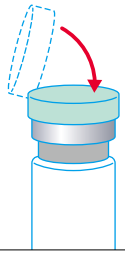
容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	血液各1.8	速やかに遠心 血漿各0.4	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)
		第Ⅴ因子(F5)				
		第Ⅶ因子(F7)				
		第Ⅷ因子(F8)				
		第Ⅸ因子(F9)				
		第Ⅹ因子(F10)				
		第Ⅺ因子(F11)				
		第Ⅻ因子(F12)				
		第XIII因子(F13)				
		フォン・ウィルブランド因子抗原定量		速やかに遠心 血漿0.2		
		フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)		速やかに遠心 血漿0.5		
		フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析		速やかに遠心 血漿0.4		
		ADAMTS13-活性		速やかに遠心 血漿0.3		
		ADAMTS13インヒビター		速やかに遠心 血漿0.6		
		プロテインC(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.3		
		プロテインC活性		速やかに遠心 血漿0.4		
		プロテインS(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
		プロテインS活性		速やかに遠心 血漿0.4		
		プロテインS(遊離型抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
		トロンボモジュリン		速やかに遠心 血漿0.4		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年(25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	血液 各1.8	速やかに遠心 血漿 0.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
		C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)		速やかに遠心 血漿 0.2		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC5 旧容器記号 L 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量4.5mL) 内容 3.2%クエン酸Na 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年(25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	遮光 ビタミンK分画	血液 各4.5	速やかに遠心 血漿 2.0	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(ASS)にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子 第Ⅸ(9)因子		速やかに遠心 血漿 各1.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ループスアンチコアグラント		速やかに遠心 血漿 1.0		採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上、上から血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心機のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PE2 旧容器記号 T3 	(真空採血量2mL) 内容 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	エンドトキシン定量	血液(ノボヘパリン加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
		β-D-グルカン				左図の容器に採血し、よく混和してください。速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目		採取量（mL）	提出量（mL）	保存	採取方法	
PE4 旧容器記号 T4 （真空採取量：4.0mL） 内　容 安定化剤　0.1mL 貯蔵方法　冷蔵 有効期間 製造から 1年	透析液中 エンドトキシン	A液	透析液 （安定化剤入） 各4.0		冷蔵	1 	PE4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、（カラーキャップが完全に外に落ちないように）開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
		B液				2 	無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し、PE4容器のゴム栓部に刺します。
		RO水				3 	注入が終わりましたら、カラーキャップを元通りに被せ、直ちに４回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜ、速やかに冷蔵保存し、提出してください。
		調整液					
		その他					

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PF2 旧容器記号 E 	フッ化Na入り （真空採血量2mL） 内　容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	グルコース	血液 1.5～2.0	血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ヘモグロビンA1c （HbA1c） （NGSP）	血液（フッ化Na加） 2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	脂肪酸分画(24成分)	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5	冷蔵	早朝空腹時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		脂肪酸分画(4成分)				
		極長鎖脂肪酸	血液 4.5~5.0	血漿 2.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血液 1.5~2.0	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3		早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し、15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 (ヘパリン加) 1.5		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		鉛(Pb)	血液 (ヘパリン加) 3.0			
		クロム	血液 (ヘパリン加) 0.7			
		カドミウム	血液 (ヘパリン加) 0.5			
		マンガン	血液 (ヘパリン加) 0.7			
		エタノール	血液 (ヘパリン加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
		ボリコナゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		カルバマゼピン		血漿 各0.5		
		エトスクシミド				
		フェノバルビタール				
		フェニトイン				
		プリミドン		血漿 0.3		

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	ガバペンチン	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ラモトリギン				
		トピラマート				
		レベチラセタム				
		スチリペントール				
		ペランパネル				
		ラコサミド				
		アミオダロン				
		ベプリジル				
		アプリンジン				
		ジソピラミド				
		プロカインアミド		血漿 各0.4		
		プロプラノロール		血漿 各0.3		
		ピルシカイニド				
		シベンゾリン				
		ピルメノール	血液 3.0~4.0	血漿 1.3		
		フレカイニド	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3		
		テオフィリン		血漿 各0.7		
		メトトレキサート				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	結核菌特異的 IFN-γ	血液 (ヘパリン加) 5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(18～25℃)してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		プレセプシン	血液 1.5～2.0	速やかに遠心 血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血後、2～3回軽く転倒混和し、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 ボルテックスミキサー等による激しい撹拌、緩やかな長時間撹拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		CD34定量	血液 (ヘパリン加) 5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 DMSO含有の場合は、凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		赤血球表面マーカー検査 CD55 赤血球表面マーカー検査 CD59	血液 (ヘパリン加) 各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査) 悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	血液 (ヘパリン加) 各5.0			
		T細胞百分率 B細胞百分率	血液 (ヘパリン加) 3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG IgA IgM IgD K L	血液 (ヘパリン加) 各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 (3項目以上依頼の場合は3.0mL) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析 Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	血液 (ヘパリン加) 各3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 (10項目以上の場合は血液5.0mL採血してください。) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IgG-FcR^{+}・ T細胞百分率	血液 (ヘパリン加) 1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		血小板表面マーカー検査 CD41 血小板表面マーカー検査 CD42b	血液 (ヘパリン加) 各5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Th1/Th2 (IFN-γ×IL-4/CD4)	血液 (ヘパリン加) 3.0			

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH9 旧容器記号 I 	ヘパリン入り （真空採血量10mL） 内　容 ヘパリンNa 130IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	PHAによるリンパ球幼若化検査 Con-Aによるリンパ球幼若化検査	血液 （ヘパリン加） 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（17～25℃）してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 （2項目同時依頼の場合は8.0mL） 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	1薬剤 血液 （ヘパリン加） 12.0			1薬剤につき指定の容器（2本）に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3.目安として白血球数が3000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。錠剤（1錠）、カプセル（1カプセル）、粉末（1回投与量程度1包）、リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）、注射薬（1バイアル【アンプル】） 皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。 その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器（PNK）に採血しご提出ください。検体は採取後、当日中にご提出ください。 7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」第三章および別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。 8.ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書などへご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。
		MLC （リンパ球混合培養）	血液 （ヘパリン加） （受給者） 20.0 （提供者） 10.0 （非血縁者） 10.0			受給者（Recipient）血液20.0mL（2本）と提供者（Donor）血液10.0mL（1本）、非血縁者血液　10.0mL（1本）を左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 容器のラベルに施設名、氏名を記入してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PHS 旧容器記号 G3 	ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内　容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 18ヵ月 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	遮光 コプロポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 各1.5		冷蔵	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
		遮光 ウロポルフィリン				
		遮光 プロトポルフィリン				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PK2 旧容器記号 g 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 3.8mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	血球計算8種 (5種,MCV,MCH, MCHC)	血液 (EDTA-2K加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、直ちに5回以上軽く転倒混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		白血球数(WBC)				
		赤血球数(RBC)				
		血色素量(Hb)				
		ヘマトクリット値 (Ht)				
		血小板数(PLT)				
		平均赤血球容積 (MCV)				
		平均赤血球色素量 (MCH)				
		平均赤血球血色素濃度 (MCHC)				
		好酸球数				
		網赤血球数(RET)				
		末梢血液像				
		ABO式血液型				
		Rh(D因子)式 血液型				
		直接クームス試験				

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PNS 旧容器記号 g4 	遮光EDTA-2Na入り （真空採血量2mL） 内　容 EDTA-2Na 5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年6ヵ月	遮光 ビタミンB1	血液 （EDTA-2K加） 0.5		凍結	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、凍結保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
		遮光 ビタミンB2				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PKF 旧容器記号 g1 	EDTA-2K入り （真空採血量2mL） 内　容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	シクロスポリン	血液 （EDTA-2K加） 各0.7		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
		タクロリムス				左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
		エベロリムス	血液 （EDTA-2K加） 1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用 (PN2) 5mL用 (PN5)	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	血液 各1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.3	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	アミノ酸分析 (39種類)〔LC/MS〕		速やかに冷却遠心 血漿 各0.5		左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	アミノ酸分析 (9種類)〔LC/MS〕				
	アミノ酸分析2種類 (チロシン・フェニルアラニン) 〔LC/MS〕				
	血中総ホモシステイン		速やかに遠心 血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、速やかに血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	ルフィナミド		血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	ミコフェノール酸		血漿 0.5		
	イマチニブ		血漿 0.3		
	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)		血漿 各0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	コルチゾール			凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	セロトニン	血液 (EDTA-2Na加) 1.0			左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	アルドステロン 〔CLEIA〕	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	レニン濃度(ARC) 〔CLEIA〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	レニン活性(PRA) 〔EIA〕		冷却遠心 血漿 0.7		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	アルドステロン〔CLEIA〕/ レニン濃度比	血液 各4.0	血漿 1.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	アルドステロン〔CLEIA〕/ レニン活性比		冷却遠心 血漿 1.2		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	サイクリックAMP	血液 1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用 (PN2) 5mL用 (PN5)	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	血液 各1.5~2.0	速やかに遠心 血漿 0.5	凍結	安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。 血漿は速やかに凍結保存してください。
		APOA2 アイソフォーム		血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		PIVKA-Ⅱ		血漿 0.5		
		ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)		血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		鳥特異的IgG抗体		血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
		Rh-Hr式血液型	血液 (EDTA-2Na加) 2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		血液型不適合妊娠	血液 10.0~ 12.0 (別容器に採血) と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 4.0 と		血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 また、別容器に血液10.0 ~ 12.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
				血液 (EDTA-2Na加) 2.0	室温	
		不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定)	血液 10.0~ 15.0 (別容器に採血) と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 5.0 と	冷蔵	血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 また、別容器に血液10.0 ~ 15.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
				血液 (EDTA-2Na加) 2.0	室温	
		IL-8 (インターロイキン-8)	血液 各1.5~2.0	血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー (8 color)	骨髄液 (EDTA-2Na加) 2.0		室温	骨髄液2.0mLを採取し、左図の容器(PN5もしくはPN2)に、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN5 旧容器記号 C 	EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内　容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	単純ヘルペスウイルスDNA 定性	血液(EDTA-2Na加)各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性				
		サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	血液(EDTA-2Na加)3.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
		サイトメガロウイルスDNA 定性	血液(EDTA-2Na加)各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		EBウイルスDNA 定量				
			血液5.0	血漿2.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	血液(EDTA-2Na加)各2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性				
		男性AIRS(認知機能評価あり)	血液各5.0	速やかに冷却遠心 血漿各0.5	凍結	1.EDTA-2Na入り採血チューブ(左図)にて血液約5mLを採取してください。 2.採血直後、血液を2～3回軽く転倒混和してください(ローラーでの混和は行わないでください)。 3.混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。 4.採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温してないこと)してください。 5.遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。 6.分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。
		女性AIRS(認知機能評価あり)				
		男性AIRS(認知機能評価なし)				
		女性AIRS(認知機能評価なし)				
		男性AICS(5種)				
		女性AICS(6種)				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	抗利尿ホルモン(AVP)	血液 各4.0~5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン				左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		L-ドーパ				
		ドーパミン総				
		HVA		血漿 各1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		VMA				
		セロトニン		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で900rpm20分間(PRP)または1500rpm10分間(P)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		5-HIAA		血漿 1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		単純ヘルペスウイルスDNA定量	血液 (EDTA-2Na加) 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		EBウイルスDNA(クロナリティ)	血液 (EDTA-2Na加) 7.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	血液 (EDTA-2Na加) 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HTLV-1核酸検出(妊婦)定性	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HTLV-1プロウイルスDNA定性				
		HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PNK 旧容器記号 R 	保存液入り （真空採血量5mL） 内　容 保存液 0.7mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年 （アルミシート 開封後1ヵ月）	NK細胞活性	血液 （保存液加） 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ冷蔵保存してください。 なお、リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PSF 旧容器記号 P3 	EDTA－2K＋ 血漿分離剤入り （真空採血量5mL） 貯蔵方法 4～25℃ 有効期間 製造から 1年	サイトメガロウイルス核酸定量 HIV-1RNA定量	血液 各5.0	血漿 各1.8	冷蔵	指定の採取量を左図の容器に採血後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容　器　形　態		検 査 項 目	採取量（mL）	提出量（mL）	検体の取り扱い方法
S09 S06 9mL用 （S09） 6mL用 （S06）	分離剤入り （真空採血量 9mL又は6mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**生化学検査一般** **血清学的検査一般** **その他**	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4 ～ 5回静かに転倒混和し、室温にて30 ～ 60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。 検体量不足にならないようにご注意ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 （下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。） 換 算 表 半径(cm)　回転数(rpm)　半径(cm)　回転数(rpm) 10　4200　22　2800 12　3800　24　2700 14　3500　26　2600 16　3300　28　2500 18　3100　30　2400 20　3000

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
S3F S5F 旧容器記号 P1 3mL採血用 （S3F） 5mL採血用 （S5F）	凝固促進剤＋ 血清分離剤入り （真空採血量 3mLまたは5mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	HBV DNA定量 (IU)	血液 5.0	血清 1.8	冷蔵	指定の採取量を左図の容器に採血後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HCV RNA コアジェノタイプ	血液 3.0	血清 0.5		
		HCV RNA定量	血液 5.0	血清 1.8		

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	検体の取り扱い方法
S9P S7P 10mL用 (S9P) 7mL用 (S7P)	分離剤なし (真空採血量 10mL又は7mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**薬物検査 その他**	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00(ポリスピッツ)に血清を分注しご提出ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 (下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。) 換算表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4200 / 22 / 2800 12 / 3800 / 24 / 2700 14 / 3500 / 26 / 2600 16 / 3300 / 28 / 2500 18 / 3100 / 30 / 2400 20 / 3000

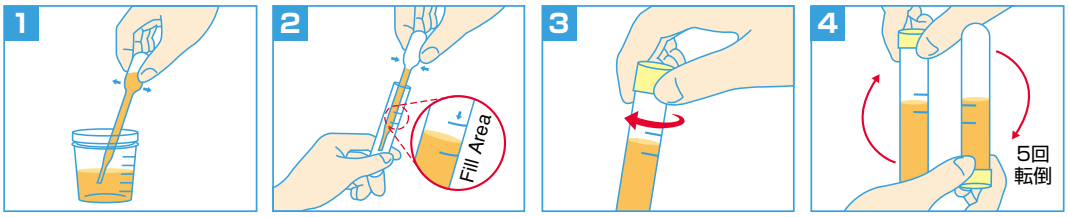
容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
SZZ 旧容器記号 e 	血清分離剤 凝固促進剤入り (真空採血量3mL) 内　　容 トロンビン ヘパリン中和剤 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**アルミニウム(Al)**	血液 2.5～3.0	血清 0.6	冷蔵	コンタミネーション防止のため、シャントから滴下または真空採血してください。 採血後は直ちに充分転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。

容　器　形　態	
U00 旧容器記号 Y	貯蔵方法　室温 尿用容器

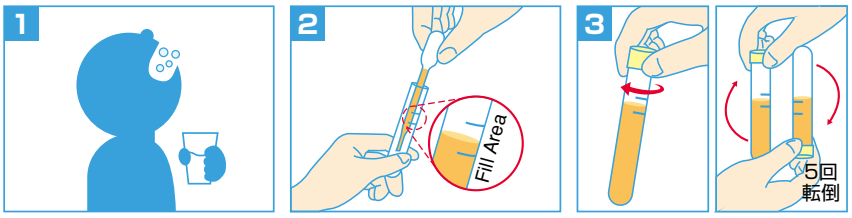
容器形態	検　査　項　目	保存
U10 旧容器記号 Y1 滅菌スポイト 滅菌カップ	クラミジアトラコマティスDNA 淋菌DNA 淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定 腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	室温

内　　容
　グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間
　製造から 1年

●尿検体からの採取
最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。
① 滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。
② 専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。
④ 専用容器を5回転倒混和して室温にて提出してください。



●うがい液検体からの採取
検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むこと等は避けてください。
① 滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行います。
② うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して室温保存にて提出してください。
※ただし「腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出」はご依頼できません。



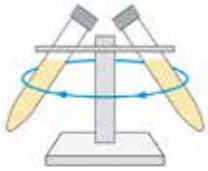
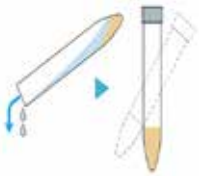
容　器　形　態	容　器　形　態
U20 旧容器記号 Y0 尿用容器 貯蔵方法　室温 プレグナンジオール、プレグナントリオール	U40 旧容器記号 Y4 尿中一般、尿沈渣用スピッツ 貯蔵方法　室温

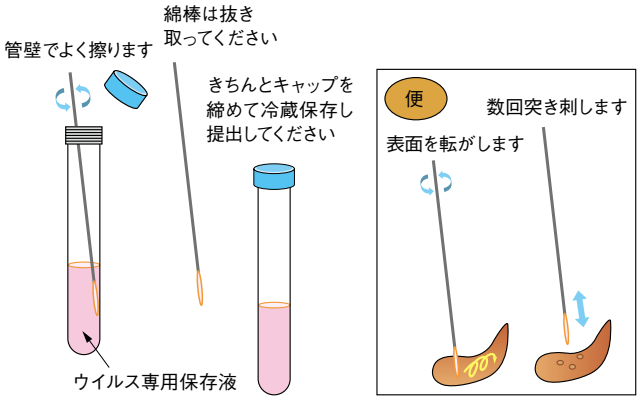
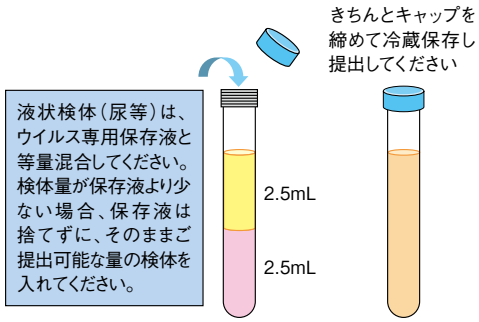
容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U50 旧容器記号 Y5 	保存剤入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中ミオグロビン 〔CLEIA〕	部分尿 6		冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器(U50)のラベルに印刷してある線まで入れ、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U70 旧容器記号 Y7 	Tris+Hcl入り (容器容量10mL) 内　容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5		冷蔵	早朝一番尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U90 旧容器記号 b2 	抗プラスミン剤入り 内　容 アプロチニン 精製ゼラチン デヒドロ酢酸 ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年 (アルミ包装 開封後1週間)	FDP定量	部分尿 (新鮮尿) 2	部分尿 (上清) 0.5	凍結	新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法	
UV6 旧容器記号 f3 内　　容　メタノール55% 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年6ヵ月	細胞診（尿LBC）	室温		採取した適量の尿を、1500rpm 5分間遠心してください。
				上清を捨て、沈渣をよく混和させてください。
				沈渣をスポイトで専用容器に滴下し、しっかり蓋を閉めてご提出ください。 （沈渣が少ない場合は、専用容器の内容液をスピッツに入れ、再び専用容器に移してください。）

容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
V10 旧容器記号 V ウイルス専用 保存液入り 貯蔵方法　冷蔵 有効期間　製造から 6ヵ月	ウイルス分離	冷蔵	**●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　等** 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。 
	ウイルス同定		**●尿・髄液・胸水・鼻汁　等** 下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。  **●組織** 組織小片（5mm 角程度）をウイルス専用保存液に入れ、冷蔵保存してください。

容器形態	検　査　項　目	保存
V30 旧容器記号 W1	**単純ヘルペスウイルス特異抗原 水痘・帯状疱疹ウイルス抗原**	凍結

貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 1年

●検体の採取方法

病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適当です。

①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)
②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2)
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)

●注意

膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。

●操 作 法

●検体の塗抹

①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドグラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4)
②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に充分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを添加し、蒸発させます。
・検体はスライドグラス2枚をご提出ください。

●検体の保存

乾燥後のスライドグラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名等を記入後、凍結保存してください。

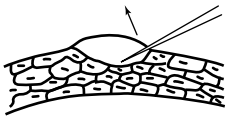
図1


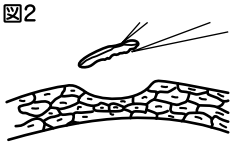
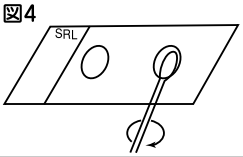
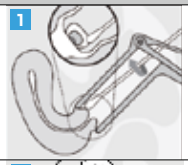
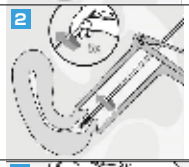
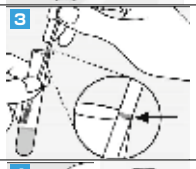
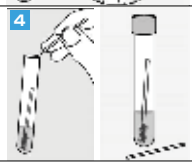
図2


図3

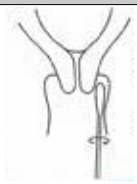
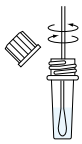
図4


容　器　形　態	検査項目	保存	採　取　方　法
V41 旧容器記号 f6	ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)	室温	1 ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ、スパーテル)を用いて細胞を採取してください。
	ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定		2 ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。
	細胞診(婦人科LBCベセスダシステム)		3 ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。
内　　容　メタノール55% 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年6ヵ月	細胞診(婦人科　LBC)		[ご注意] 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないでください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので充分にご注意ください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法	
V50 旧容器記号 F3 内　　容　グアニジン塩酸塩 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	クラミジア トラコマティス DNA	室温		スワブ検体採取セット附属のドライスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。このスワブは廃棄します。
	淋菌DNA			附属のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向に５回そっとスワブを回し、膣の粘液に触れないように注意してスワブを引き抜きます。
	淋菌およびクラミジア トラコマチスDNA 同時同定			専用容器のキャップを開け、採取したフロックスワブの先端が容器内の溶液に浸からないように注意しながら入れ、柄につけられた線を容器の縁に合わせます。
	膣トリコモナスおよび マイコプラズマジェニタリウム 同時核酸検出			専用容器の縁を利用してフロックスワブの柄につけられた線で折り入れ、手元に残った折られた柄は廃棄します。専用容器のキャップをしっかり閉め、室温保存で提出してください。

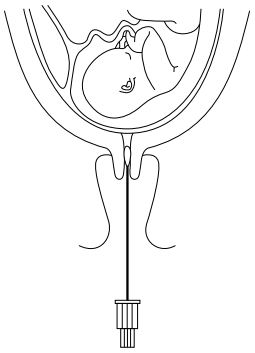
容　器　形　態	容　器　形　態
VP0　病理専用容器 旧容器記号 u5 10 ～ 20%ホルマリン液を充填して お使いください。 貯蔵方法　室温	VP1　凍結組織材料作製セット 旧容器記号 u1 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年

容器形態	検査項目	保存	採　取　方　法	
VP5 旧容器記号 W5 内　　容　抽出液 貯蔵方法　室温 有効期間 製造から 1年	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	凍結		専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腟表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。
				検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)
				綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。
				検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。
				検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。
			●注意事項 ・検体の採取は腟洗浄前に行ってください。 ・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・検体中に0.1％以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 ・検体は後腟円蓋から採取してください。 ・腟表面を強くこすらないように注意してください。	

容器形態	検査項目	保存
VP6 旧容器記号 W6	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	凍結

採取方法

正しい採取部位

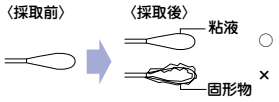


子宮腟部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)

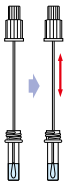
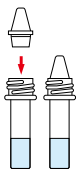
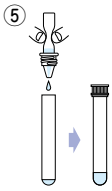
綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)

●注意事項
1)子宮頸管部より採取してください。
2)検体採取は腟部洗浄前に行ってください。
3)綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
4)綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。



5)採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。
[ご注意]
検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので充分ご注意ください。

抽出方法

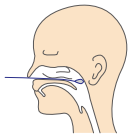
①	抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行ってください。	② 	頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。 その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。	③	綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。
④ 	フィルターをセットします。	⑤ 	検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。 必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。 検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、凍結(−15℃以下)で3ヵ月以内に測定してください。		

内　容
抽出液
(リン酸バッファー)
貯蔵方法　室温
(抽出液は冷蔵)
有効期間
製造から 1年

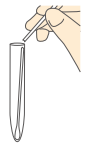
容器形態	検査項目	保存
VS4 旧容器記号 k9	百日咳菌DNA	凍結

採取方法

1.綿球部分に触れないように、スワブの軸部分をつまんで取り出します。



2.被験者の頭を動かさないようによく押さえ、その後、スワブを後鼻腔に静かに挿入して粘液を採取します。



3.速やかにスワブを滅菌ポリスピッツ(ARR)の中に入れ、スワブの柄にあるスリットを容器の縁にあてて折ります。

4.スワブを入れたまま容器のキャップをしっかり閉め、凍結保存にて提出してください。

貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 5年

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
X00 旧容器記号 ℓ 	滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温	結核菌群核酸同定〔TRC〕	喀痰 各2.0		冷蔵	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		MAC核酸同定〔TRC〕				
		ニューモシスチス・イベロチイ(P.jirovecii)DNA定性	喀痰 0.7		凍結	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		マイコプラズマ ニューモニエDNA	喀痰 2.0			
		レジオネラDNA 定性	喀痰 1.0			

容器形態	
X10 旧容器記号 f	細胞診（喀痰集細胞法） 内　　容　サコマノ氏液、粘液融解剤 貯蔵方法　室温（冷暗所） 有効期間　製造から 1年

容器形態	
XC0 旧容器記号 L2	貯蔵方法　室温 結石専用容器

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
XR4 旧容器記号 L4 	貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 4年	コクリン-トモプロテイン(CTP)	中耳洗浄液 0.3		凍結	左図の容器に採取し、必ず凍結保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
XR5 旧容器記号 L6 	CSF容器 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 3年	β-アミロイド 1-42/1-40比	髄液 各2.5		冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。容器の移し替えや量不足により、データ低下の恐れがあります。 血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		リン酸化タウ			冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。 血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		タウ蛋白			凍結	左図の容器に採取し、直ちに凍結し、コンテナ容器セット(Z50)に入れ、必ず凍結保存してください。
		総タウ蛋白(AD)			冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。 血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
Z10 旧容器記号 t 	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	鼻汁中好酸球	鼻汁塗抹標本 2～3枚		室温	標本は新鮮鼻汁で作製しご提出ください。 室温保存してください。
		細胞診（喀痰）	塗抹標本 （湿固定2枚）			塗抹標本を作製し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。
		細胞診 （喀痰以外）	塗抹標本 （湿固定1枚、乾燥固定1枚）			
		細胞診 （婦人科Class判定）	塗抹標本 各（湿固定1枚）			
		染色標本作製	未染標本スライド 各2枚			
		CD30（IHC）				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、組織は3～4μmの厚さに薄切し、スライドグラス端から50mm以内に貼り付けてください。

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

みんなの臨床検査
検査で守るあなたの健康
臨床検査振興協議会 www.jpclt.org

検査で守るあなたの健康
11月11日は
臨床検査の日

臨床検査振興協議会

www.jpclt.org

ラボラトリーズ

本　社ラボ（総合ラボ）	第8号	〒613-0046	京都府久世郡久御山町大橋辺16番地10	TEL 075-631-6181
京　都ラボ	第1038号	〒604-0933	京都府京都市中京区御幸町通二条下る山本町425番地	TEL 075-354-6144
宇　治ラボ	4山北保企第27号	〒611-0033	京都府宇治市大久保町南ノ口60-2	
大阪中央ラボ（地域基幹ラボ）	大阪市衛生検査所登録第64号	〒550-0005	大阪府大阪市西区西本町3丁目1番48号西本町ビル4階	TEL 050-2000-5048
舞　鶴ラボ	中丹東　第2号	〒625-0062	京都府舞鶴市字森96番地3	TEL 0773-64-0828
北大阪ラボ	大阪府知事登録第154号	〒564-0004	大阪府吹田市原町2丁目45番1号	TEL 06-6384-4411
堺　ラボ	大阪府知事登録第30号	〒593-8328	大阪府堺市西区鳳北町7丁7番地	TEL 072-265-4141
西　宮ラボ	西保総指令45号	〒663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番24	
元町健診ラボ	神医第23D-002号	〒650-0022	兵庫県神戸市中央区元町通り2丁目8番地14号オルタンシアビル701号	
兵庫西ラボ	神医第20D-006号	〒651-2122	兵庫県神戸市西区玉津町高津橋136-3	TEL 050-2000-5409
阪　奈ラボ	奈良県第18号	〒630-0252	奈良県生駒市山崎町5番21号	TEL 0743-75-6021
和歌山ラボ	登録第12号	〒640-8066	和歌山県和歌山市東布経丁3丁目1番	TEL 073-421-8280
田　辺ラボ（血清分離ラボ）	登録第17号	〒646-0027	和歌山県田辺市朝日ヶ丘22番21号	TEL 0739-24-8582
浜　田ラボ	第15号	〒697-0024	島根県浜田市黒川町4107番地	TEL 0855-23-4755
出　雲ラボ	第14号	〒699-0722	島根県出雲市大社町北荒木1504番地	TEL 0853-53-5156
山　口ラボ（血清分離ラボ）	第113号	〒754-0024	山口県山口市小郡若草町2番21号	TEL 083-972-6853
前　橋ラボ	前保第10号	〒379-2141	群馬県前橋市鶴光路町141-15	TEL 027-265-6498
長　野ラボ	第86号	〒380-0918	長野県長野市アークス1番19号	TEL 026-223-6311
伊　那ラボ	第85号	〒396-0026	長野県伊那市西町4931-3	TEL 026-223-6311

関連事業

サプライ事業

〒593-8328　大阪府堺市西区鳳北町7丁7番地　TEL 072-265-7631

医薬品分析センター

〒570-0033　大阪府守口市大宮通1丁目13番36号　TEL 06-6995-2680

株式会社 日本医学臨床検査研究所

ホームページ　https://www.jcl.co.jp/

本　社　〒613-0046
京都府久世郡久御山町大橋辺16番地10　　TEL 075-631-6181

日本医学臨床検査研究所HP

検査データのお問い合わせや、検査容器・依頼書のご請求、ご意見、ご指摘につきましては、最寄りの営業所へご連絡いただきますようお願い致します。

営業所・営業拠点

京阪営業所	〒613-0046	京都府久世郡久御山町大橋辺16番地10	TEL 075-631-6181
京都中央営業拠点	〒604-0933	京都府京都市中京区御幸町通二条下る山本町425番地	TEL 075-354-5191
舞鶴営業拠点	〒625-0062	京都府舞鶴市字森96番地3	TEL 0773-64-0828
敦賀出張所	〒914-0045	福井県敦賀市古田刈68号1015番シャロームⅡ103	TEL 0773-64-0828
阪奈営業所	〒630-0252	奈良県生駒市山崎町5番21号	TEL 0743-75-6021
大阪東営業拠点	〒570-0033	大阪府守口市大宮通1丁目13番36号	TEL 06-6991-3958
大阪中央営業所	〒550-0005	大阪府大阪市西区西本町3丁目1番48号西本町ビル3階	TEL 050-2000-5048
大阪北営業所	〒564-0004	大阪府吹田市原町2丁目45番1号	TEL 06-6384-4411
大阪南営業所	〒593-8328	大阪府堺市西区鳳北町7丁7番地	TEL 072-265-4141
兵庫営業所	〒663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-24杏和総合医学検査センター内	TEL 050-2000-5407
兵庫西営業拠点	〒651-2122	兵庫県神戸市西区玉津町高津橋136-3	TEL 050-2000-5409
和歌山営業所	〒640-8066	和歌山県和歌山市東布経丁3丁目1番	TEL 073-421-8280
和歌山南営業拠点	〒646-0027	和歌山県田辺市朝日ヶ丘22番21号	TEL 0739-24-8582
新宮営業拠点	〒647-0044	和歌山県新宮市神倉4丁目1番47号	TEL 0735-23-1101
中国中央営業所	〒754-0024	山口県山口市小郡若草町2番21号	TEL 083-972-6853
浜田営業拠点	〒697-0024	島根県浜田市黒川町4107番地	TEL 0855-23-4755
出雲営業拠点	〒699-0722	島根県出雲市大社町北荒木1504番地	TEL 0853-53-5156
北関東営業所	〒379-2141	群馬県前橋市鶴光路町141-15	TEL 027-265-6498
長野営業所	〒380-0918	長野県長野市アークス1-19	TEL 026-223-6311

～ 私たちの住む地球はかけがえのないものです ～

弊社は、地球環境保全の重要性を強く認識し、検査及び関連事業活動を通して環境に与える影響を常に監視し、使用する物質の適正管理、廃棄物の削減、省資源、省エネルギーに努めております。
検査案内書につきましても、環境への配慮から大豆油を含む環境配慮型インキと有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しており、「適切に管理された森林からの木材（認証材）」と「保護価値の高い森林や、違法伐採材等問題のある材を入れないように管理された木材（管理材）」から作られたＦＳＣ認証用紙を使用しております。（詳しくは下記のホームページをご参照下さい。）

Environmentally Ink
（Vegetable oil Non VOC）

Waterless Printing. Naturally.
有害な廃液を排出しない
水なし印刷を採用しています
https://www.waterless.jp/

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C017322
この印刷物は、責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙を使用しています。
http://www.wwf.or.jp/activity/forest/sus-use/fsc/index.htm

2026年10月作成　D-08-300-014